



令和 5 年度

( 2 0 2 3 )

農作物有害動植物発生予察事業年報

北 海 道 農 政 部  
北 海 道 病 害 虫 防 除 所  
北海道立総合研究機構農業研究本部

# 目 次

A	事業の目的	1
B	事業実施の方針と重点	1
C	事業対象の病害虫	1
D	事業組織及び職員	2
E	事業成績	
I	気象経過と病害虫の発生状況	7
II	作物生育概況	22
III	指定及び指定外有害動植物に関する調査成績	
( I )	( I )  水稻の病害虫	33
( II )	( II )  小麦の病害虫	67
( III )	( III )  とうもろこしの病害虫	77
( IV )	( IV )  大豆の病害虫	80
( V )	( V )  小豆の病害虫	85
( VI )	( VI )  菜豆の病害虫	89
( VII )	( VII )  ばれいしょの病害虫	92
( VIII )	( VIII )  てんさいの病害虫	100
( IX )	( IX )  たまねぎの病害虫	110
( X )	( X )  ねぎの病害虫	115
( X I )	( X I )  ながいもの病害虫	117
( X II )	( X II )  にんじんの病害虫	117
( X III )	( X III )  だいこんの病害虫	118
( X IV )	( X IV )  キャベツ・ブロッコリーの病害虫	120
( X V )	( X V )  野菜類の病害虫	126
( X VI )	( X VI )  りんごの病害虫	127
( X VII )	( X VII )  その他果樹の病害虫	143
IV	令和6年度に特に注意を要する病害虫並びに 令和5年度に新たに発生を認めた病害虫	145
V	令和5年度主要病害虫発生程度別面積及び防除面積	152
VI	侵入調査事業	155
VII	その他調査	155
F	諸報告、情報連絡、協議会等	156
G	B L A S T A Mによる葉いもちの広域発生期の判定結果	160
H	北海道農業試験会議において報告された以外の道内における新発生病害虫の記録	162

## A 事業の目的

植物防疫法第22条、第23条及び第31条の定めるところにより、国が指定する有害動植物並びに国及び北海道が必要と認める指定外有害動植物につき、その発生状況、気象状況及び作物生育状況等を調査し、それらの有害動植物の発生時期、発生量、発生地域及び被害を予察し、その情報を関係機関に提供して損害を未然に防止または軽減する。

## B 事業実施の方針と重点

「病害虫発生予察事業の実施について」に基づく調査を実施したほか、北海道独自で実施している調査の分担及び事業の効率化を図った。巡回調査の実施については、地域の重要作物等の推移に配慮し、内容の充実を図り、所期の目的達成に努めた。発生現況調査についても、地域における重要病害虫の発生動向の把握に努めた。また情報伝達の迅速化について検討した。

## C 事業対象の病害虫

作物	指 定	指 定 外
水 稲	いもち病、縞葉枯病、苗立枯病、ばか苗病、紋枯病 イネドロオイムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類(アヒゲムシ・ドリカサカメ)、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ	葉しょう褐変病、種子伝染性細菌病 イネミギワバエ、アウヨトウ
麦 類	うどんこ病、赤かび病、さび病類(赤さび病)	雪腐病、眼紋病 ムギクロハモグリバエ、ムギキモグリバエ、アブラムシ類(ムギヒゲナガアブラムシ・ムギビリアブラムシ)
とうもろこし	オオタバコガ(※)	アワノメイガ、ツマジロクサヨトウ
豆 類	アブラムシ類(ジャガイモハダアブラムシ)、吸汁性カメムシ類、マメシクイガ	べと病、わい化病、菌核病、灰色かび病、萎疫病、落葉病、黄化病 食葉性鱗翅目幼虫、タネバエ、アズキノメイガ、マメアブラムシ
ばれいしょ	疫病 アブラムシ類(ジャガイモハダアブラムシ・モモアブラムシ・ワタアブラムシ)	塊茎腐敗、黒あし病、軟腐病、そうか病、粉状そうか病
てんさい	褐斑病、黄化病(旧西部萎黄病) ヨトウガ(※)	根腐病(黒根病を含む)、そう根病 テンサイモグリハチバエ、テンサイトビハムシ、シロオビノメイガ
たまねぎ	アザミウマ類(ネギアザミウマ)	白斑葉枯病、軟腐病、乾腐病 タマネギバエ(タネバエを含む)、ネギハモグリバエ
ね ぎ	さび病、べと病 アザミウマ類(ネギアザミウマ)、ネギコガ、ネギハモグリバエ	
にんじん	黒葉枯病	
だいこん	アブラムシ類(モザイク病)	キスジトビハムシ
キャベツ	コナガ(※)、ヨトウガ(※)、モンシロチョウ	
ブロッコリー	コナガ(※)、ヨトウガ(※)	
野 菜 類	オオタバコガ(※)	ネキリムシ類(シロモンヤガ・カブラヤガ・タマネギヤガ・センモンヤガ)
りんご	黒星病、斑点落葉病 シンクイムシ類(モモンクイガ)、ハダニ類(リンゴハダニ・ナシハダニ)、ハマキムシ類(ミダレカクモンハマキ・リンゴカクモンハマキ・リンゴモンハマキ)	モミリア病、腐らん病 キンモンホソガ
な が い も	アブラムシ類	
そ の 他	指定・指定外病害虫に含まれないが、必要がある病害虫並びに突発性病害虫。	北海道として発生動向を把握しておく必要

(※)は、作物共通として指定されている有害動植物

## D 事業組織及び職員

### 1. 道農政部関係職員

(令和5年6月1日現在)

所 属	職 名	氏 名
農 政 部	農 政 部 長	水戸部 裕人
生産推進局	食の安全推進監 生産振興局長	野崎 直 牧野 充一
技術普及課	技術支援担当局長 技術普及課長 技術普及課農業環境担当課長 課長補佐(農業環境) 主査(植物防疫) 上席普及指導員 [道総研農業研究本部駐在] 主査(普及指導) [道総研上川農試駐在] 主査(普及指導) [道総研北見農試駐在]	山野寺 元章 鈴木 一代 庄司 好明 高谷 泰公 高大 圭一 高竹 田直 浅 永 遵 田 洋 一平

### 2. 病虫害防除所

(令和5年6月1日現在)

職 名	氏 名
所主 主 長 幹 査 [技術普及課農業環境担当課長兼務]	庄司 好明 橋村 邦志 中 圭 宏

### 3. 病虫害発生予察調査委託業務処理担当者 (委託先：北海道立総合研究機構農業研究本部)

(令和5年6月1日現在)

所 属	職 名	氏 名
中央農業試験場病虫害部	病虫害部長 研究主幹(予察診断グループ) 主査(予察) 主査(診断システム) 研究主任 研究主任 研究主任 研究職員 研究主幹(病虫害グループ) 主任主査(防除技術) 研究主査 研究主任 研究職員 研究職員	相馬 潤 西脇 由恵 野津 あゆみ 山名 一 美濃 健一 武澤 友二 荻野 瑠衣 下間 悠士 三宅 規文 新村 昭憲 橋本 直樹 齊藤 美樹 中島 賢 佐藤 翠 音
上川農業試験場研究部	主任主査(病虫) 研究主任 研究職員 専門研究員	長濱 恵 栢森 美如 佐々木 大介 古川 勝 弘
道南農業試験場研究部	研究主幹(作物病虫グループ) 主査(病虫) 研究主査 研究職員	三澤 知央 青木 元彦 池田 幸子 松原 子慧
十勝農業試験場研究部	主査(病虫) 研究主査 研究主任 研究主任	東岱 孝司 白井 佳代 丸山 麻理 村田 暢 明

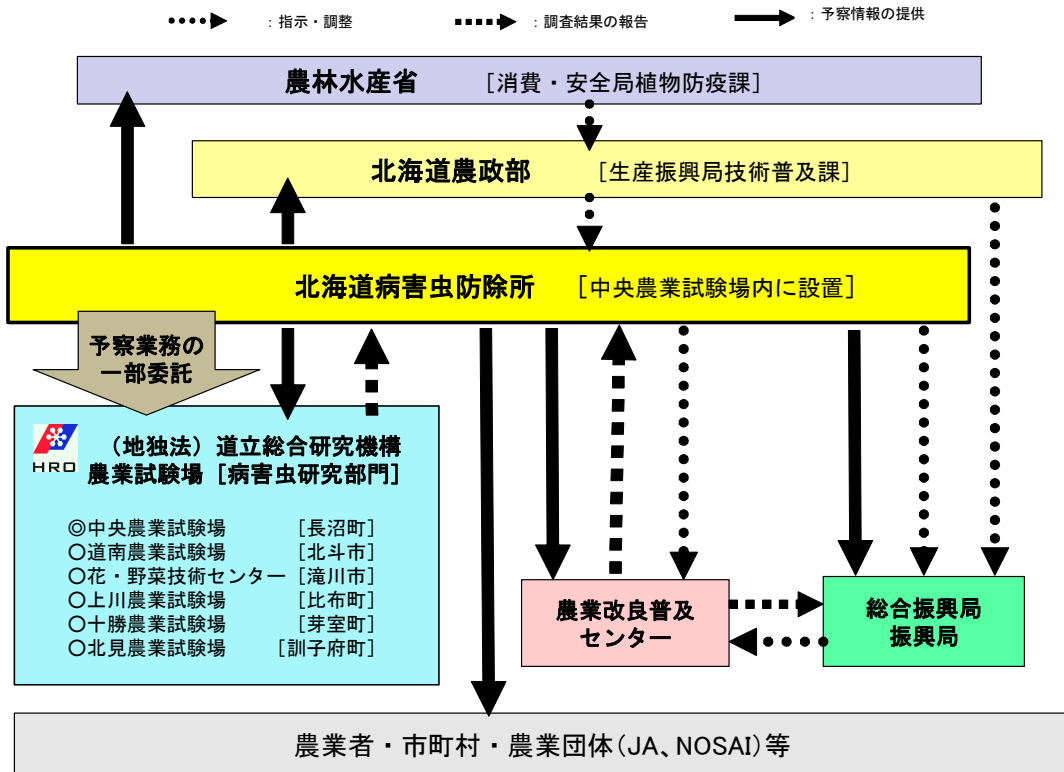


普及センター名	職名	氏名	担当市町村名
胆振農業改良普及センター	主任普及指導員	伊藤朝子	全体窓口
胆振本所	主査	今井望	室蘭、登別、伊達、壮瞥、洞爺湖、豊浦
東胆振支所	地域第二係長	石原拓朗	むかわ、厚真、安平、苫小牧、白老
日高農業改良普及センター	主査	小林佐代	全体窓口
日高本所	主査	柿崎由紀	新冠、新ひだか、えりも、様似、浦河
日高西部支所	主査	南辻牧子	平取、日高
渡島農業改良普及センター	主査	竹内正信	全体窓口
渡島本所	地域第一係長	宮原大助	函館、北斗、七飯、鹿部、森、松前、福島、知内、木古内
渡島北部支所	専門普及指導員	山田孝彦	八雲、長万部
檜山農業改良普及センター	主任普及指導員	羽賀安春	全体窓口
檜山本所	主任普及指導員	羽賀安春	上ノ国、江差、厚沢部、乙部、奥尻、八雲町熊石区
檜山北部支所	地域係長	後藤昌人	せたな、今金
上川農業改良普及センター	主査	草野裕子	全体窓口
上川本所	地域第二係長	白井淳	旭川、鷹栖、上川、当麻、比布、愛別
富良野支所	専門主任	南忠	占冠、南富良野、富良野、中富良野、上富良野
大雪支所	地域第二係長	大沼千佐子	美瑛、東川、東神楽
士別支所	地域第一係長	千川明子	和寒、剣淵、士別、幌加内
名寄支所	地域係長	風間基充	名寄
上川北部支所	専門主任	長谷恵理	美深、音威子府、中川、下川
留萌農業改良普及センター	主任普及指導員	橋本忠浩	全体窓口
留萌本所	普及指導員	水沼良徳	苫前、羽幌、初山別、遠別、天塩
南留萌支所	主査	近藤智	増毛、留萌、小平
宗谷農業改良普及センター	主査	佐藤康司	全体窓口
宗谷本所	主査	佐藤康司	枝幸、中頓別、浜頓別、猿払
宗谷北部支所	主査	三浦孝雄	豊富、稚内、幌延、利尻、利尻富士、礼文

普及センター名	職名	氏名	担当市町村名
網走農業改良普及センター	主査	樋口 いずみ	全体窓口
網走本所	専門普及指導員	飯田 麻衣	置戸、訓子府、北見
清里支所	普及指導員	元木 咲	清里、斜里、小清水
網走支所	主査	堀野 吉広	網走、大空（東藻琴）
美幌支所	専門普及指導員	中野 寛之	津別、美幌、大空（網走支所の担当区域除く）
遠軽支所	専門普及指導員	吉田 光兵	遠軽、佐呂間、湧別
紋別支所	専門普及指導員	服部 眞弥	紋別、滝上、西興部、興部、雄武
十勝農業改良普及センター	主査	坂本 祥一	全体窓口
十勝本所	専門普及指導員	遠藤 良恵	更別、中札内、帯広、芽室
十勝東部支所	普及指導員	若林 壱弥	豊頃、浦幌、幕別、池田
十勝東北部支所	専門主任	堀内 学	本別、足寄、陸別
十勝北部支所	専門普及指導員	赤津 哲也	音更、士幌、上士幌
十勝西部支所	普及職員	石山 志穂	清水、鹿追、新得
十勝南部支所	普及職員	東健太郎	広尾、大樹、幕別町忠類
釧路農業改良普及センター	主査	田川 三代士	全体窓口
釧路本所	主査	田川 三代士	釧路町、標茶、弟子屈
釧路東部支所	地域係長	中村 亘	浜中、厚岸
釧路中西部支所	主査	水上 志穂	釧路市、白糠、鶴居
根室農業改良普及センター	主任普及指導員	犬飼 厚史	全体窓口
根室本所	主査	立野 正純	根室、別海
北根室支所	主査	阿部 毅	中標津、標津、羅臼、別海（大成、本別の区域に限る）

《参 考》

北海道における病害虫発生予察事業実施体制図



## E 事業成績

### I 気象経過と病害虫の発生状況

春季

3月：暖かい空気が流れ込みやすく、記録的な高温・少雪。各地で3月の日最高気温の極値を更新。

3月は、南から暖かい空気が流れ込みやすく、また晴れた日が多かったため、全道的に記録的な高温となった。月平均気温の平年差はかなり高く、北海道地方、日本海側、オホーツク海側、太平洋側ともに1946年の統計開始以降、高い方から第1位となった。月降雪量の平年比はかなり少なく、北海道地方、日本海側、オホーツク海側で1961年の統計開始以降、少ない方から第1位、太平洋側で第2位となった。

北海道地方：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間はかなり多く、月降雪量は少なかった。日本海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は少なく、月間日照時間はかなり多く、月降雪量はかなり少なかった。オホーツク海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は少なく、月間日照時間は多く、月降雪量はかなり少なかった。太平洋側：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間はかなり多く、月降雪量はかなり少なかった。

上旬、中旬：天気は数日の周期で変わり、前線を伴った低気圧や気圧の谷の影響で、雨や雪が降った日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高かった。旬平均気温の平年差は、上旬、中旬ともに北海道地方、日本海側、オホーツク海側、太平洋側で、1946年の統計開始以降、高い方から第1位となった。下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、26日から27日にかけて、低気圧の影響で雨や雪が降り、太平洋側では大雨や大雪となった所もあった。このため、太平洋側では下旬の降水量は多かった。また、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高かった。特に、22日と23日の両日で、87のアメダス地点の日最高気温が、3月として高い方から第1位となった。旬平均気温の平年差は、北海道地方とオホーツク海側で、1946年の統計開始以降、高い方から第1位となった。

4月：暖かい空気が流れ込みやすく記録的な高温。太平洋側では月平均気温の極値を更新。

4月は、南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方の気温はかなり高かった。月平均気温の平年差は1946年の統計開始以降、北海道地方では高い方から第2位、太平洋側では高い方から第1位と、記録的な高温となった。また、低気圧が北海道付近を発達しながら通過することが多かったため、全道的に降水量が多く、日本海側とオホーツク海側では日照時間が少なかった。

北海道地方：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は平年並、月降雪量はかなり少なかった。日本海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は少なく、月降雪量は少なかった。オホーツク海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は少なく、月降雪量は少なかった。太平洋側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は平年並、月降雪量はかなり少なかった。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や前線の影響で雨が降った日が多かったため、降水量は多く、日照時間は少なかった。南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高かった。北海道地方、日本海側、太平洋側の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、4月上旬として高い方から第1位の記録となった。中旬：寒気の影響を受けた日もあったが、暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高かった。また、低気圧や前線の影響を受ける日が多かったため、降水量は多かった。特に、16日から17日にかけて低気圧が北海道付近を発達しながら通過したため、広い範囲で雨となり、オホーツク海側を中心に雪となった。歌登では24時間降雪量38cmを観測し（17日8時までの24時間）、4月としての極値を更新するなど、局地的に大雪となった所があった。下旬：西高東低の気圧配置となって寒気の影響を受けた日もあったが、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温は高かった。26日と30日には低気圧が北海道付近を発達しながら通過したため、太平洋側を中心に降水量が多くなった。太平洋側の目黒では、26日に日降水量122.5ミリを観測するなど、大雨となった所があった。

5月：高気圧に覆われて晴れた日が多く、歴代1位の少雨

5月は、全道的に高気圧に覆われて晴れた日が多く、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、まとまった雨の降る日が少なかった。このため、全道的に降水量はかなり少なく、月降水量の平年比は1946年の統計開始以降、北海道地方では少ない方から1位、オホーツク海側では少ない方から2位の記録となった。また、全ての地域で月平均気温は平年より高く、月間日照時間は平年より多かった。

北海道地方：月平均気温は高く、月降水量はかなり少なく、月間日照時間は多かった。日本海側：月平均気温は高く、月降水量はかなり少なく、月間日照時間は多かった。オホーツク海側：月平均気温は高く、月降水量はかなり少なく、月間日照時間は多かった。太平洋側：月平均気温は高く、月降水量はかなり少なく、月間日照時間は多かった。

上旬：低気圧や前線の影響を受けた日もあったが、高気圧に覆われた日が多かったため、降水量は平年より少なく日照時間は日本海側で多かった。北からの冷たい気流の影響を受けた日もあったが、暖かい空気に覆われやすかったため、気温は平年より高かった。中旬：高気圧に覆われた日が多く、低気圧の影響を受けにくかったため、降水量は平年よりかなり少なく、日照時間は日本海側とオホーツク海側で多かった。北からの冷たい気流の影響を受けた日もあったが、暖かい空気に覆われやすかったため、気温は平年より高かった。下旬：低気圧や前線の影響を受けた日もあったが、高気圧に覆われた日が多かったため、降水量は平年より少なく、オホーツク海側と太平洋側では日照時間は平年より多かった。また、南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温は北海道地方とオホーツク海側で平年より高く、太平洋側でかなり高かった。

3月の高温・少雪により融雪が順調に進んだことから秋まき小麦の雪腐病は、発生が少なかった。4月に断続的な降雨が認められ寡照となった地域では、眼紋病の発生が多くなった。たまねぎの移植栽培では土壌水分の高い条件で移植した一部地域でタマネギバエ、タネバエの被害が認められ、被害を受けやすい直播栽培地域で被害が目立った。前年の発生量がやや多かった春まき小麦のムギキモグリバエの発生が多くなった。あぶらな科野菜では春季にコナガの多飛来が認められたため注意報を发出した。りんごのモニリア病は、融雪期以降も温暖であったことに加え、前年の発生量が少なかったことから少発生となった。一方、りんごの腐らん病は前年からの感染源が多く残存していたため多発した。

## 夏季

6月：南から暖かい空気が流れ込みやすく、歴代1位の記録的な高温。各地で6月の月平均気温の極値を更新。

6月は、南から暖かい空気が流れ込みやすく、また、中旬と下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、全道的に記録的な高温となった。北海道地方の月平均気温の平年差はかなり高く、1946年の統計開始以降、日本海側と太平洋側ともに高い方から第1位の記録となった。

北海道地方：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は多かった。日本海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は多かった。オホーツク海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は多かった。太平洋側：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間は多かった。

上旬：低気圧や湿った空気の流入により、曇りや雨の降った日が多かった。2日から3日にかけて、北海道付近を低気圧が発達しながら通過したため、オホーツク海側を中心に降水量が多くなった所があった。このため、降水量は北海道地方及び日本海側とオホーツク海側でかなり多く、太平洋側で多かった。日照時間は、北海道地方及び日本海側とオホーツク海側で少なかった。低気圧の通過後に寒気の影響を受けた日もあったが、低気圧に向かって、南から暖かい空気が流れ込んだ日が多かったため、北海道地方及び日本海側とオホーツク海側で高く、太平洋側でかなり高かった。中旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間は北海道地方と太平洋側で多く、日本海側とオホーツク海側でかなり多かった。降水量は全道的に少なかった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温はかなり高かった。下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間は全道的に多かった。30日から7月1日にかけて、北海道の南岸を低気圧が通過したため、日本海側に降水量が多くなった所があった。このため、日本海側では降水量はかなり多かった。また、日本の東の高気圧の縁を通過して、南から暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、全道的に気温はかなり高かった。特に、太平洋側では、1946年の統計開始以降、6月下旬として高い方から第1位の記録となった。

7月：暖かい空気が流れ込みやすく、晴れた日が多かった太平洋側で記録的な高温。

7月は、太平洋高気圧の縁を回って南西から暖かい空気が流れ込みやすく、全道的に気温がかなり高かった。特に太平洋側では晴れた日が多く日中に気温が上がりやすかったため、太平洋側と、太平洋側を含む北海道地方でも、月平均気温の平年差は1946年の統計開始以降、7月として最も高い記録となった。

北海道地方：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間は多かった。日本海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間は平年並だった。オホーツク海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間は平年並だった。太平洋側：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間はかなり多かった。

上旬：気圧の谷や湿った空気の影響を受ける日が少なく、高気圧に覆われた日もあったため、晴れた日が多かった。このため日照時間は多く、降水量は日本海側と太平洋側で少なかったが、低気圧の影響でまとまった雨の降ったオホーツク海側では多かった。低気圧の通過後に寒気の影響を受けた日もあったが、暖かい空気に覆われた日が多かったため気温は高く、北海道地方及び太平洋側でかなり高かった。中旬：低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。このため降水量は多く、日照時間は北海道地方及び日本海側とオホーツク海側でかなり少なかった。寒気の影響を受けた日もあったオホーツク海側では平年並だったが、暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方及び日本海側と太平洋側では気温がかなり高かった。下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため日照時間は北海道地方及びオホーツク海側で多く、太平洋側ではかなり多かった。また、降水量は北海道地方及び日本海側と太平洋側で少なかった。高気圧に覆われて晴れた日が多かったことに加えて、暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高く、北海道地方及び太平洋側の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降7月下旬として最も高い記録となった。また下旬の期間中に、11のアメダス地点の日最高気温が、7月として最も高い記録となった（根室で7月30日に33.1℃など）。

8月：太平洋高気圧に覆われた日が多く、記録的な高温。猛暑日を多くの地点で観測。

8月は、太平洋高気圧に覆われた日が多く、また南からの暖かい空気が流れ込む日も多かった。このため全道的に気温が記録的に高く、北海道地方、日本海側、太平洋側の月平均気温の平年差は、8月としての極値を更新した（1946年統計開始）。日々の気温も記録的に高く、61か所のアメダス地点で猛暑日を観測した。

北海道地方：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間は平年並だった。日本海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間は平年並だった。オホーツク海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は平年並だった。太平洋側：月平均気温はかなり高く、月降水量は少なく、月間日照時間は平年並だった。

上旬：オホーツク海側を中心に冷たい空気の影響を受けた時期もあったが、気圧の谷に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温は日本海側と太平洋側でかなり高く、オホーツク海側及び北海道地方で高かった。特に、10日には函館で最高気温35.4℃を観測し、通年の極値を更新した（1872年統計開始）。また、日本海側とオホーツク海側を中心に、前線や湿った空気の影響により曇りや雨の日が多く、3日から8日にかけて大

雨となった所があった。このため北海道地方の降水量は多く、日照時間は少なかった。中旬：13日に本州の南にあった台風第7号が近畿地方を縦断して17日にかけて北海道の西を北上するなど、南からの暖かい空気が流れ込みやすい日が多かったため、北海道地方及び日本海側と太平洋側では気温がかなり高く、オホーツク海側では高かった。また、オホーツク海から千島の東へゆっくり進んだ高気圧に覆われやすかったため、降水量は北海道地方及び日本海側とオホーツク海側で少なかった。下旬：太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、また気圧の谷に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方の気温は全域でかなり高く、旬平均気温の平年差は、8月下旬としての極値を大きく更新した（1946年統計開始）。特に、23日には札幌で最高気温36.3℃を観測し、通年の極値を更新（1876年統計開始）するなど、22日から28日にかけて、25か所のアメダス地点で通年の極値を更新した。また、北海道地方の日照時間は多く、降水量は少なかったが、オホーツク海側では、25日と27日に気圧の谷や湿った空気の影響で大雨となった所があったため、降水量が多かった。

本年の夏季を通じた記録的な高温傾向が、多くの病害虫の発生に影響した。

病害では、6月の高温で水稻のいもち病、ばれいしょの疫病、てんさいの褐斑病が早発し、注意報を発表して注意喚起した。その後夏季間を通して高温に経過したため、ばれいしょの疫病は抑制された。水稻のいもち病は、近年発生が少なく一次伝染源が少なかったことや適切な防除が実施されたことにより、平年並の発生にとどまった。夏季の高温により、水稻の紋枯病（疑似紋枯症を含む）、秋まき小麦の赤さび病、ばれいしょのそうか病、ばれいしょ、たまねぎ、だいこんの軟腐病の発生量が多くなった。

虫害では、春季、夏季とも高温に経過し、多くの害虫で増殖に好適な環境となった。水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメでは出穂期以降の発生が多く、注意報を発表した。追加防除が適切に実施されたため、被害を抑制することができた。6月からの高温により小豆の食葉性鱗翅目幼虫、たまねぎのネギアザミウマの発生が早まった。その後も高温で経過し、増殖・加害に好適であったことから小豆の食葉性鱗翅目幼虫、てんさいのヨトウガ、たまねぎ、ねぎのネギアザミウマ、だいこんのキスジトビハムシでは発生が多くなった。

## 秋季

9月：南から暖かい空気が流れ込みやすく、太平洋側は4か月連続で歴代1位の記録的な高温

9月は、低気圧の前面で南からの暖かい空気が流れ込みやすく、また、高気圧の影響で暖かい空気に覆われる日も多かった。このため、北海道地方の気温はかなり高く、月平均気温の平年差は1946年の統計開始以降、オホーツク海側と太平洋側では高い方から第1位、北海道地方と日本海側では第2位の高温となった。降水量は、南からの暖かく湿った空気の流入と低気圧や前線の影響により、多かった。

北海道地方：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は平年並だった。日本海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は平年並だった。オホーツク海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は平年並だった。太平洋側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は少なかった。

上旬：太平洋側を中心に低気圧や前線の影響を受けた日が多かった。このため、降水量は太平洋側及び北海道地方で多かった。日照時間は、低気圧の影響を受けにくかった日本海側で多かった。暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温はかなり高かった。太平洋側及び北海道地方では、旬平均気温の平年差が1946年の統計開始以降、9月上旬として高い方から第1位の記録（北海道地方はタイ記録）となった。中旬：低気圧と前線の影響を受けた日が多かったため、曇りや雨の日が多かった。このため、降水量は日本海側でかなり多く、オホーツク海側及び北海道地方で多かった。また、日照時間は、日本海側と太平洋側及び北海道地方で少なかった。低気圧や前線に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温は北海道地方でかなり高かった。下旬：太平洋側は低気圧の影響を受けた日もあったが、日本海側とオホーツク海側は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため、降水量は日本海側、オホーツク海側及び北海道地方で少なく、日照時間はオホーツク海側でかなり多かった。高気圧に覆われて晴れた日が多く、低気圧の前面で南から暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、気温は北海道地方でかなり高かった。

10月：暖かい空気に覆われて晴れた日が多く、歴代1位の記録的な高温。太平洋側は5か月連続。

10月は、高気圧に覆われて晴れた日が多く、暖かい空気に覆われやすかった。このため、北海道地方の月平均気温はかなり高く、平年差は1946年の統計開始以降、日本海側と太平洋側及び北海道地方では高い方から第1位、オホーツク海側では第2位の高温となった。また、日照時間もかなり多かった。降水量は、低気圧の影響により、日本海側で多かった。

上旬：5日は急速に発達した低気圧の影響により広い範囲で大雨となり、浦河町中杵臼では日降水量225.5mmを観測し、1978年の統計開始以降10月として第1位の記録となった。また、その後も寒気の影響により日本海側を中心に曇りや雨の日が多かった。このため、降水量は日本海側を中心に平年より多く、日照時間はオホーツク海側で少なかった。低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ日があったことや、平年より高い海面水温の影響で、気温は沿岸部を中心に平年より高かった。中旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、北海道地方の日照時間は平年より多かった。一時的な寒気による雨のほか、20日には低気圧の影響でまとまった雨が降ったため、降水量は日本海側とオホーツク海側及び北海道地方で多かった。寒気の影響を受けにくく、暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温は高かった。下旬：21日と22日は寒気の影響により日本海側を中心に雨や雪が降ったが、その後は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため、降水量はオホーツク海側と太平洋側及び北海道地方で少なく、北海道地方の日照時間は多かった。寒気の影響を受けにくく、暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温は高かった。なお、21日から22日にかけて日本海側とオホーツク海側の気象台や特別地域気象観測所で初雪を観測した。

秋季も高温傾向が継続したことにより、てんさいの褐斑病の発生が拡大し、全道各地で被害が多発した。

令和5年の農耕期間の天候と農作業経過の特徴としては、気温は春季から秋季まで高温に経過し、作物の生育は早まり、播種から収穫までの農作業は期間を通して順調に進んだ。夏季の記録的な高温は収穫物の品質や病害虫の発生に大きく影響した。高温性の病害が多発し、害虫では早発や旺盛な増殖が加害を拡大させた。

主要病害虫で多発となったのは、水稻の紋枯病、秋まき小麦の赤さび病、春まき小麦のムギキモグリバエ、ばれいしょの軟腐病、そうか病、てんさいの褐斑病、だいこんのキスジトビハムシ及びびりんごの腐らん病であった。やや多発となったものは、秋まき小麦の眼紋病、小豆の食葉性鱗翅目幼虫、てんさいのヨトウガ、たまねぎの軟腐病、タマネギバエ・タネバエ、ネギアザミウマ、ねぎのさび病、ネギアザミウマ、にんじんの黒葉枯病、だいこんの軟腐病及びブロッコリーのコナガであった。

なお、これら以外に飛来性の害虫による被害が多発した。マメノメイガによる小豆の被害が道南、道央を中心に全道各地域で認められたほか、シロオビノメイガやオオタバコガによるてん菜や野菜類の被害が確認された。侵入調査事業における侵入警戒動植物であるトマトキバガの飛来も全道各地で確認され、道南ではトマトで被害が確認された。

病害では、りんごの炭疽病の発生が多かった。セイヨウチャヒキ（野生種エンバク）のいもち病が道内各地で散発し、特に十勝地方での多発が問題となった。

(各月の気象は札幌管区気象台発表「北海道地方気象速報」3～10月より引用)

気象季節（各場定期作況報告）

	初霜*		降雪始*		根雪始*		根雪終		降雪終		耕鋤始		晩霜	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
北斗	11.5	10.21	11.11	11.10	12.14	12.12	3.6	3.13	4.23	4.16	4.5	4.9	4.18	4.27
長沼	10.30	10.19	11.11	11.5	12.1	12.7	3.20	3.27	4.23	4.7	4.14	4.14	4.15	4.20
岩見沢	10.24	10.17	11.11	10.27	12.2	11.28	3.28	4.4	5.12	4.21	4.28	5.4	5.13	4.28
比布	10.13	10.9	11.3	10.27	11.30	11.28	3.30	4.9	4.24	4.23	4.28	4.18	-	5.13
訓子府	10.7	10.15	11.11	11.4	12.18	12.8	3.24	4.7	4.16	4.26	4.14	4.22	5.9	5.10
芽室	10.9	10.12	11.14	11.7	12.17	12.8	3.30	3.29	4.9	4.21	4.11	4.15	5.13	5.3
中標津	10.9	10.15	-	11.9	12.18	12.19	3.4	4.6	4.23	4.2	4.0	5.6	5.5	5.8

\*：初霜・降雪始・根雪始は前年秋。

長沼町(中央農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	6.3	3.1	12.7	7.6	0.5	-1.3	0.5	6.9	32.3	27.5
4.2	8.4	4.2	13.0	8.8	4.4	-0.3	27.0	7.0	20.5	27.0
4.3	9.1	5.2	14.1	10.1	3.3	0.6	11.0	8.3	29.6	27.0
4.4	6.7	6.3	10.4	11.4	3.5	1.6	30.0	9.7	13.1	27.2
4.5	7.5	7.4	12.0	12.6	3.0	2.6	2.0	10.2	35.0	27.5
4.6	10.9	8.4	15.9	13.8	6.5	3.5	15.5	10.8	24.6	28.2
5.1	11.1	9.3	17.6	14.7	4.7	4.5	8.0	12.5	34.1	28.9
5.2	9.9	10.0	14.6	15.3	4.4	5.2	6.5	14.4	26.7	29.7
5.3	10.4	10.7	16.0	16.0	4.7	6.1	12.0	14.6	35.1	30.2
5.4	13.7	11.7	20.2	17.0	9.1	7.2	0.5	13.0	36.2	30.1
5.5	12.3	12.6	17.7	17.9	7.1	8.3	8.5	11.5	39.1	30.0
5.6	14.9	13.4	21.1	18.7	9.8	9.1	4.5	14.3	40.7	36.0
6.1	13.7	14.0	18.5	19.2	8.4	9.9	25.0	12.5	11.3	28.9
6.2	16.4	14.6	21.2	19.7	12.5	10.7	9.0	12.9	15.4	27.0
6.3	17.2	15.3	21.4	20.2	14.3	11.5	3.0	13.9	22.4	24.9
6.4	18.3	15.9	24.3	20.8	13.5	12.3	0.0	13.8	44.2	24.1
6.5	19.5	16.6	26.6	21.6	13.4	12.9	0.0	12.8	44.8	25.3
6.6	21.5	17.4	27.1	22.4	18.4	13.7	39.5	13.3	24.6	26.2
7.1	19.3	18.0	24.5	22.9	15.7	14.5	0.5	15.5	31.0	25.2
7.2	22.6	18.6	28.4	23.2	18.6	15.2	3.0	17.7	30.2	23.5
7.3	21.7	19.1	25.6	23.6	19.3	15.8	42.0	17.8	9.9	23.0
7.4	22.1	19.6	27.2	24.1	19.4	16.4	0.0	17.0	19.2	22.8
7.5	23.2	20.3	27.6	24.8	20.4	17.1	0.0	17.5	28.4	22.5
7.6	26.8	21.1	31.8	25.5	22.6	17.9	1.5	22.5	37.5	27.6
8.1	26.1	21.5	31.0	26.0	22.7	18.2	10.0	20.3	22.6	24.1
8.2	24.2	21.5	27.5	25.9	21.8	18.2	32.0	24.1	9.5	23.8
8.3	25.6	21.2	31.1	25.6	21.8	18.0	1.0	27.0	36.6	22.4
8.4	25.9	20.9	30.9	25.3	22.0	17.6	12.5	28.2	19.3	22.4
8.5	27.5	20.6	34.0	25.1	24.5	17.0	8.5	26.8	48.8	24.1
8.6	24.9	20.3	29.2	25.0	21.7	16.4	29.5	27.6	29.0	31.2
9.1	23.6	19.8	28.0	24.5	19.9	15.7	60.5	23.1	18.5	26.1
9.2	21.9	19.0	27.1	23.7	17.0	14.8	1.0	25.1	30.6	25.5
9.3	22.0	17.9	25.5	22.8	18.9	13.5	62.5	23.6	14.2	25.7
9.4	21.5	16.7	26.8	21.8	17.1	12.0	15.0	20.0	13.2	26.7
9.5	15.4	15.6	21.8	20.8	9.9	10.6	3.5	19.3	32.3	27.0
9.6	18.1	14.6	23.0	19.8	13.6	9.6	10.0	20.0	21.6	26.4
10.1	15.6	13.5	20.5	18.7	11.6	8.5	81.0	19.1	27.5	24.9
10.2	11.9	12.4	17.5	17.6	7.3	7.3	16.0	17.4	23.2	24.1
10.3	12.8	11.3	20.3	16.4	5.7	6.1	0.0	15.1	44.6	24.7
10.4	11.3	10.2	15.1	15.4	7.8	4.9	34.0	14.0	14.5	24.7
10.5	8.9	9.2	14.4	14.3	3.0	4.1	6.5	14.3	31.2	23.0
10.6	11.0	8.3	16.1	13.0	6.3	3.4	2.5	17.4	32.0	24.9

長沼のアメダスデータによる。平年値は1991～2020年の平均

岩見沢市(中央農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	6.5	3.3	13.2	7.8	0.7	-1.0	0.0	7.0	36.2	29.8
4.2	8.4	4.4	13.0	9.1	3.8	-0.1	20.0	7.7	18.7	29.3
4.3	9.2	5.4	14.0	10.4	4.1	0.8	8.5	8.9	33.5	29.0
4.4	6.6	6.6	10.0	11.9	3.1	1.8	20.5	9.8	11.9	29.0
4.5	7.6	7.8	11.7	13.3	3.7	2.7	1.0	10.5	36.0	29.1
4.6	11.2	8.9	15.7	14.5	6.9	3.7	29.0	11.1	20.7	29.6
5.1	13.3	9.9	19.5	15.5	7.4	4.7	4.5	13.4	43.4	30.2
5.2	10.1	10.5	15.3	16.2	5.5	5.5	10.5	15.4	31.5	30.8
5.3	10.9	11.3	17.0	17.0	4.9	6.3	2.0	14.9	35.5	31.3
5.4	15.0	12.4	22.3	18.0	10.2	7.4	0.0	13.0	40.1	31.8
5.5	12.5	13.3	18.6	19.0	6.9	8.4	11.0	11.6	41.9	32.2
5.6	15.3	14.1	21.2	19.9	10.2	9.2	9.5	14.3	44.7	39.4
6.1	13.9	14.8	18.6	20.5	8.5	10.0	42.5	11.3	15.2	31.9
6.2	17.2	15.4	22.3	20.9	12.9	10.9	7.5	11.1	20.0	29.9
6.3	18.4	16.0	23.6	21.3	15.1	11.8	4.5	11.9	35.7	27.9
6.4	18.3	16.6	23.8	21.9	13.0	12.5	0.0	12.0	39.8	27.1
6.5	19.7	17.3	27.0	22.6	13.4	13.2	0.0	12.0	45.3	27.9
6.6	22.5	18.0	28.0	23.4	18.3	13.9	28.5	13.1	33.9	28.5
7.1	19.4	18.7	25.1	24.0	15.8	14.8	2.5	15.5	30.8	27.5
7.2	22.9	19.2	29.0	24.3	18.3	15.5	4.0	18.0	27.6	25.8
7.3	21.7	19.7	25.8	24.7	19.1	16.1	45.5	18.6	16.6	25.0
7.4	22.1	20.3	27.1	25.2	19.0	16.7	1.0	18.1	17.8	25.4
7.5	23.7	21.0	28.1	25.8	20.7	17.4	24.5	18.0	35.1	25.1
7.6	26.6	21.7	31.1	26.5	22.9	18.2	5.0	21.9	29.9	30.1
8.1	26.1	22.0	30.5	26.8	22.5	18.4	27.5	20.7	24.6	26.1
8.2	23.5	21.9	27.2	26.7	20.4	18.3	37.0	25.4	10.6	26.1
8.3	25.3	21.6	31.1	26.2	21.0	18.1	8.0	28.2	38.6	24.7
8.4	25.9	21.2	30.6	25.9	21.8	17.6	9.0	28.9	24.1	24.5
8.5	28.1	20.9	34.3	25.7	23.8	17.0	0.0	27.4	47.1	25.8
8.6	25.2	20.5	29.6	25.4	21.8	16.5	41.0	29.8	30.6	32.2
9.1	23.4	20.0	28.1	24.8	19.4	15.8	35.5	24.8	21.0	26.7
9.2	21.8	19.1	27.1	24.0	16.4	14.9	0.0	25.5	38.9	26.5
9.3	22.0	18.0	25.9	22.9	18.9	13.6	58.5	24.2	17.1	26.6
9.4	21.2	16.8	26.3	21.9	16.3	12.2	49.5	22.6	18.4	27.0
9.5	15.6	15.6	21.5	20.8	10.2	10.9	0.0	22.7	33.6	26.9
9.6	17.9	14.6	22.4	19.7	14.2	9.9	6.5	22.7	23.8	25.9
10.1	15.3	13.6	20.1	18.6	12.1	8.9	66.0	21.8	28.7	24.4
10.2	11.8	12.4	17.5	17.4	7.4	7.7	32.5	20.7	27.1	23.5
10.3	13.1	11.3	20.1	16.3	7.1	6.6	0.0	17.7	45.9	23.5
10.4	10.8	10.3	14.2	15.2	7.6	5.5	60.5	15.3	10.2	23.3
10.5	8.9	9.4	13.8	14.1	4.1	4.8	21.0	15.9	24.2	21.5
10.6	11.3	8.4	16.1	12.8	6.9	4.0	2.0	19.8	33.2	23.0

岩見沢のアメダスデータによる。平年値は1991～2020年の平均

## 比布町(上川農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	4.6	1.6	11.3	6.6	-1.5	-3.6	0.0	7.1	33.1	24.8
4.2	7.1	2.7	11.9	7.9	2.3	-2.5	21.5	8.3	10.6	25.3
4.3	6.8	3.8	13.3	9.3	-0.4	-1.4	4.0	8.5	27.5	26.1
4.4	5.3	5.1	9.5	11.0	1.1	-0.4	20.0	8.2	16.0	26.5
4.5	5.2	6.5	9.8	12.7	1.3	0.7	10.0	8.3	25.3	26.2
4.6	10.1	7.8	14.5	14.3	5.6	1.7	29.0	9.5	16.8	26.6
5.1	12.1	9.0	18.7	15.4	4.8	2.8	4.5	11.8	36.4	27.5
5.2	8.3	9.8	14.2	16.3	2.3	3.7	8.0	13.0	25.9	28.8
5.3	11.0	10.9	16.9	17.4	4.3	4.8	0.5	12.1	36.7	30.1
5.4	16.5	12.2	24.0	18.7	10.2	6.2	0.0	10.4	45.3	31.0
5.5	11.9	13.4	18.0	19.9	6.0	7.4	13.5	10.2	36.7	31.7
5.6	14.9	14.3	20.8	20.9	9.1	8.3	12.0	13.6	41.0	39.5
6.1	13.0	15.0	18.6	21.5	7.2	9.2	40.0	11.5	18.4	32.0
6.2	17.6	15.7	23.2	22.0	12.9	10.3	3.5	11.7	25.9	29.5
6.3	19.5	16.4	25.1	22.5	14.8	11.2	5.0	12.4	35.9	27.7
6.4	17.3	17.0	22.8	23.0	12.4	11.9	0.0	12.4	28.3	27.5
6.5	20.2	17.6	28.3	23.6	13.2	12.4	0.0	12.2	45.5	28.3
6.6	21.9	18.3	28.7	24.3	16.1	13.2	80.0	13.6	28.9	28.5
7.1	18.5	19.0	24.4	24.9	13.0	14.0	3.0	16.6	33.6	27.8
7.2	22.6	19.5	29.0	25.3	17.9	14.7	4.5	19.5	40.6	27.0
7.3	20.5	19.9	25.1	25.6	18.0	15.2	63.0	21.2	10.0	27.4
7.4	21.4	20.4	26.8	26.2	17.4	15.7	12.5	22.5	19.5	28.2
7.5	23.1	21.1	28.7	26.9	18.3	16.4	21.5	25.3	31.9	27.5
7.6	25.3	21.6	30.1	27.3	21.3	17.1	15.5	31.9	24.9	31.8
8.1	23.0	21.7	27.1	27.4	18.5	17.2	12.5	25.1	13.7	27.2
8.2	21.2	21.4	26.4	27.1	17.6	16.9	126.5	25.6	12.5	27.2
8.3	22.3	21.0	29.1	26.5	17.1	16.6	0.0	27.8	50.2	25.6
8.4	24.4	20.5	30.1	26.0	20.4	16.0	10.0	28.4	23.4	24.5
8.5	26.8	19.9	33.8	25.6	21.8	15.2	0.5	26.4	44.7	25.3
8.6	23.5	19.4	29.6	25.2	18.8	14.5	2.5	29.4	26.7	31.2
9.1	22.4	18.7	28.2	24.5	17.7	13.8	14.0	26.5	24.8	25.5
9.2	20.4	17.7	27.7	23.5	13.8	12.8	2.0	27.2	41.1	24.7
9.3	20.4	16.4	25.9	22.3	16.7	11.4	54.0	24.9	11.8	24.2
9.4	18.5	15.1	24.8	21.1	12.7	9.9	61.5	22.4	19.1	24.0
9.5	13.1	13.9	20.4	20.0	6.9	8.6	2.5	21.6	34.6	24.0
9.6	15.5	12.9	21.6	19.0	10.9	7.7	16.0	21.1	15.3	23.2
10.1	12.5	11.8	17.7	17.7	9.1	6.6	64.5	20.1	14.6	21.9
10.2	10.1	10.5	16.6	16.4	5.5	5.4	2.5	18.8	24.0	20.6
10.3	10.2	9.3	19.4	15.2	3.3	4.2	0.0	17.1	44.4	20.0
10.4	8.4	8.2	12.8	14.0	4.3	3.1	66.0	16.0	6.3	19.5
10.5	6.6	7.2	12.2	12.9	1.5	2.3	18.5	17.1	23.8	18.0
10.6	8.6	6.3	14.4	11.4	3.8	1.7	10.0	21.7	23.5	17.7

比布のアメダスデータによる. 平年値は1991~2020年の平均

北斗市(道南農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	7.4	4.2	13.4	8.9	1.2	-0.6	0.0	8.5	47.8	26.2
4.2	8.9	5.1	13.3	10.0	4.3	0.2	16.0	9.3	15.6	27.7
4.3	9.9	6.0	15.2	11.1	3.2	1.0	29.5	10.8	24.9	29.2
4.4	7.5	7.0	12.6	12.1	2.4	1.9	27.0	12.7	13.3	29.5
4.5	7.9	8.0	12.9	13.2	1.4	2.8	2.5	14.1	40.6	29.3
4.6	11.2	9.0	16.5	14.3	5.8	3.7	23.5	15.2	27.0	29.7
5.1	13.1	9.9	19.1	15.2	6.8	4.6	5.0	16.0	28.2	30.0
5.2	10.3	10.4	14.4	15.7	6.4	5.4	10.5	15.2	20.3	29.6
5.3	11.1	11.1	16.8	16.2	5.2	6.2	5.5	13.1	30.8	29.5
5.4	15.5	12.0	20.8	17.0	11.0	7.3	0.0	12.5	34.4	30.0
5.5	13.6	12.9	19.6	17.9	7.7	8.4	3.5	12.5	47.2	31.1
5.6	15.6	13.7	21.5	18.7	10.2	9.2	7.0	14.7	37.2	38.4
6.1	16.2	14.3	21.9	19.3	10.3	9.9	44.0	11.6	30.2	31.0
6.2	16.9	14.8	20.7	19.6	13.1	10.6	55.5	12.8	16.4	28.5
6.3	18.0	15.5	22.1	20.1	14.9	11.5	0.5	14.3	13.5	26.2
6.4	19.3	16.2	24.6	20.7	14.7	12.4	0.0	14.5	40.2	24.8
6.5	18.5	16.9	22.5	21.3	14.7	13.2	43.0	14.3	20.2	24.5
6.6	21.3	17.6	25.9	22.0	18.1	13.9	46.5	15.5	22.5	23.9
7.1	20.2	18.2	24.7	22.4	16.6	14.7	0.5	18.7	32.4	21.3
7.2	22.8	18.8	29.0	22.9	19.2	15.4	5.0	21.1	25.7	19.3
7.3	21.5	19.4	24.5	23.4	19.4	16.1	68.0	20.0	4.9	18.6
7.4	23.2	20.0	27.4	24.0	19.8	16.8	0.0	17.6	14.1	18.5
7.5	23.6	20.7	28.7	24.8	19.1	17.4	0.0	19.2	24.9	19.2
7.6	26.4	21.4	31.3	25.7	22.0	18.1	10.5	26.5	22.3	24.3
8.1	26.8	21.9	32.2	26.1	22.5	18.5	0.0	23.2	23.7	21.3
8.2	25.5	21.9	29.8	26.0	22.6	18.5	1.5	25.5	23.4	21.4
8.3	23.5	21.7	26.7	25.8	21.2	18.3	13.0	26.7	14.2	21.0
8.4	25.6	21.5	29.1	25.6	21.9	17.9	9.5	27.0	14.5	21.4
8.5	28.0	21.2	33.1	25.6	24.1	17.4	6.0	27.4	50.0	23.3
8.6	26.8	20.8	31.1	25.3	23.8	16.8	0.0	31.5	38.2	29.2
9.1	23.9	20.3	27.8	24.8	20.1	16.2	38.0	26.0	16.4	23.5
9.2	23.0	19.5	27.2	24.1	18.8	15.2	2.0	25.8	27.4	23.1
9.3	23.1	18.6	26.3	23.4	20.2	14.0	32.5	24.5	11.8	24.3
9.4	22.2	17.5	27.2	22.6	18.0	12.7	3.5	23.5	18.9	26.1
9.5	16.7	16.4	22.2	21.6	11.6	11.4	22.5	23.5	32.1	27.0
9.6	18.6	15.5	23.3	20.6	14.2	10.4	30.5	23.0	17.9	26.2
10.1	16.0	14.5	21.4	19.6	11.2	9.3	26.5	22.0	29.2	25.2
10.2	14.2	13.3	18.8	18.5	9.8	8.1	8.0	20.6	29.3	24.8
10.3	14.0	12.0	21.3	17.4	7.6	6.8	0.0	19.1	43.6	25.6
10.4	11.8	10.9	16.3	16.3	6.6	5.6	35.0	17.2	20.3	25.3
10.5	9.1	10.0	15.4	15.2	3.1	4.8	10.0	15.7	28.1	23.5
10.6	12.0	9.0	17.8	14.0	6.8	4.0	0.0	18.6	43.8	25.3

北斗(大野)のアメダスデータによる. 平年値は1991~2020年の平均

## 芽室町(十勝農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	6.2	2.5	14.3	8.1	-1.6	-3.0	0.0	9.0	41.9	32.3
4.2	8.1	3.6	13.2	9.4	3.0	-1.9	20.5	9.2	22.3	31.6
4.3	8.6	4.6	14.8	10.6	1.3	-1.0	8.5	9.8	35.4	31.0
4.4	6.9	5.7	10.9	12.0	2.9	-0.1	27.0	10.7	19.6	31.0
4.5	7.5	6.9	12.3	13.5	1.8	0.7	0.0	11.2	36.6	31.3
4.6	10.5	8.2	15.7	15.0	5.4	1.6	20.0	11.9	30.8	32.0
5.1	14.6	9.3	21.6	16.0	6.2	2.7	0.5	13.4	38.3	31.6
5.2	8.1	9.9	14.2	16.5	2.2	3.5	4.5	14.0	21.4	30.4
5.3	10.0	10.5	18.0	17.1	1.1	4.2	0.0	13.5	41.2	29.3
5.4	14.2	11.4	20.9	18.0	8.8	5.3	0.5	13.0	21.2	28.7
5.5	11.8	12.2	18.3	18.8	5.9	6.3	9.0	13.0	32.5	28.0
5.6	16.6	12.9	24.0	19.5	9.2	7.1	11.5	15.6	51.3	33.9
6.1	14.0	13.5	20.7	20.0	6.5	8.0	38.5	13.2	30.4	27.3
6.2	16.3	14.1	21.7	20.3	11.6	8.9	13.0	14.3	23.7	24.8
6.3	16.1	14.7	20.9	20.6	13.3	9.8	0.0	15.6	11.1	22.1
6.4	18.5	15.3	24.1	21.1	11.7	10.6	0.0	15.5	43.3	21.2
6.5	18.6	16.0	25.7	21.9	11.2	11.1	0.0	13.7	35.4	22.9
6.6	21.2	16.7	28.2	22.6	15.4	11.8	52.0	12.9	27.8	23.9
7.1	18.9	17.2	26.1	23.0	14.4	12.6	17.0	15.3	32.3	22.4
7.2	22.2	17.7	29.0	23.2	16.6	13.4	3.5	19.7	35.2	20.6
7.3	20.8	18.3	25.5	23.7	17.7	14.0	51.0	21.2	13.3	19.5
7.4	19.9	18.8	25.2	24.1	16.9	14.7	7.0	18.2	9.5	18.7
7.5	22.9	19.4	29.6	24.7	18.6	15.4	0.0	15.8	26.2	18.5
7.6	27.0	20.2	33.4	25.5	20.2	16.0	2.5	18.2	38.9	23.1
8.1	24.3	20.5	30.4	26.0	18.4	16.3	3.5	18.1	27.8	20.0
8.2	20.7	20.4	24.8	25.7	17.6	16.3	58.0	24.7	9.7	19.3
8.3	20.5	20.0	25.5	25.1	17.2	16.1	6.5	28.5	14.6	17.8
8.4	23.6	19.7	28.0	24.8	20.4	15.7	32.5	27.0	11.7	18.2
8.5	26.4	19.4	32.2	24.6	22.3	15.2	1.5	24.8	25.2	20.5
8.6	23.0	19.0	27.8	24.3	20.1	14.6	7.0	29.6	9.5	26.4
9.1	21.8	18.5	26.5	23.7	17.4	14.1	30.0	25.7	13.8	21.6
9.2	20.6	17.8	26.1	23.0	15.9	13.3	28.5	26.9	29.7	21.5
9.3	21.7	16.8	25.6	22.1	19.0	12.1	37.5	27.0	11.5	22.4
9.4	21.1	15.6	27.3	21.2	16.3	10.6	7.5	26.2	24.8	23.8
9.5	14.9	14.4	21.2	20.1	9.6	9.2	8.0	25.2	29.8	24.9
9.6	15.9	13.4	21.1	19.1	11.1	8.1	23.0	23.4	18.9	25.0
10.1	14.6	12.3	19.5	18.1	10.3	6.9	23.0	20.6	25.9	25.0
10.2	10.7	11.1	16.5	17.1	4.7	5.5	27.0	17.9	32.6	25.5
10.3	10.6	9.9	19.9	16.1	2.5	4.1	2.0	14.8	47.2	27.0
10.4	10.7	8.8	15.1	14.9	5.1	3.0	15.5	12.3	26.0	27.5
10.5	7.4	7.9	13.8	13.8	0.9	2.1	0.0	11.2	37.9	26.9
10.6	9.5	6.9	13.3	12.7	6.5	1.2	2.5	12.2	18.2	31.3

芽室のアメダスデータによる. 平年値は1991～2020年の平均

訓子府町(北見農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	4.8	1.3	12.4	6.8	-1.8	-4.2	0.0	7.5	33.6	28.0
4.2	7.5	2.5	13.3	8.1	2.1	-3.0	18.5	7.2	12.0	27.6
4.3	7.5	3.6	15.6	9.5	-0.8	-1.9	0.5	7.0	34.3	28.0
4.4	4.8	4.8	9.6	11.0	-0.2	-0.9	37.0	7.5	16.4	28.0
4.5	5.6	6.2	11.6	12.6	-0.9	0.1	0.0	8.3	26.1	28.0
4.6	11.2	7.5	16.2	14.2	6.1	1.1	28.5	8.7	30.9	27.7
5.1	12.4	8.4	21.0	15.2	3.8	2.0	0.5	9.6	24.1	27.4
5.2	6.7	8.9	13.3	15.6	0.7	2.7	5.0	10.4	25.4	27.0
5.3	10.7	9.8	18.1	16.3	2.8	3.6	0.5	9.8	37.5	27.1
5.4	14.9	10.9	22.5	17.6	7.8	4.7	0.0	8.8	37.9	27.5
5.5	10.8	11.9	18.3	18.5	3.3	5.7	4.5	8.7	31.4	27.8
5.6	15.6	12.7	22.7	19.3	8.4	6.6	0.5	11.2	35.9	34.8
6.1	13.3	13.5	20.0	19.9	6.5	7.4	35.0	9.8	18.4	29.3
6.2	16.5	14.1	22.6	20.3	11.7	8.4	6.0	10.9	19.1	27.5
6.3	17.7	14.6	23.4	20.5	11.6	9.3	5.0	12.3	35.0	25.2
6.4	16.1	14.9	22.5	20.7	9.7	10.0	0.5	12.4	32.6	24.0
6.5	19.7	15.5	27.5	21.4	12.4	10.5	0.0	11.6	39.6	25.3
6.6	21.8	16.4	29.5	22.3	14.8	11.2	13.0	11.4	28.5	26.5
7.1	16.6	17.1	21.8	22.9	12.8	12.1	35.0	13.7	17.1	25.4
7.2	22.4	17.6	29.2	23.2	15.7	12.8	4.0	17.2	39.4	23.7
7.3	19.5	18.0	24.5	23.5	16.4	13.4	23.0	18.4	9.9	23.0
7.4	19.0	18.5	23.8	24.0	15.6	13.9	6.5	16.7	12.2	23.9
7.5	23.2	19.3	30.4	24.8	16.5	14.7	0.0	15.7	44.3	24.8
7.6	25.4	20.0	31.8	25.5	20.1	15.5	32.5	19.3	36.4	29.6
8.1	23.2	20.3	28.5	25.8	18.0	15.7	25.0	17.3	19.2	24.5
8.2	20.5	20.1	24.4	25.4	17.4	15.6	55.5	21.0	13.1	23.8
8.3	20.4	19.7	26.1	24.9	16.4	15.4	2.5	24.4	29.2	22.4
8.4	24.0	19.3	28.5	24.5	20.0	14.9	17.0	24.9	22.7	22.5
8.5	26.5	18.9	33.3	24.3	21.3	14.3	21.0	23.0	46.5	23.5
8.6	22.6	18.5	26.7	23.9	18.8	13.8	11.0	25.4	37.6	28.8
9.1	22.7	17.9	28.3	23.4	18.3	13.1	44.0	22.2	21.4	23.5
9.2	19.2	17.1	24.7	22.6	14.0	12.2	16.5	23.4	25.3	23.5
9.3	21.1	16.0	25.8	21.6	17.3	11.0	55.5	22.0	19.0	23.7
9.4	18.8	14.7	24.5	20.5	13.9	9.5	42.5	19.7	21.0	24.4
9.5	14.3	13.5	20.4	19.4	8.7	8.1	10.5	19.0	32.1	25.1
9.6	15.5	12.5	21.6	18.5	10.4	7.1	26.0	18.2	25.7	25.5
10.1	13.4	11.5	19.3	17.6	8.6	6.0	18.0	16.7	21.2	25.2
10.2	9.8	10.3	14.8	16.5	5.9	4.7	29.5	14.8	21.5	24.7
10.3	10.9	9.0	19.3	15.4	4.1	3.4	0.0	12.1	44.6	25.1
10.4	9.5	7.9	15.5	14.3	3.7	2.2	25.5	9.8	17.2	25.5
10.5	6.7	6.9	13.9	13.3	0.6	1.3	0.0	9.0	32.5	25.1
10.6	8.6	6.0	13.4	12.2	4.8	0.4	7.0	10.3	30.1	28.6

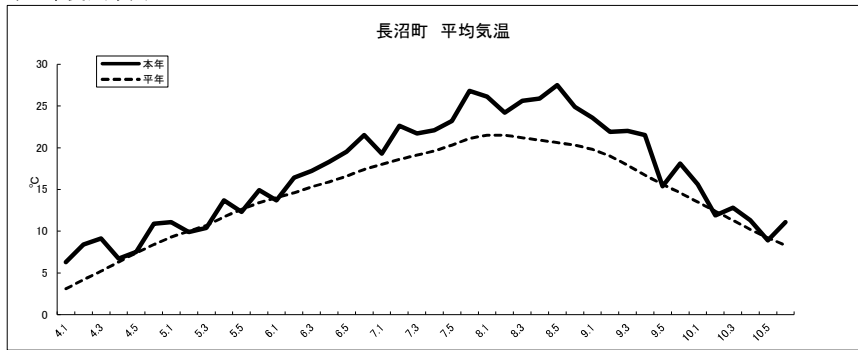
置戸町境野のアメダスデータによる。平年値は1991～2020年の平均

滝川市(花・野菜技術センター)

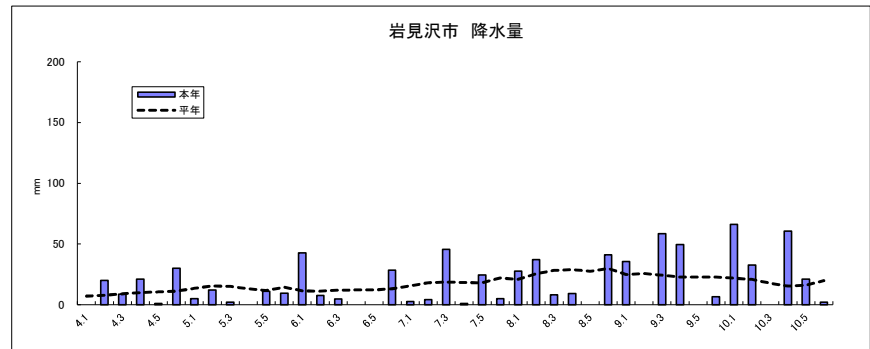
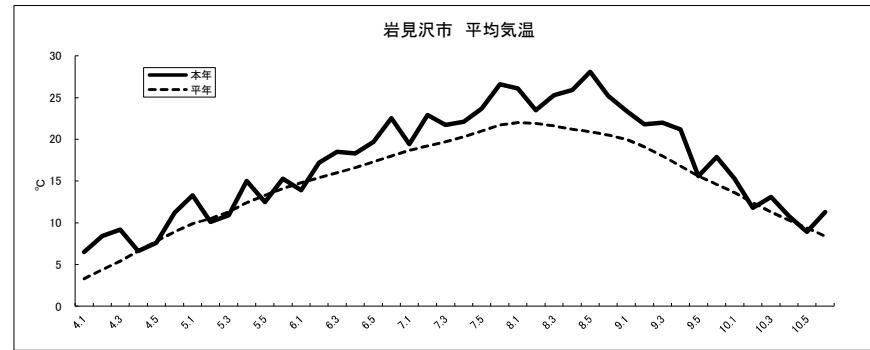
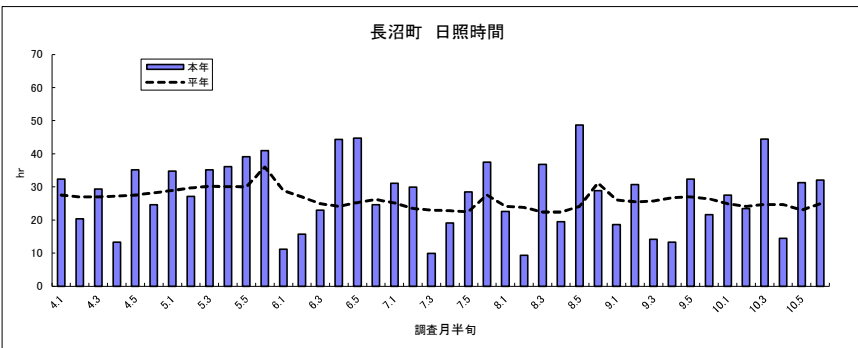
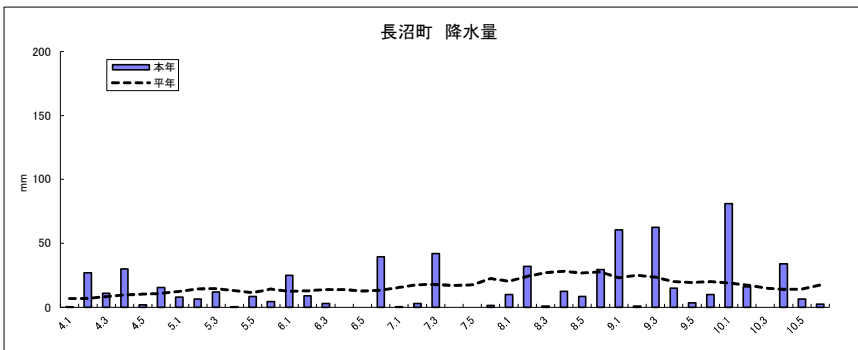
月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	5.5	2.0	12.0	6.4	-0.7	-2.5	0.0	6.9	34.0	26.5
4.2	7.4	3.1	11.7	7.8	2.9	-1.6	33.0	7.9	16.2	27.0
4.3	7.7	4.3	13.4	9.3	1.3	-0.5	12.0	8.8	27.7	27.5
4.4	5.8	5.6	9.8	11.0	2.1	0.5	37.0	9.6	16.6	27.5
4.5	6.7	6.9	10.8	12.6	2.3	1.4	1.5	10.6	23.2	27.7
4.6	10.4	8.2	14.9	14.0	6.6	2.5	45.5	12.3	16.4	28.3
5.1	12.3	9.2	18.8	15.1	5.6	3.5	4.0	14.1	34.2	29.1
5.2	9.2	10.0	15.0	15.9	3.6	4.4	12.5	14.1	28.6	30.0
5.3	10.7	10.8	17.0	16.7	4.4	5.4	1.0	12.0	38.8	30.6
5.4	15.2	12.0	23.1	18.0	10.3	6.7	3.5	10.1	44.3	31.0
5.5	11.6	13.1	18.3	19.1	6.3	7.8	21.0	9.7	35.4	31.4
5.6	14.8	13.9	20.9	20.1	9.2	8.7	2.5	12.8	41.5	38.9
6.1	13.7	14.6	18.9	20.6	7.9	9.6	30.0	10.6	16.2	31.8
6.2	17.5	15.3	23.1	21.1	12.8	10.5	1.0	10.5	19.6	29.5
6.3	18.8	15.9	24.2	21.6	15.0	11.4	2.0	11.0	31.2	27.3
6.4	17.5	16.5	23.5	22.1	12.4	12.1	0.0	11.0	34.4	26.7
6.5	19.8	17.2	27.6	22.9	12.8	12.8	0.0	11.2	48.0	28.0
6.6	22.3	18.0	28.8	23.6	17.1	13.5	61.0	12.2	27.3	29.0
7.1	19.1	18.6	24.4	24.2	15.0	14.3	1.0	14.7	27.2	28.3
7.2	22.6	19.1	28.6	24.5	18.5	15.0	4.5	18.6	28.3	27.2
7.3	21.4	19.6	25.4	24.9	18.9	15.6	24.5	21.2	8.5	26.7
7.4	21.8	20.1	27.2	25.4	18.6	16.1	3.5	20.8	15.9	27.0
7.5	23.4	20.8	28.6	26.1	19.7	16.9	4.5	21.2	28.6	26.1
7.6	25.9	21.4	31.3	26.6	21.8	17.6	1.5	26.9	25.2	30.2
8.1	24.6	21.6	29.6	26.8	20.9	17.7	28.0	22.7	21.8	26.1
8.2	22.7	21.4	27.4	26.6	19.3	17.5	61.5	24.2	11.5	26.3
8.3	24.2	21.1	30.6	26.2	19.7	17.1	0.0	26.3	45.2	24.9
8.4	25.2	20.6	30.4	25.7	21.2	16.5	12.0	28.2	23.3	24.8
8.5	27.8	20.1	34.6	25.4	23.5	15.9	3.5	27.8	47.0	25.8
8.6	24.2	19.7	29.2	25.1	20.4	15.2	9.5	30.8	20.9	31.8
9.1	22.8	19.0	27.8	24.5	18.5	14.5	29.5	26.9	22.6	26.0
9.2	21.0	18.1	27.1	23.6	15.4	13.5	13.0	27.3	41.9	25.3
9.3	21.0	16.9	25.5	22.5	17.8	12.2	49.5	25.0	14.6	25.0
9.4	19.9	15.7	25.2	21.4	14.5	10.7	63.5	23.6	15.5	25.5
9.5	14.3	14.5	21.3	20.3	8.3	9.4	2.5	23.8	32.8	25.5
9.6	17.0	13.5	22.8	19.3	12.3	8.5	3.5	24.0	24.4	24.9
10.1	14.1	12.5	19.0	18.1	10.3	7.5	54.5	23.7	20.0	23.4
10.2	10.9	11.3	17.2	16.9	5.5	6.3	13.0	22.0	24.2	22.2
10.3	11.7	10.2	19.8	15.6	4.8	5.1	0.0	19.5	41.4	22.0
10.4	9.8	9.0	13.7	14.5	6.0	4.0	51.0	18.7	12.6	21.6
10.5	7.9	8.1	13.4	13.4	3.2	3.3	22.0	20.5	25.9	19.8
10.6	9.9	7.2	15.5	12.1	5.7	2.6	11.0	26.8	23.7	20.3

滝川のアメダスデータによる. 平年値は1991～2020年の平均

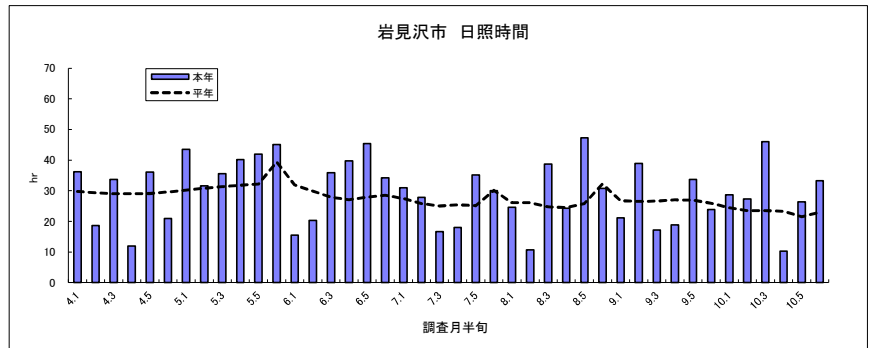
1. 令和5年度気象図

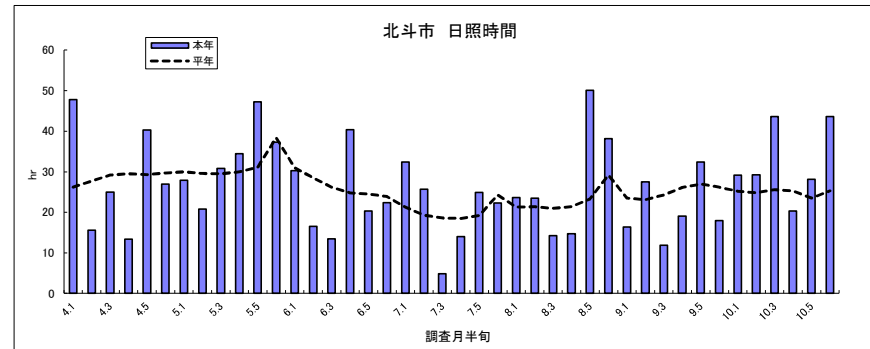
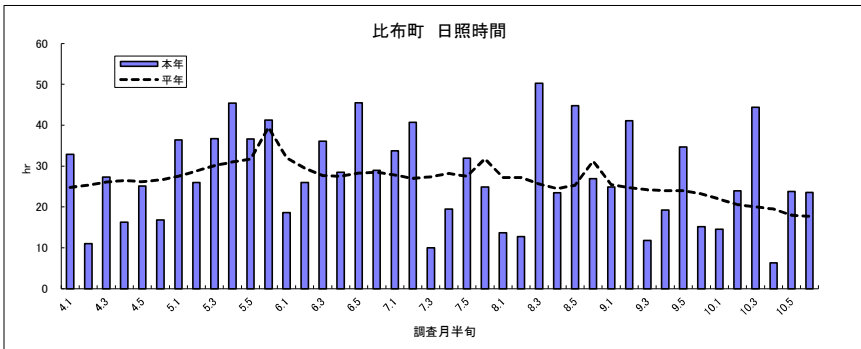
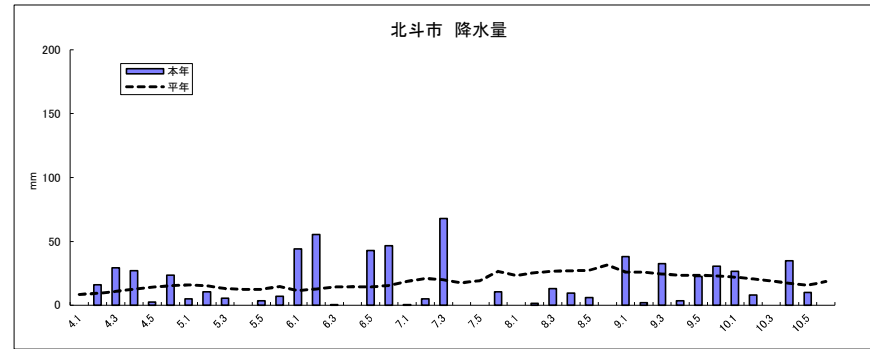
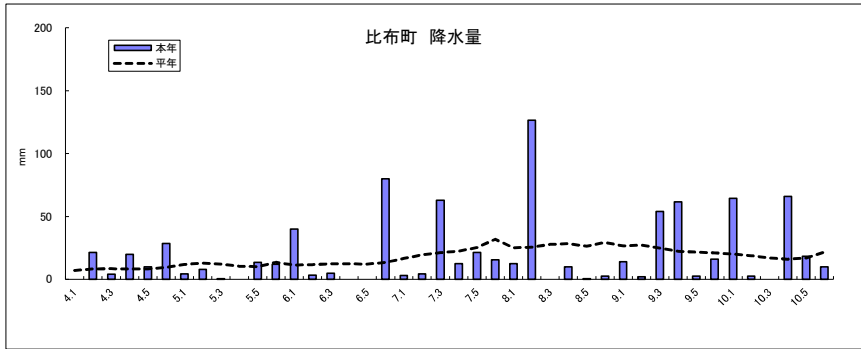
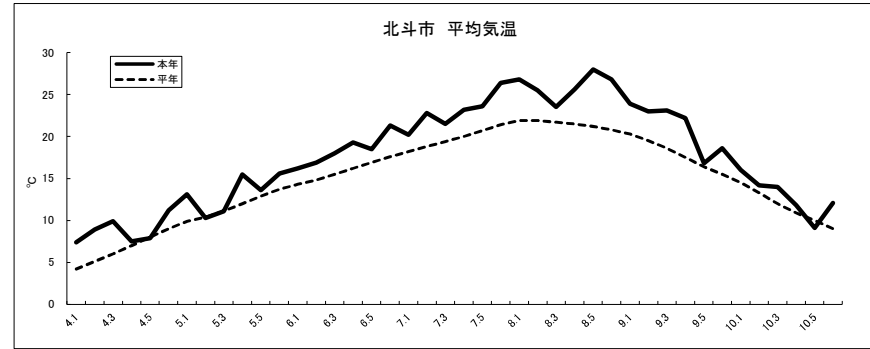
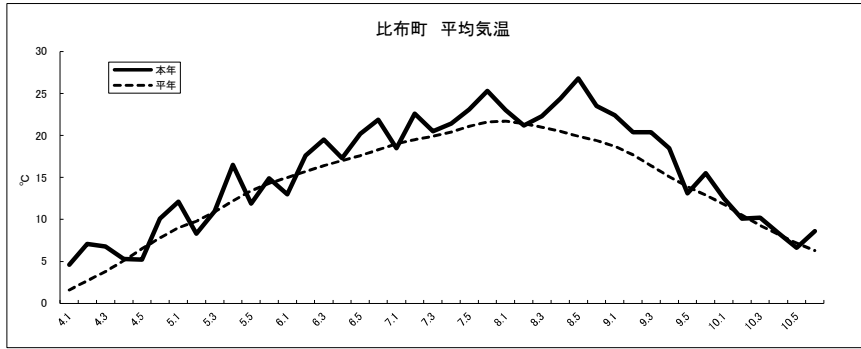


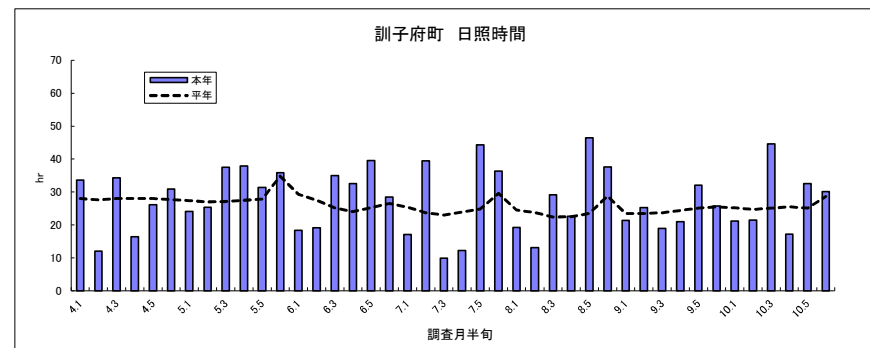
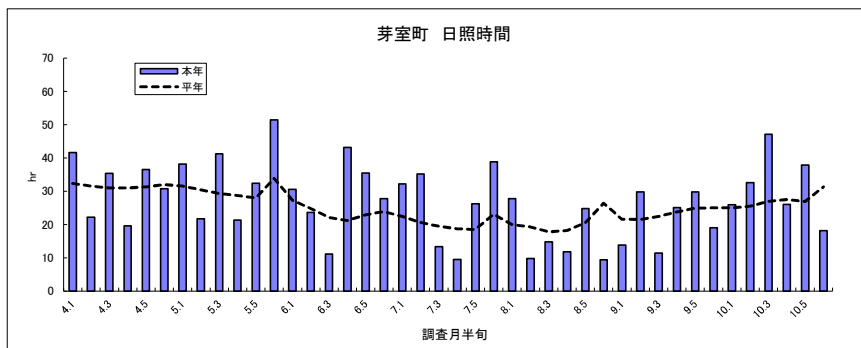
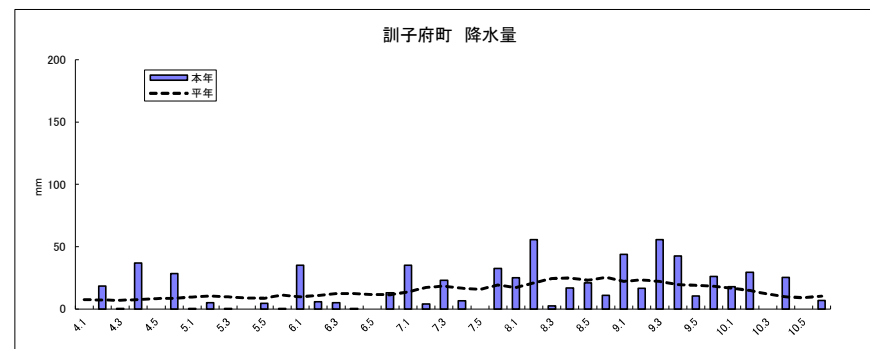
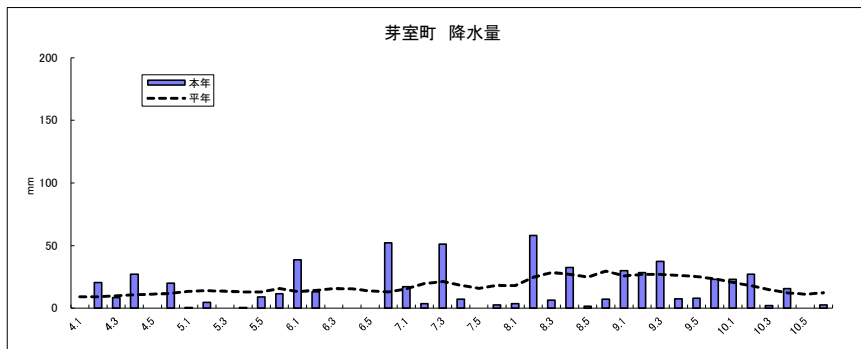
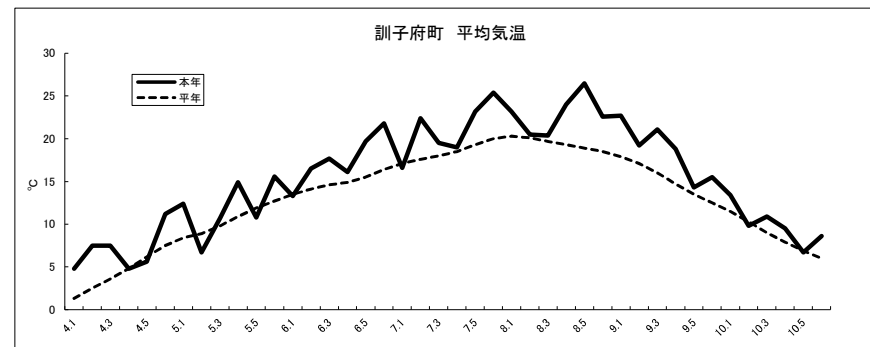
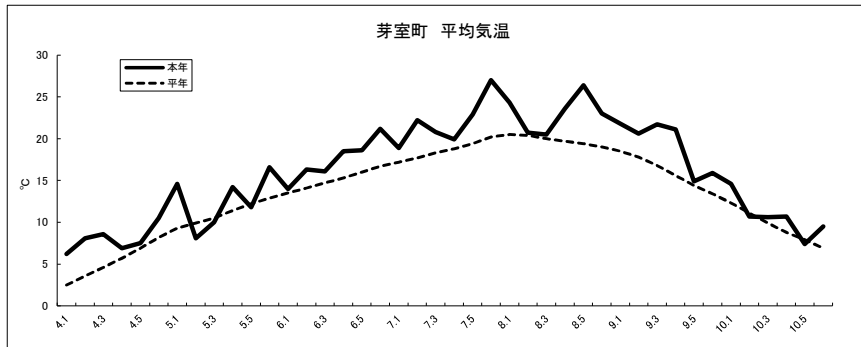
5月1、2半旬及び8月5半旬はアメダス欠測のため、岩見沢のデータで代用

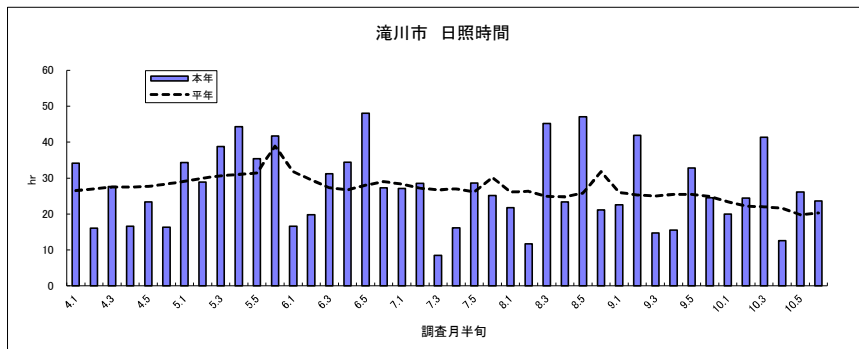
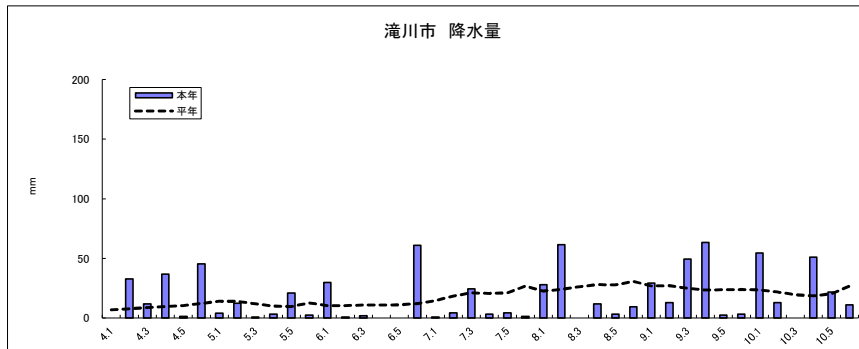
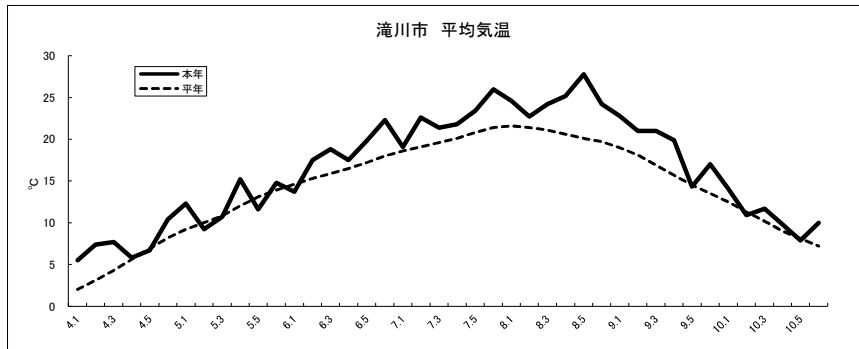


5月3半旬はアメダス欠測のため、栗沢のデータで代用









## Ⅱ 作物生育概況

令和5年の農作物の作柄（営農改善指導基本方針より抜粋）

### （1）水稻

各地の根雪終日（平年対比）は、旭川3月23日（早15日）、岩見沢3月28日（早9日）、函館3月6日（早4日）と平年より早かった。融雪後のほ場の乾きも進み、耕起盛期は平年よりやや早い4月29日（早3日）となった。

は種作業は平年並に行われ、出芽期も平年並の4月25日（±0日）となった。苗質は、平年並の生育を確保した。

移植作業は、移植始5月17日（早1日）、移植期5月21日（早1日）、移植終5月27日（±0日）となり、活着期は5月27日（±0日）だった。6月上旬は日照不足気味であったが、生育への影響は小さく、分けつ始は平年並の6月4日（±0日）で、6月15日現在の茎数は233本/m<sup>2</sup>（平年比98%）と平年並を確保した。6月中旬からは多照で推移したこともあり、分けつ発生が旺盛となり、7月1日現在の茎数は609本/m<sup>2</sup>（平年比112%）と多くなった。

幼穂形成期は、6月27日（+3日）と平年よりやや早かった。前歴期間（6月6半旬～7月2半旬頃）及び冷害危険期（7月2半旬～4半旬頃）の気温は平年以上だったことから、稔実への影響はなかった。

7月中旬は曇雨天日が多かったが、総じて高温だったため生育は進み、出穂期は7月23日（+4日）とやや早かった。また、幼穂形成期前に確保した分けつが主であったことから、穂揃い性は良好となった。

出穂後は8月中旬の台風7号の本道接近により各地で倒伏が発生し、その後も風雨の度に倒伏面積が拡大した。

8月中旬以降も記録的な高温で推移したため、登熟は進み、成熟期は9月3日（早10日）と早かった。収穫作業も早く、収穫始は9月7日（早10日）、収穫期は9月17日（早8日）、収穫終は9月27日（早7日）となった。

成熟期における稈長は、全道平均では72.6cm（平年比01%）、穂長は17.1cm（平年比102%）、穂数は591本/m<sup>2</sup>（平年比100%）といずれも平年並で、稔実歩合も平年並だったが、一穂粒数は平年よりやや少なく、m<sup>2</sup>当たり稔実粒数は平年並からやや少なくなった。

育苗期間に発生する病害は、ばか苗病で平年よりやや少なく、苗立枯病で平年並、種子伝染性細菌病で平年より少ない発生量となった。

いもち病は、6月下旬、7月中旬に全道各地に感染好適条件が出現し、その後、葉いもちが発生し、一部地域で穂いもちによる被害も確認された。また、紋枯病（疑似紋枯症含む）の初発期は平年よりやや早かった。発生量は多く、病斑が止葉葉鞘まで見られたほ場もあった。一部で節いもち、紋枯病が要因で、倒伏したほ場があった。

アカヒゲホソミドリカスミカメは初発期は早かったが、発生量は平年並で斑点米による被害は少なかった。イネドロオイムシ、フタオビコヤガは、初発期は平年並で、発生量は少なかった。ヒメトビウンカは初発期がやや早く、発生量はやや少なかった。

### （2）小麦

#### 1）秋まき小麦

令和4年秋のは種期は9月21日（遅1日）で、出芽は良好であった。

令和5年3月の気温は平年より高く経過したため融雪が早まり、起生期は3月29日（早5日）であった。4月も気温は概ね平年より高く経過したが、5月は平均気温が平年を下回る時期もあり、幼穂形成期は4月27日（早5日）、止葉期は5月22日（早4日）、出穂期は6月1日（早3日）となった。出穂後の低温により開花が遅れた地域もあった。6～7月の著しい高温と6月3～5半旬の少雨により登熟は早まり、成熟期は7月15日（早6日）となった。

出穂期から成熟期までの登熟期間は44日で、平年より3日短かった。収穫は7月19日（早5日）に始まり、収穫期は7月22日（早6日）、収穫終は7月25日（早7日）となった。

成熟期の穂数は平年並（平年比100%）であったが、穂数過多のほ場も見られた。稈長は平年並（同99%）、穂長は平年並（同102%）となった。

収量面では、全道平均で平年を上回った（北海道農林水産統計ダイジェスト公表の10a 当たり収量は平年比111%）。ただし、地域間差、ほ場間差が大きく、十勝地方は平年を上回った。一方で、赤さび病、眼紋病や穂数過多による倒伏、登熟期間中の高温等により子実が充実不足となり、製品歩留が低下した地域もあった。また、穂数過多のほ場では倒伏に至らなくても細麦傾向となった。品質面では、タンパク質含有率、容積重等は基準値内が見込まれるが、平年よりもタンパク質含有率が低く、容積重が軽い地域もあった。

雪腐病は平年より少なく、菌種別では紅色雪腐病または雪腐褐色小粒菌核病の割合が高い地域が多かった。赤さび病は平年より多く、「ゆめちから」（抵抗性“強”）でも止葉まで病斑が進展した地域もあった。赤かび病は平年よりやや少なく、うどんこ病は平年並であった。眼紋病は平年よりやや多かった。コムギなまぐさ黒穂病の発生

面積は、平成 28 年と比較して大幅に減ったものの、昨年よりも増加した地域もあった。一部地域では立枯病が散見され、道東地域を中心にコムギ縞萎縮病の発生が目立った。

### (3) 豆類

#### 1) 大豆

は種期は 5 月 19 日（早 2 日）、出芽期は 5 月 31 日（早 2 日）と平年並で、出芽は良好であった。6 月後半の高温・多照により、草丈・葉数は平年を上回る生育で経過し、開花期は 7 月 13 日（早 6 日）となった。

7～8 月の高温により登熟が早まり、成熟期は 9 月 17 日（早 8 日）となった。平年と比べて、草丈はやや長く、葉数は平年並、着莢数はやや多かった。

収穫始は 10 月 8 日（±0 日）と平年並であったが、葉落ちが不良で茎水分の低下が遅延したため、収穫作業が停滞し、収穫終は 11 月 3 日（遅 5 日）となった。しわ粒や腐敗粒、しみ状に着色した粒の発生により、品質はやや不良と見込まれる。

各病害虫の発生量は平年と比べて、わい化病・マメシクイガでやや少なく、べと病・食葉性鱗翅目幼虫・タネバエでは平年並であった。

#### 2) 小豆

は種期は 5 月 21 日（早 1 日）、出芽期は 6 月 3 日（早 1 日）と平年並で、出芽は良好であった。

6 月中旬～7 月上旬の高温により、草丈・葉数は平年を上回る生育で経過し、開花期は 7 月 19 日（早 7 日）となった。一部地域において、7 月下旬の高温・少雨の影響により中段の節で落花がみられ、下段の節で莢先熟が発生し、茎葉部が青々としているのに下段の節では収穫に適した状態となった。

7～8 月の高温により登熟が早まり、成熟期は 9 月 5 日（早 12 日）となった。平年と比べて、草丈は長く徒長傾向で、葉数はやや多く、着莢数は平年並であった。未熟莢が多く莢の登熟が不斉なことから、登熟はやや不良であった。

収穫始は 9 月 22 日（早 4 日）と平年より早かったが、葉落ちが不良で未熟莢が多いため、収穫作業が停滞し、収穫終は 10 月 26 日（遅 5 日）となった。小粒傾向で濃赤粒が発生していることから、品質はやや不良と見込まれる。

各病害虫の発生量は平年と比べて、菌核病は少なく、灰色かび病・茎疫病はやや少なく、落葉病は平年並、食葉性鱗翅目幼虫はやや多かった。一部地域では、8 月中旬以降にノメイガ類の幼虫による莢の食害が広範囲で発生した。

#### 3) 菜豆

は種期は 5 月 28 日（早 1 日）、出芽期は 6 月 8 日（早 2 日）と平年並で、出芽は良好であった。

6 月中旬～7 月上旬の高温により、草丈・葉数は平年を上回る生育で経過し、開花期は 7 月 9 日（早 7 日）となった。

7～8 月の高温により登熟が早まり、成熟期は 8 月 24 日（早 11 日）となった。平年と比べて、草丈はやや長く、葉数は平年並、着莢数は多かった。

収穫期は 8 月 31 日（早 15 日）と平年より早かったが、9 月上旬の断続的な降雨の影響から、収穫作業がやや停滞し、収穫終は 9 月 17 日（早 9 日）となった。臍周辺の着色不良や色流れ粒が発生していることから、品質はやや不良と見込まれる。

各病害虫の発生量は平年と比べて、菌核病・灰色かび病・黄化病はやや少なく、タネバエは平年並であった。

### (4) ばれいしょ

植付期は 5 月 1 日（早 1 日）とおおむね平年並、萌芽期は 5 月 26 日（早 2 日）と平年並だった。4 月の降水量は平年より多かったが、植え付け後の 5 月は高温少雨となり、萌芽のばらつきが少なかった。茎数は多く、茎長は長かった（6 月 1 日時点）。6 月上～中旬の気温は高く、生育は平年より早く進み、着蕾期は 6 月 13 日（早 3 日）、開花期は 6 月 26 日（早 4 日）となった。

その後も、7～8 月の気温は平年よりかなり高く、降水量、日照時間は平年並で経過し、茎葉黄変期は 8 月 11 日（早 5 日）と平年より早く進んだが、茎長はやや短く、茎数は平年並だった（8 月 15 日時点）。

収穫作業は、収穫始が 8 月 23 日（早 3 日）と平年よりやや早く、降雨による中断などもあり、収穫期は 9 月 10 日（早 3 日）、収穫終は 10 月 4 日（早 2 日）と平年並だった。1 株当たりの上いも数（20 g 以上）は、全道平均で 11.9 個（平年比 109%）とやや多く、上いも 1 個重は全道平均で 97.0 g（平年比 103%）と平年並だった。規格内収量は平年より多かった。一部ではそうか病や腐敗、緑化により規格内収量が低下した地域がある。でんぷん価は平年並だったが、8 月以降の高温に伴う早期の茎葉枯凋により平年より低くなった地域も見られた。

各種病害虫の発生量は平年と比べて、疫病・塊茎腐敗・粉状そうか病はやや少なく、黒あし病は平年並、軟腐病・そうか病は多かった。そうか病、粉状そうか病、軟腐病、塊茎腐敗による被害が一部地域で見られた。アブラムシの発生量は少なかった。

## (5) てんさい

移植栽培のは種期は3月10日(±0日)、出芽期は3月17日(±0日)と平年並であった。移植作業は、順調に進み、移植始4月25日(早1日)、移植終5月8日(早2日)と平年並であった。活着は問題なく、その後、高温で経過したものの生育は順調に推移した。草丈、葉数、根周は平年を上回ったが8月以降は、断続的な降雨で一部は場が過湿状態となり根部の肥大が緩慢になった(根周の平年比:8月1日現在110%、9月1日現在108%、10月1日現在105%)。

直播栽培のは種作業は4月上旬の天候不順によりスタートが遅れたが、その後の天候回復に伴い遅れを取り戻し、は種始4月22日(遅2日)、は種期4月26日(早1日)、は種終5月3日(±0日)となった。出芽は「やや良」であった。本年は、強風による種子の飛散や植物体の損傷が少なかった。6月中旬以降は高温で経過したことで順調に生育し、平年を上回った。8月以降は、断続的な降雨で一部は場が過湿状態となり根部の肥大が緩慢になった(根周の平年比:8月1日現在109%、9月1日現在107%、10月1日現在104%)。

収穫作業は収穫始10月8日(早4日)と平年より早かったが、収穫期10月25日(早1日)、収穫終11月5日(±0日)は平年並だった。

移植栽培、直播栽培ともに、収量はほぼ平年並と見込まれるが、根中糖度は高温および褐斑病の影響を受け、糖分取引制度移行後で最も低水準の13.7%となった。

各種病害虫は、褐斑病の発生時期は早く、発生量は多かった。初発時期が早かった地域を中心に著しい被害に至るほ場が認められ、被害面積率は平年を上回った。根腐病・黒根病の発生量は平年より少なかった。そう根病は平年並、黄化病は平年より少なかった。

ヨトウガは第1回、第2回ともに発生量はやや多く、テンサイモグリハナバエは平年並であった。

## (6) 露地野菜(トンネルを含む)

### 1) たまねぎ

は種作業は、2月15日(早2日)から始まった。出芽期は3月9日(早2日)となり、育苗期間中の生育は概ね順調に推移した。

移植作業は一部の地域で遅れが見られたが、移植始は4月19日(早2日)、移植期は4月26日(早1日)、移植終は5月6日(早1日)で、概ね順調に進んだ。

移植後の生育は、5月4半旬まで降雨が少なかったが、その後の周期的な降雨と高温多照により、球肥大期前後まで草丈、葉数、葉鞘径が平年並で推移した。7~8月にかけては気温がかなり高く、平年より早く枯葉となった。

球肥大始は7月2日(早2日)、球肥大期は7月6日(早3日)、倒伏期は7月25日(早4日)、枯葉期は8月14日(早5日)となった。

根切り作業は平年より早く進み、根切り期は8月17日(早6日)となった。

収穫作業は、一部で降雨の影響があったが、枯葉が早く進んだことによって、収穫始は8月3日(早7日)、収穫期は8月28日(早6日)、収穫終は9月14日(早6日)となった。球径は7.7cm(平年比98%)で平年並となった。

全体としては概ね平年並の収量であるが、主に中生以降の品種で7~8月の高温の影響から、小玉傾向であった。また、一部で日焼け球や腐敗球が発生した。

白斑葉枯病の初発は平年よりやや遅く、発生量は少なかった。軟腐病の発生量はやや多かった。乾腐病の発生量は少なかった。タマネギバエ・タネバエの発生量はやや多かった。ネギアザミウマの初発は平年よりやや早く、発生量はやや多かった。ネギハモグリバエの初発は平年並で、発生量はやや少なかった。

### 2) 根菜類

だいこん:春まきハウス作型の収穫作業はおおむね平年並に始まった。やや短根傾向であったが形状、品質は良好であった。

春まきトンネル作型のは種作業は3月上旬から始まり、順調に進んだ。その後は生育日数がやや長かったものの、は種が早かったため収穫作業は平年より早い5月中旬から始まった。一部でやや過剰な根部肥大が見られた。

春まき作型は好天によりは種作業、初期生育とも概ね順調に進んだ。高温により例年と比べ1週間程度、生育が早まった。一部でやや過剰な根部肥大、形状不良、横しま症等が見られた。

初夏まき作型、夏まき作型、晩夏まき作型のは種作業は、概ね順調に進んだ。気温が高く、生育は前進傾向で根部肥大は旺盛だったが、逆に高夜温により根部肥大が緩慢となった地域や時期もあった。収穫作業は順調に進んだが、腐敗、横縞症、赤しん症、虫害等により製品歩留まりが低下し、出荷量は減少した。

軟腐病の発生は平年よりやや多かった。キスジトビハムシによる被害は平年より多かった。

にんじん:春まきトンネル作型(道南)では、は種作業は3月上旬から始まり順調に進んだ。その後の生育も順

調に進み、収穫は6月中旬から始まった。6月下旬以降は降雨の影響による品質低下（しみ症状等）が一部で見られた。

春まき作型のは種作業は、一部の地域で断続的な降雨により作業が遅れたが、その他は順調に進んだ。出芽は一部で土壌表面のクラスト発生により、ばらつきが見られた。茎葉の生育は概ね順調に進んだ。収穫作業は7月下旬に始まった。高温や一時的な多雨により、腐敗やしみ症状が発生し、製品歩留まりが低下した。

晩春まき作型、初夏まき作型のは種作業は順調に進んだ。初夏まき作型の一部で、高温や土壌表面のクラストにより出芽がやや不良となった。茎葉の生育は概ね順調であったが、高温により根部肥大が緩慢となった。また、徒長と倒伏により斑点病の発生などが一部で見られた。収穫作業は概ね順調に進んだが、裂根、曲根、青首、しみ症状、腐敗等により、主に晩春まき作型で選果歩留まりが低下した時期があった。

黒葉枯病は平年よりやや多かった。軟腐病は平年よりやや多かった。

ごぼう：春まき作型、晩春まき作型のは種作業は順調に進んだ。

春まき作型は、一時的な低温の影響や土壌表面のクラスト発生により、出芽の遅れやばらつきが見られた。気温の上昇後は生育が回復し、根部の肥大も順調であった。収穫作業は8月下旬から始まり、収量は平年並～やや多く、品質は概ね良好であった。

晩春まき作型は、生育、根部の肥大とも順調に進んだ。収穫作業は概ね順調だったが、一部で降雨の影響により停滞した。収量は平年よりやや多く、品質は概ね良好であった。

ヤケ症の発生はやや少なかった。

ながいも：春掘りの収穫作業は順調に進んだ。土壌凍結による凍害の発生はほとんどなかった。前年の生育が影響し、奇形がやや多かった。

催芽は順調に進み、植付作業も好天に恵まれ順調に進んだ。萌芽は一部で5月に少雨となった影響から緩慢となったが、その他は概ね順調であった。

萌芽後は高温により茎葉の生育がかなり旺盛となった。一部でまとまった降雨によるトレンチャー溝の陥没が散見された。新しいもの肥大は早く、特にいも長が長い傾向であった。乾物率は低めに経過した。

茎葉黄変は平年より遅く進み、収穫作業は平年並に始まった。収量は平年よりやや多く、乾物率は平年よりやや低かった。なお、いも長が長く、乾物率が低い傾向にあるため、収穫作業時の折損が例年よりやや多く発生した。

また、一部で奇形の発生が見られたが、前年より少なかった。

根腐病、褐色腐敗病が一部で見られた。

### 3) 葉茎菜類

春まき作型は、育苗、定植作業とも計画どおり進み、定植後の活着及び生育はおおむね良好であった。6月どりの収量は平年並となった。

7、8月どりは、気温が高く推移して生育が進み、収穫作業は平年より早い開始となった。7～8月の高温により、生理障害や病害の発生により収量・品質は平年を下回った。

9、10月どりでは、定植作業は計画どおり進んだが、7月下旬以降の高温により活着不良や初期生育の遅れが見られた。その後も気温が高く、生育は前進した。生理障害や病害によって歩留まりが低下し、収量は一部の品目を除き、平年をやや下回った。

ねぎ：露地作型の定植作業は、平年並に進んだ。生育は順調に推移したが、5月定植では、5月中旬の少雨により初期生育が緩慢となった地域があった。

主産地の道南、道央地帯では7～8月の高温・少雨により生育が遅れ、葉鞘肥大が緩慢となった。収穫作業は順調に進んだが、肥大が緩慢なため出荷規格に達するまでの生育日数が長くなり、計画的な出荷に支障をきたした地域もあった。また、8～9月の高温期出荷を中心に葉の黄変が見られ、収量・品質とも平年を下回った。

べと病は平年より早く発生し、7月にやや多く見られた。葉枯病の発生も平年より早く、8～9月にやや多く見られた。また、一部の地域では萎凋病の被害が9月以降に多く見られた。アザミウマ類は7月から発生し、8～9月にやや多く見られた。

はくさい：春～夏まき作型（7～10月どり）の育苗・定植作業は計画どおり進み、定植後の活着及び生育はおおむね良好であった。

春まき作型の生育は、平年より早く進み、収穫作業も早く始まった。球肥大は順調に進んだが、一部の地域で芯腐れや縁腐れなどの生理障害が見られた。収量は、平年並～やや下回った。

夏まき作型は、8月中～下旬の高温・少雨により緩慢な生育となったが、球肥大はおおむね順調に進んだ。主

産地の一部では、結球不良により歩留まりが低下した。総体の収量は、平年をやや下回った。

8～9月収穫では、軟腐病の発生が多く見られた。

キャベツ：春まき作型（6・7月どり）の定植作業は、計画どおりに進み、定植後の活着及び生育は良好であった。気温が平年より高く経過し、出荷は平年より早い開始となった。一部で縁腐れの発生が見られた地域があったものの、収量は平年並であった。

晩春まき作型（8・9月どり）の定植作業は、計画どおりに進み、定植後の気温が高く経過し、生育は前進傾向となった。高温の影響により小玉傾向となり、縁腐れが発生し歩留まりが低下した。収量・品質は平年を下回った。

初夏まき作型（10～11月どり）の定植作業は、計画どおり進んだが、定植後の高温・少雨により苗傷みが見られ、再定植を行う地域もあった。その後も高温で推移し、生育は前進傾向となった。裂球が見られた地域はあったが、収量は平年並であった。

晩春まき～初夏まき作型は、8～9月に軟腐病の被害が見られ、一部の地域では株腐病の被害が多く見られた。8月以降はコナガの食害が見られたものの、発生量はやや少なかった。

レタス：春夏まき作型（7・8月どり）のは種、定植作業は計画どおり行われ、定植後の活着及び生育は良好であった。一部の地域では、6～7月にかけての少雨により葉先枯れが見られた。球肥大はおおむね順調で、収穫作業も計画どおり進んだ。高温の影響により、一部で乳管破裂が発生したが、他に目立った生理障害は見られなかった。

夏まき作型（9・10月どり）の定植作業は計画どおり進んだが、その後の高温・少雨により活着不良や葉先枯れが見られた。また、9月どりでは抽苔の発生がやや多く見られた。

全体の収量は、平年並であった。

8～9月に一部で軟腐病の発生が見られたが、その他に目立った発生はなかった。

ブロッコリー：春まきべたがけ作型は、育苗中の生育は良好で、定植作業は順調に進んだ。

一部の地域では、定植後の降霜や5～6月の少雨により、生育は一時停滞したが、平年より早い5月下旬からの収穫となった。収量・品質は平年並であった。

春～晩春まき作型（7～8月どり）の育苗及び定植作業は、計画どおりに進んだ。活着は良好で、生育も順調に経過した。7月どりでは、高温・少雨により、不整形花蕾、キャッツアイ、空洞症などの生理障害の発生が見られた。8月どりは、定植後の少雨や日照不足により初期生育が緩慢であった。

高温のため生育は前進傾向となり、花蕾は小さく、不整形花蕾、リーフィーなどの生理障害や病害の発生が多く見られた。

初夏まき作型（9～10月どり）の育苗及び定植作業は、計画どおり進んだ。

7月下旬以降の高温により、活着不良や初期生育の遅れが見られた。その後も高温の影響を強く受け、不整形花蕾や各種病害の発生が9月中旬まで多く見られた。10月は、気温の低下により花蕾の形成遅れやアントシアニンの発生が見られた。

収量・品質は、7月中旬までは平年並であったが、その後9月上旬まで廃耕となるほ場が散見され、平年を下回った。秋季も花蕾肥大が緩慢となり、収量は回復しなかった。

春まきべたがけ作型では、目立った発生はなかった。

春～晩夏まき作型では、7月中～9月中旬まで黒すす病が多発したほか、花蕾腐敗病、軟腐病の被害が平年より多く見られた。また、一部の地域では根こぶ病の被害が多く見られた。7月中～9月中旬にかけてコナガなどの鱗翅目害虫が発生したが、大きな被害はなかった。

アスパラガス：露地作型の萌芽、出荷開始は平年並であったが、4月の日照時間が少なかった地域では、萌芽や若茎の伸長がやや遅れ、出荷開始はやや遅くなった。

その後は、6月上旬の曇天により若茎の伸びが緩慢となった。出荷規格・収量は地域差が大きく、L中心で平年以上の収量を確保した地域があった一方、M中心で平年を下回った地域があった。

収穫打ち切りは、平年並の6月末となった。その後の生育は順調に進み、茎葉繁茂は平年並で、強風による影響もなく倒伏は少なかった。

8月以降に斑点病の発生が見られた。害虫では、ジュウシホシクビナガハムシの被害が散見された。また、一部の地域では7月以降にツマグロアオカスミカメの発生が見られた。

#### 4) 果菜類

トンネル作型の定植作業は平年並～早く、活着及びその後の生育は順調に進んだ。着果及び果実肥大とも良好

であったが、7、8月収穫では内部品質の充実が緩慢となった。

露地作型のは種作業は平年並で、出芽はおおむね良好であった。気温が高く推移して生育は前進傾向となり、収穫作業は平年よりも早く始まった。7、8月の高温・多照の影響により生理障害が発生し、一部で廃耕となったほ場があった。また、病害や腐敗が平年より多く発生した地域があった。収量は、一部の品目を除き平年並～やや下回った。

メロン：トンネル早熟作型の定植作業は平年並で、7月下旬収穫作型は5月上旬、8月下旬収穫作型は6月上旬であった。活着は良好で、生育も順調に進んだ。

開花期、着果、収穫時期は平年並であった。7月下旬収穫作型では、6月上旬の天候不順により、一部で着果のばらつきが見られたが、果実の肥大は良好であった。7、8月収穫では、高夜温の影響により糖度上昇が緩慢となった。

病害虫の目立った発生はなかった。

すいか：トンネル早熟作型の定植作業は、平年並の4月下旬となり、活着及びその後の生育は順調に進んだ。開花期は平年並で、着果及び果実肥大は順調に進んだ。収穫期は平年よりやや早かった。果実肥大は平年並であったが、高夜温の影響により糖度上昇が緩慢となった。

病害虫の目立った発生はなかった。

かぼちゃ：トンネル早熟作型の定植は、平年並の5月中旬で作業も順調に進んだ。その後の生育も順調に進み、着果は良好であった。定植後からの気温が高く成熟が進み、収穫作業は平年よりやや早い開始となった。収量・品質は平年並であった。

露地作型のは種作業は、各地域で平年並の開始となり、育苗中の生育は順調であった。定植作業は平年よりやや早く始まったが、6月上旬の降雨によりやや遅れた地域もあった。その後は気温の上昇に伴い生育は回復した。収穫作業は平年より早く始まり、順調に進んだ。果実肥大は地域差が見られ、大玉傾向だった一部の地域を除き、全般にやや小玉となった。8～9月どりでは、高温・多照の影響により日焼け果の発生が多く見られた。全体の収量は、平年並～やや下回った。

7、8月は全道各地で果実斑点細菌病の発生が見られた。また、7月下旬からうどんこ病が発生した。また、疫病、つる枯れ病の発生が平年より多く見られた。

アブラムシ類は、一部の地域で8月に発生が見られた。

スイートコーン：露地作型のは種作業は、主産地では平年並の開始となった。出芽はおおむね良好であったが、4月下旬の降霜により出芽が揃わず、生育が遅れた地域があった。その後は気温が高く経過して生育が進み、収穫作業は平年より早い開始となった。8月中～下旬の出荷では高温の影響により、先端不稔のほか、急速な登熟による過熟やしなびが発生し、一部のほ場で廃耕が見られた。収量・品質は地域差が見られ、平年並～やや下回った。

一部の地域ですず紋病の発生が見られたが、その他に目立った発生はなかった。

## (7) 施設野菜

### 1) 果菜類

促成作型は、定植作業が計画的に進み、活着、初期生育とも良好であった。5月下旬～6月上旬の低温・日照不足により生育は緩慢となり、一部で生理障害が見られた。その後の気温の上昇に伴い生育は回復し、果実肥大も良好であった。半促成作型、ハウス夏秋どり作型では、定植作業は平年並で、初期生育は良好であった。主産地では7、8月の高温・日照不足により生育が停滞し、果実は小玉傾向となり、各種生理障害も多く見られた。この傾向は9月以降も見られた。

トマト：促成作型は、定植後の活着やその後の生育は良好であった。4月の日照時間がやや少なく、平年よりやや遅い出荷開始となった。小玉傾向で軟果や黄変果が見られ、収量は平年並～やや下回った。

半促成作型（長期どりを含む）は、定植後の活着が良好で生育は順調であった。一部の地域では、5月上～中旬の一時的な低温により、果実の着色が遅れた。

ハウス夏秋どり作型では、定植作業及び初期生育はおおむね順調であった。

一部の地域では、葉先枯れやがく枯れが見られた。

半促成、ハウス夏秋どり作型とも、7～8月の高温による落花（落果）の影響で着果数が少なくなった。さらに着色が進んで収穫が前倒しとなり、9月以降の出荷量が減少した。

7～9月を中心に着色不良果（黄変果含む）や軟果、尻腐れ果、芯腐れ果、空洞果のほか、一部の地域では裂果が発生した。全体に小玉傾向となり、収量・品質は平年を下回った。

6月から灰色かび病の発生が見られた。また、7月以降にうどんこ病、アザミウマ類、8月以降にすすかび病、鱗翅目害虫（幼虫）の発生が見られた。

8月下旬に、トマトキバガの幼虫による果実への食害が道内で初めて確認された。

ミニトマト：促成作型の生育はおおむね順調で、平年並の出荷開始となった。一部の地域では、5月上～中旬の一時的な低温により果実が小玉傾向になったほか、6月下旬の高温により裂果の発生が見られたものの、収量は平年並であった。

半促成長期どり作型は、定植・整枝作業が計画どおりに進み、生育はおおむね順調であった。日照不足により果実の着色が遅れた地域もあったが、出荷開始は平年並であった。7月以降の高温により、生育や収穫作業は前倒しとなった。着果不良や日焼け果、つやなし果、グリーンバグク果が発生し、収量は平年を下回った。

ハウス夏秋どり作型の定植作業は順調で、活着も良好であった。出荷開始は平年並であった。7、8月の高温の影響により、成熟が進んで小玉傾向となり、8～9月にかけて着果不良の発生が多く見られた。収量は平年を下回った。

6月から灰色かび病、アザミウマ類、8月以降は葉かび病、斑点病、9月はうどんこ病の発生が見られた。害虫は、9月にオオタバコガの発生がやや多く見られた。

きゅうり：半促成作型の定植は、平年並の4月中～下旬に始まり、その後の好天により生育は順調に進んだ。収穫始は平年並であった。7月下旬以降は高温により草勢が低下し、不整形果（曲がり、先細り、尻太り）の発生が見られた。また、一部の地域では、7月下～8月上旬の天候不順により着色不足が見られた。9月以降は草勢が回復し、全体の収量は平年並であった。

ハウス抑制作型は、定植後の高温により生育は前進傾向となった。高温に伴いかん水量が多くなり、生育はやや栄養生長となったが、収穫開始は平年よりやや早かった。着果はおおむね順調で、収量は平年並であった。

半促成作型では、7月以降にべと病、ハダニ類、アブラムシ類の発生が見られた。

ハウス抑制作型は、一部の地域で9月以降にメイガ類、アブラムシ類の発生が見られた。

ピーマン：半促成作型は、定植以降の低夜温により、生育がやや緩慢となった地域があった。6月中旬以降の好天により、生育は回復傾向となったが、7、8月は着果負担により草勢が低下した。また、高温・強日射の影響により尻腐れ果や日焼け果、石果の発生が見られた。9月以降は草勢が回復し、果実肥大は良好となり、総体の収量は平年並であった。

一部の地域では、5月からアブラムシ類、アザミウマ類、8月から灰色かび病、ハダニ類、9月以降に鱗翅目害虫（幼虫）の発生が見られた。

メロン：加温半促成作型の定植は、平年並～やや早く始まった。3月下旬の定植以降、生育は順調に経過し、開花はやや早まった。着果は良好で、果実肥大、ネット形成とも良好～やや良好となり、品質もおおむね良好であった。

半促成作型の定植期は、平年並～やや早く、その後も地温が確保され生育は順調であった。一部の地域では、5月下～6月上旬の気温低下により果実肥大が緩慢となり、着果のばらつきやヒルネットの発生が見られた。全般に果実肥大は順調に進み、ネット形成もおおむね良好であったが、7月の高夜温により糖度の上昇は緩慢となった。

一部の地域では、6月にハダニ類、アブラムシ類、7～8月にうどんこ病の発生が見られた。

すいか：加温促成作型の定植は、平年並に始まった。4月以降の好天により、生育は順調に進んだ。開花はやや早まり、着果、肥大とも順調であった。収穫期は平年並となり、果実肥大、品質とも良好であった。

半促成作型の定植は、春先の好天により、平年より早く始まった。その後も生育は順調に進み、開花は平年よりやや早く、着果も良好であった。収穫期は平年より早く、果実肥大は平年並であった。

目立った病虫害の発生は無かった。

いちご：一季成り性品種の半促成作型は、おおむね順調な生育となった。開花時期は地域差が見られ、平年よりやや早い～平年並となった。収量はやや少なかった。次年度産の定植作業は計画どおりに進み、一部で高温による葉焼けが見られたが、生育はおおむね順調に経過した。

四季成り性品種の夏秋どり作型は、2月下～3月中旬の定植以降、活着は良好で、生育はおおむね順調に経過した。収穫作業は平年よりやや遅れ、6月中旬から開始となった。主産地では、8月の高温による株疲れで果実は小玉傾向となり、乱形果や先詰まり果、まだら果の発生が見られた。9月中旬以降は株疲れから徐々に回復したが、気温の低下に伴い生育は緩慢となった。

総体の収量は平年をやや下回った。

一季成り性品種では、5～6月に灰色かび病、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られた。

四季成り性品種では、6～10月にハダニ類、7月にアブラムシ類、7～10月にアザミウマ類の発生が一部で見られた。

## 2) 葉茎菜類

融雪が平年より早く、は種・定植作業は順調に進んだ。活着、初期生育とも良好で、品目によっては生理障害が見られたものの、生育はおおむね順調に経過した。6～7月どりの収量は平年並で、品質は良好であった。

しかし、7～9月は高温による発芽不良や生理障害、病害の発生が多く見られた。高温の影響は10月まで見られ、一部の品目を除き、収量・品質は平年を下回った。品目によっては、かん水量の増加や遮光資材の展張等の対策を講じたが、高温の影響を回避するには至らなかった。

ねぎ：早春まきハウス作型（7月どり）の定植作業は平年並で、活着、初期生育とも良好であった。4月の気温低下により、一部で抽苔が見られたものの、出荷量は平年並で、品質は良好であった。

簡易軟白作型（9月どり）の定植作業は平年並で、その後の生育もおおむね順調に進んだ。しかし、7、8月の高温により葉鞘の肥大は緩慢となり、やや細い傾向であった。この傾向は10月まで続いた。

早春まきハウス作型では、6～7月にべと病の発生が一部で見られた。簡易軟白作型では、目立った発生はなかった。

ほうれんそう：晩春～秋まき（雨よけ）作型は、融雪が早く、は種作業が順調に進んだ。発芽揃いは良好で、生育も順調に経過した。一部で抽苔が見られたものの、6月の出荷量は平年並で、品質はおおむね良好となった。

夏まき～晩夏まき作型は、7、8月は高温によりやや遅いは種作業となった。高温の影響は長く続き、出芽不良による生育ムラや葉先枯れが発生した。

また、生育が停滞して葉部の伸長が緩慢となり、収穫までの生育日数が長くなった。出荷量の大幅な減少は9月中旬まで続いた。その後は気温の低下に伴い生育は回復したが、総体の収量は平年を下回り、品質も低下した。

7～9月まで萎凋病が発生し、特に7、8月の高温期に多く見られた。その他に立枯病の発生が見られた。

害虫では、期間全体を通してハウレンソウケナガコナダニの発生が見られた。また、8～10月はヨトウガが発生し、9～10月にはシロオビノメイガの幼虫による被害が見られた。

アスパラガス：ハウス立茎作型(周年被覆)は、萌芽、出荷開始とも平年並であった。3月下～4月中旬の高温により生育が進み、春芽の収穫終了は平年より早まった。

春芽の収穫量は、平年並～やや少なかった。立茎は平年並の4月下旬より始まり、その後の生育は順調に推移した。

7月以降、夏芽の出荷量は徐々に増加したが、高温が続き、穂先の曲がりや、2L規格以上では一部で空洞茎が発生した。収量・品質とも平年並であった。

全期間の収量は、平年並であった。

7月以降に灰色かび病、斑点病の発生が見られた。アザミウマ類が6月以降に発生したが、被害は見られなかった。

## (8) 花き

3月の気温が高く経過したため、ほ場の乾燥は早く、春先の作業、生育は順調だった。特に、6月下旬以降から9月下旬までの高温により、生育は前倒しになり、短茎開花や品質の低下が問題となった。

病害は、高温の影響から立枯病や疫病の発生が多く、害虫は気温の高い影響からハダニ類、アザミウマ類の発生が目立った。

スターチス類：

シヌアータ：加温促成作型（3～4月中旬定植）の定植作業は3月の好天により順調に進み、活着・初期生育も順調だった。その後の生育はやや早く進んだが、4月中旬の一時的な低温の影響により平年並となった。開花・出荷時期は平年並だった。抽苔本数は平年並だった。

8月盆向け作型は、6月下旬以降の高温の影響から開花が早く、草丈が長く、枝数の多い上位規格の出荷は少なかった。抑制作型の生育も同様に早まり、短茎開花の傾向であった。抽苔本数はやや少なかった。

2番花、3番花を出荷する作型では、高温による株の傷みが見られた。

シヌアータの輸送で問題となる黄化症の発生は平年並だったが、一部で輸送中に蒸れが発生した。

シネンシス系：越年栽培の株枯れは平年並だった。萌芽は、3月の好天により融雪が早く進んだため順調だっ

た。半促成作型（5～6月定植）は、定植作業は順調で初期生育は平年並だったが、6月下旬以降の高温の影響から開花が早く、上位規格は少なかった。2番花、8月盆及び9月の彼岸向け出荷も高温の影響から開花が早く、上位規格の出荷は少なかった。抽苔本数はやや少なかった。

病害では、灰色かび病の発生は少なかった。害虫では、高温の影響からハダニ類、アザミウマ類の発生が多かった。

カーネーション：越年株は6月上旬（道南）から出荷が始まった。生育は、春の気温が高く、日照も多かったことからやや早く、草丈・品質はともに良好だった。

3～4月定植の作型や2番花については、6月下旬以降の高温の影響により生育は10～14日程度早まり、8月盆の需要期の前に出荷が集中した。

品質は、短茎傾向となり、一部で花飛び（ブラインド）や葉先枯れなどの生理障害も発生した。

病害の発生は少なかった。

害虫は、高温の影響からハダニ類、アザミウマ類の発生が見られた。また、一部で8月下旬よりオオタバコガの発生が多く、被害が見られた。

ゆり類：越年作型は、融雪が早かったこともあり、萌芽・生育とも良好で、出荷時期は平年並だった。

春植え作型は、定植作業は順調に行われ、生育は概ね順調だった。その後、6月下旬以降の高温により生育が10日程度早まり、出荷は8月盆の需要期の前に集中した。品質は、生育が進んだことにより、短茎で蕾もやや小さい傾向だった。また、奇形花、葉焼けが見られた。

彼岸の需要期向けの作型も、高温の影響により生育が10日程度早まり、彼岸の需要期の前に出荷された。品質は、生育が進んだことにより、短茎で蕾もやや小さい傾向だった。また、奇形花、シミ症の発生が見られた。

病害の発生は少なかった。害虫では、8～9月にアブラムシ類・スリップス類の発生が見られたが防除により被害は無かった。

デルフィニウム：据え置き越冬株の越年状態は良好で春の株枯れは少なかった。

エラータム系は5月下旬から出荷され、生育は概ね順調だった。6月下旬以降の高温の影響により採花本数は少なかった。一部で花落ちが発生した。

シンセンシス系（無加温）は7月中旬から出荷された。生育は概ね順調だったが、6月下旬以降の高温により、2番花・3番花は短茎開花した。生育は10～14日程度早まった。

一部で輸送中の蒸れによる花傷みが発生した。

病虫害の発生は少なかった。一部でハダニ類の発生が見られたが、防除により被害には至らなかった。

トルコギキョウ：定植作業は5月上旬から開始され、生育は順調だった。定植の終了は6月末となり、平年並の時期に終了した。定植後の気温が高く経過したため、ロゼット株の発生は前年に比べ多かった。6月下旬以降の高温の影響により生育及び開花は早まり、短茎開花となった。特に、彼岸の需要期向けの作型では、生育は20日程度早まり彼岸の需要期の前に出荷が終了した。品質は、葉先枯れ（チップバーン）、花飛び（ブラスチング、ブラインド）、葉の焼け症状などの生理障害の発生が見られた。

病害は、立枯病の発生が平年に比べやや多かった。害虫は、アザミウマ類、オオタバコガの発生が見られた。

アルストロメリア：新植株の定植作業は4月上旬～下旬に行われ、活着・生育は概ね順調だった。その後、6月下旬以降の高温により生育は14日程度早まり、平年より早い7月下旬から出荷が開始された。出荷量は平年に比べ少なかった。品質は、高温の影響から、花卉や葉の焼け症状が発生した。

2年目以降の株では春から7月上旬までの生育は概ね順調で、出荷量は平年並だった。7月中旬以降は、高温の影響から草勢が低下し、出荷量は平年に比べ少なかった。品質は、高温の影響から、花卉や葉に焼け症状が発生した。

病害は、一部ほ場で灰色かび病の発生が見られた。害虫は、コナジラミ、アブラムシ類、ハダニ類の発生が見られ、発生量は平年並だった。

きく：6月下旬以降の高温の影響により、開花は抑制された。8月盆向け作型は順調に出荷されたが、彼岸の需要期向け作型は開花抑制により出荷時期がやや遅れた。品質は、短茎傾向だった。全国的に品薄状態だったため単価は高かった。

病害の発生は少なかった。害虫は気温の高い影響からアザミウマ類の発生がやや目立ち、一部で被害が見られた。

宿根かすみそう：越冬株の株枯れは少なかった。加温作型の生育は概ね順調で、出荷は平年並の4月上旬から始まった。無加温作型の出荷も平年並の6月中旬から始まった。品質も平年並だった。

新植作型は、出荷は平年並の7月上旬から始まったが、6月下旬以降の高温の影響により、8月中旬以降は短茎開花となった。短茎のため、枝の出荷が少なく、加工用・量販への出荷に影響が見られた。

一部は場でハモグリバエの発生が見られたが、被害は少なかった。アザミウマ類の発生は平年並だった。

りんどう：3月の気温が高く、融雪が早かったことから、萌芽・生育は概ね順調で、生育は平年に比べ早かった。6月中旬は少雨傾向であったが、かん水の実施された産地では草丈は確保された。高温の影響から、出荷は平年比べ10日程度早く7月上旬から開始された。8月に入り出荷量は増加したが、高温により生育は抑制され、花色の抜ける生理障害が見られた。このため、出荷量は平年に比べ少なかった。

キタネグサレセンチュウの被害が一部で見られた。収穫終了後のほ場で葉枯病の発生が多かった。

しゃくやく：5月の少雨の影響により、草丈は若干短かったが、出荷は平年並の6月上旬から開始された。品質は、平年並だった。

害虫は、カメムシ類の発生が見られたが発生程度は平年並だった。

### (9) 果樹

りんご：発芽期は4月7日（早11日）、展葉期は4月22日（早6日）、満開期は5月15日（早6日）と平年より早くなった。花芽率は多、結実率は多、摘果期は6月29日（早2日）となった。摘果後の着果量はやや多と確保された。

果実肥大は、7月1日の体積は35.4 cm<sup>3</sup>（144%）と大きく、8月1日は130.8 cm<sup>3</sup>（116%）、9月1日は258.2 cm<sup>3</sup>（106%）となり、収穫期の果実肥大は平年並～やや大となった。収穫始は9月16日（早4日）と平年よりやや早く、収穫期は10月15日（早3日）、収穫終は11月7日（早2日）となった。

収量は、平年並～やや多かったが、園地や品種間差があり、日焼け果や野鳥害などにより減収した。品質は高温により着色が遅れ、糖度・酸度は平年並、やや軟化傾向だった。

病害では、黒星病は少なく、腐らん病、炭疽病が多かった。虫害では、一部でシンクイムシ類、ハダニ類が発生した。生理障害では、一部でビターピットなどが発生した。

鳥獣害では、春先のエゾ鹿、野ウサギによる樹皮・芽の食害、収穫期の野鳥害が多かった。

気象災害では、一部で晩霜による花器損傷、夏の高湿による日焼け果が発生した。8月の台風7号の接近、10月の低気圧では、20m/s以上の強風があったが落果被害は軽微だった。

### ぶどう

生食用：無加温ハウス栽培では、春の被覆作業は順調に進み、発芽期・展葉期・満開期は平年よりやや早く、結実・果粒肥大は良好だった。収穫作業は平年よりやや早く、収量・品質は平年並だった。

露地栽培では、発芽期・満開期は平年より早く、結実・果粒肥大は良好だった。収穫作業は平年より早く、収量はやや少なく、病害や野鳥害などにより減収した。

醸造用：醸造専用種では、発芽期・満開期は平年よりやや早く、結実・果粒肥大は良好だった。収穫作業は9月は平年より早く、10月は平年並となった。収量は、平年並～やや多かったが、園地や品種間差があり、病害や野鳥害などにより減収した。品質は、糖度が平年並、酸度はやや低かった。

病害では、べと病、晩腐病、熟果の灰色かび病が多く、虫害では、一部でゾウムシ類、カメムシ類が発生した。

鳥獣害では、醸造用ぶどうで収穫期の野鳥害が多かった。

気象災害では、醸造用ぶどうで日焼け果が発生した。

おうとう：発芽期・満開期は平年より早く、結実は地域や園地間差が大きく、開花時期の早晩、開花期の強風、凍霜害により不良の園地があった。果実肥大は良好で平年並～やや大きく、収穫始めはやや早～平年並となった。

収量は結実不良園では少なく、結実良好園では多くなった。

果実品質は着色・糖度は平年並、収穫期の高温により軟化傾向だった。

病虫害では、一部で幼果菌核病、カメムシ類が発生した。

気象災害では、一部で晩霜による花器損傷が発生した。

西洋なし：発芽期・満開期は平年より早く、結実は良好だった。果実肥大は平年並～やや大きかった。収穫始は平年より早く、収量は、やや多かったが、地域間差があり、病虫害や野鳥害などにより減収した。

病虫害では、炭疽病、輪紋病、シンクイムシ類、カメムシ類が多かった。

鳥獣害では、収穫期の野鳥害が多かった。

プルーン：発芽期・満開期は平年より早く、花芽率は、一部品種が隔年結果により少なかった。収穫始めは平年より早く、収量は、隔年結果により少なく、虫害や野鳥害などにより減収した。

病害虫では、シンクイムシ類が多かった。

鳥獣害では、収穫期の野鳥害が発生した。

気象災害では、一部で日焼け果が発生した。

ハスカップ：満開期は平年よりやや早く、結実は良好だった。収穫始めは平年並～やや早く、収量は地域間差があり、前年の雪害による結果枝減少や病害により減収した。

病害虫では、一部で収穫期の灰色かび病、カイガラムシ類が多かった。

#### (10) 牧草

萌芽期は、平年より早い4月10日（早6日）で、その後の生育は順調に進んだ。

1番草の出穂期は平年よりやや早い6月13日（早3日）で、収穫作業は平年並の6月13日（早2日）に始まった。収穫期間中は好天に恵まれ、収穫終は平年より早い7月6日（早7日）となった。

2番草の生育は平年よりやや早く推移した。

2番草の収穫作業は平年よりやや早い8月15日（早3日）に始まり、収穫終は平年並の9月16日（早2日）となった。

病害虫の目立った発生はなかった。

#### (11) とうもろこし（サイレージ用）

は種作業は、平年並の5月8日（早2日）に始まり、好天に恵まれたことから、は種終は平年よりやや早い5月20日（早3日）であった。出芽期は平年並の5月24日（早2日）であり、その後の生育は順調に推移し、絹糸抽出期は平年より早い7月25日（早9日）となった。

糊熟期は平年より早い8月27日（早12日）で、好天により登熟は順調に進み、黄熟期は平年より早い9月8日（早14日）となった。

収穫作業は、平年より早い9月9日（早8日）に始まり、収穫終は平年より早い10月2日（早6日）となった。

病害虫の目立った発生はなかった。

### Ⅲ 指定及び指定外有害動植物に関する調査成績

#### (I) 水稲の病害虫

予察田における水稲の生育期

地点	品種名	播種期		移植期		幼穂形成期		出穂期		成熟期		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	きらら397	4月28日	4月24日	5月29日	5月25日	7月7日	7月11日	7月28日	8月2日	9月8日	9月19日	10
	ななつぼし	4月28日	4月24日	5月29日	5月25日	7月4日	7月10日	7月29日	8月2日	9月8日	9月15日	10
比布	きらら397	4月28日	4月24日	5月22日	5月24日	7月3日	6月29日	7月22日	7月30日	9月10日	9月15日	10
	ななつぼし	4月28日	4月25日	5月22日	5月26日	7月3日	7月1日	7月22日	7月31日	9月10日	9月15日	7
北斗	きらら397	4月27日	4月26日	5月25日	5月27日	6月28日	7月2日	7月18日	7月27日	9月4日	9月15日	10

- 1 いもち病 **葉いもち** 発生期 やや早 発生量 並  
 発生面積 386ha (0.4% : 平年 0.6%) 被害面積 40ha (0.0% : 平年 0.1%)  
**穂いもち** 発生期 やや早 発生量 並  
 発生面積 316ha (0.3% : 平年 0.5%) 被害面積 40ha (0.0% : 平年 0.1%)

#### 発生経過の概要

##### 1) 葉いもち

- ・予察田の初発期は、いずれの地点も平年より早く、発生量は平年より多かった。
- ・一般田の初発期は平年並だった。発生面積率、被害面積率はいずれも平年並だったが、一部地域で被害に至った。

##### 2) 穂いもち

- ・予察田の枝梗いもちの初発期は、いずれの地点も平年より早く、発生量は穂いもち、節いもちとも平年より多かった。
- ・一般田の初発期は平年並だった。発生面積率、被害面積率はいずれも平年並だったが、一部地域で被害に至った。

#### 発生原因の解析

##### 1) 葉いもち

- ・水稲の生育が良好で、気象的にも好適条件が早期に出現したため、発生時期は早くなったが、一般田では一次伝染源が少なく、早期の発生につながらなかった。
- ・適切な防除により発生量を低く抑えることができた。
- ・7月13日付注意報第3号発表。

##### 2) 穂いもち

- ・予察田では出穂が早く、発病に好適な条件であったことから発生が早かった。
- ・一般田では葉いもちの発生も平年並に抑えられており、適切な防除により発生量を低く抑えることができた。

予察田におけるいもち病の初発期 (月日)

地点	品種名	取り置き苗		葉		枝梗		首		節		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	きらら397	6月15日	6月26日	7月10日	7月20日	7月31日	8月12日	8月7日	8月17日	8月9日	8月22日	10
	ななつぼし	6月14日	6月26日	7月4日	7月18日	8月1日	8月11日	8月7日	8月16日	8月6日	8月18日	10
比布	きらら397	6月13日	6月24日	7月6日	7月14日	7月31日	8月5日	8月4日	8月10日	8月7日	8月14日	10
	ななつぼし	6月12日	6月26日	7月5日	7月14日	7月30日	8月7日	8月4日	8月12日	8月5日	8月14日	7
北斗	きらら397	6月12日	6月21日	6月15日	7月15日	7月28日	8月8日	8月4日	8月12日	8月7日	8月22日	9

予察田におけるいもち病の最盛期（月・半旬）

地点	品種名	葉		枝梗		首		節		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	きらら397	7.4	7.6	8.4	8.6	8.4	9.2	9.2	9.2	9
	ななつぼし	7.4	8.1	8.4	8.4	8.4	9.1	8.6	9.1	9
比布	きらら397	7.4	8.1	8.2	8.6	8.2	9.2	8.4	9.2	10
	ななつぼし	7.4	7.6	8.2	8.6	8.4	9.2	8.2	9.2	7
北斗	きらら397	7.2	7.6	8.2	8.6	8.6	9.2	8.6	9.2	9

予察田におけるいもち病の発生状況

地点	岩見沢											
	品種名	きらら397										
		葉いもち				穂いもち				節いもち		
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	0	0.8	0	0.2								
7.4	88.0	9.6	22.0	2.4								
7.6	100.0	43.0	28.0	11.1								
8.2	100.0	59.2	36.0	15.6	12.2	1.2	0	0.2	12.2	1.5	0.4	0.3
8.4	100.0	62.6	38.0	17.7	45.8	9.2	18.2	1.8	64.0	10.2	15.3	1.2
8.6	100.0	64.8	38.0	20.6	16.6	21.1	16.6	8.6	56.1	29.4	38.5	6.3
9.2					8.2	20.5	21.5	20.2	29.7	40.7	69.2	12.7

注) 空欄は調査対象外

地点	岩見沢											
	品種名	ななつぼし										
		葉いもち				穂いもち				節いもち		
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	8.0	2.0	2.0	0.5								
7.4	80.0	13.6	20.0	4.0								
7.6	100.0	60.2	28.0	16.4								
8.2	100.0	76.8	48.0	25.2	8.8	2.0	0	0.7	8.8	2.8	1.2	1.0
8.4	100.0	81.0	50.0	28.1	62.1	14.5	29.7	2.9	91.8	16.4	39.8	3.4
8.6	100.0	82.4	50.0	31.2	21.0	23.8	17.2	17.6	38.2	41.8	58.7	13.2
9.2					10.0	17.7	15.7	30.0	25.7	48.7	73.2	24.2

注1) 空欄は調査対象外

地点	比布											
	品種名	きらら397										
		葉いもち				穂いもち				節いもち		
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	44.0	1.6	11.0	0.3								
7.4	100.0	32.4	52.0	8.3								
7.6	100.0	79.8	73.0	20.2								
8.2	100	99.6	73.0	30.1	53.4	1.7	27.5	0.1	80.9	1.9	12.9	0.5
8.4	100	99.2	72.0	32.1	7.4	10.1	47.6	1.5	55.0	11.6	37.6	2.1
8.6	100	98.0	75.0	35.0	2.2	26.6	35.9	12.7	38.1	39.3	52.3	3.7
9.2					6.4	26.2	8.9	35.6	15.4	61.8	63.7	8.7
9.4						9.9		54.8		64.6		18.3

注1) 空欄は調査対象外

地点	比布											
品種名	ななつぼし											
調査 月半月	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	60.0	1.7	15.0	0.4								
7.4	100.0	23.7	54.0	6.1								
7.6	100	75.7	79.0	19.5								
8.2	100	99.7	75.0	32.4	49.9	0.5	16.6	0	66.5	0.5	28.6	0
8.4	100	100	75.0	37.9	8.8	8.9	44.8	0.3	53.6	9.3	43.7	1.4
8.6	100	100	75.0	36.8	0	28.0	29.0	7.3	29.0	35.3	67.3	3.1
9.2					0.4	29.7	7.9	28.1	8.3	57.9	79.3	7.7
9.4						15.7		53.1		68.7		15.5

注1) 空欄は調査対象外

地点	北斗											
品種名	きらら397											
調査 月半月	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	52.0	1.0	13.0	0.3								
7.4	96.0	19.8	25.0	5.0								
7.6	96.0	54.0	27.0	14.6								
8.2	100.0	63.8	28.0	18.9	36.8	3.3	8.0	0.3	44.8	3.5	0.4	0
8.4	100.0	64.4	28.0	20.5	33.2	19.0	26.4	4.1	59.6	22.9	4.0	0.9
8.6	100.0	64.8	28.0	20.9	23.6	22.4	48.4	17.7	72.0	40.1	7.6	3.6
9.2						20.8		29.5		50.3		12.3
9.4						31.0		47.6		78.6		27.9

注1) 空欄は調査対象外

## 巡回調査結果

### 一般田におけるいもち病の発生状況

振興局	普及 センター 本所・支所	葉いもち発病株率 (%)			穂いもち発病株率 (%)	振興局	普及 センター 本所・支所	葉いもち発病株率 (%)			穂いもち発病株率 (%)
		7月3半月	7月6半月	8月3半月	8月6半月			7月3半月	7月6半月	8月3半月	8月6半月
空知	本所	0	0	0	0	渡島	本所	0	0	0	0
	南東部	0	0	0	0		檜山	本所	0	0	0
	南西部	0	0	0	0	上川	北部	0	0	0	0
	中空知	0	0	0	0		本所	0	0	0	0
	北空知	0	0	0	0		富良野	0	0	0	0
石狩	本所	0	0	0	0	大雪	0	0	0	0	
	北部	0	0	0	0	士別	0	0	0	0	
後志	本所	0	0	0	0	名寄	0	0	0	0	
胆振	東胆振	0	0	0	0	留萌	本所	0	0	0	0
日高	西部	0	0	0	0		南留萌	0	0	0	0

## 2 紋枯病 発生期 やや早 発生量 多

発生面積 31,429ha (33.6% : 平年 19.3%) 被害面積 13,448ha (14.4% : 平年 1.4%)

### 発生経過の概要

- ・予察田での初発期は岩見沢市で平年より早く、北斗市で平年並だった。発生量はいずれの地点とも多かった。
- ・一般田における初発時期は平年よりやや早かった。発生面積率、被害面積率とも平年より高く、特に空知地方で発生が多かった。

### 発生原因の解析

- ・近年発生が多く、感染源が多いと推察される。夏季の高温傾向と、低気圧による倒伏で被害が増加した。
- ・被害面積率の高い空知地方での防除実施率が低い。

### 予察田における紋枯病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢	きらら397	7月31日	8月10日	8.4	8.6	10
北斗	きらら397	8月2日	7月31日	8.6	8.5	10

### 予察田における紋枯病の発生状況

地点	北斗							
	きらら397							
	調査 月半旬	発病株率(%)		発病茎率(%)		最上発病葉鞘位		発病度
本年		平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7.4		0		0				0
7.6	0	5.4	0	1.5	0	-	0	1.0
8.2	4.0	17.2	1.2	8.9	3.0	1.9	0.3	5.7
8.4	20.0	26.4	12.4	15.2	1.0	1.8	11.0	10.8
8.6	44.0	44.6	31.2	23.4	1.0	1.1	28.0	19.4
9.2	52.0	47.4	35.2	26.4	1.0	1.1	34.0	21.6
9.4	52.0	26.0	36.0	16.7	1.0	1.1	34.0	14.8

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

地点	岩見沢							
	きらら397							
	調査 月半旬	発病株率(%)		発病茎率(%)		最上発病葉鞘位		発病度
本年		平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7.4	0	0	0	0			0	0
7.6	4.0	0	0.2	0			1.0	0
8.2	40.0	3.4	2.8	0.2	2.0	3.0	10.0	0.9
8.4	64.0	29.6	29.0	3.5	2.0	2.4	31.0	7.3
8.6	80.0	60.8	27.1	11.5	1.0	1.9	31.0	17.2
9.2	-	76.0	-	19.0	-	1.5	-	22.7
9.4	-	82.0	-	22.1	-	1.7	-	25.6

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

### 3 葉しょう褐変病 発生期 — 発生量 並

#### 発生経過の概要

・予察田における発生は比布町で平年より多く、岩見沢市で発生を認めなかった。発生の多かった比布町でも症状は軽微でですくみ穂は認められなかった。

#### 発生原因の解析

・穂ばらみ期の気温が本病に好適な低温とならなかった。8月中旬に低温の降雨があった比布町では葉鞘の発病株率が高くなった。

予察田における葉しょう褐変病の発生状況

地点	品種	発病株率		病茎率		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	きらら397	0	25.0	0	2.2	0	7.7	10
比布	きらら397	72.0	18.3	5.8	2.3	18.0	7.0	7

### 4 縞葉枯病 発生期 — 発生量 並

発生面積 810ha (0.9% : 平年 0.4%) 被害面積 0ha (0% : 平年 0.0%)

#### 発生経過の概要

・一般田における発生面積率、被害面積率とも平年並であった。

#### 発生原因の解析

・5、6月は気温が高く推移し媒介虫の活動に好適だったが、常発地域では防除が実施されており、多発には至らなかった。

### 5 ばか苗病 発生期 — 発生量 やや少

発生面積 544ha (0.6% : 平年 1.2%) 被害面積 0ha (0% : 平年 0.0%)

#### 発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般田における発生面積率は平年よりやや低く、被害を認めた地域はなかった。
- ・健全種苗が使用され、適切な種子消毒、育苗管理が実施されている。

### 6 苗立枯病 発生期 — 発生量 並

発生面積 1,110ha (1.2% : 平年 1.0%) 被害面積 0ha (0% : 平年 0.0%)

#### 発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般田における発生面積率は平年並に低く、被害は認められなかった。
- ・育苗期間の天候が良好に経過し、適切に育苗管理が実施された。

### 7 種子伝染性細菌病 発生期 — 発生量 少

発生面積 120ha (0.1% : 平年 1.1%) 被害面積 0ha (0% : 平年 0.0%)

#### 発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般田における発生面積率は平年より低く、被害を認めた地域はなかった。
- ・種子消毒が適切に実施されていることに加え、育苗期間の天候が良好に経過し、適切に育苗管理が実施された。

8 ニカメイガ 発生期 並 発生量 並  
 発生面積 452ha( 0.5% : 平年 0.7%) 被害面積 0ha( 0% : 平年 0.0%)

**発生経過の概要**

- ・予察田における被害茎率は長沼町で平年並であった。
- ・一般田における発生面積率は0.5%と平年並であり、被害は認められなかった。

**発生原因の解析**

- ・近年は少発生で推移し、越冬密度も低かったと推測される。7月は高温に経過したが、断続的な降雨に見舞われ、成虫の産卵活動に好適な条件とならなかった。
- ・一般田では防除が適切に行われた。

**予察田におけるニカメイガの発生状況と被害状況**

	長 沼	
	本 年	平 年
被 害 株 率 (%)	40	44.6
調 査 茎 数	1146	1174.4
被 害 茎 率 (%)	3.6	6.3
在 虫 茎 率 (%)	1.5	1.6
生 幼 虫 数 (頭)	17	22.3
死 幼 虫 数 (頭)	1	2.8
蛹 数 (頭)	0	0.0
切 断 虫 数 (頭)	1	1.5
死 虫 率 (%)	5.9	17.0
10a当り幼虫数 (頭)	7980	6006.9
幼虫平均体重 (mg)	68.4	74.3
調査月日	10月2日	9月30日
調査品種	ななつぼし	
栽培密度 (/m <sup>2</sup> )	21	
平 年 数	10	

注) 100株当りの数値を示した。

9 セジロウンカ 発生期 並 発生量 並  
 発生面積 1,819ha( 1.9% : 平年 1.6%) 被害面積 0ha( 0% : 平年 0.0%)

**発生経過の概要**

- ・予察田における水田すくい取りによる初発期は比布町で平年より早く、長沼町で平年並、北斗市では平年よりやや遅かった。
- ・予察田におけるすくい取り数は比布町及び長沼町で平年より多く、北斗市では平年並であった。予察灯による誘殺数は長沼町で平年より多く、北斗市で平年よりやや多く、比布町では平年よりやや少なかった。
- ・一般田における発生面積率は1.9%と平年よりやや高かったが、被害は認められなかった。

**発生原因の解析**

- ・飛来後の8、9月は高温に経過し、本田での増殖に好適であったと推測される。
- ・一般田では、防除が適切に行われた。

**予察灯及び予察田すくい取りによるセジロウンカ成虫の発生期**

		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
予察田 すくい取り	初発期	8. I	8. I	8. I	8. III	7. IV	7. III
	最盛期	9. I	9. II	9. IV	9. III	8. VI	9. II
予察灯 誘殺	初発日	7月26日	7月25日	7月28日	7月29日	6月28日	7月19日
	最盛日	8月7日	8月13日	7月31日	8月20日	8月4日	8月21日

注) 表記のうちローマ数字は半旬を示す。  
 平年数は10年。

**予察田におけるセジロウンカ成虫のすくい取り虫数**

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	3.0
2	0	0.0	0	0.0	0	5.0
3	0	0.3	0	0.5	0	3.0
4	0	0.0	0	0.0	2.5	1.8
5	0	0.1	0	0.0	0	0.8
6	0	2.0	0	1.0	0	2.0
8. 1	22.5	5.6	5.0	1.5	22.5	9.3
2	7.5	1.3	25.0	0.6	5.0	17.8
3	7.5	2.5	10.0	2.5	0	23.8
4	5.0	1.4	0	7.0	15.0	28.0
5	2.5	2.4	0	4.4	62.5	33.5
6	40.0	6.5	0	14.5	92.5	53.0
9. 1	75.0	11.6	40.0	8.1	57.5	69.0
2	37.5	3.8	25.0	2.5	65.0	102.8
3	27.5	2.1	45.0	39.2	87.5	171.8
4	7.5	1.7	60.0	46.7	-	137.2
5	-	2.8	15.0	25.0	-	19.4
6	-	0.6	25.0	-	-	-
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

予察灯によるセジロウンカ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.1	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	3	3.6
7. 1	0	0.0	0	0.0	1	3.8
2	0	0.0	0	0.1	9	0.7
3	0	0.0	0	0.2	3	0.3
4	0	0.0	0	0.0	8	0.3
5	0	0.7	0	0.2	5	1.9
6	2	1.5	2	14.0	174	32.0
8. 1	40	3.6	1	5.8	157	89.6
2	59	10.7	2	4.1	7	77.7
3	4	27.0	0	6.7	0	57.4
4	7	26.4	0	7.6	73	178.8
5	3	9.3	1	8.1	98	49.3
6	0	7.1	0	2.0	59	98.1
9. 1	0	9.3	0	1.3	48	64.4
2	0	1.6	0	0.4	6	21.9
3	2	3.9	2	1.0	72	3.5
4	33	0.1	0	0.6	35	14.1
5	0	0.4	0	0.1	0	1.5
6	0	0.2	0	0.0	0	2.7
平年数	10		10		10	

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

10 ヒメトビウンカ 発生期 やや早 発生量 やや少

発生面積 6,863ha( 7.3% : 平年 16.7%) 被害面積 0ha( 0.0% : 平年 0.2%)

発生経過の概要

- ・畦畔すくい取りによる越冬幼虫の初発期はいずれの地点においても平年より早かった。第1回成虫の発生期は長沼町で平年よりやや早く、比布町及び北斗市では平年並であった。
- ・春季の畦畔すくい取り捕獲頭数は北斗市で平年よりやや多く、長沼町及び比布町では平年並であった。予察田におけるすくい取り数及び予察灯による誘殺数は長沼町で平年より多く、北斗市で平年よりやや多く、比布町では平年並であった。
- ・一般田における発生面積率は平年よりやや低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・前年秋の発生が多く越冬密度は高かったと推測される。
- ・春季、夏季とも高温に経過し増殖に好適であった。
- ・一般田では適切に防除が行われた。縞葉枯病常発地域においては箱施用剤による防除が行われている。

予察田におけるすくい取りによるヒメトビウカ成虫の発生期

世 代		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
第 1 回	初発日	-	-	6月8日	6月16日	-	-
	最盛期	-	-	6. II	6. III	-	-
	終息日	-	-	6月20日	6月24日	-	-
第 2 回	初発日	6月29日	7月13日	6月27日	7月10日	7月9日	7月4日
	最盛期	7. II	7. VI	7. II	7. VI	7. V	7. VI
	終息日	7月25日	8月3日	7月27日	8月10日	7月28日	8月3日
第 3 回	初発日	8月1日	8月9日	8月1日	8月14日	8月2日	8月10日
	最盛期	9. I	8. V	9. I	8. VI	9. III	9. II
	終息日	-	9月19日	9月25日	9月20日	-	-
平年数		10		10		10	

注) 表記のうちローマ数字は半旬を示す。

予察灯によるヒメトビウカ成虫の発生期

世 代		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
第 1 回	初発日	-	-	6月6日	5月31日	6月13日	6月25日
	最盛期	-	-	-	6月5日	-	-
	終息日	-	-	6月15日	6月8日	6月13日	7月3日
第 2 回	初発日	6月29日	7月12日	6月29日	7月7日	7月2日	7月14日
	最盛期	7月16日	7月24日	7月23日	7月30日	7月16日	7月29日
	終息日	7月23日	7月31日	8月2日	8月12日	8月14日	8月9日
第 3 回	初発日	7月26日	8月4日	8月8日	8月16日	8月16日	8月16日
	最盛期	8月11日	8月19日	8月24日	8月30日	9月11日	8月31日
	終息日	9月20日	9月16日	9月17日	9月15日	10月3日	9月20日
平年数		10		10		10	

予察田におけるすくい取りによるウンカ類幼虫の発生期

	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
初発期	7. VI	8. II	8. II	7. V	7. VI	7. VI
最盛期	8. I	9. I	9. V	9. I	8. V	9. II

注) 表記のうちローマ数字は半旬を示す。

予察田におけるヒメトビウンカ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 5	-	-	0	-	0	-
	0	0.0	0	0.0	0	0.6
6. 1	0	0.0	0	0.4	0	0.3
	0	0.0	10.0	1.9	0	0.0
	0	0.0	5.0	2.5	0	0.0
	0	0.0	0	2.0	0	0.0
	0	0.0	0	2.2	0	0.5
	5.0	0.0	5.0	1.3	0	1.0
7. 1	20.0	1.0	10.0	1.7	0	1.5
	47.5	3.5	20.0	1.8	5.0	1.8
	22.5	4.4	5.0	4.8	2.5	2.5
	30.0	6.8	10.0	28.0	2.5	4.3
	15.0	17.4	50.0	53.8	30.0	5.8
	25.0	13.3	25.0	145.5	2.5	7.1
8. 1	90.0	16.8	45.0	117.3	12.5	10.3
	20.0	17.8	50.0	53.1	22.5	15.0
	302.5	53.2	110.0	115.3	2.5	11.0
	122.5	29.7	150.0	143.5	77.5	24.3
	10.0	113.6	160.0	379.4	100.0	41.3
	137.5	136.3	735.0	741.0	30.0	49.0
9. 1	632.5	91.1	772.5	534.4	90.0	74.3
	62.5	49.1	230.0	302.8	107.5	81.3
	92.5	28.9	247.5	160.6	457.5	142.0
	20.0	7.4	130.0	18.9	-	46.4
	-	28.0	0	8.0	-	13.1
	-	53.0	0	-	-	-
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

畦畔におけるヒメトビウンカのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
3. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	0	-	12.5	-	0	-	0	-	-	-	-	-
6	0	-	36.0	-	0	-	10.0	-	-	-	-	-
4. 1	0	-	32.5	-	0	-	17.5	-	0	-	27.5	-
2	0	-	10.0	-	0	-	10.0	-	0	-	10.0	-
3	0	0.0	0	11.7	0	-	15.0	-	0	-	2.5	-
4	0	0.0	32.5	16.1	0	0.0	5.0	22.0	0	0.0	1.7	4.2
5	0	0.0	0	27.3	0	0.0	2.5	11.9	0	0.0	0	0.8
6	0	0.0	2.5	17.0	0	0.0	17.5	8.1	0	0.0	0	1.5
5. 1	0	1.9	0	4.7	0	0.0	2.5	8.6	0	0.5	0	1.5
2	7.5	12.1	0	4.2	0	0.0	7.5	2.2	0	0.3	0	1.3
3	70.0	13.0	0	1.6	0	1.1	2.5	7.2	3.5	1.3	0	0.5
4	6.3	12.9	0	0.5	52.5	17.2	10.0	3.1	5.0	4.3	0	0.0
5	1.3	6.2	0	0.4	45.0	56.8	5.0	1.5	2.5	2.8	0	0.3
6	6.3	5.0	0	1.8	5.0	48.4	0	1.5	2.5	3.5	2.5	0.3
6. 1	2.5	2.9	0	0.8	5.0	35.8	0	2.2	5.0	2.8	0	0.3
2	0	1.2	0	0.1	25.0	31.3	0	0.5	0	1.3	0	0.3
3	0	1.9	0	0.0	5.0	8.3	0	0.0	0	1.3	0	0.0
4	0	0.5	0	0.0	0	2.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.3	0	0.0	0	0.6	0	1.7	0	0.3	0	0.0
6	2.5	0.1	0	0.3	0	1.5	0	1.6	0	0.0	0	0.0
7. 1	12.5	6.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	42.5	3.3	0	0.2	5.0	0.5	0	2.8	0	0.0	0	0.0
3	30.0	8.9	0	0.0	0	0.5	0	2.0	0	0.5	0	0.0
4	65.0	15.1	0	0.0	0	0.5	0	0.5	2.5	1.3	0	0.0
5	20.0	22.5	0	0.0	0	4.0	5.0	0.5	0	1.5	0	0.0
6	7.5	16.0	0	0.3	0	6.3	0	0.5	0	1.5	0	0.0
8. 1	7.5	10.1	0	0.3	5.0	7.5	0	1.0	0	2.0	0	0.3
2	32.0	8.0	2.5	0.4	0	8.6	0	1.1	0	1.8	0	0.0
3	420.0	33.4	0	0.4	0	12.0	0	5.0	0	10.8	0	0.8
4	357.5	30.9	0	1.4	30.0	41.3	0	1.5	0	14.3	0	0.8
5	7.5	93.3	0	2.0	67.5	96.7	12.5	1.1	0	15.0	0	7.3
6	25.0	107.2	0	2.6	160.0	288.8	0	5.0	10.0	20.0	0	2.8
9. 1	195.0	67.9	7.5	14.1	172.5	195.6	25.0	2.8	0	62.5	0	4.8
2	85.0	33.2	30.0	1.1	100.0	121.4	5.0	7.8	5.0	76.5	0	4.8
3	47.5	21.9	25.0	9.4	225.0	107.2	2.5	2.8	20.0	86.5	0	2.8
4	32.5	4.9	12.5	10.1	155.0	20.1	10.0	5.7	100.0	38.8	0	1.3
5	12.5	0.8	20.0	65.6	20.0	16.3	15.0	15.6	40.0	15.8	2.5	0.0
6	2.5	1.6	22.5	5.0	5.0	1.8	20.0	35.4	15.0	3.5	12.5	0.0
10. 1	0	3.2	5.0	8.1	0	0.6	325.0	91.0	7.5	1.3	47.5	1.7
2	2.5	0.6	37.5	12.4	0	0.0	430.0	1076.0	5.0	0.3	130.0	12.8
3	2.5	-	10.0	16.5	0	0.0	680.0	383.0	0	0.0	65.0	13.3
4	0	-	12.5	58.0	0	-	565.0	476.3	0	0.0	35.0	17.8
5	0	-	35.0	31.9	0	-	690.0	631.9	0	0.0	52.5	18.4
6	0	-	26.3	27.4	0	-	645.0	1036.9	0	0.0	62.5	27.2
平年数	10				10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

予察灯によるヒメトビウンカ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	-	0	-	0	-
2	0	-	0	-	0	-
3	0	0.0	0	-	0	-
4	0	0.0	0	-	0	-
5	0	0.0	0	-	0	-
6	0	0.0	0	-	0	-
6. 1	0	0.0	0	13.0	0	0.0
2	0	0.1	2	6.4	0	0.0
3	0	0.2	3	1.6	1	0.0
4	0	0.0	0	0.1	0	0.2
5	0	0.0	0	0.0	0	0.2
6	1	0.0	1	0.1	0	0.5
7. 1	0	0.1	0	1.6	6	1.0
2	12	1.2	11	4.2	83	2.3
3	9	11.8	4	12.7	20	2.2
4	20	151.6	6	104.2	131	22.0
5	6	50.3	165	191.7	61	18.7
6	33	231.1	73	1640.8	63	30.3
8. 1	201	158.2	12	406.8	105	27.5
2	2070	176.6	67	241.1	15	20.8
3	1734	299.9	6	128.3	3	14.8
4	2855	270.7	2994	354.9	1225	61.1
5	548	207.6	4984	1761.1	1702	49.0
6	94	296.7	1314	6316.5	1319	209.9
9. 1	372	48.0	492	3798.5	952	157.3
2	1298	39.8	267	1641.7	301	3644.0
3	896	15.6	297	64.9	2409	98.1
4	229	0.5	5	4.5	354	56.4
5	0	0.3	0	0.0	22	4.1
6	0	0.3	0	0.0	4	0.2
平年数	10		10		10	

注) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

予察田におけるウンカ類幼虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	1.5	0	0.0
3	0	0.0	0	3.5	0	0.3
4	0	0.0	0	23.3	0	1.3
5	0	0.0	0	16.0	0	0.8
6	255.6	3.5	0	45.3	12.5	4.3
8. 1	680.0	175.7	0	355.0	117.5	13.5
2	155.0	205.3	265.0	462.8	115.0	18.8
3	87.5	266.1	125.0	1612.3	115.0	50.3
4	472.5	206.4	355.0	1951.8	417.5	84.0
5	42.5	188.3	1222.5	1705.8	1105.0	334.3
6	367.5	241.7	1860.0	2074.8	532.5	485.8
9. 1	317.5	152.8	690.0	1654.7	422.5	353.5
2	205.0	198.3	870.0	1629.2	255.0	294.0
3	272.5	279.4	1267.5	2089.2	380.0	271.0
4	232.5	408.9	2810.0	1345.8	-	245.6
5	-	425.1	3520.0	1433.5	-	140.0
6	-	256.9	3455.0	-	-	-
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。セジロウンカ幼虫を含む数値。

巡回調査結果

一般田におけるすくい取りによるヒメトビウンカの発生状況

振興局	普及センター	調査地点数	7月6半旬	8月3半旬
空知	本所	6	0.3	5.7
	南東部	2	0	0
	南西部	3	2.3	2.3
	中空知	4	0	0.5
	北空知	7	0	0
石狩	本所	3	2.0	9.7
	北部	7	0.7	1.9
後志	本所	4	1.0	0
胆振	東胆振	4	0	0
日高	西部	2	0	0
渡島	本所	1	1.0	0
檜山	本所	2	0	11.0
	北部	2	0	0
上川	本所	7	23.3	16.7
	富良野	3	1.0	1.7
	大雪	4	2.0	0.8
	士別	3	2.0	14.3
	名寄	3	0	0
留萌	本所	4	0	0
	南留萌	2	0	0

注) 20回振りの合計頭数を示した。

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス (RSV) 保毒検定

ヒメトビウンカのRSV保毒検定結果 (上川振興局管内)

地点番号	採集市町村・地点	採集月日	すくい取り 調査結果 (幼虫数/20回振)	RSV保毒虫検定結果			
				供試虫数 (幼虫)	保毒虫数 (幼虫)	保毒虫率(幼虫、%)	
					本年	前年	
A	旭川市	10月12日	204	96	1	1.0	0.0
B	東川町	10月12日	68	96	4	4.2	3.1
C	美瑛町	10月12日	45	96	0	0.0	3.1
D	当麻町	10月12日	112	96	9	9.4	4.2
E	旭川市	10月12日	78	96	3	3.1	3.1
	比布町 農試	10月12日	136	96	5	5.2	7.3

注1) 採集は20回振り。

注2) A～Eは定点。

注3) 10月24日に簡易ELISAにより検定。

ヒメトビウンカのRSV保毒検定結果 (渡島振興局管内)

採集地点	採取方法	採取時期	RSV保毒虫検定結果					
			検定虫数		保毒虫数		保毒虫率(%)	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
北斗市 道南農試	水田すくい取り	8月21日	21	-	0	-	0	-
	水田すくい取り	9月7日	14	-	0	-	0	-
	水田すくい取り	9月11日	81	-	0	-	0	-
	水田すくい取り	9月13日	102	-	0	-	0	-
	畦畔すくい取り	9月13日	7	-	0	-	0	-
	畦畔すくい取り	9月16日	10	-	0	-	0	-
	畦畔すくい取り	9月17日	30	-	0	-	0	-
	畦畔すくい取り	9月22日	11	-	0	-	0	-
	畦畔すくい取り	9月25日	5	-	0	-	0	-
	畦畔すくい取り	9月27日	5	-	0	-	0	-

注1) 採集は20回振り。

注2) 10月30～11月2日に簡易ELISAにより検定。

1.1 イネドロオイムシ 発生期 並 発生量 少  
 発生面積 1,569ha( 1.7% : 平年 7.6%) 被害面積 0ha( 0% : 平年 0.3%)

**発生経過の概要**

- ・予察田における産卵初発期は長沼町で平年並、北斗市で平年よりやや遅く、比布町では産卵が認められなかった。
- ・予察田における幼虫の発生量及び被害は、長沼町では平年並、比布町及び北斗市では平年より少なかった。
- ・一般田における発生面積率は平年より低かった。被害は認められなかった。

**発生原因の解析**

- ・近年、効果の高い箱施用剤の使用が増えており、地域内の発生密度が低めに推移している。

予察田におけるイネドロオイムシの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
成 虫	初発期	5. VI	6. I	-	6. II	6. I	6. I
	最盛期	7. V	6. V	-	-	-	6. III
	終息期	7. VI	7. II	-	6. V	-	6. VI
卵 塊	初発期	6. II	6. II	-	6. IV	6. III	6. II
	最盛期	7. VI	7. I	-	6. V	-	6. IV
	終息期	7. IV	7. VI	-	7. II	-	7. II
幼 虫	初発期	6. IV	6. IV	6. VI	6. V	6. V	6. IV
	最盛期	7. I	7. II	-	7. II	-	6. VI
	終息期	7. VI	7. VI	-	7. V	-	7. VI
蛹	初発期	7. II	7. I	7. III	7. I	7. I	7. I
	最盛期	7. IV	7. V	-	7. III	-	7. III
	終息期	-	8. II	-	7. VI	-	7. VI
新成虫	初発期	7. IV	7. III	7. VI	7. V	7. IV	7. IV
	最盛期	7. IV	7. V	-	-	-	7. V
	終息期	-	8. II	-	7. V	7. V	8. I
幼虫被害	初発期	6. IV	6. IV	-	6. V	6. V	6. IV
	最盛期	7. II	7. III	-	7. III	-	7. I
	終息期	-	8. I	-	7. VI	-	7. VI
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察田におけるイネドロオイムシ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 6	0	2.8	0	-	0	0.6
6. 1	5.0	1.1	0	3.5	2.5	1.0
	5.0	3.0	0	1.6	0	4.8
	2.5	6.4	0	4.0	0	3.0
	40.0	8.3	0	5.5	0	9.0
	5.0	5.6	0	3.9	0	8.3
	17.5	8.8	0	4.5	0	5.5
7. 1	47.5	11.6	0	2.2	0	3.8
	52.5	7.5	0	2.3	0	1.0
	15.0	7.5	0	2.5	0	2.5
	10.0	14.8	0	8.8	2.5	1.8
	10.0	12.2	0	7.0	0	0.5
	5.0	11.4	5.0	5.3	0	2.3
8. 1	0	6.5	0	2.0	0	1.3
	0	1.0	0	0.0	0	2.0
	0	0.6	0	1.0	0	0.8
	0	1.1	0	0.0	0	0.0
	0	0.3	0	0.6	0	0.5
	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況と被害推移

	月半旬	成虫数		卵塊数		幼虫数		蛹数		被害株率(%)		平年数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年		
長沼	6.	1	0	6.1	0	2.5	0	0.0	0	0.0	0	9.3	10
		2	1	7.4	0	7.6	0	2.6	0	0.0	0	23.5	
		3	1	4.6	3	11.3	0	15.9	0	0.0	0	41.0	
		4	9	2.8	14	14.2	19	28.5	0	0.0	4	54.7	
		5	12	3.1	24	17.8	55	53.4	0	0.1	64	78.0	
		6	0	4.2	28	18.2	94	72.9	0	1.9	76	96.0	
	7.	1	0	3.9	12	19.8	105	102.8	0	6.6	92	98.5	
		2	0	3.3	7	17.2	66	86.1	31	15.4	100	100.0	
		3	0	3.1	1	13.2	19	70.5	24	24.9	100	100.0	
		4	9	7.9	0	18.5	0	44.0	31	30.6	100	100.0	
		5	0	5.6	0	8.3	0	23.2	27	26.9	100	98.5	
		6	1	4.4	0	6.3	1	3.5	12	19.9	100	99.0	
	8.	1	0	2.9	0	2.3	0	0.7	6	12.4	100	99.0	
		2	1	1.5	0	1.7	0	0.7	4	6.1	96	86.0	
比布	6.	1	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
		2	0	0.9	0	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
		3	0	0.7	0	4.1	0	1.3	0	0.0	0	0.0	
		4	0	0.3	0	4.0	0	15.9	0	0.0	0	0.6	
		5	0	0.1	0	3.0	0	29.6	0	0.1	0	2.3	
		6	0	0.5	0	1.9	0	28.7	0	0.9	0	4.0	
	7.	1	0	0.1	0	1.7	0	19.1	0	4.8	0	5.7	
		2	0	0.4	0	0.9	0	14.8	0	6.5	0	13.3	
		3	0	1.3	0	0.4	0	7.7	0	5.7	0	19.3	
		4	0	2.3	0	0.4	0	3.6	0	5.3	0	22.0	
		5	0	0.7	0	0.0	0	1.0	0	4.2	0	21.3	
		6	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	1.3	0	12.7	
	8.	1	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	0.5	0	15.4	
		2	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.1	0	12.0	
北斗	6.	1	0	0.2	0	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
		2	0	1.6	0	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
		3	0	1.4	0	3.6	0	1.7	0	0.0	0	1.8	
		4	0.5	0.9	0	4.9	0	8.2	0	0.0	0	4.0	
		5	0	0.4	0	5.5	0	18.4	0	0.0	0	17.0	
		6	0	0.4	0	2.7	0	47.2	0	0.7	0	29.0	
	7.	1	0	0.1	0	2.1	0	51.4	0	1.7	0	42.8	
		2	0	0.3	0	0.8	0	35.7	0	7.5	0	50.0	
		3	0	0.6	0	0.6	0	17.1	0	11.3	0	55.0	
		4	0.5	1.1	0	0.5	0	8.5	0	10.9	0	58.8	
		5	0.5	2.2	0	0.3	0	5.0	0	9.2	0	59.8	
		6	0	3.4	0	0.4	0	1.2	0	4.3	0	56.8	
	8.	1	0	0.7	0	0.2	0	0.5	0	2.1	0	53.3	
		2	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.3	0	47.8	

注) 数値は25株の合計を示した。

## 巡回調査結果

### 一般田におけるイネドロオイムシの発生状況と被害推移

振興局	普及センター	調査地点数	卵塊数		幼虫数		被害葉率(%)
			6月3半旬	6月6半旬	6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	6	6.5	0.3	19.8	0	0.5
	南東部	2	0	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0	0
	中空知	4	1.3	0	5.0	0	0
	北空知	7	0.9	0.4	8.6	0.7	0.7
石狩	本所	3	0	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0	0
後志	本所	4	0.8	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0	0
渡島	本所	1	0	1.0	2.0	3.0	0
檜山	本所	2	0	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0	0
上川	本所	7	0	0	0	0	0
	富良野	3	0	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0	0
	士別	3	0	0	0	0	0
	名寄	3	0	0	0	0	0
留萌	本所	4	0	0	0	0	0
	南留萌	2	0	0	0	0	0

注) 数値は調査を行った25株の合計を示した。

## 12 アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生期 早 発生量 並

発生面積 23,556ha(25.2% : 平成 30.1%) 被害面積 339ha( 0.4% : 平成 0.7%)

### 発生経過の概要

- ・予察灯による第2回成虫の最盛期は、長沼町及び比布町で平成より早く、北斗市では平成よりやや早かった。
- ・予察灯による第2回成虫誘殺数は、北斗市で平成より多く、比布町で平成並、長沼町では平成よりやや少なかった。7月下旬から8月の水田すくい取りによる成虫捕獲頭数は、長沼町で平成より多く、北斗市で平成並、比布町で平成より少なかった。
- ・割れ籽率はいずれの地点においても平成並であった。斑点米率は、長沼町及び北斗市で平成より高く、比布町では平成よりやや高かった。
- ・一般田における発生面積率、被害面積率ともに平成並であった。

### 発生原因の解析

- ・前年の発生は平成並で越冬密度も平成並であったと推測される。春季、夏季とも高温に経過したため増殖に好適であり、水田への飛び込みは多かったものと推測されるが、一般田では、防除が適切に行われた。
- ・8月9日付 注意報第5号発表

予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	6月2日	6月10日	6月6日	6月13日	5月27日	6月12日
	最盛期	6月17日	6月19日	6月11日	6月19日	6月8日	6月20日
	終息期	6月22日	6月27日	6月15日	6月23日	6月29日	6月23日
	総誘殺数	65	45	10	14	49	14
第2回	初発期	6月27日	7月5日	6月26日	7月8日	7月2日	7月5日
	最盛期	7月18日	7月22日	7月23日	7月29日	7月23日	7月24日
	終息期	7月23日	7月31日	8月3日	8月9日	8月14日	8月11日
	総誘殺数	1437	2258	231	248	2080	689
第3回	初発期	7月23日	8月2日	8月8日	8月17日	8月16日	8月15日
	最盛期	8月9日	8月9日	8月24日	9月2日	8月18日	8月25日
	終息期	9月19日	9月27日	9月25日	9月17日	9月26日	9月20日
	総誘殺数	5431	2067	597	159	2035	224
平年数		10		10		10	

水田すくい取りによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長沼町		比布町		北斗市	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	-	-	-	-	-	6月30日
	最盛期	-	-	-	-	-	7. I
	終息期	-	-	-	-	-	7月4日
第2回	初発期	7月10日	7月29日	-	7月21日	7月28日	7月26日
	最盛期	7. VI	8. I	-	7. V	8. I	8. I
	終息期	8月10日	8月14日	-	8月4日	8月2日	8月14日
第3回	初発期	8月15日	8月24日	-	8月27日	8月16日	8月29日
	最盛期	8. III	8. V	-	9. I	8. IV	9. II
	終息期	9月10日	9月15日	-	9月18日	9月7日	9月13日
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

畦畔すくい取りによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長沼町		比布町		北斗市	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	5月25日	6月6日	6月8日	6月15日	5月26日	6月10日
	最盛期	6. II	6. IV	6. III	6. IV	6. IV	6. V
	終息期	6月15日	6月24日	6月20日	6月21日	6月18日	6月27日
第2回	初発期	6月25日	7月14日	7月20日	7月16日	7月7日	7月25日
	最盛期	7. IV	8. I	7. IV	7. IV	7. V	7. V
	終息期	8月5日	8月15日	-	7月25日	8月1日	7月28日
第3回	初発期	8月10日	8月19日	8月27日	9月12日	9月27日	8月24日
	最盛期	8. IV	8. VI	9. III	9. III	10. II	8. VI
	終息期	-	9月25日	-	9月22日	10月13日	9月28日
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

水田フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	-	6月15日	6月11日	6月18日	6月25日	6月19日
	最盛期	-	6月21日	1月0日	6月20日	6月25日	6月30日
	終息期	-	6月26日	6月20日	6月29日	6月28日	7月8日
	総誘殺数	0	6.2	3	7.2	5	27.5
第2回	初発期	6月25日	7月12日	7月18日	7月15日	7月1日	7月13日
	最盛期	8月5日	7月24日	7月22日	7月30日	7月25日	7月26日
	終息期	8月10日	8月6日	8月1日	8月7日	8月8日	8月12日
	総誘殺数	83	26.1	45	66.3	114	53.8
第3回	初発期	8月15日	8月12日	8月15日	8月19日	8月12日	8月16日
	最盛期	8月20日	8月22日	9月3日	9月5日	8月12日	8月27日
	終息期	-	9月21日	9月13日	9月13日	9月9日	9月13日
	総誘殺数	80	33.9	19	21.4	38	29.9
平年数		10		10		10	

畦畔フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	6月5日	6月5日	6月5日	6月12日	-	6月13日
	最盛期	6月15日	6月20日	-	6月15日	-	6月23日
	終息期	6月30日	7月7日	6月25日	6月24日	-	6月25日
	総誘殺数	16	39.6	5	4.7	0	6.5
第2回	初発期	7月5日	7月13日	7月12日	7月19日	7月7日	7月16日
	最盛期	7月15日	7月29日	7月30日	7月29日	7月7日	7月25日
	終息期	8月5日	8月18日	8月2日	8月7日	7月31日	8月2日
	総誘殺数	91	92.6	42	22.2	5	15.3
第3回	初発期	8月10日	8月22日	8月6日	8月15日	8月29日	8月12日
	最盛期	8月10日	9月1日	8月31日	9月2日	-	8月24日
	終息期	-	10月5日	10月5日	9月25日	9月9日	9月15日
	総誘殺数	89	53.2	55	34.3	2	13.8
平年数		10		10		10	

予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	-	0	-	0	-
2	0	-	0	-	0	-
3	0	0	0	-	0	-
4	0	0	0	-	0	-
5	0	0	0	-	0	-
6	0	0	0	-	2	-
6. 1	1	1	0	2	0	1
2	1	3	1	2	13	1
3	1	10	9	3	8	2
4	58	5	0	2	7	2
5	5	6	0	1	5	1
6	8	9	6	2	14	5
7. 1	12	9	1	1	19	27
2	302	29	23	2	291	30
3	394	198	14	8	67	37
4	609	665	13	22	258	131
5	138	561	144	19	580	167
6	1407	1045	26	123	490	130
8. 1	521	728	4	39	334	85
2	1154	318	28	32	37	51
3	775	360	2	23	4	45
4	632	175	70	16	727	51
5	629	138	321	21	659	58
6	81	97	135	19	281	45
9. 1	40	31	8	12	203	32
2	44	43	10	35	93	26
3	47	15	18	9	57	2
4	95	4	4	27	14	3
5	0	2	1	1	0	0
6	0	3	0	0	1	0
平年数	10		10		10	

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

予察田におけるアカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0
6	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0.5	0	0
7. 1	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	1.3	0	0
2	2.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0
3	0	0	0	0.4	0	1.0	0	0	0	0.8	0	0
4	12.5	1.9	0	0	0	5.5	0	0	0	0.3	0	0
5	5.0	5.4	0	0.1	0	2.8	0	0	0	1.8	0	0
6	22.5	5.0	10.0	0.1	0	3.0	0	3.3	2.5	4.4	0	0.4
8. 1	12.5	2.8	0	0.5	0	1.0	0	1.5	5.0	5.8	0	0
2	5.0	4.8	0	0.6	0	0	5.0	1.7	0	3.3	2.5	0.5
3	22.5	4.4	0	2.7	0	0.5	0	11.3	0	2.8	0	1.0
4	5.0	2.9	0	0.9	0	2.5	5.0	12.0	5.0	1.8	7.5	4.0
5	2.5	4.5	0	1.0	0	0.6	2.5	2.5	2.5	2.3	10.0	7.3
6	0	3.8	7.5	1.3	0	5.3	0	9.0	2.5	0.8	0	9.8
9. 1	5.0	4.0	15.0	1.0	0	3.3	0	3.9	0	3.3	0	6.0
2	5.0	0.9	2.5	1.5	0	1.9	0	1.1	2.5	3.8	0	5.5
3	0	0.1	0	0.5	0	2.8	0	0	0	3.8	0	1.8
4	0	0.8	0	0	0	3.3	0	3.3	-	1.4	0	1.7
5	-	0.2	-	0	0	1.5	0	0	-	0.6	0	0
6	-	0.2	-	0.2	0	0	0	0	-	0	0	-
平年数	10				10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

畦畔におけるアカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
2	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
3	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
4	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
5	1.3	1.0	11.3	11.7	0	0	0	0	0	-	0	-
6	0	0	7.5	4.7	0	0	5.0	0	2.5	-	0	-
6. 1	0	4.5	2.5	1.6	0	0	0	1.1	0	0.3	0	0.1
2	3.8	7.1	2.5	3.1	5.0	2.8	5.0	0	0	1.5	0	0
3	0	22.8	0	0.5	10.0	3.0	0	0	2.5	0.5	0	0
4	0	8.8	1.5	0.5	0	4.8	0	0	15.0	1.3	12.5	0
5	1.3	1.8	0	0	0	1.7	0	0	0	0.8	0	0.3
6	2.5	5.8	2.5	0.3	0	0.5	0	0	0	1.5	0	0
7. 1	15.0	5.9	0	0.1	0	0.6	0	0	0	2.0	0	1.0
2	12.5	5.5	10.0	0.6	0	0.3	15.0	3.0	2.5	0.3	0	0.8
3	10.0	1.9	0	0.5	0	0.8	0	6.5	0	1.0	0	1.0
4	70.0	11.9	10.0	2.4	10.0	5.0	0	8.0	0	2.0	0	2.0
5	20.0	17.4	2.5	2.1	0	2.8	0	0	10.0	5.3	0	5.5
6	12.5	25.5	0	2.6	0	0.5	0	0	2.5	6.0	0	2.0
8. 1	2.5	12.1	0	3.4	0	1.0	0	0	2.5	1.8	0	0.5
2	25.0	7.8	0	3.9	0	0	0	0	0	4.5	0	7.0
3	22.5	10.7	0	1.8	0	0	0	1.5	0	2.0	0	2.3
4	45.0	10.8	0	3.3	0	0	0	0	0	7.8	0	1.8
5	10.0	16.6	2.5	4.3	0	1.7	0	0	0	14.8	0	3.5
6	30.0	10.2	12.5	2.0	5.0	5.0	0	0	0	8.3	0	1.8
9. 1	37.5	12.1	15.0	1.8	25.0	4.7	0	0	0	5.5	0	2.3
2	2.5	9.7	15.0	1.9	10.0	3.9	0	0	0	1.8	0	0.3
3	22.5	5.4	15.0	1.4	47.5	1.7	0	0	0	2.3	0	1.3
4	2.5	4.1	20.0	1.3	10.0	8.6	0	1.4	0	3.0	0	0.5
5	5.0	6.4	7.5	2.5	15.0	1.1	0	0	0	1.8	0	0.8
6	10.0	2.5	5.0	0.1	5.0	5.0	0	0.7	2.5	1.5	0	0.3
平年数	10				10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

水田フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗		
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
6.	1	0	0.1	0	0.3	0	0
	2	0	0.6	0	0	0	0
	3	0	0.6	2	0.1	0	0.3
	4	0	2.5	1	2.5	0	6.1
	5	1	1.4	0	1.5	2	5.2
	6	1	1.1	0	2.4	3	6.5
7.	1	2	0.8	0	0.9	3.7	6.4
	2	2	1.7	0	1.5	6.3	4.1
	3	2	2.5	0	2.8	8	5.8
	4	5	3.6	12	4.4	9	4.3
	5	3	4.0	22	6.5	37	7.6
	6	25	5.7	9	10.7	36	16.0
8.	1	28	8.3	2	9.4	11	13.4
	2	14	3.8	0	2.2	3	8.5
	3	29	7.6	1	2.5	10	6.5
	4	30	6.6	1	1.7	11	3.5
	5	8	4.7	1.3	3.1	7	5.8
	6	3	2.5	6.7	3.5	8	4.2
9.	1	2	3.2	7	4.3	0	3.6
	2	0.5	1.9	0	3.2	2	2.8
	3	2.5	1.4	2	1.4	0	2.1
	4	5	0.9	0	1.1	-	0.4
	5	-	0.4	-	0.7	-	0
	6	-	0.1	-	0	-	-
平年数	10		10		10		

畦畔フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	2	7.3	1	1	0	0.2
2	3	6.2	2	0.3	0	0.1
3	7	6.3	0	1.3	0	0.9
4	2	5.2	0	1.3	0	2.1
5	2	4.8	2	1	0	1.1
6	0	6.0	0	0.5	0	1.4
7. 1	10.3	7.2	0	0.2	0	0.8
2	3.6	6.7	0	0.1	2	0.9
3	17	6.6	2	1	0	1.7
4	15	10.5	8	2.5	0	1.7
5	10	15.7	6	4	0	2.7
6	31	17.2	21	7	3	3.8
8. 1	4	14.1	7	5.5	0	3.6
2	27	13.3	9	3.3	0	1.8
3	6	9.7	5	3.7	0	2
4	8	8.5	5	4	0	1.9
5	11	9.1	8.3	3.4	0	1.8
6	9	6.2	11.7	3.6	1	1.4
9. 1	2	8.4	4	4.1	0	1.9
2	4	7.8	3	4.8	1	1.6
3	5	4.8	3.3	2.8	0	0.7
4	7	4.5	1.8	2.5	0	0.9
5	4	3.2	3	2.1	0	0.4
6	6	2.8	0	2	0	0.5
平年数	10		10		10	

秋まき小麦畑におけるアカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	-	0	-	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	1.0	0	0	0	0	0	0
6. 1	0	5.5	0	0.3	0	2.8	0	0
2	27.5	18.3	0	2.6	0	14.3	0	0.5
3	7.5	13.9	0	2.6	0	12.0	5.0	0.5
4	1.3	10.9	0	5.7	5.0	16.8	0	0
5	3.8	3.6	0	0.6	5.0	2.8	0	0
6	1.3	5.0	17.5	16.9	0	1.8	0	66.0
7. 1	0	1.3	16.3	35.3	0	1.1	25.0	212.5
2	0	1.1	56.3	81.5	20.0	2.0	90.0	126.5
3	6.3	3.6	18.8	54.8	-	13.3	-	105.8
4	-	9.0	-	58.1	-	11.9	-	29.4
5	-	13.8	-	22.5	-	5.0	-	2.1
6	-	-	-	-	-	27.5	-	0
平年数	10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

割れ籾率およびカメムシによる粗玄米の斑点米率

	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
割れ籾率(%)	0.54	3.94	8.65	10.44	14.86	9.37
斑点米率(%) 頂部	0.11	0.06	0.02	0.01	0.76	0.12
側部	0.38	0.20	0.13	0.09	1.30	0.58
合計	0.49	0.26	0.15	0.10	2.06	0.70
調査品種	ななつぼし		きらら397		ななつぼし	
平年数	9		10		9	

注) 北斗市平年品種、2016年以前は「きらら397」、2017年以降は「ななつぼし」

巡回調査結果

一般田におけるすくい取りによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生状況

振興局	普及センター	調査地点数	畦畔すくい取り成幼虫数			水田すくい取り成幼虫数	
			6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬	7月6半旬	8月3半旬
空知	本所	6	0.5	0	0.3	2.5	0.3
	南東部	2	0.5	0	3.0	0	0
	南西部	3	1.3	9.0	6.0	2.0	0.3
	中空知	4	1.3	4.5	13.0	0.3	0.3
	北空知	7	0.9	0.9	1.1	0	0
石狩	本所	3	0	3.3	6.7	17.7	1.3
	北部	7	0.3	1.6	0.6	3.1	0.3
後志	本所	4	0	1.0	0.8	0.5	0
胆振	東胆振	4	0.5	0.8	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0	0
渡島	本所	1	0	0	0	1.0	0
檜山	本所	2	1.0	1.0	0	0.5	0
	北部	2	0	0.5	0	0	1.0
上川	本所	7	0	0.4	2.0	1.0	0
	富良野	3	0.3	0.3	0.7	2.0	0
	大雪	4	0.8	0.8	2.0	0.3	0
	士別	3	1.0	3.3	0	0	0
	名寄	3	0	3.0	0	0.3	0.3
留萌	本所	4	0	0	1.5	0	0
	南留萌	2	0	0	1.0	1.0	0

注) 20回振りの合計頭数を示した。畦畔には牧草地・小麦畑を含む。

13 イネミギワバエ 発生期 並 発生量 少

発生面積 160ha( 0.2% : 平年 2.3%) 被害面積 13ha( 0.01% : 平年 0.6%)

発生経過の概要

- ・予察田畦畔すくい取りによる初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町で平年よりやや遅かった。水田すくい取りによる捕獲数は長沼町で平年より多く、北斗市では平年並であった。
- ・一般田における発生面積率は平年より低かった。被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・本種による被害は地域差が大きい。檜山地方は常発地であるが本年は発生量が少なかった。
- ・一般田では、防除が適切に行われた。

予察田におけるイネミギワバエの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
畦畔すくい取り 成虫	初発期	6月29日	6月24日	-	-	4月20日	6月1日
	最盛期	8. III	8. I	-	-	6. I	6. VI
	終息期	8月25日	8月4日	-	-	7月28日	7月21日
水田すくい取り 成虫	初発期	6月20日	6月30日	-	-	6月18日	6月11日
	最盛期	7. I	7. IV	-	-	6. V	6. VI
	終息期	8月25日	7月30日	-	-	7月3日	7月6日
産卵	初発期	-	-	-	-	-	-
幼虫被害	初発期	-	6. V	-	-	-	6. II
平年数		10		5		5	

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察田及び畦畔におけるイネミギワバエ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布		北 斗			
	畦 畔		本 田		本 田		畦 畔		本 田	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
4. 1	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-
2	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-
3	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-
4	0	0.2	-	-	-	-	1.7	0.0	-	-
5	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
6	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
5. 1	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
2	0	0.0	-	-	-	-	2.5	0.0	-	-
3	0	0.0	-	-	-	-	0	0.1	-	-
4	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
5	0	0.5	-	-	-	-	0	0.5	-	-
6	0	0.2	-	-	-	-	0	1.5	-	-
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	-	7.5	0.0	0	0.5
2	0	0.0	0	0.0	0	1.0	0	1.5	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	5.0	0	0.5
4	0	0.0	2.5	0.0	0	0.0	0	3.5	5	8.0
5	0	0.3	0	0.3	0	2.0	7.5	31.5	27.5	20.5
6	2.5	0.1	5	0.6	0	10.0	0	24.5	10	9.5
7. 1	2.5	2.0	15	1.1	0	0.0	0	15.0	2.5	11.0
2	0	1.0	2.5	0.9	0	0.0	0	9.0	0	6.0
3	0	0.4	2.5	1.3	0	1.0	0	2.5	0	1.0
4	0	0.6	2.5	0.9	0	0.0	0	0.5	0	0.0
5	0	0.3	0	0.8	0	0.0	0	0.8	0	0.0
6	0	0.7	0	0.8	0	1.0	2.5	0.0	0	0.0
8. 1	0	0.6	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.4	0	0.1	0	0.0	0	1.0	0	0.0
3	10	0.8	0	0.6	0	0.0	0	0.5	0	0.0
4	2.5	0.3	2.5	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	1.0	0	0.5
平年数	10				5		5			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

14 コブノメイガ 発生期 - 発生量 少

発生経過の概要

- ・北斗市において、予察灯による初誘殺期は平年より遅かった。6月から8月の誘殺数は平年よりやや多かった。
- ・予察田における被害株率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・8月中旬以降成虫が飛来したと考えられる。水稻の成熟は平年より早く、9月上旬には成熟期を迎えており、被害は少なかったと推測される。

予察灯によるコブノメイガの第1回発生期（北斗）

	本 年	平 年
初飛来日	8月20日	8月10日
終 息 日	8月20日	8月12日
誘 殺 数	2	0.7
平 年 数	10	

注) 予察灯は乾式の100W水銀灯による。

予察灯によるコブノメイガ成虫の誘殺数および予察田における被害推移（北斗）

月半旬	成虫誘殺数		被害株率(%)		
	本年	平年	本年	平年	
6.	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0
7.	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0
8.	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	0	0.0
	3	0	0.5	0	0.0
	4	2	0.0	0	0.2
	5	0	0.0	0	0.2
	6	0	0.0	2	0.8
9.	1	0	0.0	0	1.0
	2	0	0.0	0	2.6
	3	2	0.0	-	4.0
	4	1	0.2	-	0.0
	5	0	0.1	-	0.0
	6	0	0.0	-	-
平年数	10				

15 フタオビコヤガ 発生期 並 発生量 少

発生面積 1,370ha(1.5%：平年7.8%) 被害面積 0ha(0%：平年0.1%)

発生経過の概要

- ・予察灯による第2～3回成虫の誘殺数は北斗市及び比布町で平年より少なかった。長沼町では誘殺が認められなかった。予察田における被害株率は、長沼町で平年より高く、比布町で平年並であった。北斗市では被害が認められなかった。
- ・一般田における発生面積率は平年より低く、被害も認められなかった。

発生原因の解析

- ・近年発生は減少傾向で、越冬密度は低かったと推測される。
- ・一般田では、イネドロオイムシ対策で使用される薬剤による同時防除がなされたと推測される。

予察灯によるフタオビコヤガ成虫の発生期

世代		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回成虫	初発日	-	-	-	-	-	-
	最盛日	-	-	-	-	-	-
	50%誘殺日	-	-	-	-	-	-
	終息日	-	-	-	-	-	-
	総誘殺数	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	性比(♀/♀+♂)	0.00	-	0.00	-	0.00	-
第2回成虫	初発日	-	7月9日	-	7月3日	-	7月4日
	最盛日	-	7月12日	-	7月9日	-	7月7日
	50%誘殺日	-	7月11日	-	7月11日	-	7月7日
	終息日	-	7月14日	-	7月18日	-	7月7日
	総誘殺数	0	14.0	0	66.2	0	1.5
	性比(♀/♀+♂)	0.00	0.78	0.00	0.82	0.00	0.80
第3回成虫	初発日	-	7月30日	7月22日	7月26日	8月21日	8月9日
	最盛日	-	8月7日	7月28日	8月3日	-	8月17日
	50%誘殺日	-	8月8日	7月28日	8月4日	8月26日	8月17日
	終息日	-	9月1日	8月10日	8月27日	8月26日	8月24日
	総誘殺数	0	127.0	25	456.3	2	12.9
	性比(♀/♀+♂)	0.00	0.76	0.96	0.84	0.00	0.67
平 年 数		10		10		10	

注) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

予察灯によるフタオビコヤガ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗				
	雌	雄	合計	平年	雌	雄	合計	平年	雌	雄	合計	平年	
5.	1	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
	2	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
	3	0	0	0	0.0	0	0	0	-	0	0	0	-
	4	0	0	0	0.0	0	0	0	-	0	0	0	-
	5	0	0	0	0.0	0	0	0	-	0	0	0	-
	6	0	0	0	0.0	0	0	0	-	0	0	0	-
6.	1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	2	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	5	0	0	0	0.0	0	0	0	0.9	0	0	0	0.0
	6	0	0	0	0.0	0	0	0	4.1	0	0	0	0.0
7.	1	0	0	0	0.3	0	0	0	20.4	0	0	0	0.5
	2	0	0	0	4.7	0	0	0	30.4	0	0	0	0.1
	3	0	0	0	8.5	0	0	0	8.0	0	0	0	0.9
	4	0	0	0	0.5	0	0	0	2.9	0	0	0	0.0
	5	0	0	0	0.3	4	0	4	4.6	0	0	0	0.4
	6	0	0	0	3.1	16	1	17	107.3	0	0	0	0.3
8.	1	0	0	0	32.8	3	0	3	220.9	0	0	0	3.5
	2	0	0	0	23.4	1	0	1	74.1	0	0	0	1.8
	3	0	0	0	43.4	0	0	0	30.6	0	0	0	1.3
	4	0	0	0	4.0	0	0	0	12.3	0	0	0	0.4
	5	0	0	0	1.9	0	0	0	2.4	0	1	1	0.0
	6	0	0	0	1.3	0	0	0	1.1	0	1	1	0.5
9.	1	0	0	0	0.9	0	0	0	1.9	0	0	0	3.3
	2	0	0	0	0.6	0	0	0	1.8	0	0	0	1.4
	3	0	0	0	0.0	0	0	0	1.1	0	0	0	0.1
	4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	5	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	6	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
平年数		10				10				10			

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

フェロモントラップによるフタオビコヤガ成虫の発生期

世代		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回成虫	初発日	5月24日	-	5月21日	-	-	-
	最盛日	5月31日	-	-	-	-	-
	50%誘殺日	5月31日	-	-	-	-	-
	終息日	6月15日	-	6月4日	-	-	-
	総誘殺数	121.0	-	2.0	-	-	-
	第2回成虫	初発日	6月20日	-	6月29日	-	-
	最盛日	7月10日	-	6月29日	-	-	-
	50%誘殺日	7月10日	-	6月29日	-	-	-
	終息日	7月20日	-	7月9日	-	-	-
	総誘殺数	108.0	-	5.0	-	-	-
第3回成虫	初発日	7月25日	-	7月20日	-	8月1日	-
	最盛日	7月31日	-	8月1日	-	-	-
	50%誘殺日	8月5日	-	8月2日	-	8月16日	-
	終息日	9月25日	-	9月10日	-	8月22日	-
	総誘殺数	128.0	-	86.0	-	5.0	-
平年数		0		0		0	

フェロモントラップによるフタオビコヤガ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5.	1	-	-	-	-	-
	2	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	-	0
	4	0	-	0	-	0
	5	30	-	1	-	0
	6	49	-	0	-	0
6.	1	23	-	1	-	0
	2	18	-	0	-	0
	3	1	-	0	-	0
	4	3	-	0	-	0
	5	2	-	0	-	0
	6	12	-	3	-	0
7.	1	23.3	-	0.5	-	0
	2	57.7	-	1.5	-	0
	3	7	-	0	-	0
	4	3	-	1	-	0
	5	24	-	12	-	0
	6	34	-	17	-	0
8.	1	26	-	26	-	2
	2	20	-	2	-	0
	3	0	-	4	-	0
	4	1	-	0	-	1
	5	3	-	8	-	2
	6	9	-	5	-	0
9.	1	1	-	8	-	0
	2	2.2	-	3	-	0
	3	5.8	-	0	-	0
	4	1	-	0	-	0
	5	1	-	0	-	0
	6	0	-	0	-	0
平年数		0		0		0

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況と被害推移

地点	月半月旬	幼虫数		被害株率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	6. 1	0	0.1	0	0.0	10 (被害株率は3年)
	2	0	0.1	0	0.0	
	3	1	0.6	4	0.0	
	4	1	0.6	12	2.7	
	5	0	0.4	20	8.0	
	6	0	0.6	20	11.3	
	7. 1	0	0.4	20	11.3	
	2	0	0.3	28	16.0	
	3	0	0.2	36	16.0	
	4	1	0.7	88	-	
	5	2	1.1	96	-	
	6	0	1.5	100	-	
	8. 1	0	0.9	100	-	
	2	0	0.5	100	-	
	3	0	0.5	64	-	
	4	0	0.5	44	-	
	5	0	0.3	42	-	
	6	0	0.6	28	-	
比布	6. 1	0	0.0	0	0.0	10 (被害株率は7年)
	2	0	0.0	0	0.0	
	3	0	0.2	0	0.0	
	4	0	0.3	0	0.0	
	5	0	0.0	0	0.0	
	6	0	0.2	0	1.1	
	7. 1	0	0.1	0	1.1	
	2	0	0.1	0	1.1	
	3	0	1.5	0	6.0	
	4	0	1.2	0	9.3	
	5	0	0.5	0	13.6	
	6	0	0.4	0	10.4	
	8. 1	0	0.2	0	13.3	
	2	0	0.7	4	19.0	
	3	0	0.8	12	24.8	
	4	0	1.9	48	44.0	
	5	0	2.3	52	67.2	
	6	0	0.2	60	68.0	
北斗	6. 1	0	0.0	0	0.0	10 (被害株率は8年)
	2	0	0.0	0	0.0	
	3	0	0.0	0	0.0	
	4	0	0.0	0	0.0	
	5	0	0.0	0	0.0	
	6	0	0.0	0	0.8	
	7. 1	0	0.1	0	0.5	
	2	0	0.1	0	1.8	
	3	0	0.0	0	1.8	
	4	0	0.0	0	2.5	
	5	0	0.1	0	2.0	
	6	0	0.0	0	2.0	
	8. 1	0	0.0	0	3.0	
	2	0	0.0	0	5.0	
	3	0	0.0	0	3.8	
	4	0	0.0	0	4.8	
	5	0	0.1	0	4.5	
	6	0	0.0	0	5.0	

注) 数値は25株の合計を示した。

16 アワヨトウ 発生期 やや遅 発生量 やや少

発生経過の概要

- ・長沼町、比布町及び北斗市いずれの地点においても予察灯による誘殺は認められなかった。
- ・8月中旬に上川地方の一部で水稻に幼虫の寄生が確認された。

発生原因の解析

- ・6月から7月に成虫飛来があったものと考えられるが、飛来量は少なく局所的であったと推測される。

予察灯によるアワヨトウ成虫の発生期

世 代		北 斗	
		本 年	平 年
第1回	初発日	-	-
	最盛期	-	-
	終息日	-	-
第2回	初発日	-	-
	最盛期	-	-
	終息日	-	-
平年数		10	

予察灯によるアワヨトウ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗		
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
5.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.5
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.1
8.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	-	-	0	0.0
	5	-	0.0	-	-	0	0.0
	6	-	0.0	-	-	-	0.0
平年数	10		10		10		

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

アヲヨトウ成虫、幼虫の発生確認状況

調査・報告月日	振興局	市町村	ステージ	頭数	作物	備 考
8月16日	上川	旭川市	幼虫	2頭/ほ場	水稻	中老齢、緑色型

## (Ⅱ) 小麦の病害虫

### 予察ほにおける小麦の生育期

秋まき小麦

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		止葉期(月日)		出穂期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	9月16日	9月21日	10月3日	9月28日	5月22日	5月24日	6月1日	6月2日	6月8日	6月9日	7月14日	7月16日	10
芽室	きたほなみ	9月22日	9月21日	9月28日	9月28日	5月25日	5月25日	6月1日	6月4日	6月8日	6月9日	7月17日	7月20日	10
訓子府	きたほなみ	9月16日	9月21日	9月23日	9月28日	5月23日	5月29日	6月2日	6月8日	6月9日	6月14日	7月20日	7月22日	10

春まき小麦

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		止葉期(月日)		出穂期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	春よ恋	4月14日	4月19日	4月30日	5月3日	6月9日	6月12日	6月17日	6月20日	6月20日	6月25日	7月25日	7月30日	10
比布	春よ恋	4月20日	4月18日	5月3日	4月30日	6月9日	6月11日	6月17日	6月20日	6月20日	6月25日	7月25日	7月29日	8

### 1 赤さび病 発生期 やや早 発生量 多

発生面積 49,442 ha (37.9% : 平年 17.1%) 被害面積 12,256 ha (9.4% : 平年 3.1%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は長沼町及び芽室町で平年より早かった。訓子府町では平年より遅かった。発生量は長沼町で平年より多く、芽室町では平年並、訓子府町では平年より少なかった。
- ・一般ほでの発生面積率、被害面積率ともに平年より高かった。

#### 発生原因の解析

- ・4～6月の気象が高温に経過したため、発生時期が早まったところでは発生量も多くなった。

### 予察ほにおける赤さび病の発生期

地点	品種名	初発期		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	4月5日	4月20日	6.4	6.5	10
芽室	きたほなみ	4月28日	5月13日	6.4	6.6	10
訓子府	きたほなみ	5月26日	5月15日	6.6	7.2	10

### 予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	長沼					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0.03	0	0	0.02	0	0.00
5.2	0.08	0	0	0.05	0	0.01
5.4	0.02	0	0	0.13	0	0.00
5.6	0.12	0	0.16	0.77	0.02	0.25
6.2	4.43	0.09	1.38	2.77	0.37	2.17
6.4	26.21	4.48	28.10	10.72	4.34	11.74
6.6	40.40	40.40	-	24.04	15.42	31.56

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) -は葉の枯凋により調査不能。

地点	芽室					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0.00	0	0	0.01	0	0
5.2	0.00	0	0	0.01	0	0
5.4	0.00	0	0	0.02	0	0.01
5.6	0.00	0	0	0.02	0	0.00
6.2	0.08	0	0.01	0.40	0.00	0.16
6.4	3.57	0.64	3.25	1.31	0.32	0.95
6.6	6.55	6.34	6.58	6.53	4.73	6.87
7.2	-	-	-	9.26	7.88	9.30

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) - は葉の枯凋により調査不能。

地点	訓子府					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.00	0	0
5.2	0	0	0	0.00	0	0
5.4	0	0	0	0.01	0	0
5.6	0	0	0	0.00	0	0
6.2	0.01	0	0	0.05	0.00	0.02
6.4	0.16	0	0.03	0.33	0.05	0.24
6.6	0.82	0.23	0.58	3.24	1.10	2.66
7.2	1.39	0.42	1.04	9.09	4.98	14.11

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

## 巡回調査結果

### 一般ほにおける赤さび病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率(%)			振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率(%)		
		5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬			5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬
空知	本所	0	0	-	留萌 オホーツク	本所	0	0	22.0
	南東部	0	0	-		本所	-	0	0
	南西部	0	0	-		清里	-	0	16.7
	北空知	0	0	-		網走	-	0	0
石狩	本所	0	0	0	美幌	-	0	0	
	北部	0	0	0		遠軽	-	0	16.7
後志	本所	0	0	0.7	紋別	-	0	0	
胆振	本所	0	0	-	十勝	本所	0	0	-
	東胆振	0	0	-		東部	0	0	-
檜山	本所	0	0	-		東北部	0	0	-
	北部	0	0	-		北部	0	0	-
上川	本所	0	0	0		西部	0	0	-
	富良野	0	3.3	-		南部	0	0	-
	大雪	0	0	0					
	士別	0	0	-					
	名寄	0	0	0					

注1) - は調査対象外

## 2 うどんこ病 発生期 やや早 発生量 並

発生面積 7,285 ha ( 5.6 % : 平年 4.7%) 被害面積 224 ha ( 0.2 % : 平年 0.2%)

### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は芽室町で平年より早く、長沼町で平年並、訓子府町で平年よりやや遅かった。発生量は芽室町で平年より多く、長沼町及び訓子府町では平年より少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は5.6%、被害面積率は0.2%とともに平年並だった。

### 発生原因の解析

- ・基幹品種が抵抗性を有するため、発生量は平年並に少なくなっている。

### 予察ほにおけるうどんこ病の発生期

地点	品種名	初発期		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	5月2日	5月3日	-	6.2	9
芽室	きたほなみ	4月28日	5月19日	5.4	6.3	10
訓子府	きたほなみ	5月15日	5月11日	-	6.2	10

注1) -は発生が少なく解析不能。

### 予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	長沼					
	品種名					
	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.02	0	0.01
5.2	0	0	0	0.08	0	0.01
5.4	0.00	0	0	0.08	0	0.00
5.6	0.00	0	0	0.08	0.00	0.03
6.2	0.01	0	0	0.25	0.00	0.07
6.4	0.00	0	0	0.29	0.01	0.12
6.6	0	0	-	0.29	0.08	0.22

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) -は赤さび病の被害または葉の枯凋により調査不能。

地点	芽室					
	品種名					
	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0.00	0	0	0.00	0	0
5.2	0.01	0	0	0.00	0	0
5.4	0.08	0	0.01	0.00	0	0.00
5.6	0.13	0	0	0.01	0	0.00
6.2	0.25	0.00	0.01	0.02	0.00	0.00
6.4	0.24	0.03	0.06	0.03	0.00	0.01
6.6	0	0	0	0.01	0	0.00
7.2	-	-	-	0.04	0.02	0.03

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) -は赤さび病の被害または葉の枯凋により調査不能。

地点	訓子府					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.01	0	0.00
5.2	0	0	0	0.04	0	0.00
5.4	0	0	0	0.04	0	0.01
5.6	0	0	0	0.03	0	0
6.2	0	0	0	0.04	0	0.00
6.4	0	0	0	0.17	0.00	0.04
6.6	0	0	0	0.39	0.03	0.13
7.2	0	0	0	0.11	0.03	0.20

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

## 巡回調査結果

### 一般ほにおけるうどんこ病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率 (%)			振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率 (%)			
		5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬			5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬	
空知	本所	0.8	0	-	留萌	本所	0	2.5	0	
	南東部	0	0	-		オホーツク	本所	-	0	0
	南西部	0	0	-			清里	-	0	0
	北空知	0	0	-			網走	-	0	0
石狩	本所	0	0	0	美幌		-	0	0	
	北部	0	0	0	遠軽	-	0	0		
後志	本所	0	0	0	紋別	-	0	0		
胆振	本所	0	0.3	-	十勝	本所	0	0	-	
	東胆振	0	0	-		東部	0	0	-	
檜山	本所	0	0	-		東北部	0	0	-	
	北部	0	0	-		北部	0	0	-	
上川	本所	0	0	0		西部	0	0	-	
	富良野	0	0	-		南部	0	0	-	
	大雪	0	0	0	注1) -は調査対象外					
	士別	0	0	-						
	名寄	0.7	0.7	0						

### 3 雪腐病 発生期 - 発生量 少

発生面積 27,874 ha ( 21.3% : 平年 30.8%) 被害面積 2,268 ha ( 1.7% : 平年 4.0%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける発病度は長沼町では平年より低く、芽室町及び訓子府町では平年より高かった。長沼町では紅色雪腐病、芽室町では雪腐大粒菌核病及び紅色雪腐病が、訓子府町では雪腐大粒菌核病が優占した。
- ・一般ほにおける発生面積率は21.3%、被害面積率は1.7%といずれも平年より低かった。雪腐褐色小粒菌核病または紅色雪腐病が優占した地域が多かったが、被害が認められた地域では褐色雪腐病または雪腐大粒菌核病の発生が認められた。

#### 発生原因の解析

- ・根雪前の防除が適切に実施されている。春季の融雪が順調で積雪下での過湿状態が続かなかつたと推測される。

小麦予察ほ場における気象季節

地点	根雪始		融雪期		積雪期間	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼	12月2日	12月9日	3月24日	3月27日	113	109
芽室	12月18日	12月5日	3月26日	4月2日	99	120
訓子府	12月18日	12月12日	3月18日	3月30日	91	109

予察ほにおける雪腐病の発生状況

地点	品種名	発病度		平年数
		本年	平年	
長沼	きたほなみ	5.2	11.4	10
芽室	きたほなみ	44.8	28.0	10
訓子府	きたほなみ	74.5	23.1	10

予察ほにおける病原菌別割合

地点	長沼	
品種名	きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	0
黒色小粒菌核病	0	3.1
褐色小粒菌核病	24	59.9
紅色雪腐病	76	31.6
褐色雪腐病	0	5.5

地点	芽室	
品種名	きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年
雪腐大粒菌核病	43.0	26.5
黒色小粒菌核病	17.0	10.8
褐色小粒菌核病	0	7.9
紅色雪腐病	39.9	54.8
褐色雪腐病	0	0

地点	訓子府	
品種名	きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年
雪腐大粒菌核病	98	41.4
黒色小粒菌核病	0	34.0
褐色小粒菌核病	0	2.0
紅色雪腐病	2	22.6
褐色雪腐病	0	0

#### 4 眼紋病 発生期 — 発生量 やや多

発生面積 10,074 ha (7.7% : 平成 4.0%) 被害面積 2,525 ha (1.9% : 平成 0.2%)

##### 発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は7.7%、被害面積率は1.9%とともに平成よりやや多かった。特に上川及び留萌地方での被害が目立った。

##### 発生原因の解析

・春季は温暖で全体的には本病の発生に好適ではなかったが、日本海側では4月の融雪後断続的に降雨が認められ寡照となり、発病に好適な条件が認められた。  
・小麦の過作傾向により発病が助長されている。

#### 5 赤かび病

##### 秋まき小麦 発生期 — 発生量 やや多

発生面積 13,125 ha (10.0% : 平成 23.5%) 被害面積 112 ha (0.1% : 平成 4.8%)

##### 発生経過の概要

・予察ほにおける発生は長沼町で平成より多く、芽室町で平成並だった。訓子府町では発生が認められなかった。発生菌種割合は長沼町では *Fusarium graminearum*、芽室町では *Microdochium nivale* が優先した。  
・一般ほにおける発生面積率は10.0%、被害面積率は0.1%といずれも平成よりやや低かった。

##### 発生原因の解析

・感染に重要な開花始(6月中～下旬)の降雨が少なく、適切に防除が実施された。

##### 予察ほにおける赤かび病の発生状況(秋まき小麦)

地点	品種名	調査月日	病穂率(%)		発病小穂率(%)		平成数
			本年	平成	本年	平成	
長沼	きたほなみ	7月4日	15.5	5.3	1.13	-	10
芽室	きたほなみ	7月7日	8.3	8.2	0.75	-	10
訓子府	きたほなみ	7月4日	0	10.8	0	-	10

注1) -は平成値なし

##### 予察ほにおける病原菌割合

地点	長沼		芽室		訓子府	
	きたほなみ		きたほなみ		きたほなみ	
病原菌種名	本年	平成	本年	平成	本年	平成
<i>M.nivale</i>	5.0	38.8	96.6	56.5	-	49.0
<i>F.avenaceum</i>	0	1.3	0	12.7	-	7.8
<i>F.graminearum</i>	95.0	59.3	3.4	28.5	-	42.8
<i>F.culmorum</i>	0	0.6	0	1.9	-	0.5
調査穂数	20		29		-	

注1) -は赤かび病の発生がないため、調査不能

##### 春まき小麦(春まき栽培) 発生期 — 発生量 少

発生面積 2,454 ha (13.8% : 平成 19.1%) 被害面積 57 ha (0.3% : 平成 3.2%)

##### 春まき小麦(初冬まき栽培) 発生期 — 発生量 やや少

発生面積 136 ha (15.8% : 平成 31.7%) 被害面積 0 ha (0% : 平成 9.4%)

##### 発生経過の概要

###### 1) 春まき栽培

・予察ほにおける発生量は長沼町では平成より少なかった。比布町では発生が認められなかった。  
・一般ほにおける発生面積率は13.8%、被害面積率は0.3%といずれも平成より低かった。

## 2) 初冬まき栽培

- ・一般ほにおける発生面積率は15.7%、被害面積率は0%と平年よりやや低かった。

### 発生原因の解析

#### 1) 春まき栽培

- ・開花期頃（6月中下旬）に降雨が少なかったこと、及び防除が適切に行われたことにより、発生量は平年より少なかった。

#### 2) 初冬まき栽培

- ・開花期頃（6月中旬）に降雨が少なかったこと、及び防除が適切に行われたことにより、発生量は平年よりやや少なかった。

予察ほにおける赤かび病の発生状況（春まき栽培）

地点	品種名	調査月日	病穂率(%)		発病小穂率(%)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	春よ恋	7月21日	1.8	35.7	0.2	9.6	10
比布	春よ恋	7月13日	0	2.6	0	0.2	8

予察ほにおける病原菌別割合（春まき栽培）

地点	長沼		比布	
	春よ恋		春よ恋	
病原菌種名	本年	平年	本年	平年
<i>M.nivale</i>	10.0	3.8	—	0.6
<i>F.avenaceum</i>	10.0	2.6	—	3.2
<i>F.graminearum</i>	80.0	93.6	—	96.2
<i>F.culmorum</i>	0	0	—	0
調査穂数	20		0	

## 6 ムギクロハモグリバエ 発生期 やや早 発生量 多

### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける成虫すくい取りによる初発期は、訓子府町では平年よりやや早く、長沼町では平年より遅かった。成虫すくい取り捕獲数は、訓子府町では平年より多く、長沼町では平年よりやや多かった。
- ・幼虫被害は長沼町及び訓子府町で平年より多かった。

予察ほ秋まき小麦におけるムギクロハモグリバエの発生期（春季）

		成虫すくい取り		成虫食痕		幼虫被害		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	初発期	5月25日	5月17日	—	6. I	6. II	6. II	10
	最盛期	6月6日	5月28日	—	6. III	6. VI	6. IV	
	終息期	6月21日	6月12日	—	6. IV	6. VI	6. V	
訓子府	初発期	5月22日	5月26日	—	—	6. III	6. IV	9
	最盛期	5月29日	—	—	—	—	—	
	終息期	6月6日	6月21日	—	—	6. VI	6. V	

注) ローマ数字は半月を示す。

品種は「きたほなみ」

### 発生原因の解析

- ・4～5月の高温により発生期はやや早まった。
- ・5月は高温に経過し産卵活動に好適な条件となった。

予察ほ秋まき小麦におけるムギクロハモグリバエ成虫すくい取り頭数

月半旬	長 沼		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.1	0	0.0
3	0	3.9	0	0.0
4	0	6.5	0	0.1
5	1.3	7.9	2.5	0.1
6	3.8	14.0	5.0	1.8
6. 1	6.3	5.9	3.8	0.8
2	40.0	2.0	1.3	0.8
3	0	0.5	0	0.3
4	0	0.3	0	0.0
5	2.5	0.1	0	0.1
6	0	0.8	0	0.2
7. 1	0	0.1	0	0.0
2	0	0.0	0	0.3
3	0	0.0	0	0.0
4	-	0.0	-	0.0
5	-	0.3	-	0.0
6	-	-	-	0.0
平年数	10		9	

注) 20回振りすくい取りの5日あたり換算虫数。

品種は「きたほなみ」

予察ほ秋まき小麦におけるムギクロハモグリバエの発生状況と被害推移

	月半旬	成虫食痕葉率(%)		被害葉率(%)		生幼虫数		平年数
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
長 沼	5. 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	5	0	0.3	0	0.0	0	0.0	
	6	0	0.4	0	0.0	0	0.0	
	6. 1	0	0.3	0	0.2	0	0.1	
	2	0	0.3	0.7	0.2	1.0	0.2	
	3	0	0.4	1.3	0.8	2.0	0.4	
	4	0	0.3	1.5	1.2	1.0	0.2	
	5	0	0.2	1.5	1.1	0	0.3	
	6	0	0.2	5.2	0.8	0	0.0	
	7. 1	0	0.0	4.0	0.3	0	0.0	
	2	-	0.0	-	0.2	-	0.0	
3	-	0.0	-	0.0	-	0.0		
4	-	-	-	-	-	-		
訓 子 府	5. 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	6	0	0.0	0	0.1	0	0.1	
	6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	3	0	0.0	2.7	0.0	2.0	0.0	
	4	0	0.0	0	0.1	0	0.1	
	5	0	0.3	1.3	0.9	0	0.2	
	6	0	0.1	1.3	0.6	0	0.0	
	7. 1	0	0.0	0	0.4	0	0.0	
	2	-	0.0	-	0.1	-	0.0	
3	-	0.0	-	0.5	-	0.0		
4	-	-	-	-	-	-		

注) 生幼虫数は75葉当りの合計を示した。

品種は「きたほなみ」

## 7 ムギキモグリバエ

春まき小麦（春まき栽培）	発生期	並	発生量	多
発生面積	2,672ha (15.1% : 平年 4.7%)		被害面積	112ha (0.6% : 平年 0.3%)
春まき小麦（初冬まき栽培）	発生期	並	発生量	多
発生面積	72ha (8.4% : 平年 3.7%)		被害面積	7ha (0.8% : 平年 0.7%)

### 発生経過の概要

- ・予察ほのすくい取りによる成虫の初発期は、長沼町及び比布町で平年並であった。
- ・成虫の発生量は長沼町及び比布町で平年より多かった。
- ・出すくみ被害率は、長沼町で平年より高く、比布町では平年よりやや高かった。きず穂被害は平年と比較して長沼町でやや多く、比布町ではやや少なかった。白穂の発生は長沼町及び比布町で平年より少なかった。
- ・春まき栽培において、一般ほにおける発生面積率及び被害面積率は平年より高かった。
- ・初冬まき栽培において、一般ほにおける発生面積率は平年より高く、被害面積率は平年並であった。

### 発生原因の解析

- ・前年の発生量はやや多く、秋季も高温で経過したため越冬密度はやや高かったものと推察される。
- ・予察ほでは早期の加害による出すくみ被害がやや多かった。
- ・常発地域では防除がおこなわれているものの、防除面積率が低い地域では被害が認められた。

### 予察ほ春まき小麦におけるムギキモグリバエ成虫すくい取り発生期

	長沼		比布	
	本年	平年	本年	平年
初発期	5月16日	5月17日	5月18日	5月20日
最盛期	5月25日	6月2日	6月8日	6月8日
終息期	6月27日	6月28日	6月27日	6月19日
平年数	10		10	

注) 品種は「春よ恋」(比布の平年値の2017年以前は「ハルユタカ」)

### 予察ほ春まき小麦におけるムギキモグリバエ成虫すくい取り頭数

月半旬	長沼		比布	
	本年	平年	本年	平年
5. 2	0	3.3	0	-
3	0	20.2	0	3.0
4	45.0	22.7	22.5	13.1
5	163.8	52.5	232.5	72.5
6	152.5	62.4	487.5	152.5
6. 1	70.0	69.2	245.0	220.6
2	31.3	53.7	925.0	363.0
3	30.0	43.2	230.0	178.3
4	13.8	11.8	20.0	65.0
5	7.5	8.7	20.0	30.6
6	2.5	5.3	10.0	31.7
7. 1	12.5	3.2	185.0	24.4
2	11.3	15.2	605.0	45.8
3	20.0	51.1	640.0	189.0
4	526.3	67.8	1650.0	309.8
5	300.0	98.8	565.0	416.9
6	-	91.6	540.0	522.0
平年数	10		10	

注) 20回振りすくい取りの5日あたり換算虫数。

品種は「春よ恋」(比布の平年値の2017年以前は「ハルユタカ」)

予察ほ春まき小麦におけるムギキモグリバエの被害状況

	長沼		比布	
	本年	平年	本年	平年
出すくみ	23.2	11.5	50.3	33.6
きず穂	5.6	3.8	0.5	1.3
白穂	0.3	1.2	0.3	2.5
平年数	10		10	

注) 畦長30cm、5か所の被害穂率(%)を示した。

品種は「春よ恋」(比布の平年値は「ハルユタカ」)

8 アブラムシ類 発生期 やや早 発生量 少

発生経過の概要

- ・予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの初発期は、訓子府町で平年よりやや早く、長沼町では平年並であった。ムギクビレアブラムシの初発期は、長沼町で平年より早く、訓子府町では平年よりやや早かった。
- ・ムギヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町及び訓子府町で平年より少なかった。ムギクビレアブラムシの発生量は、訓子府町で平年よりやや少なく、長沼町では平年より少なかった。

発生原因の解析

- ・前年の発生は平年より少なく、越冬量は平年より少なかったと推測される。春季は高温に経過し、飛来成虫の発生は早まった。6月は多雨により飛来および増殖が抑制された。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生期

		ムギヒゲナガアブラムシ		ムギクビレアブラムシ		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	初発期	6. IV	6. IV	6. IV	6. VI	10
	最盛期	6. VI	6. VI	6. IV	7. I	
	終息期	6. VI	7. II	6. IV	7. II	
訓子府	初発期	6. III	6. IV	6. III	6. IV	9
	最盛期	7. I	6. VI	6. V	6. VI	
	終息期	7. I	7. III	6. VI	7. III	

注) ローマ数字は半月を示す。

品種は「きたほなみ」

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

	月半月	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ				平年数
		有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年	
長沼	6. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	10
	2	0	0	0	1.4	0	0	0	0.1	
	3	0	0	0	0.9	0	0	0	0.1	
	4	0.5	0.5	1	2.1	0	1.5	1.5	0.8	
	5	0	0.5	0.5	2.2	0	0	0	0.5	
	6	0	2	2	3.8	0	0	0	3.5	
訓子府	7. 1	0	0	0	3.5	0	0	0	1.6	9
	2	0	0	0	1.3	0	0	0	1.0	
	3	-	-	-	0.9	-	-	-	0.2	
	4	-	-	-	0.0	-	-	-	0.0	
	5	-	-	-	0.0	-	-	-	0.0	
訓子府	6. 1	0	0	0	-	0	0	0	-	9
	2	0	0	0	0.4	0	0	0	13.0	
	3	0	7	7	5.6	2	16	18	8.0	
	4	0	1	1	4.7	0	0	0	4.3	
	5	0	0	0	11.7	0	18	18	5.3	
	6	0	2	2	11.1	0	1	1	11.7	
	7. 1	0	11	11	28.2	0	0	0	5.9	
	2	0	0	0	12.1	0	0	0	2.7	
	3	0	0	0	3.4	0	0	0	0.5	
	4	-	-	-	3.6	-	-	-	1.3	
5	-	-	-	-	-	-	-	-		

注) 5茎5カ所(計25穂)の合計頭数を示した。

品種は「きたほなみ」

### (Ⅲ) とうもろこしの病害虫

#### 1 アワノメイガ 発生期 並 発生量 多

##### 発生経過の概要

- ・北斗市の予察ほにおけるフェロモントラップ初誘殺は、第1回は平年よりやや遅く、第2回は平年より早かった。
- ・誘殺数は第1回、第2回ともに平年より多かった。

##### 発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年より多く、越冬量も多かったと推察される。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の発生期

		北斗	
		本年	平年
第1回	初発期	6/7	6. I
	最盛期	7/2	6. V
	50%誘殺日	7. I	6. V
	終息期	7/22	7. III
	総誘殺数	69	40.2
第2回	初発期	7/31	8. II
	最盛期	9/19	8. VI
	50%誘殺日	9. II	8. VI
	終息期	9/30	9. V
	総誘殺数	65	46

注) ローマ数字は半月を示す。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の誘殺頭数

月半月	北斗	
	本年	平年
6. 1	0	0.4
2	0	1.3
3	4	2.1
4	15	4.8
5	9	4.4
6	2	10.2
7. 1	19.3	5.1
2	9.7	5.0
3	8	3.1
4	1	2.9
5	1	0.7
6	1	0.5
8. 1	1	0.9
2	3	1.5
3	4	4.8
4	2	4.3
5	12	8.9
6	1	5.6
9. 1	2	6.6
2	8	6.3
3	8	2.9
4	18	2.5
5	4	1.0
6	1	0.4
平年数	10	

## 2 オオタバコガ 発生期 遅 発生量 多

### 発生経過の概要

- ・フェロモントラップへの初誘殺は長沼町および北斗市で平年より遅く、比布町で平年より早かった。
- ・誘殺数は、長沼町、比布町、北斗市、訓子府町では平年より多かった。芽室町では誘殺が認められなかった。

### 発生原因の解析

- ・6月の初飛来は比布町で認められた。
- ・夏季の高温経過により飛来次世代以降の増殖が多かったものと推測される。

フェロモントラップによるオオタバコガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6. 1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.3	2	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.8	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.6	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.2	0	0.0	0	0.4	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	2.2	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.5	0.5	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
4	0	0.8	0.5	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.4	0	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.5	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
8. 1	2	1.9	5	1.7	0	1.0	0	0.0	0.7	0.3
2	1	5.4	4	2.2	2	0.6	0	0.0	0.3	0.5
3	0	1.9	3	1.6	0	1.3	0	0.0	0	0.1
4	0	1.1	5	0.3	1	0.1	0	0.0	0	0.0
5	1	1.6	0	0.1	7	0.6	0	0.0	0	0.0
6	0	0.9	8	0.6	49	1.3	0	0.0	0	0.3
9. 1	23	10.0	14	1.3	93	2.1	0	0.0	2.5	0.3
2	5	2.9	1	1.6	24	1.3	0	0.0	3.3	0.1
3	3	6.5	0	0.4	21	0.5	0	0.0	0.3	0.0
4	2	5.4	9	0.1	20	1.2	0	0.0	0	0.0
5	0	1.4	6	0.2	3	0.5	0	0.0	0	0.0
6	0	1.8	3.8	0.3	0	0.5	0	0.3	0	0.0
平年数	10		10		8		8		8	

3 ツマジロクサヨトウ 発生期 早 発生量 やや多

発生経過の概要

- ・ 7月下旬に北斗市でフェロモントラップへの初誘殺が確認され、次世代成虫の誘殺は9月頃に認められた。
- ・ 9月の誘殺数は北斗市および訓子府町で平年より多く、長沼町および比布町で平年並であった。芽室町では誘殺は認められなかった。

発生原因の解析

- ・ 7月中下旬ころ道南地方に飛来があったものと推測される。飛来量は平年並で、次世代成虫発生時期に道内の他の地点へ成虫が移動したものと推察される。
- ・ 道南では高温経過で次世代の増殖が多くなったものと推測される。

フェロモントラップによるツマジロクサヨトウ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
5. 4	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-
5. 5	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-
5. 6	0	0	0	-	0	0	0	-	0	-
6. 1	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
6. 2	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
6. 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 6	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0
7. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 3	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0
7. 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
8. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 2	0	0.3	0	0	1	0	0	0	0	0
8. 3	0	1.7	0	0	4	0.3	0	0	0	0
8. 4	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0.3
8. 5	0	0.3	0	0.7	0	3.3	0	0	0	0
8. 6	0	0	0	0	6	5	0	0	1	0
9. 1	3	0	0	0.3	0	4	0	0	0.5	0
9. 2	1	0	0	1.7	4	1.7	0	0	0.5	0
9. 3	1	2.7	0.5	0.3	2	1.3	0	0	0	0
9. 4	0	4.3	1.5	0.3	108	1.7	0	0	0	0
9. 5	3	2	0	-	56	4	0	0	1	0
9. 6	0	0.3	1.3	-	83	4	0	0	2.7	0
10. 1	-	-	0.8	-	5	-	-	-	-	-
10. 2	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
10. 3	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
平年数	3		3		3		3		3	

## (IV) 大豆の病害虫

予察ほにおける大豆の生育期

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	トヨムスメ	5月19日	5月25日	6月1日	6月7日	7月11日	7月18日	10月9日	10月2日	10
芽室	トヨムスメ	5月26日	5月25日	6月7日	6月5日	7月12日	7月21日	10月1日	10月4日	10
訓子府	とよまどか	5月23日	—	6月2日	—	7月11日	—	9月20日	—	—

注1) —は平年値なし

### 1 ベと病 発生期 並 発生量 並

発生面積 9,430 ha (21.8% : 平年 21.5%) 被害面積 4 ha (0.0% : 平年 0.3%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は平年より早く、発生量は平年より多かった。
- ・一般ほにおける発生期は平年並だった。発生面積率は21.8%、被害面積率は0.1%未満といずれも平年並だった。

#### 発生原因の解析

- ・近年発生が少なく、健全種子が使用されている。適切な防除が実施されている。

予察ほにおけるべと病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	トヨムスメ	7月10日	7月21日	7.6	8.2	10

予察ほにおけるべと病の発生状況

地点	長沼			
品種名	トヨムスメ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0
7.2	2.0	0.6	0.5	0.2
7.4	6.0	7.0	1.5	1.8
7.6	100	38.1	26.0	9.6
8.2	100	64.9	26.0	16.3
8.4	100	71.1	28.0	18.3
8.6	100	78.0	29.5	20.8
9.2	100	77.6	32.0	21.2
9.4	—	66.0	—	17.6

注1) —は枯葉や落葉が進み調査不能

### 2 わい化病 発生期 — 発生量 やや少

発生面積 3,742 ha (8.7% : 平年 11.2%) 被害面積 82 ha (0.2% : 平年 0.0%)

#### 発生経過の概要

- ・長沼町の予察ほにおける発生量は平年より少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は8.7%と平年よりやや低く、被害面積率は0.2%と平年並に低かった。

#### 発生原因の解析

- ・一般ほでは効果的な種子処理剤により発生が少なく抑えられている。

予察ほにおけるわい化病の発生状況

地点	長沼		訓子府	
品種名	トヨムスメ		とよまどか	
調査 月.半旬	発病株率(%)		発病株率(%)	
	本年	平年	本年	平年
7.4	6.0	18.5	3.0	—
8.6	11.0	35.1	3.0	—

注1) —は平年値なし

3 マメシクイガ 発生期 やや早 発生量 やや少  
 発生面積 6,456ha(14.9%：平年 20.4%) 被害面積 98ha(0.2%：平年 1.2%)

発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる成虫の初誘殺日は、長沼町、比布町及び訓子府町で平年より早く、北斗市及び芽室町では平年並であった。
- ・フェロモントラップ誘殺数は、比布町及び訓子府町で平年より多く、長沼町で平年並、芽室町で平年よりやや少なく、北斗市では平年より少なかった。
- ・被害粒率は、訓子府町で平年より高く、長沼町及び芽室町で平年並だった。
- ・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率は平年よりやや低かった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年よりやや少なく、越冬密度はやや低かったものと推測される。
- ・一般ほでは防除が適切におこなわれた。

フェロモントラップによるマメシクイガ成虫の発生期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第一回成虫	初飛来日(月日)	7月10日	7月22日	7月3日	7月17日	8月6日	8月4日	7月26日	7月25日	7月26日	8月3日
	最盛期(月日)	8月13日	8月10日	7月18日	8月2日	8月28日	8月21日	8月13日	8月8日	8月10日	8月14日
	50%誘殺日(月日)	8月10日	8月11日	7月20日	8月2日	8月20日	8月21日	8月11日	8月11日	8月11日	8月15日
	終息日(月日)	8月24日	9月6日	8月15日	8月23日	8月30日	9月10日	9月19日	9月2日	8月28日	8月31日
	総誘殺数(頭)	145	130.7	624	121.3	10	64.7	47	64.4	65	27.8
平年数	10		10		10		10		10		

フェロモントラップによるマメシクイガ成虫の誘殺数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
7.	1	0	—	2.5	—	—	—	0	—	—	—
	2	2	0.0	28.5	—	—	—	0	—	0	—
	3	0	0.3	45.5	1.5	0	0.0	0	0.0	0	—
	4	3	2.1	238.5	9.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0
	5	14	4.0	111	17.5	0	0.1	0	1.3	0	0.0
	6	18	11.5	150	30.5	0	0.2	5	8.1	12	0.3
8.	1	21.3	21.6	28	29.1	0	1.5	11	13.1	9	2.6
	2	24.7	23.6	12	18.7	1	8.9	5	11.1	10.6	3.7
	3	45	23.8	8	8.3	0	8.2	12	10.3	18.4	5.8
	4	9	17.7	0	5.5	4	14.0	11	10.7	6	6.7
	5	6.5	16.0	0	1.7	0	14.3	0	6.5	5.6	3.6
	6	1.5	6.3	0	0.1	5	8.9	1	1.9	3.4	4.2
9.	1	0	1.7	0	0.0	0	4.5	0	1.1	0	0.7
	2	0	1.9	0	0.0	0	3.1	0	0.2	0	0.3
	3	0	0.6	—	0.0	0	0.9	1	0.0	0	0.0
	4	0	0.1	—	0.0	0	0.1	1	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		

予察ほにおけるマメシクイガの被害状況

項目	長沼		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
被害粒率(%)	13.3	14.8	3.2	5.3	12.3	2.2
被害莢率(%)	16.6	17.2	2.3	5.8	13.1	2.7
品種	トヨムスメ		トヨムスメ		とよまどか	
調査月日	10月2日		9月29日		9月21日	
調査株数	10		10		10	
平年数	10		10		10	

4 食葉性鱗翅目幼虫 発生期 やや早 発生量 並  
 発生面積 11,742ha(27.2%：平年 33.5%) 被害面積 601ha( 1.4%：平年 0.9%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける食害程度は、長沼町及び訓子府町で平年並であった。
- ・一般ほにおける初発期は平年よりやや早かった。発生面積率は平年よりやや低く、被害面積率は平年よりやや高かった。

発生原因の解析

- ・6月から7月は高温で経過したため発生が早まった。6月から8月は高温で経過したものの、6月上旬、7月中旬及び8月上旬は降水量が多かった。降雨の多かった時期には被害が抑制された一方で、降雨の少ない時期には被害が伸びた。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた。

予察ほにおける食葉性鱗翅目幼虫の被害程度

月. 半旬	長 沼		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	-	0	-
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.1	0	0.0
4	0	1.0	0	0.0
5	2	2.7	0	0.2
6	5	8.1	3	0.7
7. 1	13	10.8	4	4.2
2	23	13.6	9	7.0
3	27	19.5	13	11.0
4	27	22.8	19	16.1
5	34	31.1	23	22.8
6	46	35.6	25	26.6
8. 1	48	35.9	25	29.4
2	47	39.3	25	31.4
3	52	42.3	26	33.9
4	52	43.9	28	36.1
5	52	45.4	30	37.2
6	52	47.3	31	38.9
9. 1	55	48.0	-	39.4
2	51	47.2	-	39.2
3	51	46.0	-	33.3
4	0	50.5	-	-
5	0	-	-	-
6	0	-	-	-
平年数	10		9	

5 タネバエ 発生期 — 発生量 並  
 発生面積 180ha(0.4%：平年 0.6%) 被害面積 0ha( 0%：平年 0.0%)

**発生経過の概要**

- ・予察ほにおける被害個体率は、芽室町で平年より高く、長沼町及び訓子府町では平年並であった。
- ・一般ほにおける発生面積率は平年並、被害は認められなかった。

**発生原因の解析**

- ・一般ほでは効果的な種子塗沫剤の使用により被害が抑えられた。

予察ほにおけるタネバエの被害状況

	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
被害個体率(%)	59.8	51.6	36.7	8.5	14.0	14.2
平年数	10		9		10	

6 ジャガイモヒゲナガアブラムシ 発生期 やや早 発生量 やや少

**発生経過の概要**

- ・黄色水盤におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町及び訓子府町で平年より早かった。芽室町では誘殺が認められなかった。
- ・黄色水盤による捕獲数は、訓子府町で多く、長沼町では平年並であった。
- ・予察ほの大豆における寄生虫数は、訓子府町で平年並、長沼町及び芽室町では平年より少なかった。

**発生原因の解析**

- ・春季は高温に経過し、飛来成虫の発生は早まった。
- ・6月から8月は周期的な降雨に見舞われ、増殖が抑制された。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた。

黄色水盤によるジャガイモヒゲナガアブラムシ有翅虫の誘殺数

月半旬	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 5	1	0.0	0	-	1	-
6	3	1.0	0	0.3	3	0.0
6. 1	0	1.1	0	0.0	0	1.7
2	3	3.4	0	0.7	1	4.0
3	2	1.8	0	0.1	3	1.1
4	0	2.3	0	0.0	0	0.1
5	0	1.8	0	0.2	3	0.4
6	1	0.8	0	0.0	3.3	0.8
7. 1	1	0.4	0	0.1	2.7	0.4
2	0	0.7	0	0.4	1.5	1.1
3	0	0.2	0	0.8	4.5	1.1
4	0	0.0	0	2.1	1	3.4
5	0	0.0	0	0.9	3	1.6
6	0	0.0	0	0.3	4	1.9

注) 長沼・芽室は3台の合計値、訓子府は1台の値で示す。  
 平年数は10年。

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月半旬	長 沼				芽 室				訓 子 府			
	本 年			平 年 (合 計)	本 年			平 年 (合 計)	本 年			平 年 (合 計)
	有翅虫	無翅虫	合 計		有翅虫	無翅虫	合 計		有翅虫	無翅虫	合 計	
6. 1	0	0	0	2.0	-	-	-	0.0	2	1	3	0.2
2	1	1	2	2.2	0	0	0	0.4	0	6	6	3.7
3	0	2	2	3.5	0	0	0	0.0	0	0	0	3.9
4	0	1	1	5.8	0	0	0	2.2	0	3	3	2.3
5	0	3	3	6.0	0	0	0	1.4	0	5	5	2.6
6	0	1	1	2.6	0	0	0	1.8	0	0	0	1.9
7. 1	0	0	0	2.5	0	1	1	2.9	1	3	4	3.1
2	0	0	0	2.0	0	2	2	4.9	0	0	0	1.6
3	0	0	0	0.7	1	0	1	8.0	0	0	0	3.1
4	0	0	0	0.0	1	1	2	7.8	0	0	0	3.4
5	0	0	0	0.7	0	0	0	3.8	0	0	0	1.2
6	0	0	0	0.4	0	0	0	2.6	0	0	0	1.1
平年数	10				10				9			

注) 数値は、50小葉(25株各2小葉)当りの寄生虫数を示す。

巡回調査結果

大豆一般ほにおけるアブラムシ類の寄生株率 (%)

振興局	普及センター	調査地点数	6月3半旬	6月6半旬
空知	本所	4	0	0.5
	南東部	2	0	0
	南西部	3	0	0
	中空知	1	0	0
	北空知	3	0	0
石狩	本所	3	0	0
	北部	2	0	0
後志	本所	2	0	0
胆振	東胆振	3	0	0
渡島	本所	1	0	0
檜山	本所	2	0	0
	北部	2	0	0
上川	本所	4	0.3	0.3
	富良野	2	0	0
	士別	3	0	0
	名寄	3	0	0
留萌	本所	4	0	0
網走	清里	2	0	0
	美幌	3	0	0
十勝	本所	5	0	0
	東部	6	0	0
	東北部	2	0.3	0
	北部	3	0	0
	西部	2	0	0

注) 25株・50小葉調査

7 吸汁性カメムシ 発生期 — 発生量 —

発生経過の概要

・予察ほの大豆における被害粒率は、長沼町で7.9%、芽室町で1.4%、訓子府町では6.4%であった。

## (V) 小豆の病害虫

予察ほにおける小豆の生育期

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	しゅまり	5月19日	5月25日	6月6日	6月11日	7月16日	7月24日	—	9月13日	10
芽室	きたのおとめ	5月26日	5月25日	6月9日	6月8日	7月16日	7月24日	8月31日	9月20日	10
訓子府	きたのおとめ	5月23日	5月24日	6月5日	6月8日	7月18日	7月26日	9月1日	9月21日	10

注1) —は高温や台風被害により中段の鞘がなく、株上部に新鞘のを形成し続ける状態であったため調査不能

### 1 菌核病 発生期 やや早 発生量 少

発生面積 717 ha ( 3.8% : 平年 9.2%) 被害面積 0 ha ( 0% : 平年 0.1%)

#### 発生経過の概要

- ・一般ほにおける発生期は平年よりやや早かった。発生面積率は3.8%と平年より低く、被害は認められなかった。

#### 発生原因の解析

- ・夏季が高温で本病の発生に好適ではなかった。
- ・適切な防除が実施された。

### 2 灰色かび病 発生期 並 発生量 やや少

発生面積 3,525 ha ( 18.5% : 平年 14.7%) 被害面積 0 ha ( 0% : 平年 0.6%)

#### 発生経過の概要

- ・長沼町の予察ほにおける初発期は平年より早く、発生量は平年より多かった。
- ・一般ほにおける発生期は平年並だった。発生面積率は18.5%と平年並で、被害は認められなかった。

#### 発生原因の解析

- ・夏季が高温で本病の発生に好適ではなかった。
- ・適切な防除が実施された。

予察ほにおける灰色かび病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	しゅまり	7月26日	8月4日	8.6	8.5	10

予察ほにおける灰色かび病の発生状況

地点	長沼			
品種名	しゅまり			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
7.4	0	0	0	0
7.6	4.0	2.4	1.0	0.6
8.2	12.0	6.0	3.0	1.5
8.4	18.0	18.0	4.5	4.5
8.6	28.0	23.0	7.0	5.8
9.2	30.0	17.4	7.5	4.4

巡回調査結果

一般ほにおける灰色かび病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)		振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)	
		7月6半旬	8月3半旬			7月6半旬	8月3半旬
石狩	本所	0	20.0	オホーツク	本所	0	0
後志	本所	0	7.5		網走	0	0
胆振	本所	0	0		美幌	0	0
	東胆振	2.0	1.0	十勝	本所	0	8.8
檜山	本所	5.0	22.5		東部	0	2.3
	北部	0	0		東北部	0	3.8
上川	大雪	0	0		北部	0	8.3
	士別	0	0		西部	0	1.0
留萌	本所	0	0	南部	0	3.4	

3 茎疫病 発生期 ー 発生量 やや少

発生面積 323 ha ( 1.7% : 平年 4.3%) 被害面積 26 ha ( 0.1% : 平年 0.6%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は1.7%と平年より低く、被害面積率は0.1%と平年並だった。

発生原因の解析

・夏季に高温で降水量の多い時期はあったものの、排水対策や茎葉散布が実施されており、被害が少なかった。

4 落葉病 発生期 ー 発生量 並

発生面積 330 ha ( 1.7% : 平年 3.7%) 被害面積 0 ha ( 0% : 平年 0.2%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は1.7%と平年並に低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

・夏季が高温で本病の発生に好適ではなかった。

5 アズキノメイガ 発生期 早 発生量 並

発生経過の概要

- ・予察灯における成虫の初発期は、芽室町及び訓子府町で平年より早かった。長沼町では誘殺が認められなかった。
- ・誘殺数は、芽室町で平年よりやや多く、訓子府町では平年並であった。
- ・マメノメイガの混発により予察ほにおける被害率の評価は不可能であった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は長沼町、芽室町及び訓子府町で平年より多く、越冬量は多かったと推測される。6月は多雨に経過し発生が早まった。
- ・いずれの地点でも8月中旬以降マメノメイガによる被害が認められ、両種が混発した。

予察灯によるアズキノメイガ雄成虫の発生期

	長 沼		芽 室		訓子府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
初 発 期	-	7月2日	6月14日	7月13日	6月29日	7月4日
最 盛 期	-	7月31日	8月30日	8月5日	-	-
終 息 期	-	8月10日	9月1日	8月3日	-	7月20日
平年数	10		10		10	

注) 予察灯は、長沼および訓子府は100W高圧水銀灯、芽室は20W青色蛍光灯。

予察灯によるアズキノメイガ雄成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		芽 室		訓子府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.1	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	2	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	1	0.1	0	0.2
6	0	0.2	1	0.2	1	0.1
7. 1	0	0.2	1	0.6	0	0.1
2	0	0.5	-	0.7	0	0.2
3	0	0.7	1	0.2	0	0.4
4	0	0.1	0	0.5	0	0.2
5	0	0.2	0	0.4	0	0.3
6	0	0.3	0	0.2	0	0.0
8. 1	0	0.5	0	0.1	0	0.0
2	0	0.4	0	0.0	0	0.0
3	0	0.8	0	0.0	0	0.0
4	0	0.2	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.3	0	0.0
6	0	0.2	3	0.7	0	0.0
9. 1	0	0.1	2	1.6	0	0.0
2	0	0.0	0	1.9	0	0.0
3	0	0.0	0	1.2	0	0.0
4	0	0.0	0	0.7	0	0.0
5	0	0.0	0	0.4	0	0.0
6	0	0.0	0	0.1	0	0.0
平年数	10		10		10	

予察ほにおけるアズキノメイガの被害状況

	長沼		芽室		訓子府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
被害株率(%)	100.0	72.8	94.0	49.0	100.0	44.6
被害莢率(%)	21.8	5.9	5.7	2.8	25.6	2.6
品 種	しゅまり		きたのおとめ		きたのおとめ	
調査月日	10月2日		9月12日		9月5日	
調査株数	50		50		50	
平年数	10		10		10	

6 食葉性鱗翅目幼虫 発生期 やや早 発生量 やや多  
 発生面積 3,258ha(17.1%：平年 19.5%) 被害面積 216ha( 1.1%：平年 0.6%)

**発生経過の概要**

- ・予察ほにおける食害程度は、長沼町及び訓子府町で平年並であった。
- ・一般ほにおける初発期は平年よりやや早かった。発生面積率は平年並、被害面積率は平年よりやや高かった。

**発生原因の解析**

- ・6月から7月は高温で経過したため発生が早まった。夏期は高温で経過したため、成虫の産卵および幼虫の加害に好適であった。
- ・一般ほでは防除が適切におこなわれた。

予察ほにおける食葉性鱗翅目幼虫の被害推移

半旬	長沼		訓子府	
	本年	平年	本年	平年
6.1	0	-	-	-
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	1	0.8	0	0.2
5	1	2.8	0	0.2
6	5	5.9	0	0.3
7.1	10	7.4	0	0.6
2	7	7.8	1	1.4
3	7	9.9	1	3.1
4	9	11.5	1	5.8
5	15	13.9	0	9.7
6	23	16.4	12	12.4
8.1	25	18.8	18	14.8
2	26	19.6	22	16.9
3	26	22.3	25	19.3
4	26	24.2	25	20.4
5	26	25.5	25	21.9
6	26	25.8	25	23.1
9.1	27	27.0	-	24.7
2	26	26.7	-	26.1
3	26	25.8	-	27.2
4	26	26.0	-	30.3
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
平年数	10		9	

注) 数値は食害程度を示す。

7 マメアブラムシ 発生期 やや早 発生量 少

**発生経過の概要**

- ・予察ほにおける初発期は、訓子府町で平年より早く、長沼町で平年よりやや早く、芽室町では平年並であった。
- ・寄生株率は、長沼町で平年よりやや低く、芽室町及び訓子府町では平年より低かった。

**発生原因の解析**

- ・6月は高温で飛来時期は早まったものの、多雨により増殖は抑制された。

予察ほにおけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月半旬	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	-	-	-	-	0.0
2	0	0.0	0	0.2	0	0.0
3	0	2.4	0	0.3	0	0.5
4	4	11.9	0	2.3	4	0.4
5	12	18.2	8	6.7	4	0.9
6	4	13.1	4	18.7	8	4.4
7. 1	0	11.3	0	23.8	8	9.8
2	0	11.6	0	29.2	8	13.3
3	0	6.2	4	23.2	0	19.1
4	0	0.9	0	16.4	0	20.4
5	0	0.0	0	7.6	0	14.7
6	0	0.0	0	3.6	0	11.6
平年数	9		10		9	

注) 25株調査の寄生株率を示す。

## (VI) 菜豆の病害虫

予察ほにおける菜豆の生育期

地点	品種名	播種期(月日)		発芽期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室	大正金時	5月26日	5月25日	6月7日	6月6日	7月5日	7月11日	8月23日	8月30日	10

### 1 菌核病 発生期 やや早 発生量 やや少

発生面積 288 ha ( 5.0% : 平年 16.0%) 被害面積 3 ha ( 0.1% : 平年 0.6%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は平年より早く、発生量は平年より多かった。
- ・一般ほにおける発生期は平年よりやや早く、発生面積率は5.0% (平年16.0%) と平年より低く、被害面積率は0.1% (平年0.6%) 平年並だった。

#### 発生原因の解析

- ・夏季が高温で本病の発生に好適ではなかった。
- ・適切な防除が実施された。

予察ほにおける菌核病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
芽室	大正金時	7月10日	7月20日	8.4	8.3	10

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	芽室			
品種名	大正金時			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
7.4	16	2.4	4	0.5
7.6	22.0	15.7	5.5	2.7
8.2	30.0	28.7	10.5	7.3
8.4	34.0	33.5	17.0	10.6
8.6	-	33.0	-	12.1

注1) -は落葉のため調査不能

巡回調査結果

一般ほにおける菌核病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)
		7月6半旬
胆振	本所	0
上川	士別	0
オホーツク	美幌	0
十勝	本所	0
	東部	0
	東北部	0
	北部	0
	西部	0

2 灰色かび病

発生期 やや早 発生量 やや少

発生面積 385 ha ( 6.7% : 平年 14.3%) 被害面積 0 ha ( 0% : 平年 0.2%)

発生経過の概要

- ・芽室町の予察ほにおける初発期は平年より早く、発生量は平年より多かった。
- ・一般ほにおける発生期は平年よりやや早く、発生面積率は 6.7%と平年よりやや低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温で本病の発生に好適ではなかった。
- ・適切な防除が実施された。

予察ほにおける灰色かび病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
芽室	大正金時	7月11日	7月20日	8.4	8.3	10

予察ほにおける灰色かび病の発生状況

地点	芽室			
品種名	大正金時			
調査 月半月	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
7.4	52.0	4.8	13.0	1.8
7.6	58.0	43.6	14.5	7.4
8.2	62.0	62.2	15.5	11.3
8.4	62.0	76.6	19.0	16.7
8.6	-	63.5	-	14.2

注1) -は落葉のため調査不能

巡回調査結果

一般ほにおける灰色かび病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)
		7月6半月
胆振	本所	0
上川	士別	5.0
オホーツク	美幌	0
十勝	本所	1.5
	東部	0
	東北部	1.3
	北部	0
	西部	0

3 黄化病 発生期 - 発生量 やや少

発生面積 112 ha ( 1.9% : 平年 2.8%) 被害面積 0 ha ( 0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は1.9%と平年よりやや低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

・効果的な種子処理剤で近年発生が低く抑えられている。

4 タネバエ 発生期 - 発生量 並

発生面積 19ha( 0.3% : 平年 1.0%) 被害面積 0ha( 0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年並で、被害に至ったほ場は認められなかった。

発生原因の解析

・一般ほでは効果的な種子塗沫剤の使用により被害が抑えられた。

## (Ⅶ) ばれいしょの病害虫

予察ほにおけるばれいしょの生育期

地点	品種名	植付期(月日)		萌芽期(月日)		開花始(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	とうや	5月8日	5月9日	5月24日	5月27日	6月20日	6月21日	10
	スノーマーチ	5月8日	5月9日	5月25日	5月30日	6月22日	6月26日	10
北斗	とうや	4月25日	4月26日	5月15日	5月19日	6月5日	6月12日	10
芽室	とうや	5月9日	5月11日	5月27日	5月31日	6月19日	6月26日	10
	スノーマーチ	5月9日	5月11日	5月29日	6月2日	6月26日	7月2日	10
訓子府	とうや	5月12日	5月12日	5月30日	6月1日	6月21日	6月27日	10
	スノーマーチ	5月12日	5月12日	5月30日	6月2日	6月26日	7月3日	10

### 1 疫病 発生期 並 発生量 やや少

発生面積 2,688 ha ( 5.5% : 平年 12.5%) 被害面積 275 ha ( 0.6% : 平年 1.3%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほの「とうや」における初発期は、北斗市では平年より早く、長沼町及び芽室町では平年並、訓子府町では平年より遅かった。発生量は、北斗市では平年より多く、芽室町及び訓子府町では平年並、長沼町では平年よりやや少なかつた。
- ・一般ほにおける初発期は平年並であった。発生面積率は5.5%、被害面積率は0.6%と平年よりやや低かつた。檜山地方では初発期がやや早く、発生量が平年よりやや多かつた。

#### 発生原因の解析

- ・初発期は、道南地方では高温による生育の進展と開花期の降雨により早まつた。他地域では初発期の平均気温と最低気温が感染に好適な範囲内であったことと6月下旬と7月中旬に降水があつたことから平年並となつた。発生量は、初発期以降の高温傾向により抑制されたため、やや少なかつた。
- ・6月26日付注意報第2号発表。

予察ほにおける疫病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		茎葉枯凋期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	とうや	7月14日	7月15日	7.5	7.6	8月10日	8月8日	10
	スノーマーチ	7月20日	7月21日	8.3	8.2	8月21日	8月16日	10
北斗	とうや	6月27日	7月7日	7.2	7.4	7月19日	7月27日	10
芽室	とうや	7月13日	7月12日	7.5	7.5	8月1日	8月6日	10
	スノーマーチ	7月12日	7月14日	7.5	7.6	8月18日	8月13日	10
訓子府	とうや	7月23日	7月13日	—	7.6	8月10日	8月6日	10
	スノーマーチ	7月19日	7月16日	8.4	7.6	8月19日	8月11日	10

注:—は疫病以外で枯凋した

予察ほにおけるFLABSの予測初発日と適合性

地点	品種名	萌芽日	初発日	予測初発日	70%信頼区間	判定
長沼	とうや	5月24日	7月14日	7月14日	7/8-7/19	○
	スノーマーチ	5月25日	7月20日	7月14日	7/8-7/19	×
北斗	とうや	5月15日	6月27日	6月27日	—	—
芽室	とうや	5月27日	7月13日	6月30日	—	—
	スノーマーチ	5月29日	7月12日	7月1日	—	—
訓子府	とうや	5月30日	7月23日	7月4日	6/23-7/14	×
	スノーマーチ	5月30日	7月19日	7月4日	6/23-7/14	×

注1) 基準日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○: 初発日が70%信頼区間内、×: 初発日が70%信頼区間外

注3) —: 予測初発日が7月3日より以前の場合、70%信頼区間の計算式がない

予察ほにおける疫病の発生状況

地点	長沼							
品種名	とうや				スノーマーチ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0
6.6	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	0	0	0	0	0	0	0
7.2	0	0.6	0	0.2	0	0.4	0	0.1
7.3	2.0	2.4	0.5	0.6	0	3.6	0	0.9
7.4	12.0	24.6	3.0	6.3	2.0	23.2	0.5	5.8
7.5	50	47.6	15.0	21.1	22.0	45.0	5.5	16.9
7.6	50	58.4	15.0	37.9	34	59.8	9.5	29.7
8.1	58	60.0	17	49.1	52	60.6	13.5	41.1
8.2	—	60.0	—	59.4	54	64.6	17	49.0
8.3	—	60.0	—	60.0	82	67.0	27.5	56.7
8.4	—	60.0	—	60.0	—	73.0	—	63.5
8.5	—	60.0	—	60.0	—	73.2	—	67.6
8.6	—	60.0	—	60.0	—	73.2	—	67.6

注1) 8月2半旬の「とうや」は軟腐病の発生により調査不能

注2) 8月4半旬の「スノーマーチ」は夏疫病の発生により調査不能

注3) —: 枯凋により調査不能

地点	北斗			
品種名	とうや			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
6.5	0	3.6	0	1.0
6.6	6.0	11.2	1.5	4.2
7.1	20	27.0	5.5	12.8
7.2	100	33.2	58.0	21.3
7.3	100	42.4	100	35.4
7.4	100	42.8	100	40.1
7.5		50.2		42.6
7.6		54.2		45.1
8.1		57.2		51.7
8.2		59.4		52.5

地点	芽室							
品種名	とうや				スノーマーチ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0
6.6	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	2.8	0	0.7	0	3.6	0	0.9
7.2	0	16.4	0	4.3	0	15.2	0	3.8
7.3	0	23.0	0	11.0	4	21.8	1.0	8.8
7.4	22	45.4	5.5	24.8	62	33.4	17.0	17.2
7.5	90	71.6	32.5	51.1	100	66.2	56.5	35.2
7.6	—	80.4	—	67.9	100	80.0	63.5	59.6
8.1	—	82.4	—	68.3	100	80.8	67.5	67.0
8.2	—	83.6	—	68.6	100	83.6	84	70.2
8.3	—	83.6	—	68.6	100	83.0	97	72.8
8.4	—	83.6	—	68.6	—	83.6	—	76.6
8.5	—	83.6	—	68.6	—	83.6	—	78.8
8.6	—	83.6	—	68.6	—	83.6	—	80.9

注1)7月6半旬の「とうや」は軟腐病と夏疫病の発生により調査不能

注2) —: 枯凋により調査不能

地点	訓子府							
品種名	とうや				スノーマーチ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0
6.6	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	0	0	0	0	0.2	0	0.1
7.2	0	2.6	0	0.7	0	2.4	0	0.6
7.3	0	12.2	0	3.1	0	10.4	0	2.7
7.4	0	25.0	0	6.7	2	20.2	0.5	5.4
7.5	2	47.8	0.5	18.2	22	39.2	5.5	12.1
7.6	—	64.6	—	40.7	74	61.4	20.5	31.8
8.1	—	69.2	—	59.8	80	69.2	23.5	48.6
8.2	—	69.2	—	62.4	100	70.0	51	59.8
8.3	—	69.2	—	62.4	100	70.0	69	63.1
8.4	—	69.2	—	62.4	100	70.0	100	63.1
8.5	—	69.2	—	62.4	—	70.0	—	63.1
8.6	—	69.2	—	62.4	—	70.0	—	63.1

注1)7月6半旬の「とうや」は軟腐病の発生によりの調査不能

注2) —: 枯凋により調査不能

巡回調査結果

一般ほにおける疫病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率%			振興局	普及センター 本所・支所	発病株率%		
		6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬			6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	南東部	0	0	0	オホーツク	本所	0	0	0
後志	本所	0	0	1.8		清里	0	0	0
胆振	本所	0	0	0		網走	0	0	0
渡島	本所	0	0	0		美幌	0	0	0
檜山	本所	11.5	13.0	13.0	十勝	本所	0	0	0
	北部	0	0	0		東部	0	0	0
上川	富良野	0	0	3.0		東北部	0	0	0
	大雪	0	0	0		北部	0	0	0
	士別	0	16.0	50.0		西部	0	0	0
	名寄	0	0	0	南部	0	0	4.1	
					釧路	本所	0	0	0
					根室	北根室	0	0	0

2 塊茎腐敗 発生期 — 発生量 やや少

発生面積 2,432 ha ( 5.0% : 平年 7.7%) 被害面積 133 ha ( 0.3% : 平年 0.6%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率は5.0%、被害面積率は0.3%といずれも平年よりやや低かった。檜山地方で発生量が平年よりやや多かった。
- ・感染源となる茎葉の疫病発生量が平年より少なく、降雨があったものの気温が高く推移したため、感染に好適な条件となりにくく、発生量は平年よりやや少なかった。

3 軟腐病 発生期 — 発生量 多

発生面積 14,913 ha ( 30.7% : 平年 18.8%) 被害面積 2,322 ha ( 4.8% : 平年 1.9%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率は30.7%、被害面積率は4.8%といずれも平年より高かった。渡島、オホーツク及び釧路地方で発生量が多かった。
- ・生育期間を通して高温傾向であったこと、6月下旬から8月上旬にかけて降水量が平年並から多く、その後も降雨があったことから、発生量が平年より多かった。

4 黒あし病 発生期 — 発生量 並

発生面積 1,208 ha ( 2.5% : 平年 2.3%) 被害面積 73 ha ( 0.2% : 平年 0.1%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率は2.5%、被害面積率は0.2%といずれも平年並であった。
- ・健全種苗が使用され、発生量は平年並に少なく抑えられている。

5 そうか病 発生期 — 発生量 多

発生面積 15,005 ha ( 30.9% : 平年 22.9%) 被害面積 3,906 ha ( 8.1% : 平年 5.1%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率は30.9%、被害面積率は8.1%と平年より多かった。
- ・塊茎形成期以降、周期的な降雨があったものの気温が高温に推移し、土壌は乾燥傾向となり、発生に好適な条件であった。

6 粉状そうか病 発生期 — 発生量 やや少

発生面積 1,933 ha ( 4.0% : 平年 7.1%) 被害面積 24 ha ( 0.0% : 平年 0.3%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率は4.0%、被害面積率は0.0%といずれも平年よりやや少なかった。
- ・塊茎形成期以降、周期的な降雨があったものの気温が高温に推移し、土壌は乾燥傾向となり、発生に適さない条件であった。

7 アブラムシ類 発生期 やや早 発生量 少  
 発生面積 5,109 ha (10.5% : 平年 18.7%) 被害面積 0 ha (0.0% : 平年 1.2%)

発生経過の概要

- ・ジャガイモヒゲナガアブラムシは、黄色水盤での有翅虫初発は長沼町で平年よりやや早く、訓子府町では平年並であった。芽室町では誘殺が認められなかった（大豆のアブラムシ類の項を参照）。
- ・寄生初発は、いずれの地点においても平年よりやや早かった。発生量は、いずれの地点においても平年並であった。
- ・ワタアブラムシの寄生初発は訓子府町で平年より早く、長沼町では平年並であった。芽室町では発生が認められなかった。発生量は、長沼町で平年よりやや多く、訓子府町で平年よりやや少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は平年よりやや低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・春季は高温に経過し飛来が早まった。7月は高温で経過したが、周期的な降雨に見舞われ増殖が抑制された。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた。

黄色水盤によるアブラムシ類の発生期

	発生期	ジャガイモヒゲナガアブラムシ		モモアカアブラムシ		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	初発期	5.Ⅳ	6.Ⅰ	6.Ⅲ	6.Ⅲ	10
	最盛期	6.Ⅱ	6.Ⅳ	7.Ⅲ	7.Ⅲ	
	終息期	7.Ⅱ	7.Ⅲ	7.Ⅴ	8.Ⅰ	
芽室	初発期	-	6.Ⅲ	-	7.Ⅴ	10
	最盛期	-	7.Ⅵ	-	7.Ⅵ	
	終息期	-	7.Ⅵ	-	8.Ⅳ	
訓子府	初発期	5.Ⅴ	6.Ⅱ	7.Ⅲ	7.Ⅳ	10
	最盛期	7.Ⅲ	7.Ⅲ	-	8.Ⅲ	
	終息期	-	8.Ⅲ	8.Ⅴ	8.Ⅴ	

注) ローマ数字は半月を示す。

黄色水盤によるアブラムシ類有翅虫の誘殺状況

月半月	長沼				芽室				訓子府			
	ジャガイモヒゲナガアブラムシ		モモアカアブラムシ		ジャガイモヒゲナガアブラムシ		モモアカアブラムシ		ジャガイモヒゲナガアブラムシ		モモアカアブラムシ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 5	1	0.0	0	-	0	-	0	-	1	-	0	-
6	3	1.0	0	-	0	0.3	0	0.0	3	0.0	0	0.0
6. 1	0	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	1.7	0	0.0
2	3	3.4	0	0.1	0	0.7	0	0.0	1	4.0	0	0.0
3	2	1.8	1	0.3	0	0.1	0	0.0	3	1.1	0	0.2
4	0	2.3	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1
5	0	1.8	2	1.0	0	0.2	0	0.0	3	0.4	0	0.0
6	1	0.8	2	0.4	0	0.0	0	0.0	3.3	0.8	0	0.1
7. 1	1	0.4	1	0.7	0	0.1	0	0.0	2.7	0.4	0	0.3
2	0	0.7	1	0.7	0	0.4	0	0.0	1.5	1.1	0	0.0
3	0	0.2	4	1.7	0	0.8	0	0.0	4.5	1.1	1	0.6
4	0	0.0	4	0.6	0	2.1	0	0.1	1	3.4	1	0.1
5	0	0.0	0	0.7	0	0.9	0	0.2	3	1.6	1	0.9
6	0	0.0	0	0.4	0	0.3	0	0.7	4	1.9	0	4.4
8. 1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	1.6	0	0.8	0	5.2
2	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.8	0	0.2	0	1.4
3	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0	0.2	0	2.6
4	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	1.3
5	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.1	0	0.0	1	0.7
6	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5
9. 1	0	0.1	0	0.7	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0
2	0	0.1	0	0.4	0	0.0	0	0.2	0	0.1	0	0.6
3	0	0.2	0	0.4	0	0.1	0	0.1	0	0.1	0	0.2
4	0	0.7	0	1.0	0	0.2	0	0.0	2	0.3	0	0.5
平年数	10				10				10			

注) 3台の誘殺頭数の合計値を示す。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生期

	発生期	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		平年数
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
長 沼	初発期	6. II	6. III	6. II	6. VI	6. V	6. V	10
	最盛期	6. V	6. V	7. III	7. I	7. IV	7. IV	
	終息期	7. V	7. III	7. V	7. III	7. VI	8. II	
芽 室	初発期	6. V	6. VI	-	-	-	7. III	10
	最盛期	7. III	7. IV	-	-	-	7. IV	
	終息期	8. II	8. I	-	-	-	8. I	
訓 子 府	初発期	6. II	6. III	-	-	6. IV	7. II	10
	最盛期	6. VI	7. II	-	-	7. II	8. I	
	終息期	7. V	8. I	-	-	8. III	8. III	

注) 各地とも品種は「スノーマーチ」。ローマ数字は半月を示す。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況（長沼）

虫種	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ				モモアカアブラムシ				ワタアブラムシ			
	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年
6.1	0	0	0	0.2	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
2	0.4	0	0.4	0.3	0.4	0.4	0.8	0.1	0	0	0	0.0
3	0.4	0.4	0.8	1.5	0.4	0	0.4	0.0	0	0	0	0.2
4	0	1.2	1.2	1.5	0.4	0	0.4	0.0	0	0	0	0.3
5	0	0.4	0.4	1.0	0	0.4	0.4	0.3	0	0.4	0.4	1.0
6	0	0	0	1.2	0	0	0	0.3	0	4.8	4.8	2.5
7.1	0.4	0.4	0.8	0.5	0	0	0	0.2	0	5.2	5.2	2.6
2	0	0.8	0.8	0.5	0	0	0	0.1	0	7.6	7.6	6.6
3	0	0	0	0.5	0	2	2	0.1	0	3.8	3.8	11.4
4	0	1.2	1.2	0.3	0	1.6	1.6	0.0	0	6.4	6.4	16.3
5	0	0.4	0.4	0.3	0	0	0	0.0	0	1.2	1.2	8.5
6	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0	0	0	2.1
8.1	0	0	0	0.3	0	0	0	0.0	0	0	0	2.1
2	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.4
3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.5
4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.2
虫数計	6			8.2	5.6			1.1	29.4			54.4

注) 数値は、20複葉(10株各2複葉)当りの寄生頭数を示した。

平年値は有翅虫数と無翅虫数の合計。品種は「スノーマーチ」。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況（芽室）

虫種	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ				モモアカアブラムシ				ワタアブラムシ			
	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年
6.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
2	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
3	0	0	0	0.2	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.1
5	0	0.5	0.5	0.3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.4
6	0.5	0.5	1	1.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.3
7.1	0	2.5	2.5	1.7	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
2	0	6	6	4.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.9
3	0	5.5	5.5	6.6	0	0	0	0.0	0	0	0	0.1
4	0	0.5	0.5	6.8	0	0	0	0.0	0	0	0	1.1
5	0	1	1	5.0	0	0	0	0.0	0	0	0	2.9
6	0	2.5	2.5	2.0	0	0	0	0.0	0	0	0	2.3
8.1	0	0.5	0.5	1.4	0	0	0	0.0	0	0	0	1.0
2	0	0.5	0.5	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.6
4	-	-	-	0.2	-	-	-	0.0	-	-	-	0.1
虫数計	20.5			29.2	0			0.0	0			9.6

注) 数値は、20複葉(10株各2複葉)当りの寄生頭数を示した。

平年値は有翅虫数と無翅虫数の合計。品種は「スノーマーチ」。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況（訓子府）

虫種	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ				モモアカアブラムシ				ワタアブラムシ			
	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年
6.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
2	0	1	1	0.5	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
3	0	0.5	0.5	0.3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
4	0	0.5	0.5	0.4	0	0	0	0.0	0.5	0.5	1	0.5
5	0.5	7	7.5	1.4	0	0	0	0.0	0.5	1	1.5	0.1
6	0	8	8	2.2	0	0	0	0.3	0.5	1	1.5	2.8
7.1	0.5	1	1.5	5.7	0	0	0	0.0	0.5	0.5	1	3.7
2	0	0.5	0.5	7.0	0	0	0	0.0	0	16.5	16.5	6.4
3	0	1	1	6.4	0	0	0	0.0	0	12	12	16.4
4	0	0.5	0.5	6.3	0	0	0	0.0	1	3	4	26.2
5	0	0.5	0.5	4.8	0	0	0	0.1	0.5	0.5	1	50.7
6	0	0	0	1.8	0	0	0	0.0	0.5	1.5	2	32.3
8.1	0	0	0	0.6	0	0	0	0.0	0.5	3.5	4	18.6
2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.0	0.5	1	1.5	17.0
3	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	1	1	25.2
4	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	10.4
虫数計	21.5			37.8	0			0.4	47			210.0

注) 数値は、20複葉(10株各2複葉)当りの寄生頭数を示した。

平年値は有翅虫数と無翅虫数の合計。品種は「スノーマーチ」。

巡回調査結果

一般ほにおけるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

振興局	普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬	
			本年	優占種	本年	優占種	本年	優占種	本年	優占種
空知	南東部	1	0		0		0		0	
後志	本所	4	0		0		0.3		0	
胆振	本所	2	0		0.5	モモ	1.0	ワタ	8.0	ワタ
渡島	本所	1	0		0		10.0	モモ	13.0	モモ
檜山	本所	2	0		0		0		0	
	北部	2	1.0	ヒゲ	0		1.0	ワタ	6.5	ヒゲ、ワタ
上川	富良野	3	0		0		0		0	
	大雪	3	0		0		0		1.0	
	士別	1	0		0		0		0	
	名寄	1	0		0		0		0	
オホーツク	本所	8	0.4	ヒゲ、ワタ	2.4	ヒゲ、モモ	8.3	ヒゲ、モモ、ワタ	11.1	ヒゲ、ワタ
	清里	6	0	ヒゲ	0.2	ヒゲ	5.5	ヒゲ、ワタ	3.3	ワタ
	網走	2	0		0.5	ヒゲ	0		0.5	ワタ
	美幌	2	0		0		0.5	モモ	0	モモ
十勝	本所	5	0.6	ヒゲ	0.2	ヒゲ	2.0	ヒゲ	0.4	ヒゲ
	東部	6	0.2	ヒゲ	0		0		0	
	東北部	1	2.0	ヒゲ	0		0		0	
	北部	3	0		0		0		0	
	西部	2	0		0		0		0	
	南部	7	2.0	ワタ	0		0		0	
釧路	本所	2	0		0		0		0	
根室	北根室	1	0		0		0		0	

10株20複葉調査

ヒゲ：ジャガイモヒゲナガアブラムシ、モモ：モモアカアブラムシ、ワタ：ワタアブラムシ

## (Ⅶ) てんさいの病害虫

予察ほにおけるてんさいの生育期

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		移植期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	ライエン	3月17日	3月16日	3月22日	3月25日	4月25日	4月29日	8
	あまいぶき	3月17日	3月16日	3月22日	3月25日	4月25日	4月30日	10
芽室	ライエン	3月16日	3月16日	3月22日	3月25日	4月25日	4月28日	8
	あまいぶき	3月16日	3月17日	3月22日	3月25日	4月25日	4月28日	10
	スタウト	3月16日	3月17日	3月22日	3月25日	4月25日	4月28日	10
訓子府	ライエン	3月22日	3月23日	3月26日	3月28日	5月1日	5月4日	10

### 1 褐斑病 発生期 早 発生量 多

発生面積 51,300 ha ( 92.6% : 平年 31.4%) 被害面積 26,232 ha ( 47.4% : 平年 3.9%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほの「あまいぶき(抵抗性”弱”)」における初発期は、長沼町で平年並、芽室町で平年より早かった。訓子府町の「ライエン(”やや強”)」においても平年より早かった。発生量はいずれの地点でも平年より多かった。
- ・一般ほにおける発生期は平年より早く、オホーツク地方では6月中旬に初発が確認された。発生面積率、被害面積率はいずれも平年より高かった。道内全域で被害が認められた。

#### 発生原因の解析

- ・6月中旬以降気温が平年より高く、初発時期が早まった。7、8月も気温が高く、降雨の少ない時期が短かったことから、発病に好適な条件となり、発生量が増加し、被害が広がった。
- ・QoI 剤やDMI 剤の耐性菌が発生しており、防除薬剤が限られている。
- ・7月21日付注意報第4号発表。

予察ほにおける褐斑病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	ライエン	7月3日	7月9日	8.2	9.1	8
	あまいぶき	7月7日	7月7日	8.2	8.6	10
芽室	ライエン	6月27日	7月5日	7.4	8.6	8
	あまいぶき	6月27日	7月6日	7.4	8.6	9
	スタウト	6月27日	7月9日	7.4	8.6	9
訓子府	ライエン	7月4日	7月11日	7.6	9.1	10

注1) 芽室の「あまいぶき」、「スタウト」には2カ年の欠測あり

注2) 「ライエン」の平年値は「リッカ」の平年値を継承

予察ほにおける褐斑病の発生状況

地点	長沼			
品種名	ライエン		あまいぶき	
調査	発病度		発病度	
月半旬	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0.1
7.2	0	0.3	0.8	1.0
7.4	6.4	1.3	10.4	2.3
7.6	20.8	3.8	24.4	10.4
8.2	48.0	13.1	50.4	23.5
8.4	65.6	26.3	74.8	38.4
8.6	85.2	42.0	92.8	59.6
9.2	89.2	56.4	95.2	73.8
9.4	99.4	69.2	100.0	85.5
9.6	100.0	79.8	100.0	91.9

地点	芽室					
品種名	ライエン		あまいぶき		スタウト	
調査	発病度		発病度		発病度	
月半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0.4	0.1	1.2	0.1	0.8	0.1
7.2	3.2	2.1	2.0	2.1	4.4	2.1
7.4	21.6	3.1	20.8	4.0	22.0	2.8
7.6	25.6	6.9	26.0	12.3	30.4	6.8
8.2	48.8	17.6	54.8	24.9	55.6	17.4
8.4	68.8	27.0	75.6	34.5	75.6	26.8
8.6	95.2	36.4	96.0	51.9	92.0	37.3
9.2	98.4	51.4	96.0	70.8	92.4	52.9
9.4	98.4	60.0	97.6	79.5	94.0	62.8
9.6	100.0	73.7	98.8	88.9	97.2	75.8

地点	訓子府	
品種名	ライエン	
調査	発病度	
月半旬	本年	平年
6.6	0	0
7.2	1.2	0.4
7.4	7.6	1.4
7.6	21.2	5.0
8.2	39.2	11.9
8.4	64.0	22.6
8.6	89.6	36.1
9.2	98.4	52.8
9.4	100.0	62.8
9.6	100.0	74.3

巡回調査結果

一般ほにおける褐斑病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)			
		7月3半旬	7月6半旬	8月3半旬	8月6半旬
空知	南東部	0	1.0	2.0	100.0
石狩	本所	0	0.7	4.3	10.0
後志	本所	0	6.0	13.0	93.3
胆振	本所	0	4.3	13.8	50.0
	東胆振	0.7	8.3	9.3	55.3
上川	富良野	0	0	0	0
	大雪	0	0	0	7.0
	士別	0	1.0	4.0	15.0
	名寄	17.5	32.5	32.5	45.0
オホーツク	本所	0	6.1	48.1	99.6
	清里	0.2	20.2	43.3	94.3
	網走	0	9.0	33.5	87.5
	美幌	0	0.4	9.8	46.0
	遠軽	0.7	9.3	30.7	53.0
十勝	本所	2.9	17.7	76.0	100.0
	東部	1.3	5.7	41.7	90.5
	東北部	3.0	18.0	48.0	64.5
	北部	0.3	53.3	76.7	96.7
	西部	0.7	13.7	66.7	100.0
	南部	0.7	6.4	18.9	66.1

2 根腐病（黒根病を含む） 発生期 — 発生量 少

発生面積 3,891 ha ( 7.0% : 平年 10.7% ) 被害面積 70 ha ( 0.1% : 平年 1.1% )

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年並であった。被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

・夏季の高温とまとまった降雨により、発生に好適な条件となったものの、常発地では抵抗性品種が導入されていることや、防除の実施により、被害に至るほ場は少なかった。

3 そう根病 発生期 — 発生量 並

発生面積 300 ha ( 0.5% : 平年 0.4% ) 被害面積 0 ha ( 0% : 平年 0% )

発生経過の概要

・一般ほにおける発生は平年並みに少なかった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

・抵抗性品種の導入が進み、近年発生はほとんど認められない。

4 黄化病（旧 西部萎黄病） 発生期 — 発生量 少

発生面積 502 ha ( 0.9% : 平年 6.3% ) 被害面積 0 ha ( 0% : 平年 0.3% )

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は0.9%で、被害は認められなかった。

### 発生原因の解析

- ・冬季のハウスクリーニングが実施され、適切な防除が実施されている。

5 ヨトウガ	<b>第1回</b>	<b>発生期：並</b>	<b>発生量：やや多</b>
	発生面積	11,395 ha( 20.6%：平年 14.8%)	被害面積 479 ha( 0.9%：平年 0.7%)
	<b>第2回</b>	<b>発生期：やや早</b>	<b>発生量：やや多</b>
	発生面積	9,439 ha( 17.0%：平年 14.2%)	被害面積 401 ha( 0.7%：平年 0.5%)

### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける産卵初発期は訓子府町で平年より早く、長沼町及び芽室町では平年より遅かった。
- ・第1回目の卵塊数は訓子府町で平年並、長沼町および芽室町で平年より少なかった。
- ・予察ほにおける食害程度は芽室町で平年並、長沼町および訓子府町では平年より低かった。
- ・予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町で平年並、北斗市では平年より遅く、比布町では平年よりやや早かった。予察ほにおける産卵初発期は長沼町で平年より早く、訓子府町では平年よりやや早かった。芽室町では産卵を認めていない。
- ・第2回目の卵塊数は、長沼町、訓子府町で平年より少なかった。幼虫による食害程度は、長沼町で平年より高く、芽室町で平年並、訓子府町では平年よりやや低かった。
- ・フェロモントラップによる第1回成虫初誘殺期は、北斗市、芽室町では平年より早く、長沼町で平年よりやや遅く、比布町では平年より遅かった。訓子府町では誘殺は認められなかった。誘殺数はいずれの地点においても平年より少なかった。
- ・フェロモントラップによる第2回成虫初誘殺期は、訓子府町で平年より早く、比布町で平年よりやや早く、芽室町で平年並、長沼町、北斗市では平年より遅かった。誘殺数は、比布町で平年並であったが他の地点では平年より少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率、被害面積率は1回目、2回目ともに平年よりやや高かった。

### 発生原因の解析

- ・前年、第2回目の発生量は平年よりやや少なく、越冬密度はやや低かったと推測される。
- ・4月～6月の気温は高く経過したものの、産卵初発は早くはならなかった。
- ・第1回の発生時期は高温で経過し、産卵加害に好適な条件となった。第2回の卵塊初発期は平年よりやや早かった。夏季は高温に経過し夏休眠により第2回成虫の発生は長引き加害も長く続いたものと推測される。

予察灯によるヨトウガ成虫の発生期及び予察ほにおける産卵期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第一回成虫	初飛来日 (月日)	-	6月11日	-	6月7日	-	5月23日	-	6月9日	-	6月3日
	最盛期 (月日)	-	6月11日	-	-	-	-	-	-	-	-
	50%誘殺日 (月日)	-	6月11日	-	-	-	-	-	-	-	-
	終息日 (月日)	-	6月13日	-	6月13日	-	6月4日	-	6月19日	-	6月19日
	総誘殺数 (頭)	-	0.9	0	1.3	0	1.0	0	1.0	0	1.3
	産卵初発 (月半旬)	6. IV	6. II	-	-	-	6. IV	-	6. II	-	6. V
第二回成虫	初飛来日 (月日)	8月6日	8月8日	-	8月8日	9月25日	8月9日	8月8日	8月12日	-	8月12日
	最盛期 (月日)	8月6日	8月12日	-	8月13日	-	-	-	8月17日	-	8月18日
	50%誘殺日 (月日)	8月6日	8月15日	-	8月13日	-	-	-	8月24日	-	8月20日
	終息日 (月日)	9月4日	9月8日	-	8月28日	9月25日	8月25日	8月8日	9月4日	-	9月1日
	総誘殺数 (頭)	2	8.0	0	8.5	1	1.4	1	6.9	0	8.7
	産卵初発 (月半旬)	7. VI	8. II	-	-	-	-	-	8. III	8. II	8. III
平年数		10		10		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察灯によるヨトウガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
5.	3	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.1	0	0.3	0	0.1	0	0.3
6.	1	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	0.1	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.6	0	0.2	0	0.1	0	0.4
	3	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.2	0	0.2
	4	0	0.2	0	0.2	0	0.2	0	0.2	0	0.1
	5	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
7.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	6	0	0.2	0	0.4	0	0.2	0	0.0	0	0.1
8.	1	0	0.4	0	0.5	0	0.1	0	0.1	0	0.1
	2	1	2.3	0	0.7	0	0.4	1	0.3	0	1.3
	3	0	1.1	0	2.3	0	0.2	0	1.2	0	1.8
	4	0	1.2	0	1.9	0	0.0	0	1.7	0	1.7
	5	0	1.2	0	1.0	0	0.2	0	1.3	0	1.5
	6	0	0.5	0	0.5	0	0.1	0	0.7	0	0.4
9.	1	1	0.2	0	0.3	0	0.0	0	0.8	0	1.2
	2	0	0.1	0	0.6	0	0.1	0	0.1	0	0.4
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.2
	4	0	0.4	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0	0.0
	5	0	0.2	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		

注) 予察灯は、長沼・比布・北斗・訓子府は100W高圧水銀灯、芽室は20W青色蛍光灯による。

予察ほにおけるヨトウガの産卵状況と被害推移

月半旬	卵塊数				食害程度		平年数		
	大	中	小	合計	平年	本年			
長 沼	5. 5					0.0	0	0.0	10
	5. 6					0.0	0	0.0	
	6. 1					0.8	0	0.0	
	6. 2					1.7	0	0.2	
	6. 3					2.9	0	0.6	
	6. 4		0.5		0.5	2.7	0	2.4	
	6. 5					1.6	0	7.3	
	6. 6					0.8	3	14.9	
	7. 1					0.2	8	28.3	
	7. 2					0.4	15	39.7	
	7. 3				-	0.2	-	49.0	
	7. 4					0.0	15	57.6	
	7. 5					0.0	38.5	61.7	
	7. 6	1	0.5		1.5	0.4	47	62.9	
	8. 1	0.5			0.5	0.9	50	63.8	
	8. 2					1.5	50	60.9	
	8. 3		1		1	2.5	52	61.1	
	8. 4					2.0	68	58.3	
8. 5					1.9	74	55.7		
8. 6					0.6	94	58.5		
9. 1					0.5	99	60.6		
9. 2					0.6	100	67.0		
9. 3					0.2	100	72.9		
9. 4					0.1	100	75.6		
9. 5					0.1	100	77.4		
9. 6					0.0	100	80.1		
芽 室	5. 5					0.0	0	0.0	10
	5. 6					0.3	0	0.0	
	6. 1					0.2	0	0.0	
	6. 2					0.9	0	0.0	
	6. 3					1.6	0	0.1	
	6. 4					1.6	0.5	0.5	
	6. 5			1	1	0.9	3.5	3.3	
	6. 6					0.3	6	7.9	
	7. 1					0.3	18	14.9	
	7. 2					0.0	21	19.9	
	7. 3					0.0	25.5	26.6	
	7. 4					0.0	28	32.3	
	7. 5					0.0	30	35.8	
	7. 6					0.1	31	37.4	
	8. 1					0.3	30.5	39.0	
	8. 2					1.0	33	39.2	
	8. 3					1.8	34.5	38.7	
	8. 4					2.4	37.5	39.6	
8. 5					2.7	34	40.1		
8. 6					1.3	43	42.9		
9. 1					0.4	38	46.3		
9. 2					0.0	42.5	50.1		
9. 3					0.0	39	53.2		
9. 4					0.0	36	57.8		
9. 5					0.0	36.5	61.0		
9. 6					0.0	32.5	62.6		
訓 子 府	5. 5					-	0	0.0	10
	5. 6					-	0	0.0	
	6. 1					0.0	0	0.0	
	6. 2					0.0	0	0.0	
	6. 3			1	1	0.0	0	0.0	
	6. 4					0.7	0	0.0	
	6. 5					0.1	0	0.3	
	6. 6					0.3	2	1.6	
	7. 1					0.0	2	2.6	
	7. 2					0.0	2	6.2	
	7. 3					0.1	2	10.3	
	7. 4					0.0	2	15.0	
	7. 5					0.0	5	20.2	
	7. 6					0.0	5	23.5	
	8. 1					0.0	6	26.2	
	8. 2	1			1	0.5	8	28.3	
	8. 3					1.2	12	29.2	
	8. 4					0.6	20	30.9	
8. 5					0.7	24	32.9		
8. 6					0.7	26	36.0		
9. 1					0.2	29	41.0		
9. 2					0.4	30	47.0		
9. 3					0.0	30	54.5		
9. 4					0.0	30	60.2		
9. 5					0.0	28	65.3		
9. 6					0.0	28	68.0		

注) 卵塊数は50株調査、食害程度は25株調査

フェロモントラップによるヨトウガ成虫の発生期

	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
第一回											
初飛来日 (月日)	6月4日	5月31日	5月28日	5月22日	4月28日	5月13日	5月4日	5月22日	-	6月3日	
最盛期 (月日)	-	6月15日	-	6月15日	6月14日	6月3日	6月5日	6月13日	-	6月25日	
終息日 (月日)	6月4日	6月27日	7月7日	6月27日	6月18日	6月24日	6月5日	7月2日	-	6月24日	
総誘殺数 (頭)	1.0	7.9	3	18.1	7	20.9	6	25.3	0	4.1	
第二回											
初飛来日 (月日)	9月5日	8月5日	7月24日	7月28日	9月3日	7月26日	8月3日	8月4日	8月3日	8月12日	
最盛期 (月日)	-	8月17日	8月3日	8月11日	9月20日	8月21日	-	8月17日	-	8月23日	
終息日 (月日)	9月15日	9月10日	9月25日	9月8日	9月21日	9月13日	8月3日	8月30日	8月7日	9月7日	
総誘殺数 (頭)	3.0	18.2	25	24.4	6	40.8	2	22.5	2	12.4	

フェロモントラップによるヨトウガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 1	0	0.0	0	0.3	0	0.1	1	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.2	0	0.1
3	0	0.1	0	0.2	1	1.1	0	0.0	0	0.0
4	0	0.1	0	0.3	0	0.8	0	0.5	0	0.0
5	0	0.3	0	0.9	0	1.9	0	1.5	0	0.1
6	0	0.5	1	1.3	0	3.0	0	2.2	0	0.3
6. 1	1	0.8	0	2.1	1	3.0	5	4.5	0	0.6
2	0	1.2	0	2.7	0	3.5	0	6.7	0	0.5
3	0	1.7	0	2.6	2	2.8	0	4.8	0	0.5
4	0	2.2	1	3.7	1	1.4	0	0.5	0	0.4
5	0	0.5	0	3.4	0	1.8	0	0.8	0	0.2
6	0	0.4	0	0.2	0	0.3	0	1.0	0	0.7
7. 1	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	1.8	0	0.1
2	0	0.0	1	0.1	0	0.3	0	0.7	0	0.4
3	0	0.0	0	0.1	0	0.4	0	0.0	0	0.2
4	0	0.1	0	0.4	0	0.5	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	1	1.7	0	0.5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.4	0	1.4	0	1.5	0	0.0	0	0.0
8. 1	0	1.4	16	3.3	0	1.8	2	5.0	1	1.4
2	0	3.6	1	5.9	0	4.1	0	6.7	1	0.9
3	0	4.0	2	4.3	0	6.1	0	0.8	0	1.0
4	0	2.3	2	2.4	0	3.0	0	0.8	0	0.6
5	0	0.8	0	0.2	0	3.8	0	0.7	0	1.3
6	0	1.6	0	2.1	0	3.7	0	0.2	0	2.2
9. 1	1	2.8	0	1.8	2	3.2	0	5.7	0	3.7
2	1	0.4	0	0.2	0	3.8	0	2.0	0	0.5
3	1	0.2	0.3	0.1	0	4.4	0	0.7	0	0.3
4	0	0.2	1.8	0.2	3	5.3	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	1	0.1	1	0.6	0	0.0	0	0.0
6	0	0.2	0	0.0	0	0.4	0	0.0	0	0.0
平年数	10		9		8		6		10	

巡回調査結果

一般ほにおけるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

振興局	普及センター	地点数	被害株率 (%)				食害程度 7月6半旬
			6月6半旬	7月3半旬	8月6半旬	9月3半旬	
空知	南東部	1	0	0	6.0	18.0	0
石狩	本所	3	10.0	16.7	63.3	60.0	18.0
後志	本所	3	2.0	1.7	15.0	15.3	6.0
胆振	本所	4	6.0	6.0	0	4.0	6.0
	東胆振	3	8.0	9.7	14.7	45.0	7.3
上川	富良野	3	0	3.0	7.3	18.3	0.3
	大雪	3	0	1.3	6.7	12.0	1.0
	士別	1	19.0	20.0	7.0	10.0	25.0
	名寄	2	56.0	51.0	58.0	26.0	22.5
オホーツク	本所	9	5.9	9.4	4.1	6.0	7.0
	清里	6	22.0	52.0	59.3	39.0	14.8
	網走	2	12.0	21.0	12.5	24.0	24.0
	美幌	5	4.2	14.2	2.6	10.4	12.8
	遠軽	3	6.3	14.7	12.7	46.0	10.3
十勝	本所	7	13.7	23.0	25.1	8.3	17.9
	東部	6	2.7	7.7	5.3	19.3	1.5
	東北部	4	20.3	18.8	17.0	61.8	7.8
	北部	3	0.7	5.0	14.3	20.0	7.0
	西部	3	8.3	6.0	1.7	1.7	6.7
	南部	7	13.9	18.9	15.0	42.1	3.6

注) 被害株率：50株調査、食害程度：25株調査

6 テンサイモグリハナバエ 発生期 並 発生量 並  
 発生面積 168 ha( 0.3%：平年 0.8%) 被害面積 0 ha( 0%：平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年並で、被害も認められなかった。

発生原因の解析

・近年は少発生が続いており、越冬密度は低かった。

7 テンサイトビハムシ 発生期 やや早 発生量 やや多

発生経過の概要

・予察ほにおける被害の初発期は、長沼町及び芽室町で平年よりやや早く、訓子府町で平年並であった。  
 ・被害程度は、芽室町で平年より高く、長沼町及び訓子府町では平年並であった。

発生原因の解析

・芽室町では前年の被害が平年より多く、越冬密度が高かったものと推測される。

予察ほにおけるテンサイトビハムシの被害発生期

地点	被害初発期		被害最盛期		平年数
	本年	平年	本年	平年	
長沼	5. II	5. III	5. VI	6. I	10
芽室	5. II	5. III	5. V	6. I	10
訓子府	5. III	5. III	6. I	6. I	9

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察ほにおけるテナサイトビハムシの被害推移

月半旬	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	1.4	0	0.0	0	0.3
2	0	1.9	5	0.6	0	0.1
3	0	7.2	9	1.2	1	4.2
4	17.5	15.7	17	2.9	10	8.7
5	20	19.4	24	5.3	18	15.2
6	34	27.9	21	8.9	23	21.0
6. 1	31	29.2	23	12.2	25	22.3
2	30	29.7	23	11.3	25	24.3
平年数	10		10		9	

注) 調査株数は25株。

8 シロオビノメイガ 発生期 早 発生量 多

発生経過の概要

- ・予察灯による誘殺の初発期は、北斗市、芽室町および訓子府町で平年より早く、長沼町および比布町では平年より遅かった。
- ・誘殺数はいずれの地点においても平年より多かった。

発生原因の解析

- ・6月下旬に早期の飛来があった。8～9月には次世代の発生が認められ、高温経過で増殖が多くなったものと推測される。

予察灯によるシロオビノメイガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
7.	1	0	0.1	0	0.0	1	0.2	1	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	2	0.0	-	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	3	0.1	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
8.	1	0	0.1	0	0.0	2	0.0	1	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.1	0	0.0	1	0.0	0	0.0
	3	0	1.0	0	0.1	0	0.6	4	0.0	0	0.1
	4	1	0.4	0	0.3	4	0.5	0	0.8	0	0.1
	5	0	0.6	0	0.0	13	0.1	0	0.2	0	0.0
	6	0	0.7	0	0.4	10	1.0	3	1.0	5	0.1
9.	1	1	0.7	0	0.1	42	1.1	11	0.2	0	0.0
	2	4	2.3	0	0.2	24	0.7	12	0.4	0	0.0
	3	15	1.0	0	0.1	21	0.7	12	0.3	0	0.2
	4	13	0.5	0	0.2	17	0.8	23	0.6	0	0.1
	5	9	0.5	1	0.3	20	0.6	46	0.3	3	0.0
	6	2	0.9	0	0.1	5	0.5	32	0.8	0	0.0
10.	1	2	0.6	0	0.0	4	0.1	-	1.0	0	0.2
	2	0	0.4	0	0.7	2	0.2	-	0.0	0	0.0
	3	1	0.1	0	0.0	0	0.2	-	0.0	0	0.0
	4	0	0.1	-	-	3	0.0	-	0.0	-	0.0
	5	-	0.0	-	-	0	0.2	-	-	-	0.0
	6	-	0.0	-	-	-	0.0	-	-	-	0.0
平年数	10		10		10		10		10		

## (IX) たまねぎの病害虫

### 予察ほにおけるたまねぎの生育期

地点	品種名	移植期(月日)		倒伏期(月日)		枯葉期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	北もみじ2000	4月21日	4月28日	7月21日	7月31日	7月31日	8月18日	10
訓子府	北もみじ2000	5月9日	5月12日	8月4日	8月9日	8月25日	8月29日	10

#### 1 白斑葉枯病 発生期 やや遅 発生量 少

発生面積 2,952 ha ( 20.2% : 平年 39.6%) 被害面積 29 ha ( 0.2% : 平年 4.1%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は長沼町で平年よりやや早く、訓子府町で平年よりやや遅かった。発生量は長沼町で平年よりやや少なく、訓子府町で平年並だった。
- ・一般ほにおける発生期は平年よりやや遅かった。発生面積率は20.2%、被害面積率は0.2%といずれも平年より低かった。

#### 発生原因の解析

- ・適切に防除が実施されている。
- ・平年の初発時期である6月中旬の降水量が少なく、初発が遅れた。7月も多雨とはならなかったため、発生の伸びが抑えられた。

### 予察ほにおける白斑葉枯病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	北もみじ2000	6月13日	6月16日	6.6	7.4	10
訓子府	北もみじ2000	7月1日	6月26日	7.6	7.6	10

### 予察ほにおける白斑葉枯病の発生状況

地点	長沼				訓子府			
	北もみじ2000							
	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
月半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.2	0	0	0	0	0	0	0	0
6.4	28.0	32.6	7.0	8.2	0	0.8	0	0.2
6.6	94	79.3	23.5	21.3	0	10.6	0	2.7
7.2	96	94.6	25.0	34.7	16.0	19.0	4.0	4.8
7.4	100	100	27.5	50.5	32.0	36.0	8.0	9.0
7.6	—	100	—	73.3	72.0	69.6	25.5	19.0

注1) —は調査不能

巡回調査結果

一般ほにおける白斑葉枯病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)		
		6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	0	0	41.2
	南東部	0	0	0
	南西部	0	0	0
	中空知	0	22.0	28.0
石狩	北部	0	0	0
上川	富良野	0	0	0
	大雪	0	0	0
	士別	0	0	1.0
オホーツク	本所	0	0.8	4.0
	清里	0	2.0	38.5
	美幌	0	0	0
	遠軽	10.0	0	13.0
十勝	本所	0	0	2.7
	東部	3.0	2.0	2.5

2 軟腐病 発生期 — 発生量 やや多

発生面積 8,064 ha ( 55.2% : 平年 39.7%) 被害面積 746 ha ( 5.1% : 平年 6.4%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発生量は平年よりやや少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は55.2%と平年より高く、被害面積率は5.1%と平年並だった。

発生原因の解析

- ・6月が高温多雨で、7月は多雨ではないものの一時的に降水量の多くなった時期があり、発病に好適な条件となった。
- ・適切な防除が実施されており、多発には至らなかった。

予察ほにおける軟腐病の発生状況

地点	長沼	
品種名	北もみじ2000	
収穫時	本年	平年
発病球率(%)	3.0	5.4

平年数:10年

3 乾腐病 発生期 — 発生量 少

発生面積 1,428 ha ( 9.8% : 平年 26.1%) 被害面積 19 ha ( 0.1% : 平年 2.3%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発生は認められなかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は9.8%、被害面積率は0.1%といずれも平年より低かった。

発生原因の解析

- ・減追肥が進んでいる他、春季の天候が良好で定植後の活着が良好となり、本病の侵入門戸となる根傷みの発生が少なかったものと推測される。

### 予察ほにおける乾腐病の発生状況

地点	長沼	
品種名	北もみじ2000	
収穫時	本年	平年
発病球率(%)	0	0.4

平年数:10年

4 タマネギバエ・タネバエ 発生期 やや多 発生量 やや多  
 発生面積 829 ha( 5.7% : 平年 5.7%) 被害面積 128 ha( 0.9% : 平年 0.3%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける被害は長沼町と訓子府町では認められなかった。
- ・一般ほでの発生面積率は平年並、被害面積率は平年より高かった。

#### 発生原因の解析

- ・移植栽培においては、4月は高温多雨、5月は高温少雨で概ね活着は良好であったものの、空知地方の一部では土壌湿度の高い条件で耕起定植を行った移植時期の早い早生品種で被害が発生した。
- ・タネバエ・タマネギバエの被害を受けやすい直播栽培が多い十勝地方においては発生が目立った。

#### 予察ほにおけるタマネギバエによる被害株率(%)

月半旬	長沼		訓子府	
	本年	平年	本年	平年
5. 5	0.0	0.0	0.0	0.0
6	0.0	0.0	0.0	0.0
6. 1	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.0	0.0
4	0.0	0.0	0.0	0.1
5	0.0	0.0	0.0	0.1
6	0.0	0.0	0.0	0.2
7. 1	0.0	0.0	0.0	0.2
2	0.0	0.0	0.0	0.3
3	0.0	0.0	0.0	0.3
4	0.0	0.0	0.0	0.4
5	0.0	0.0	0.0	0.4
6	-	0.0	0.0	0.4
平年数	10		9	

注) タネバエによる被害も含む。  
 -は倒伏による調査打ち切り。

5 ネギアザミウマ 発生期 やや早 発生量 やや多  
 発生面積 14,070 ha( 96.4% : 平年 90.2%) 被害面積 2,027 ha( 13.9% : 平年 13.2%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける成虫および幼虫の初発期は、訓子府町で平年より早く、長沼町では平年並であった。
- ・寄生虫数は、長沼町では平年より少なかった。訓子府町では6月から7月上旬は平年より多かったもののその後急減した。
- ・被害程度は、長沼町で平年より低く、訓子府町で平年より高かった。
- ・一般ほでの発生面積率は平年よりやや高かった。被害面積率は平年並であった。

#### 発生原因の解析

- ・5、6月は高温に経過し発生がやや早まった。夏季は高温に経過し増殖・加害に好適な条件となったものの、多雨となった時期もあり密度が急減することもあった。
- ・近年本種に対して効果の高い薬剤の登録が増加しており、一般ほでは防除が適切に行われた。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生期

		長沼		訓子府	
		本年	平年	本年	平年
成虫	初発期	6. I	6. I	5. V	6. I
	最盛期	7. V	7. IV	6. VI	7. III
幼虫	初発期	6. III	6. III	6. I	6. IV
	最盛期	7. II	7. V	7. I	7. V
被害	初発期	6. I	6. II	5. V	6. I
	最盛期	7. III	7. IV	6. V	7. IV

注) ローマ数字は半月を示す。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況と被害推移

	月半月	成虫数		幼虫数		被害程度指数		寄生株率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	5. 5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	10
	6	0	1.0	0	0.0	0	0.3	0	3.7	
	6. 1	0.3	3.5	0	0.1	0.3	1.7	1	11.3	
	2	1.5	6.7	0	1.8	1.8	5.1	6	17.6	
	3	3.3	15.7	0.5	11.8	4	10.8	11	32.4	
	4	7	19.8	4.5	70.7	7	17.1	16	41.3	
	5	7	25.3	13	203.5	9	22.6	36	47.2	
	6	11	44.2	10	245.0	20	27.9	44	54.4	
	7. 1	24	85.1	33	202.9	31	35.2	80	63.8	
	2	49	135.6	287	418.3	38	45.1	100	70.0	
	3	17	148.6	58	755.2	47	54.4	88	74.8	
	4	52	175.7	195	1533.4	41	63.5	100	85.4	
5	58	159.4	52	611.9	40	67.8	100	90.2		
6	-	39.7	-	115.9	-	40.3	-	74.4		
8. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
訓子府	5. 5	2	0.6	0	0.0	1	0.4	8	2.2	10
	6	6	4.1	0	0.0	8	2.0	32	8.0	
	6. 1	10	16.7	5	0.0	17	5.3	36	20.8	
	2	24	21.2	2	4.2	27	7.7	72	24.4	
	3	51	44.6	70	25.1	41	13.2	96	42.8	
	4	81	43.4	532	168.5	55	27.9	96	65.2	
	5	85	37.1	1342	379.0	75	38.3	100	81.2	
	6	91	40.8	1118	744.5	89	48.2	100	88.4	
	7. 1	79	77.7	1472	1022.6	96	60.0	100	95.2	
	2	44	139.0	1450	1137.5	98	73.8	100	98.4	
	3	21	141.4	925	1489.2	100	84.8	100	100.0	
	4	13	125.1	289	1592.7	100	92.4	100	100.0	
	5	9	96.3	97	1313.7	99	95.6	96	99.1	
	6	29	70.3	32	1437.2	95	97.8	88	98.4	
8. 1	-	32.1	-	1308.8	-	98.6	-	96.4		
2	-	70.3	-	285.5	-	99.0	-	90.7		

注) 調査株数は25株、抽出心葉を含む3葉当たりを調査した数値。

-は倒伏による調査打ち切り。

巡回調査結果

一般ほにおけるネギアザミウマ寄生株率

振興局	普及センター	地点数	寄生株率(%)		
			6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	5	57.6	69.8	87.2
	南東部	3	45.7	73.0	75.3
	南西部	3	28.0	41.3	17.3
	中空知	1	32.0	42.0	20.0
石狩	北部	2	0	18.5	24.0
上川	富良野	4	21.5	24.0	21.3
	大雪	1	15.0	20.0	30.0
	士別	1	51.0	94.0	90.0
オホーツク	本所	8	16.5	40.0	32.5
	清里	2	80.0	100.0	100.0
	美幌	4	5.0	2.3	1.0
	遠軽	1	23.0	17.0	37.0
十勝	本所	3	27.7	41.3	30.0
	東部	2	49.0	45.0	59.0

6 ネギハモグリバエ 発生期 並 発生量 やや少

発生面積 1,710ha ( 11.7% : 平年 18.6%) 被害面積 87 ha ( 0.6% : 平年 2.8%)

発生経過の概要

- ・一般ほにおける初発期は5月4～6半旬と平年並であった。
- ・一般ほにおける発生面積率、被害面積率はいずれも平年よりやや低かった。

発生原因の解析

- ・4～8月は高温で経過し発生が早まった。5月は高温少雨だったため、初期の増殖には好適な条件となった。
- ・ほとんどの一般ほでは防除が適切に行われたものの、新規発生地域では著しい被害が発生した。

## (X) ねぎの病害虫

### 予察ほにおけるねぎの生育期

地点	品種名	作型	播種期(月日)		定植期(月日)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
滝川	元蔵	夏秋どり	4月10日	4月10日	6月26日	6月13日	10

#### 1 さび病 発生期 ー 発生量 やや多

発生面積 160 ha ( 26.5% : 平年 9.9%) 被害面積 5 ha ( 0.8% : 平年 0.3%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は平年より遅く、発生量は平年よりやや少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は平年より高かった。被害面積率は0.8%と平年並だった。

#### 発生原因の解析

- ・夏季の高温によりねぎの生育が弱った圃場で平年より早くから発病が認められた。
- ・適切な防除の実施により、発生は多かったものの被害に至る圃場はごくわずかであった。

### 予察ほにおけるさび病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
滝川	元蔵	9月25日	9月9日	10.3	10.1	10

### 予察ほにおけるさび病の発生状況

地点	滝川			
品種名	元蔵			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
8.2	0	5.4	0.0	1.4
8.4	0	7.2	0.0	1.8
8.6	0	10.6	0.0	3.4
9.2	0	19.6	0.0	7.7
9.4	0	36.4	0.0	13.8
9.6	0	52.6	0.0	24.0
10.2	32	62.0	8.0	33.0
10.4	76	64.0	19.0	37.2
10.6	94	65.3	24.0	36.6

#### 2 べと病 発生期 遅 発生量 少

#### 発生経過の概要

- ・滝川市の予察ほにおける初発期は平年より遅く、発生量は平年より少なかった。

#### 発生原因の解析

- ・9～10月は高温で経過したため、発病に好適な条件とならなかった。

予察ほにおけるべと病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
滝川	元蔵	10月14日	9月19日	10.3	10.2	9

予察ほにおけるべと病の発生状況

地点	滝川			
品種名	元蔵			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
8.2	0	0	0	0
8.4	0	0	0	0
8.6	0	0	0	0
9.2	0	0.6	0	0.2
9.4	0	20.4	0	10.1
9.6	0	36.8	0	25.2
10.2	0	44.2	0	36.9
10.4	0	54.0	0	40.1
10.6	0	57.6	0	46.5

3 ネギアザミウマ 発生期 並 発生量 やや多  
 発生面積 485 ha( 80.4% : 平年 73.5%) 被害面積 110 ha( 18.2% : 平年 13.8%)

発生経過の概要

・一般ほでの発生面積率、被害面積率はいずれも平年よりやや高かった。

発生原因の解析

・7月は高温だったため、増殖と加害に好適な条件となったが、8月は多雨に経過し増殖が抑制された。  
 ・一般ほでは発生初期からの防除が適切に行われた。

4 ネギコガ 発生期 - 発生量 -  
 発生面積 0 ha( 0.0% : 平年 -%) 被害面積 0 ha( 0.0% : 平年 -%)

発生経過の概要

・発生面積率、被害面積率ともに0%であった。

5 ネギハモグリバエ 発生期 - 発生量 -  
 発生面積 65 ha( 10.8% : 平年 -%) 被害面積 0 ha( 0.0% : 平年 -%)

発生経過の概要

・一般ほでの発生面積率は10.8%であった。被害は認められなかった。

## (XI) ながいもの病害虫

1 アブラムシ類 発生期 - 発生量 -  
発生面積 1 ha ( 0.1% : 平年 -%) 被害面積 0 ha ( 0.0% : 平年 -%)

### 発生経過の概要

- ・予察ほにおける黄色水盤のジャガイモヒゲナガアブラムシ有翅虫初発は長沼町で平年よりやや早く、訓子府町では平年並であった。芽室町では誘殺が認められなかった（ばれいしょのアブラムシ類の項参照）。
- ・一般ほにおける発生面積率は0.1%であった。被害は認められなかった

### 発生原因の解析

- ・春季は高温に経過し飛来が早まった。7月は高温で経過したが、周期的な降雨に見舞われ増殖が抑制された。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた

## (XII) にんじんの病害虫

1 黒葉枯病 発生期 - 発生量 やや多  
発生面積 1,112 ha ( 25.8% : 平年 27.1%) 被害面積 201 ha ( 4.7% : 平年 2.8%)

### 発生経過の概要

- ・一般ほにおける発生面積率は平年並だった。被害面積率は4.7%で、平年より多かった。

### 発生原因の解析

- ・8月中旬以降も気温が高く推移し、発生に好適な条件だった。

## (XIII) だいこんの病害虫

予察ほにおけるだいこんの生育期

地点	作型	品種名	播種期(月日)		発芽期(月日)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	春播き	おしん	6月1日	6月2日	6月8日	6月8日	10
	初夏播き	耐病総太り	6月28日	6月30日	7月3日	7月6日	10
	夏播き	耐病総太り	7月31日	7月30日	8月4日	8月4日	10

### 1 軟腐病 発生期 - 発生量 やや多

発生面積 1,258 ha (45.3% : 平年 33.0%) 被害面積 205 ha (7.4% : 平年 6.6%)

#### 発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は45.3%と平年より高く、被害面積率は7.4%と平年並だった。

#### 発生原因の解析

・夏季の高温と多雨傾向により発病に好適な条件となった。

### 2 モザイク病 発生期 - 発生量 少

#### 発生経過の概要

・予察ほにおける発生は、春まき作型で認められた。

#### 発生原因の解析

・春季は高温に経過し、媒介虫の飛来は早まったが、6月から8月は周期的な降雨に見舞われ、媒介虫の増殖が抑制されたと推測される。

予察ほにおけるモザイク病発生状況

地点	長沼					
	春播き		初夏播き		夏播き	
	おしん		耐病総太り		耐病総太り	
調査 月半旬	発病株率(%)		発病株率(%)		発病株率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0				
7.2	0	0				
7.4	0	0.9	0	0		
7.6	2.0	1.3	0	0		
8.2	2.0	6.0	0	0		
8.4			0	0	0	0
8.6			0	0	0	0
9.2			-	-	0	0
9.4					0	0
9.6					0	0

注：-は収穫期のため調査不能

### 3 キスジトビハムシ 発生期 - 発生量 多

発生面積 896 ha (32.2% : 平年 23.2%) 被害面積 205 ha (7.5% : 平年 1.2%)

#### 発生経過の概要

- ・一般ほにおける発生面積率、被害面積率はいずれも平年より高かった。

#### 発生原因の解析

- ・夏季は高温に経過し、成虫の産卵に好適な条件となった。
- ・一般ほでは防除が適切に行われたものの、後志地方では被害が目立った。

## (XIV) キャベツ・ブロッコリーの病害虫

予察ほにおけるキャベツの生育期

地点	作型	品種名	播種期(月日)		定植期(月日)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	7月どり	金系201号	4月26日	4月26日	5月23日	5月22日	10
	8月どり	金系201号	6月2日	6月3日	6月28日	6月30日	10
	9月どり	金系201号	7月5日	7月2日	7月31日	7月30日	10
北斗	7月どり	金系201号	4月21日	4月17日	5月17日	5月13日	8
	8月どり	金系201号	5月18日	5月18日	6月15日	6月12日	8
	9月どり	金系201号	6月19日	6月19日	7月14日	7月14日	8

### 1 モンシロチョウ キャベツ 発生期 並 発生量 並

#### 発生経過の概要

- ・7月までは発生量が多かったものの8月以降急減した。

#### 発生原因の解析

- ・春季から夏季は高温に経過し発生に好適な条件になったものの、多雨となった時期もあり密度が急減することもあった。
- ・近年、高温経過により年4回の発生が認められる事が多い。本年も4回目の発生が認められた。

予察ほにおけるモンシロチョウの発生期

		長沼				北斗			
		産卵		幼虫		産卵		幼虫	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	5. VI	5. V	6. I	6. I	5. IV	5. IV	5. VI	5. VI
	最盛期	5. VI	6. I	6. IV	6. III	5. V	5. VI	6. III	6. II
第2回	初発期	6. II	6. V	6. VI	7. I	6. V	6. V	6. V	6. VI
	最盛期	7. I	7. III	7. II	7. V	6. VI	7. I	7. III	7. IV
第3回	初発期	7. V	8. I	8. I	8. II	8. I	8. I	8. I	8. I
	最盛期	7. VI	8. III	8. II	8. V	8. I	8. II	8. II	8. III
第4回	初発期	9. I	8. VI	9. II	9. III	8. V	8. V	8. VI	8. VI
	最盛期	9. V	9. III	9. VI	9. V	9. IV	8. VI	9. I	9. III

注) ローマ数字は半月を示す。

予察ほにおけるモンシロチョウの発生状況

作型	月半旬	長沼				北斗			
		産卵数		幼虫数		産卵数		幼虫数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月どり	5.4	-	-	-	-	2.8	20.7	0	1.4
	5	0	4.5	0	0.0	15.2	14.9	0	6.0
	6	6	6.8	0	0.5	11.2	15.4	8	10.5
	6.1	0	13.2	2	4.1	6.8	4.4	12	13.4
	2	1	16.8	2	8.5	5.2	5.2	8.8	13.5
	3	2	7.9	4	13.2	12.4	6.5	16.4	14.6
	4	2.7	1.7	5	14.1	2.8	4.6	11.2	12.5
	5	23	4.6	4	8.7	17.6	11.5	16.4	10.3
	6	29	19.6	15	5.6	166.4	14.3	33.6	8.9
	7.1	38	57.2	20	17.2	89	30.0	78	17.6
	2	8	59.8	76	40.1	43	17.7	99	27.2
	3	0	26.3	110	80.3	29	7.1	146	30.1
8月どり	7.1	130	10.9	7	0.1	96	74.3	45	15.7
	2	44	50.2	102	19.1	83	60.6	83	42.2
	3	0	49.0	95	38.6	43	42.8	134	70.4
	4	0	40.2	52	71.1	17	13.1	96	75.4
	5	5	17.8	22	50.6	6	5.2	70	73.9
	6	32	15.6	10	30.7	0	6.4	4	39.5
	8.1	5	30.1	19	26.4	-	15.8	-	23.0
	2	5	35.0	19	27.2	-	4.3	-	15.3
	3	2	25.0	8	27.9	-	3.4	-	15.0
9月どり	8.1	0	23.3	10	1.4	47	91.0	61	38.5
	2	0	18.7	10	9.9	32	59.7	72	82.1
	3	0	18.1	1	15.6	13	18.7	66	74.8
	4	0	9.2	2	15.0	1	3.3	22	48.8
	5	0	4.2	0	11.9	41	5.0	19	18.3
	6	0	12.8	0	9.6	6	11.2	56	9.3
	9.1	5	19.1	0	10.2	25	7.1	61	10.9
	2	13	19.3	4	6.5	10	8.3	32	11.3
	3	2	27.5	8	10.4	14	5.6	31	14.0
	4	0	31.5	5	16.9	56	5.7	32	13.8
	5	96	33.1	11	18.3	12	1.9	23	13.7
	6	76	17.8	23	20.8	5	1.9	12	12.8

注) 産卵数・幼虫数の調査株数は10株。

2 コナガ      キャベツ      発生期    早    発生量    やや少  
 発生面積    685 ha( 59.6% : 平年 50.0%)      被害面積    26 ha( 2.3% : 平年 4.8%)  
 ブロッコリー 発生期    早    発生量    やや多  
 発生面積    2,210 ha( 72.2% : 平年 63.7%)      被害面積    549 ha( 17.9% : 平年 12.5%)

**発生経過の概要**

- ・フェロモントラップによる成虫の誘殺開始時期は平年より早かった。春季の誘殺数は平年より多かった。
- ・長沼町および北斗市の予察ほでの寄生幼虫数は、6月、7月は高く推移したが、その後は減少した。
- ・一般ほのキャベツにおける発生面積率は平年より高かったものの、被害面積率は平年より低かった。
- ・一般ほのブロッコリーにおける発生面積率、被害面積率はいずれも平年よりやや高かった。

**発生原因の解析**

- ・春季の飛来開始時期は平年より早かった。春季から夏季は高温に経過し発生に好適な条件になったものの、多雨となった時期もあり密度が急減することもあった。
- ・一般ほにおいては、防除が適切におこなわれた。
- ・ブロッコリーでは花蕾を収穫するため、葉の被害はキャベツより許容されやすく、キャベツと比較して薬剤防除回数が少ない。
- ・近年ジアミド剤抵抗性個体群の飛来が確認されている。

フェロモントラップによるコナガ成虫の発生期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	前年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初 発 日		4月12日	4月18日	4月9日	4月17日	3月25日	4月8日	4月10日	4月22日	4月29日	4月26日
最 盛 期	第一回	5. I	5. IV	4. VI	5. II	5. III	5. III	5. I	5. IV	5. I	5. V
	第二回	6. V	6. V	6. II	6. I	6. III	6. III	6. III	6. III	6. I	6. IV
	第三回	7. II	7. III	7. II	7. I	7. I	7. IV	8. I	7. III	7. I	7. V
	第四回	8. II	8. III	8. I	8. II	8. I	8. III	-	8. II	8. II	8. V
	第五回	9. VI	9. III	9. III	9. IV	-	9. I	-	9. I	9. I	9. IV
平 年 数		10		8		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。  
 -は欠測または評価できず。

フェロモントラップによるコナガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
4.	1	0	0.8	0	-	5	3.7	0	-	0	-
	2	0	0.3	1	1.0	4	4.0	1	0.3	0	-
	3	6	0.7	5	3.5	15	5.3	4	0.6	0	0.2
	4	2	1.0	1	2.9	8	7.2	4	0.7	0	0.7
	5	2	0.8	7	6.0	10	7.6	0	1.9	0	0.2
	6	5	2.0	74	10.1	43	9.0	3	1.4	1	0.6
5.	1	39	1.8	35	37.3	71	12.7	17	4.3	16	0.9
	2	13	6.7	4	41.4	27	19.3	11	5.8	4	2.0
	3	4	6.8	42	73.8	76	22.4	14	6.9	4	3.1
	4	15	7.8	68.7	61.8	38	28.0	6	6.1	0.7	2.9
	5	27	15.4	37.3	85.6	26	31.4	6	10.1	1.3	9.3
	6	37	20.8	75	49.1	51	43.3	2	8.2	6	12.1
6.	1	24	16.5	55	25.5	22	29.4	6	9.2	14	6.1
	2	52	11.8	82	29.4	19	22.6	2	4.7	8	5.1
	3	27	28.7	78	16.5	38	24.9	0	5.0	2.5	6.0
	4	61	21.3	37	17.1	30	25.1	0	3.1	2.5	4.7
	5	64	27.4	13	14.7	20	19.1	4	2.7	1	4.2
	6	37	36.7	18	15.7	31	31.4	3	2.9	1.5	3.6
7.	1	118.3	33.4	15	15.6	80	45.4	2	5.2	4.5	4.2
	2	137.7	59.0	27	19.6	62	50.7	3	3.8	1	2.4
	3	93	106.5	8.5	13.4	68	63.7	4	2.5	4	3.6
	4	72	128.1	2.5	12.3	34	55.1	0	5.0	1	3.4
	5	6	87.7	3	10.5	9	50.2	0	3.0	1	4.5
	6	2	101.2	7	5.8	6	62.2	0	2.1	0	5.1
8.	1	3	62.9	19	7.0	30	52.0	13	2.2	1	2.6
	2	7	49.8	5	3.8	8	31.0	6	2.3	2.6	1.1
	3	5.8	34.8	1	6.4	1	18.0	1	1.6	2.4	1.2
	4	3.2	34.2	0	2.6	0	26.9	1	1.3	0	1.9
	5	7	30.8	5	1.0	1	14.5	0	0.8	2	1.8
	6	4	24.6	1	0.6	2	6.7	0	1.1	1	1.0
9.	1	2	18.3	2	3.0	0	5.6	0	1.0	2.5	1.0
	2	3.8	22.7	2	1.0	3	5.1	0	0.1	1.3	0.4
	3	4.9	13.0	6	0.9	1	6.6	1	0.1	0.3	0.6
	4	2.0	9.3	3	1.8	0	6.1	0	0.2	0	0.2
	5	10	10.0	1	2.1	3	4.2	0	0.5	0	0.2
	6	10	9.4	1.3	4.1	5	3.3	1	0.2	0	0.0
平年数	10		8		10		10		10		

予察ほのキャベツにおけるコナガの発生状況

作型	月半旬	長沼				北斗			
		幼虫数		蛹数		幼虫数		蛹数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月どり	5.4	-	-	-	-	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.8	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.6	0	0.1	1.2	0.0	0	0.0
	6.1	0	3.9	0	0.7	8.8	1.0	0	0.0
	2	1	7.8	0	0.4	8.8	3.9	2.4	0.4
	3	22	12.4	5	3.6	13.6	9.5	5.6	1.5
	4	30	25.5	8.3	6.3	10	15.9	7.6	4.8
	5	150	41.7	23	5.8	41.6	27.6	14	15.8
	6	259	107.3	99	12.9	56.4	21.0	22.4	18.8
	7.1	166	104.0	170	30.7	67	32.0	42	21.8
	2	138	122.6	82	32.3	151	47.4	68	26.2
	3	82	302.5	38	35.8	234	214.1	92	35.9
8月どり	7.1	1	0.6	0	0.0	16	7.1	1	2.2
	2	27	5.4	1	0.8	18	17.3	5	8.1
	3	91	20.2	9	3.4	84	55.0	13	11.9
	4	354	76.3	29	10.1	110	102.2	36	32.3
	5	22	171.2	10	25.5	29	149.8	18	58.6
	6	14	104.8	3	69.8	1	99.3	8	79.5
	8.1	6	79.3	0	54.0	-	55.9	-	26.8
	2	2	45.4	0	22.8	-	27.4	-	14.8
	3	1	23.0	0	12.3	-	7.1	-	6.2
9月どり	8.1	0	1.3	0	1.3	6	43.8	13	7.6
	2	1	5.9	0	0.6	14	60.1	7	13.1
	3	4	13.9	0	1.5	30	29.0	3	9.9
	4	5	13.2	0	3.8	3	9.5	14	5.7
	5	1	10.0	4	2.2	1	6.4	3	2.0
	6	1	9.1	1	2.2	1	6.9	3	1.8
	9.1	1	7.4	0	1.4	3	9.9	1	3.4
	2	8	7.2	2	1.8	1	3.6	0	4.3
	3	17	9.6	0	1.9	0	2.4	1	4.8
	4	8	7.2	3	2.4	0	7.4	1	3.2
	5	18	11.7	3	1.3	1	5.7	0	3.3
	6	23	10.7	2	2.9	0	5.6	0	4.2

注) 調査株数は10株。

巡回調査結果

一般ほにおける食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

振興局	普及センター	作物	地点数	食害程度					優占種
				6月3半旬	6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬	8月3半旬	
空知	南西部	キャベツ	1	0	0	0	0	4.0	コナガ
石狩	本所	キャベツ	2	0	0	0	0	0	
		ブロッコリー	2	0	0	0	0	0	
	北部	ブロッコリー	3	12.5	20.0	20.0	20.0	20.0	コナガ
後志	本所	ブロッコリー	1	10.0	25.0	10.0	15.0	18.0	コナガ
胆振	本所	キャベツ	1	-	27.5	20.0	25.0	-	
	東胆振	キャベツ	1	0	0	0	-	-	
上川	大雪	ブロッコリー	3	10.0	5.0	6.7	-	-	コナガ、ヨトカ
	士別	ブロッコリー	1	11.5	6.0	6.3	1.0	4.0	コナガ
ホクカ	美幌	キャベツ	1	-	10.0	18.0	16.0	-	モンシロ
十勝	東部	キャベツ	1	-	1.0	0	3.0	-	コナガ、モンシロ
	北部	ブロッコリー	1	1.0	1.0	5.0	-	-	コナガ、モンシロ
	西部	キャベツ	1	8.0	5.0	3.0	-	-	コナガ

注) 10株調査

3 ヨトウガ	キャベツ	発生期	並	発生量	少
	発生面積	239 ha ( 20.8% : 平年 41.1%)		被害面積	0 ha ( 0% : 平年 2.6%)
	ブロッコリー	発生期	並	発生量	並
	発生面積	1,358 ha ( 44.4% : 平年 44.6%)		被害面積	115 ha ( 3.8% : 平年 3.6%)

#### 発生経過の概要

- ・予察ほのてんさいにおける発生期は第1回が平年より早く、第2回は平年並であった（てんさいのヨトウガの項参照）。
- ・一般ほのキャベツにおける発生面積率は平年より低く、被害は認められなかった。
- ・一般ほのブロッコリーにおける発生面積率、被害面積率ともに平年並であった。

#### 発生原因の解析

- ・てんさいのヨトウガの項参照。
- ・ブロッコリーでは花蕾を収穫するため、葉の被害はキャベツより許容されやすく、キャベツと比較して薬剤防除回数が少ない。
- ・一般ほにおいては、いずれも、防除が適切におこなわれた。

予察ほのキャベツにおけるヨトウガ卵塊数

作型	月半旬	長沼		北斗	
		本年	平年	本年	平年
7月どり	5.4	-	-	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0
	6.1	0	0.2	0	0.2
	2	0	1.3	0	0.2
	3	0	1.2	0	0.2
	4	0	0.7	0	0.1
	5	0	0.8	0	0.1
	6	0	0.4	0	0.0
	7.1	0	0.2	0	0.0
8月どり	2	0	0.1	0	0.0
	3	0	0.1	0	0.0
	7.1	0	0.1	0	0.1
	2	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.0	0	0.1
	4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.0
	8.1	0	0.3	-	0.0
	2	0	0.4	-	0.0
9月どり	3	0	0.8	-	0.0
	8.1	0	0.0	0	0.1
	2	0	0.1	0	0.0
	3	0	0.3	0	0.0
	4	0	0.1	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.1
	6	0	0.1	0	0.0
	9.1	0	0.2	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.1
	3	0	0.2	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	
5	0	0.1	0	0.1	
6	0	0.1	0	0.0	

注) 調査株数は10株。

# (XV) 野菜類の病害虫

## 1 タマナヤガ 発生期 早 発生量 並

### 発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる第1回成虫初誘殺期は4月上中旬頃で、北斗市では平年並、他の地点では平年より早かった。
- ・第1回誘殺数はいずれの地点においても平年並であった。第2回誘殺数は長沼町および訓子府町で平年より多く、北斗市では平年よりやや少なく、他の地点では平年並であった。

フェロモントラップによるタマナヤガ成虫の発生期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
タマナヤガ 第一回	初飛来日 (月日)	4月6日	4月26日	4月5日	4月25日	4月7日	4月8日	4月15日	5月8日	4月6日	5月13日
	最盛期 (月日)	4月22日	6月17日	5月28日	6月1日	4月20日	5月26日	4月24日	-	5月16日	6月11日
	終息日 (月日)	7月15日	7月6日	6月18日	6月25日	6月27日	7月3日	5月15日	-	5月26日	6月29日
	総誘殺数 (頭)	49	46.4	101	87.5	88	78.5	4	1.5	16	15.2
タマナヤガ 第二回	初飛来日 (月日)	7月25日	7月23日	6月30日	7月3日	7月15日	7月13日	7月31日	-	7月10日	7月30日
	最盛期 (月日)	8月4日	8月1日	8月5日	7月25日	7月31日	7月26日	-	-	8月7日	-
	終息日 (月日)	9月16日	8月29日	9月14日	8月24日	9月9日	8月17日	7月31日	-	9月1日	8月6日
	総誘殺数 (頭)	46	16.7	53	42.5	13	21.5	1	0.2	34	3.4

フェロモントラップによるタマナヤガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	1	-	0	1.4	0	-	0	-
2	2	0.3	6	-	6	1.6	0	0.0	3	-
3	3	1.0	5	-	10	3.6	1	0.0	0.8	-
4	4	0.7	2.3	1.2	14	7.6	0	0.3	1.3	-
5	7	0.5	9.8	3.6	4	12.0	2	0.3	0	0.0
6	1	0.7	3	4.8	10	3.0	0	0.0	1	-
5. 1	1	2.4	2	7.1	9	4.5	0	0.2	3	0.4
2	1	2.2	3	7.6	11	4.4	0	0.3	1	1.0
3	2	3.4	14	9.5	3	5.0	1	0.1	2	0.7
4	2	4.3	6.7	8.2	0	4.8	0	0.0	3	0.8
5	0	3.5	5.3	8.2	1	2.8	0	0.1	0	0.9
6	0	2.0	17	7.3	2	3.5	0	0.0	1	0.6
6. 1	1	3.3	4	7.3	4	3.9	0	0.0	0	1.7
2	4	3.2	14	6.1	7	2.9	0	0.4	0	1.8
3	7	3.6	5	8.3	4	4.9	0	0.0	0	2.2
4	1	4.5	3	7.1	1	6.5	0	0.0	0	1.6
5	0	3.1	0	4.8	1	7.0	0	0.1	0	1.2
6	1	3.7	3	3.5	2	5.4	0	0.0	0	0.2
7. 1	3	3.2	6.5	4.9	0	3.8	0	0.0	0	1.5
2	6	1.7	3.5	3.8	0	1.8	0	0.1	0.5	0.2
3	3	1.1	3	5.9	1	3.4	0	0.0	4.5	1.1
4	0	1.9	1	4.3	0	2.5	0	0.0	6	0.1
5	1	2.0	0	2.9	0	2.9	0	0.0	2	0.3
6	1	1.0	1	2.2	3	2.0	1	0.0	0	0.1
8. 1	17	2.2	14	5.6	1	1.0	0	0.0	4.7	0.3
2	1	3.3	9	5.6	1	3.8	0	0.1	8.3	1.8
3	1	4.4	2	2.7	1	2.3	0	0.0	5	0.2
4	11	0.8	5	1.1	0	1.8	0	0.0	0	0.0
5	1	0.6	1	0.2	1	1.6	0	0.0	0.6	0.0
6	2	0.3	1	0.0	2	0.9	0	0.0	1.4	0.0
9. 1	6	0.3	2	0.3	2	0.9	0	0.0	1	0.0
2	2	0.3	0	0.3	1	0.3	0	0.0	0	0.0
3	2	0.1	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
4	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		8		8		10	

# (XVI) りんごの病害虫

## 予察園におけるりんごの生育期

地点	品種名	発芽期(月日)		展葉期(月日)		開花始(月日)		満開期(月日)		落花期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	昂林	4月12日	4月23日	4月22日	5月2日	5月15日	5月18日	5月19日	5月23日	5月27日	5月30日	10
	つがる	4月12日	4月24日	4月24日	5月4日	5月16日	5月19日	5月23日	5月24日	5月31日	5月31日	10
	王林	4月11日	4月23日	4月22日	5月2日	5月11日	5月17日	5月16日	5月22日	5月25日	5月29日	10
	相伝ふじ	4月12日	4月21日	4月23日	5月1日	5月15日	5月17日	5月19日	5月22日	5月29日	5月29日	6
余市B	昂林	4月6日	4月11日	4月21日	4月26日	5月7日	5月13日	5月13日	5月17日	5月20日	5月22日	3

注) 平成30年度から令和4年度に記載されていた品種名「ふじ」は「相伝ふじ」(早生ふじ系)を指す

1 モニリア病 発生期 — 発生量 少  
 発生面積 0 ha (0% : 平年 3.2%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.0%)

### 発生経過の概要

- ・長沼町(無防除)及び余市町(慣行防除)の予察園において、葉腐、花腐、実腐ともに本年は発生を認めなかった。
- ・一般園における初発期は平年並で、発生面積率は0.0%と平年より低かった。被害は認められなかった。

### 発生原因の解析

- ・前年も発生が少なく、越冬した感染源は少なかったと推測される。また、融雪期以降の気温は高温傾向で推移し、子のう胞子の形成量は少なかったと推測される。

## 予察園におけるモニリア病の発生期

地点	品種名	防除有無	葉腐れ		花腐れ		実腐れ		株腐れ		平年数
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	相伝ふじ	無	未発生	—	未発生	—	未発生	—	未発生	—	—
	昂林	無	—	—	—	—	—	—	—	—	10
余市B	昂林	有	未発生	—	未発生	—	未発生	—	未発生	—	—

注1) 長沼町は本年度から調査樹を「相伝ふじ」(早生)に変更

注2) 平年数が少ないまたは発生が認められなかったため平年値なし

## 予察園におけるモニリア病の発生状況

地点	長沼							
	相伝ふじ							
	葉腐花葉そう率(%)		花腐花葉そう率(%)		実腐花葉そう率(%)		株腐花葉そう率(%)	
調査月半月	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5.1	0	0	0	0				
5.2	0	0	0	0				
5.3	0	0	0	0				
5.4	0	0	0	0				
5.5	0	0	0	0				
5.6	0	0	0	0				
落花10日後 (調査月日)					0	0	0	0
落花20日後 (調査月日)					0	0	0	0

注) 本年度から調査樹を「相伝ふじ」(早生)に変更

地点	余市B	
品種名	昂林	
調査	葉腐花葉そう率(%)	
月日	本年	平年
5月1週目	0	—
5月2週目	0	—
5月3週目	0	—
5月4週目	0	—
5月5週目	0	—
6月1週目	0	—
6月2週目	0	—
6月3週目	0	—
平年数	—	

## 巡回調査結果

### 一般園におけるモニリア病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	開花直前の一樹当たりの 発病花葉そう数
後志	北後志	0
胆振	本所	0
渡島	本所	0
留萌	南留萌	0

## 2 黒星病 発生期 やや早 発生量 少

発生面積 38 ha (7.3% : 平年 32.5%) 被害面積 4 ha (0.8% : 平年 2.3%)

### 発生経過の概要

- ・長沼町の予察園における初発期及び発生量は平年並であった。慣行防除を実施している余市町の予察園においては発生が認められなかった。
- ・一般園における初発期は平年よりやや早かった。発生面積率は7.3%と平年より低く、被害面積率は0.8%と平年よりやや低かった。渡島地方で発生量が多かった。

### 発生原因の解析

- ・融雪期以降の気温は高温傾向で推移し、胞子飛散の最盛期となる5月の降水量は平年よりかなり少なかったことから、一次感染が抑制された。あわせて防除が適切に実施され、発生量は平年より少なかった。落花期ごろに濃霧の日が多かった一部地域で発生量が多かった。

### 予察園における黒星病の発生期

地点	品種名	防除有無	初発期		最盛期		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	相伝ふじ	無	5月29日	5月28日	7.4	7.2	6
余市B	昂林	有	未発生	—	未発生	—	—

注1) 長沼町は本年度から調査樹を「相伝ふじ」(早生)に変更

注2) 余市Bは平年値なし

予察園における黒星病の発生状況

地点	長沼			
品種名	相伝ふじ			
調査 月半旬	病葉率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
5.5	0	0.3	0	0.1
5.6	2.5	1.2	1.0	0.5
6.1	5.6	6.3	1.8	3.0
6.2	27.4	12.6	5.7	6.9
6.3	58.0	21.1	17.8	11.9
6.4	54.9	29.4	17.9	16.7
6.5	66.7	37.4	26.9	21.4
6.6	74.0	45.7	28.3	29.5
7.2	67.1	55.4	26.7	36.6
7.4	88.9	67.6	33.2	48.0
7.6	80.7	76.7	31.3	54.5
8.2	77.0	77.8	30.6	58.0
8.4	93.1	85.5	42.2	62.6
8.6	96.5	83.6	45.1	62.9
9.2	95.2	88.3	50.6	66.2
9.4	95.3	89.7	48.5	69.1
9.6	100	88.4	49.0	68.3

地点	余市B	
品種名	昂林	
調査 月日	病葉率(%)	
	本年	平年
6月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
7月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
8月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
9月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
被害果率	0	—
調査時期		
平年数	—	

巡回調査結果

一般園における黒星病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病葉率(%)				
		6月3半旬	6月6半旬	7月3半旬	8月3半旬	9月3半旬
後志	北後志	0	0	0	0	0
胆振	本所	0	0	0	0	1.0
渡島	本所	0	0	0.4	2.1	1.9
留萌	南留萌	0	0	0	0	0

3 斑点落葉病 発生期 並 発生量 やや少  
 発生面積 53 ha ( 10.2% : 平年 14.4%) 被害面積 3 ha ( 0.6% : 平年 0.9%)

発生経過の概要

- ・長沼町の予察園における初発期は平年より早く、発生量は平年並であった。慣行防除を実施している余市町の予察園では発生が認められなかった。
- ・一般園における初発期は平年並であった。発生面積率は10.2%、被害面積率は0.6%と平年よりやや少なかった。渡島地方で発生量が多かった。

発生原因の解析

- ・夏期間が高温多雨で発病に好適な条件ではあったが、一般園では防除が適切に行われた。

予察園における斑点落葉病の発生期

地点	品種名	防除 有無	初発期		新梢最盛期		徒長枝最盛期		平年数
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
			長沼	王林	無	6月20日	6月25日	9.4	
余市B	昂林	有	未発生	—	未発生	—	未発生	—	—

注) 余市Bは平年値なし

予察園における斑点落葉病の発生状況

地点	長沼									
	品種名	王林								
		調査 月半旬	新梢				徒長枝			
			病葉率(%)		平均病斑数		病葉率(%)		平均病斑数	
本年			平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.2	0	0	0	0						
6.4	0.9	0.5	0.0	0.0						
6.6	1.2	0.7	0.0	0.0						
7.2	1.5	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0		
7.4	0.8	2.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0		
7.6	1.5	2.4	0.0	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0		
8.2	1.6	3.0	0.0	0.1	1.5	1.8	0.0	0.0		
8.4	1.8	3.0	0.0	0.1	1.5	2.5	0.0	0.1		
8.6	1.8	3.8	0.0	0.1	3.0	4.6	0.0	0.1		
9.2	2.1	5.1	0.0	0.1	3.0	4.8	0.0	0.1		
9.4	3.1	5.8	0.0	0.1	3.0	6.1	0.0	0.1		
9.6	5.8	5.6	0.1	0.1	3.5	4.2	0.0	0.1		
平年数	10				10					

地点	余市B			
品種名	昂林			
調査 月日	病葉率(%)			
	新梢		徒長枝	
	本年	平年	本年	平年
6月1週	0	—		
6月2週	0	—		
6月3週	0	—		
6月4週	0	—		
6月5週	0	—		
7月1週	0	—	0	—
7月2週	0	—	0	—
7月3週	0	—	0	—
7月4週	0	—	0	—
7月5週	0	—	0	—
8月1週			0	—
8月2週			0	—
8月3週			0	—
8月4週			0	—
8月5週			0	—
9月1週			0	—
9月2週			0	—
9月3週			0	—
9月4週			0	—
9月5週			0	—
被害果率			0	0
調査月日				
平年数	—			

#### 巡回調査結果

##### 一般園における斑点落葉病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病葉率(%)		
		7月3半旬	8月3半旬	9月3半旬
後志	北後志	0	0	0
胆振	本所	0	1.0	1.0
渡島	本所	33.2	27.8	56.6
留萌	南留萌	1.0	1.0	2.0

#### 4 腐らん病 発生期 — 発生量 多

発生面積 518 ha ( 100% : 平年 68.8% ) 被害面積 92 ha ( 17.8% : 平年 22.0% )

##### 発生経過の概要

・一般園における発生面積率は100%と平年より高く、被害面積率は17.8%と平年よりやや低かった。

##### 発生原因の解析

・発生が多い状態が続いており、感染源が多く残っていると推測される。本病に対する防除は削り取りが主体であり予防的な薬剤散布は行われていない地域が多いことから、初期の感染も抑えられていない。

5 ハマキムシ類 発生期 並 発生量 少  
 発生面積 23ha( 4.4%：平成 16.7%) 被害面積 0ha( 0%：平成 1.7%)

**発生経過の概要**

- ・長沼町（無防除）におけるミダレカクモンハマキ越冬卵のふ化時期は平成並であった。
- ・フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの第1回成虫の初発期は、余市町A、B（慣行防除）で平成より早～やや早く、長沼町では平成よりやや遅かった。誘殺数は、3地点とも平成より少なかった。
- ・フェロモントラップによるリンゴモンハマキの第1回成虫の初発期は、長沼町及び余市町Aで平成並で、誘殺数は、長沼町で平成よりやや多く、余市町Aで平成並であった。
- ・長沼町の5月の花叢被害は平成より多く、8月の新梢被害は平成並であった。
- ・一般園における発生面積率は平成より低かった。被害は認められなかった。

**発生原因の解析**

- ・前年の発生量は平成より少なく、越冬密度も平成より低かったと推察される。発生期間中は概ね高温で経過したものの、第1回成虫の産卵や第2回幼虫の加害時期にあたる6月は多雨で経過し、成虫の産卵や幼虫の加害が抑制された。
- ・一般園においては、防除が適切に行われた。

**予察園におけるミダレカクモンハマキ越冬卵の孵化時期**

	長 沼	
	本 年	平 年
孵 化 開 始 日 ( 月 日 )	4月13日	5月3日
孵 化 最 盛 日 ( 月 日 )	5月7日	5月8日
50 % 孵 化 日 ( 月 日 )	5月7日	5月9日
孵 化 終 息 日 ( 月 日 )	5月29日	5月20日
孵 化 個 体 数 ( 頭 )	221.0	238.6
孵 化 日 数	47.0	18.1
平 年 数	10	

**予察園におけるミダレカクモンハマキ越冬卵の孵化状況**

月日	長 沼		月日	長 沼	
	孵化数	累積率(%)		孵化数	累積率(%)
4. 21	64	29.0	5. 11	-	66.5
22	-	29.0	12	17	74.2
23	3	30.3	13	-	74.2
24	0	30.3	14	-	74.2
25	-	30.3	15	11	79.2
26	0	30.3	16	39	96.8
27	0	30.3	17	-	96.8
28	0	30.3	18	-	96.8
29	-	30.3	19	-	96.8
30	0	30.3	20	-	96.8
5. 1	-	30.3	21	-	96.8
2	1	30.8	22	-	96.8
3	-	30.8	23	-	96.8
4	0	30.8	24	-	96.8
5	-	30.8	25	-	96.8
6	-	30.8	26	-	96.8
7	56	56.1	27	-	96.8
8	1	56.6	28	-	96.8
9	-	56.6	29	7	100
10	22	66.5	30	-	100
			31	-	100

注) 累積率は、総孵化卵数に対する累積孵化率を示した。

予察園におけるハマキムシ類の発生状況と被害状況

	長 沼	
	本年	平年
越冬卵塊数	1.9	0.7
開花直前被害花叢率 (%)	33.0	14.8
開花直前在虫花叢率 (%)	25.3	6.7
落花直後被害花叢率 (%)	20.0	26.8
落花直後在虫花叢率 (%)	9.2	12.7
8月被害新梢率 (%)	5.8	6.6
8月在虫新梢率 (%)	2.0	1.4
8月被害果率 (%)	0.0	5.1
平年数	10	

注) 卵越冬種はミダレカクモンハマキ。  
越冬卵塊数は、5年枝1本当たりの数値を示した。

フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ成虫の発生期

		長 沼		余市 A		余市 B	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初飛来日 (月日)	6月19日	6月15日	6月10日	6月18日	6月20日	6月23日
	最盛日 (月日)	6月28日	6月23日	6月13日	6月29日	6月23日	7月1日
	50%誘殺日 (月日)	6月25日	6月24日	6月17日	6月25日	6月24日	7月2日
	終息日 (月日)	7月18日	7月16日	7月4日	7月7日	7月4日	7月9日
	総誘殺数 (頭)	33	64.9	5	7.7	3	11.5
第2回	初飛来日 (月日)	9月19日	8月12日	-	8月15日	-	8月14日
	最盛期 (月日)	-	8月26日	-	8月21日	-	8月22日
	50%誘殺日 (月日)	-	8月24日	-	8月17日	-	8月21日
	終息日 (月日)	9月19日	9月7日	-	8月29日	-	9月10日
	総誘殺数 (頭)	1	9.9	0	4.7	0	7.9
平年数		10		10		10	

注) 余市 A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	長 沼		余 市 A		余 市 B	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6.	1	0	0.0	0	0	0.0
	2	0	1.4	1.1	0	0.2
	3	0	5.1	1.1	0.3	0.9
	4	10	17.4	0.7	1.7	1.0
	5	12	15.7	0.7	1.7	1.5
	6	4	8.7	0.3	0.8	1.1
7.	1	0	7.2	0.6	1.5	1.5
	2	3	5.5	0	0.5	1.2
	3	0	2.4	0	0.3	0.5
	4	4	1.9	0	0.1	0.8
	5	0	0.2	0	0.1	1.6
	6	0	0.1	0	0.1	0.9
8.	1	0	0.2	0	0.3	0.8
	2	0	1.3	0	1.4	1.9
	3	0	2.5	0	1.4	0.6
	4	0	1.7	0	0.6	0.4
	5	0	0.8	0	0.6	0.4
	6	0	0.6	0	0.8	0.4
9.	1	0	1.8	0	0.5	0.8
	2	0	0.4	0	0.3	0.7
	3	0	0.3	0	0.2	0.2
	4	1	0.1	0	0.1	0.1
	5	0	0.0	0	0.0	0.1
	6	0	0.1	0	0.1	0.2
平年数	10		10		10	

注)誘殺頭数を示す。余市A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるリンゴモンハマキ成虫の発生期

		長 沼		余市 A		余市 B	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第 1 回	初飛来日 (月日)	6月15日	6月17日	6月7日	6月8日	6月7日	-
	最盛日 (月日)	6月28日	7月1日	6月11日	6月13日	6月9日	-
	50%誘殺日 (月日)	6月25日	7月3日	6月11日	6月14日	6月10日	-
	終息日 (月日)	7月20日	7月23日	7月4日	6月19日	6月28日	-
	総誘殺数 (頭)	31	45.3	18	13.3	22	15.5
第 2 回	初飛来日 (月日)	8月3日	8月20日	-	-	-	-
	最盛期 (月日)	8月10日	9月2日	-	-	-	-
	50%誘殺日 (月日)	8月15日	9月3日	-	-	-	-
	終息日 (月日)	9月24日	9月8日	-	-	-	-
	総誘殺数 (頭)	55	11.3	0	0.3	0	0.3
平 年 数		10		8		10	

注) 余市 A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるリンゴモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬		長 沼		余市 A		余市 B	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.	1	0	0.0	0	0.5	0	0.3
	2	0	0.0	8	1.9	10.3	1.5
	3	1	0.7	6.6	3.0	8.3	3.2
	4	6	2.0	1.4	5.9	1.4	2.1
	5	9	9.7	0.7	2.1	0.6	1.3
	6	3	6.7	0.7	0.4	0.7	0.7
7.	1	3	5.3	0.6	1.9	0.7	0.6
	2	6	11.4	0	1.4	0	0.3
	3	1	5.6	0	1.0	0.6	0.0
	4	2	3.3	0	0.0	0.4	0.1
	5	0	1.7	0	0.0	0	0.5
	6	0	1.0	0	0.0	0	0.1
8.	1	6	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	14	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	8	0.3	0	0.0	0	0.0
	4	5	0.7	0	0.0	0	0.0
	5	3	2.1	0	0.0	0	0.1
	6	8	2.9	0	0.0	0	0.2
9.	1	3	1.7	0	0.0	0	0.0
	2	4	3.3	0	0.0	0	0.0
	3	3	0.3	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	1	0.0	0	0.1	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.2	0	0.0
平年数		3		3		3	

注) 誘殺頭数を示す。余市 A・Bは慣行防除園。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0	0.1	-	0.1	0	0.0
2	1.3	0.3	0.9	0.4	0	0.1	-	0.0	0	0.0	2.6	0.8	0	0.4
3	1.0	1.4	1.5	2.1	0	0.3	0.1	0.5	0	0.2	5.2	4.9	1.1	1.6
4	0.6	3.4	1.7	4.9	0	0.5	0.7	1.0	0	3.0	5.6	8.0	0.9	2.0
5	2.0	3.9	0	5.1	0	0.6	0.1	2.1	0	2.4	3.2	6.4	0	1.9
6	1.6	2.9	0	4.8	0.2	0.8	0	1.2	0	2.8	0	4.7	0	2.7
7. 1	0.6	1.1	0	3.6	0.8	0.5	0	0.6	0	4.6	0.2	1.5	0	0.5
2	0.8	0.4	0	2.9	0	0.8	0	0.2	0	2.0	1.6	0.9	0	0.2
3	0.2	0.4	0	1.9	0	0.0	0	0.2	0	0.4	3.2	1.1	0	0.1
4	0	0.4	0	0.6	0	0.4	0	0.1	0	0.3	0	0.7	0	0.1
5	0	0.1	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0	0.1	0.3	0.1
6	0	0.1	0	0.4	0	0.0	0	0.1	1.1	0.3	0	0.7	0.9	0.0
8. 1	0	0.1	0	0.5	0	0.1	0	0.1	0.6	0.3	0	0.9	0.7	0.2
2	0.2	0.4	0.3	0.7	0	0.0	0	0.2	0.6	0.6	0.2	2.0	0.1	1.3
3	0.8	0.4	0.7	1.3	0	0.7	0	0.2	0.6	0.6	0.8	0.8	0	1.4
4	0	0.6	0	3.1	0	0.2	0	0.1	1.3	0.7	0	1.0	0	1.4
5	0	0.1	0	3.2	0	0.7	0	0.1	1.1	1.1	0	0.6	0	1.1
6	0	0.3	0	3.3	0	1.1	0	0.6	0.7	1.3	0	0.2	0	1.0
9. 1	0	0.2	0	3.2	0	0.4	0	0.7	0	1.0	0	0.4	0	0.5
2	0	0.1	0	1.2	0	0.1	0	0.3	0.5	0.6	0	1.0	0	0.4
3	0	0.2	0	1.4	0	0.4	0	0.4	0.5	0.2	0	0.5	0	0.1
4	0	0.2	0	1.9	0	0.6	0	0.5	0	0.6	0	0.6	0	0.1
5	0	0.0	0	0.7	0	0.3	0.6	0.2	0	0.5	0	0.4	0	0.1
6	0	0.0	0	0.4	-	0.2	0.4	0.1	-	0.1	-	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10		10	

注) 誘殺頭数を示す。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-	0	-	0.3	0.0
2	2.5	0.5	0	0.0	0	0.0	-	0.7	0	0.0	1.4	0.0
3	1.9	0.4	0	0.0	0	0.0	1.6	1.0	0	0.2	5.4	0.1
4	1.1	0.3	0	0.0	0	0.0	2.1	0.5	0	1.1	4.1	0.3
5	0.4	0.7	0	0.0	0	0.3	0.4	1.2	0	0.8	0.6	0.3
6	0	0.8	0.5	1.3	0	0.0	0	0.3	0.9	1.2	0.1	0.0
7. 1	0	0.3	0.6	2.7	0	0.0	0	0.0	1.1	1.6	0.4	0.0
2	1.7	0.0	0.6	3.2	0	0.7	0	0.2	0	0.4	0.6	0.0
3	0.3	0.0	0.3	3.6	0	0.7	0.8	0.2	0	0.4	0	0.0
4	0	0.0	0.5	1.4	0	0.7	1.2	0.2	0	1.1	0	0.0
5	0	0.0	1.3	2.9	0	0.3	0	0.0	0	0.2	0	0.0
6	0.1	0.0	0.3	1.2	0	0.0	1	0.0	0.2	0.0	0	0.0
8. 1	0.5	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1	1.1	0.0	0	0.0
2	0.7	0.0	0	0.3	0	0.3	0	0.2	0.7	0.5	0	0.6
3	1.7	0.0	0.1	0.4	0	0.0	0	0.4	0	1.4	0	0.4
4	0	0.2	0.7	0.7	0	0.0	0	1.4	0	0.8	0	0.0
5	2	1.4	1.6	2.0	0	0.3	0	2.2	0	0.8	0	0.0
6	2	1.4	1.5	4.2	0.3	0.7	0.1	3.8	0	2.2	0	0.0
9. 1	0	0.4	0	1.4	0.9	1.7	0.7	0.2	0	0.7	0	0.0
2	0	0.5	0	1.4	0.8	4.0	0.1	0.4	0	0.8	0	0.0
3	0	0.4	0	0.0	0	2.7	0	0.4	0	0.7	0	0.0
4	0	0.2	0	0.1	0	3.7	0	0.2	0	0.6	0	0.0
5	0	0.0	0	0.2	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	-	2.3	0	0.0	-	0.0	0	0.0
平年数	3		3		3		3		3		3	

注) 誘殺頭数を示す。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地

6 モモシクイガ

発生期 やや早 発生量 並

発生面積 77ha (14.9% : 平年 13.7%) 被害面積 1ha (0.2% : 平年 0.8%)

発生経過の概要

- ・予察園のフェロモントラップ調査において、成虫初発期は長沼町（無防除）で平年よりやや早く、余市町A及びB（慣行防除）では平年並であった。
- ・フェロモントラップ誘殺数は、長沼町で平年より多く、余市町Bで平年よりやや多く、余市町Aでは平年並であった。長沼町の予察園における産卵数は平年より多かった。被害果率の上昇は7月中は平年より早く、8月以降は平年並であった。
- ・一般園における発生面積率、被害面積率はともに平年並であった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年より少なく、越冬密度も平年より低かったと推察される。
- ・発生期間中は概ね高温で経過したものの、第1回成虫の産卵や第2回幼虫の加害時期にあたる6月は多雨で経過し、成虫の産卵や幼虫の加害が抑制された。

フェロモントラップによるモモシクイガ成虫の発生期

	長 沼		余 市 A		余 市 B	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
初飛来日 (月日)	6月13日	6月17日	6月15日	6月16日	6月13日	6月12日
最 盛 日 (月日)	7月19日	7月29日	8月5日	8月5日	8月18日	8月10日
50%誘殺日 (月日)	7月31日	7月31日	7月31日	8月2日	8月4日	8月2日
終 息 日 (月日)	9月16日	9月15日	9月20日	9月20日	9月20日	9月19日
総誘殺数 (頭)	2508	945.7	283	354.7	717	553.5
誘殺日数 (日)	96	90.8	98	97.4	100	100.4
平 年 数	10		10		10	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるモモシクイガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長 沼		余 市 A		余 市 B		
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
6.	1	0	0.0	0	0.1	0	0.1
	2	0	0.0	0	0.3	0	0.4
	3	5	1.8	0.9	0.8	5.7	1.5
	4	5	3.7	2.1	2.6	14.3	5.5
	5	35	7.8	1.4	4.1	26.9	7.4
	6	108	15.6	11.7	5.6	31.5	14.5
7.	1	74	26.7	18.4	8.6	36.8	20.9
	2	117	50.8	17.5	10.4	30.8	22.7
	3	138	58.6	6.3	16.7	33.1	24.8
	4	447	98.6	13.5	20.1	33.6	34.1
	5	141	112.8	24.3	27.9	34.3	38.7
	6	228	141.6	48	38.8	66.9	56.3
8.	1	146	120.7	46.9	43.4	52.9	57.7
	2	266	70.7	32.6	40.9	53	44.2
	3	150	38.9	8.6	38.2	54.3	49.3
	4	157	36.6	20	27.6	57.5	40.0
	5	204	43.4	5.3	18.5	37.3	35.9
	6	184	44.5	3.8	22.3	42.7	46.8
9.	1	51	38.3	10.8	13.5	52.5	22.7
	2	28	33.2	7.1	6.6	20	13.6
	3	22	7.1	3.2	3.0	17.4	5.8
	4	2	0.5	0.6	1.6	15.6	3.1
	5	0	0.3	0	1.3	0	0.4
	6	0	0.0	0	0.7	0	0.1
平年数	10		10		10		

注) 誘殺頭数を示す。余市A・Bは慣行防除園。

一般園におけるフェロモントラップによるモモシクイガ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0	0.0	-	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0.9	0.1	0	0.0	-	0.0	0	0.0	0.1	0.0	0	0.0
3	0.2	0.0	1.1	0.2	0	0.0	0	0.3	0	0.2	0.7	0.3	0	0.0
4	0.6	0.3	0	1.1	0	0.0	0	0.5	0	0.1	2.8	1.6	0	0.0
5	2.6	1.0	4.2	3.1	0	0.0	2.3	1.4	0.7	0.4	10.2	4.2	0	0.0
6	6.1	1.5	19.3	9.2	0	0.0	4.2	2.7	2	0.7	18.1	6.4	0	0.1
7. 1	7.5	2.8	27.6	14.9	0	0.0	4.8	3.8	2.7	1.1	15.3	17.9	0.4	0.0
2	20	6.2	45.6	21.7	0	0.0	6.5	5.6	1.9	3.2	19.1	20.7	0.6	0.1
3	20.6	8.8	44.8	32.7	0	0.0	7.9	7.0	8.0	7.0	22.3	26.3	0	0.2
4	27.7	13.1	37.5	30.8	0	0.0	7.4	9.3	13.2	17.5	28.6	40.4	1	0.2
5	38.1	16.2	27.5	30.7	0	0.0	2.1	7.4	17.5	38.3	39.2	35.2	1.3	0.4
6	24.7	21.3	28.5	36.9	0	0.0	8.9	8.5	32.4	64.7	57.3	40.7	0.7	0.4
8. 1	5.5	13.0	21.3	22.1	0	0.0	4.3	9.5	27.2	75.7	77.3	40.0	0	0.1
2	4.9	6.8	27.4	18.2	0	0.0	6.9	10.6	22.6	67.8	65.7	27.9	0.5	0.3
3	2.5	2.9	38.6	18.8	0	0.0	7.4	9.1	15.6	60.7	50.1	16.7	0.7	0.2
4	9.2	1.5	46.4	21.7	0	0.0	2.5	9.8	14.6	35.4	49.1	14.0	0.8	0.1
5	8.8	2.6	19.8	19.4	0	0.0	0.5	11.6	15.7	30.5	18.8	13.1	0.7	0.2
6	10.2	2.6	13.6	21.1	0	0.0	3.1	16.3	20.9	32.9	19.1	13.3	1.4	0.0
9. 1	7.9	2.5	7.9	9.0	0	0.0	2.9	10.2	15	16.6	14.7	9.1	1.1	0.2
2	7.9	1.8	0.7	4.1	0	0.0	3.6	6.5	6.5	8.4	8.5	4.2	0.7	0.2
3	1.3	0.7	0.3	0.3	0	0.0	2.1	1.5	0.5	3.5	2	0.9	0	0.0
4	0.8	0.5	0	0.0	0	0.0	0.7	0.6	0	1.7	0	0.2	0	0.0
5	0	0.2	0	0.0	0	0.0	5.3	0.2	0	1.1	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	-	0.0	3.9	0.1	-	0.4	-	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10		10	

注) 誘殺頭数を示す。石狩は交信攪乱剤使用。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地。

予察園におけるモモシクイガの  
産卵期と被害発生期 (長沼)

	本年	平年
産卵開始日 (月日)	6月26日	7月2日
産卵最盛日 (月日)	7月24日	7月28日
被害初発日 (月日)	7月6日	7月13日
被害最盛日 (月日)	7月19日	7月23日
平年数	10	

予察園におけるモモシクイガの  
産卵状況と被害状況 (長沼)

	産卵粒数		累積被害果率 (%)	
	本年	平年	本年	平年
6. 6	5	0.5	0	0.0
5	21	2.0	0	0.0
7. 1	23	25.5	0	0.1
2	100	69.3	18	1.2
3	167	143.3	24	18.4
4	304	172.0	82	47.0
5	357	211.0	99	72.7
6	316	153.7	100	86.8
8. 1	84	114.2	100	96.1
2	151	66.1	100	97.4
3	202	55.5	100	97.0
4	155	75.4	100	99.0
5	187	88.3	100	99.1
6	-	89.1	-	100.0
9. 1	-	86.2	-	100.0
2	-	35.8	-	100.0
3	-	16.2	-	100.0
平年数	10		10	

注) 産卵粒数は、100果当たりの数値を示した。

7 ハダニ類 発生期 やや早 発生量 やや少  
 発生面積 56ha(10.8%： 平成 32.1%) 被害面積 3ha( 0.6%： 平成 2.8%)

**発生経過の概要**

- ・予察園において、リンゴハダニの発生量は、余市町A（慣行防除）で平成並、長沼町（無防除）及び余市町B（慣行防除）では発生が認められなかった。
- ・予察園において、ナミハダニの発生量は、余市町Bで平成より少なく、長沼町及び余市町Aでは発生が認められなかった。
- ・一般園において初発期は平成並であった。発生面積率、被害面積率は平成より低かった。

**発生原因の解析**

- ・前年の発生量はやや少なく、越冬密度はやや低かったものと推察される。
- ・発生期間中は概ね高温で経過したものの、7月中旬及び8月上旬に多雨に見舞われた地域では増殖が抑制された。
- ・一般園では防除が適切に行われた。

予察園におけるリンゴハダニの発生状況

月半旬	長 沼				余 市 A				余 市 B			
	成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.5	0	9.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.7	0	5.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.4	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	2.3
2	0	0.3	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.2	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.7	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	1.8	0	4.1
5	0	0.2	0	1.7	1.7	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.6
6	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.5	0	1.5	0	5.0
8. 1	0	0.3	0	1.0	0.3	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.2	0	0.6	0	0.0	0	0.2	0	0.8	0	0.4
3	0	0.1	0	0.1	0	0.4	0	0.8	0	0.6	0	2.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.9	0	0.8	0	8.9
5	0	0.3	0	0.6	0	0.0	0	0.2	0	0.7	0	14.7
6	0	0.4	0	0.0	0	0.1	0	0.2	0	0.4	0	6.4
9. 1	0	5.2	0	0.7	0	0.5	0	0.0	0	0.0	0	3.5
2	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	0.1	0	12.8
3	0	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.6
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	3.9
5	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	2.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	1.2
平年数	10				10				10			

注) 余市A・Bは慣行防除園。

成虫数は30葉当たりの雌成虫の数値、卵数は30葉当たりの数値を示した。

予察園におけるナミハダニの発生状況

月半旬	長 沼				余 市 A				余 市 B			
	成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0	0	0.0
4	0	0.2	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	3.2	0	3.2
5	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	3.1	0	2.3	0	2.6
6	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.8	0	1.6
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	0.4	0	5.2	0	1.5
2	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	1.9	0	1.0	0	2.5
3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
4	0	0.4	0	0.0	0	0.9	0	2.1	0.3	6.5	0	4.4
5	0	0.0	0	0.0	0	2.6	0	5.3	0.7	2.6	0	4.0
6	0	0.0	0	0.0	0	3.4	0	5.8	0	3.5	0	1.5
8. 1	0	0.3	0	0.0	0	0.9	0	0.6	0.6	5.9	0	3.6
2	0	0.0	0	0.0	0	7.8	0	16.6	0.4	2.6	0	4.4
3	0	0.0	0	0.0	0	1.6	0	3.1	0	14.1	0	13.3
4	0	0.3	0	0.0	0	0.6	0	1.1	0	41.0	0	48.1
5	0	0.2	0	0.0	0	3.2	0	2.0	0	1.5	0	7.2
6	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	1.1	0	10.6	0	13.3
9. 1	0	3.1	0	2.7	0	1.0	0	1.8	0	0.3	0	2.5
2	0	0.4	0	0.1	0	0.8	0	1.7	0	13.4	0	12.4
3	0	0.3	0	0.0	0	0.3	0	0.6	0.7	2.9	0	9.7
4	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0.7	1.6	0	0.3
5	0	0.4	0	0.0	0	1.4	0	0.4	0	0.4	0	4.2
6	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0
平年数	10				10				10			

注) 余市A・Bは慣行防除園。

成虫数は30葉当たりの雌成虫の数値、卵数は30葉当たりの数値を示した。

8 キンモンホソガ

発生期 並 発生量 やや少

発生面積 69ha (13.3% : 平年 17.1%) 被害面積 0ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町（無防除）で平年よりやや多く、余市町A及びB（慣行防除）では平年より少なかった。
- ・長沼町における被害葉率は平年並であった。
- ・一般園における発生面積率は平年並であった。被害に至った園地は認められなかった。

発生原因の解析

- ・ここ数年、少発生傾向にあり、越冬密度は平年並に低かったものと推測される。
- ・一般園では防除が適切に行われた。

フェロモントラップによるキンモンホソガ成虫の発生最盛期

世代	長沼		余市A		余市B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	5月24日	5月19日	6月20日	6月22日	6月14日	6月21日
第2回	7月12日	7月5日	7月18日	7月11日	6月29日	7月6日
第3回	8月9日	8月7日	8月9日	8月9日	8月1日	8月3日
第4回	9月13日	9月5日	8月31日	9月10日	8月31日	9月9日
平年数	10		10		10	

注) 余市A, Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるキンモンホソガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		余市A		余市B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 1	0	0.1	-	-	-	-
2	1	0.6	-	-	-	-
3	0	1.0	-	-	-	-
4	0.6	1.8	-	-	-	-
5	1.5	0.5	-	1.4	-	-
6	0	0.5	-	1.0	-	0.0
6. 1	0	0.5	0	0.3	0	0.4
2	0	0.2	0	0.3	0	0.5
3	0	0.3	0	1.7	2	1.6
4	0	0.7	0	5.8	5	15.5
5	3	3.8	5	10.9	1.9	26.3
6	0	3.2	19.6	21.0	3.5	32.4
7. 1	11	7.8	30.9	33.6	4.8	53.4
2	24	6.3	37.5	32.5	0.8	50.2
3	7	6.8	22.5	37.8	9.4	41.6
4	21	6.2	16.4	45.7	20.2	41.5
5	17	6.2	7.1	37.6	36.4	92.7
6	22	11.8	23.1	70.6	11.1	275.8
8. 1	16.3	17.7	4.4	89.0	3.6	162.5
2	44.7	24.7	3.3	73.3	1.9	100.5
3	25	17.0	7.1	73.8	1.4	85.3
4	21	25.8	0	71.4	0	46.2
5	8	30.9	0.9	54.9	0	39.5
6	12	56.8	2.8	66.7	5.3	56.3
9. 1	67	48.3	8.3	86.1	26.7	74.8
2	105	60.7	28.6	107.1	25.7	84.2
3	64	41.3	23.4	100.8	17.4	84.7
4	30	10.6	20	64.4	11.9	61.6
5	7.8	4.1	0	38.4	0	36.6
6	2.3	1.1	0	14.9	0	18.0
平年数	10		10		10	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

一般園におけるフェロモントラップによるキンモンホソガ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.5	-	0.0	0.2	0.1	-	0.2	0	1.8	0	0.0	0	1.6
2	0	0.3	0	0.2	0.8	0.1	-	0.1	0	0.3	0	0.0	0	0.2
3	0	0.1	0	0.4	0	0.0	0.1	0.6	0.6	0.2	0	0.0	6.9	0.1
4	0	0.3	0	0.6	0	0.0	0.7	3.3	1.4	2.0	0	0.0	24.1	5.6
5	0	3.0	0	0.7	0	4.1	0.1	21.5	0	3.7	0	1.1	47.5	57.2
6	0	5.6	0	0.5	1.2	7.1	0	31.7	0.4	15.9	0	0.7	162.8	90.8
7. 1	0	18.7	0	0.6	5.4	18.7	0	42.4	0.8	38.4	0	3.4	155.0	114.1
2	1.7	25.7	0	0.5	2.8	32.7	0	59.6	1.3	64.5	0	1.9	130.6	105.0
3	0.9	25.8	0	0.7	3	38.8	0	46.7	0.5	44.1	0	0.9	120	76.6
4	0.4	11.6	0	0.4	6.2	44.6	0	39.6	0	17.7	0	1.0	84	66.4
5	0	9.2	0	0.3	2.9	33.7	0	17.8	0	13.2	0	0.5	84.9	51.3
6	2	10.8	0	0.8	2.7	11.7	2	37.3	0	33.0	0	0.2	190.7	44.3
8. 1	0	24.3	0.6	1.0	1	10.5	0.7	99.2	0	53.2	0	0.4	342.9	62.0
2	0	20.7	0.4	1.2	1.4	17.6	0.3	86.5	0.3	108.5	0	2.2	238.6	142.0
3	0	19.7	0	1.7	2.4	22.9	0.2	85.1	0.6	81.1	0	1.5	200	200.5
4	0	10.6	0	1.5	0	19.7	0.8	108.6	0.1	11.8	0	0.5	150	274.8
5	0	3.0	0	2.0	0.4	34.4	1	81.1	0.3	11.2	0	0.5	50.7	302.2
6	0	2.1	0	2.1	1.9	35.4	0	55.6	0.7	11.9	0	1.5	99.1	358.5
9. 1	0	3.0	0	3.8	0.9	41.1	0	55.6	0	1.6	0	0.8	430.6	256.3
2	0	3.6	0	2.0	1	107.3	1	99.2	1	2.5	0	1.8	928.6	312.1
3	0	4.7	0	1.8	1.2	74.9	0	85.6	1	3.8	0	0.6	687.5	299.0
4	0	1.7	0	0.6	1.6	88.8	0	62.3	0	3.6	0	0.2	548.2	258.4
5	0	0.5	0	0.3	0	38.2	0	27.1	0	2.5	0	0.1	339.3	133.7
6	0	0.0	0	0.2	-	13.9	0	8.8	-	1.1	-	0.0	154.2	58.7
平年数	10		10		9		10		10		10		10	

注) 誘殺頭数を示した。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地。

予察園におけるキンモンホソガの被害推移

月半旬	長 沼			
	被害葉率		食害痕数	
	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.2	0	0.0
4	0.3	0.4	0.0	0.2
5	0.3	0.4	0.0	0.1
6	1.3	0.2	0.1	0.0
7. 1	0.3	0.5	0.0	0.1
2	0.6	0.5	0.2	0.1
3	0.6	0.7	0.2	0.1
4	0.3	1.3	0.0	0.2
5	1.6	0.9	0.2	0.1
6	4.3	2.2	0.4	0.3
8. 1	2.6	3.6	0.4	0.4
2	3.6	5.3	0.4	0.6
3	4.3	5.6	0.5	0.6
4	7.3	7.6	0.9	0.9
5	6	9.5	0.7	1.1
6	16	9.4	2.3	1.1
9. 1	21.6	12.7	2.5	1.4
2	24.3	15.7	3.2	1.8
3	23.6	20.9	3.6	2.7
4	28	22.1	3.6	2.8
5	27.6	30.5	3.4	4.4
6	34.6	34.2	5.4	5.0
平年数	10			

注) 食害痕数は、10葉当たりの痕数を示した

## (XVII) その他果樹の病害虫

### 1 コスカシバ 発生期 — 発生量 やや多

#### 発生経過の概要

- ・一般園においてフェロモントラップを設置した6月上・中旬から成虫の誘殺が認められた。
- ・誘殺数は、札幌市で平年より多く、壮警町及び増毛町では平年よりやや多かった。

フェロモントラップによるコスカシバ成虫の誘殺頭数

月半旬	札幌		壮警		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	8.1	1.8	-	-	0	0.0
2	15.3	3.1	-	1.6	0	0.0
3	19.5	3.8	0.1	1.6	1.1	0.0
4	17.5	3.1	0.7	1.5	0.9	0.0
5	33.3	4.6	1.9	2.7	0	0.0
6	59.2	9.8	2.8	4.1	0	0.0
7. 1	60.4	11.5	3	3.3	0.8	0.0
2	39.4	13.8	3.4	4.0	1.3	0.0
3	39.3	17.6	5.7	4.3	4.3	0.3
4	35.5	17.5	6.4	1.6	2.2	0.0
5	30	27.1	10	1.9	0.8	0.1
6	35	26.2	16	3.5	0.9	0.5
8. 1	49.4	26.7	21.4	4.0	0.7	0.5
2	45.0	24.6	15.9	5.6	0.1	0.5
3	36.0	26.8	11.7	6.0	0	0.0
4	26.4	17.9	10	11.9	0	0.0
5	31.8	17.5	8.2	14.4	1.4	0.0
6	33.1	23.3	8.5	8.8	0.6	0.0
9. 1	16.4	17.3	13.6	15.9	0.3	0.0
2	5	6.9	7.7	9.3	0.7	0.0
3	4	2.8	6.3	4.3	1.3	0.0
4	2.3	1.2	1.4	0.0	0.8	0.0
5	0.6	0.8	0.3	0.9	0	0.0
6	1.3	0.3	0	0.9	0	0.0
平年数	3		3		3	

注) 増毛町は本年、平年ともに交信攪乱剤使用。

## 2 スモモヒメシンクイ

### 発生経過の概要

- ・捕獲した雄成虫はナシヒメシンクイとの識別が困難である。後翅後縁（随時観察）はナシヒメよりもスモモヒメに合致するが、現状ではナシヒメ・スモモヒメを含む *Grapholita* 属の一種として示すことにする。
- ・一般園においてはフェロモントラップを設置した5月上・中旬から成虫の誘殺が認められた。1回目の最盛期は5月下旬～6月上旬、2回目の最盛期は7月下旬～8月上旬、3回目の最盛期は8月中旬～下旬であった。
- ・誘殺数は、長沼町、余市町、札幌市、壮瞥町、旭川市で平年よりやや多く、岩見沢市、七飯町、増毛町で平年並であった。石狩市では平年よりやや少なかった。

フェロモントラップによるスモモヒメシンクイ成虫の誘殺頭数

月半月	長沼		岩見沢		札幌		石狩		余市		壮瞥(滝之上)		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 1	0	0.0	0.2	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.1	-	0.5	-	0.0
2	0	0.3	0.2	-	2.9	0.1	0	0.0	-	0.1	-	0.1	5.8	1.8	8.8	2.8	-	0.0
3	0	0.2	0.2	-	7.1	0.6	0	0.0	-	0.4	1.1	0.4	7.9	4.9	12.6	5.2	0	0.0
4	4.1	0.8	5.7	-	24.4	6.4	0.8	0.6	-	7.2	2.9	4.2	15.1	19.4	16	9.5	0.3	0.0
5	17.9	8.2	14	-	41.2	20.0	4	2.3	-	12.7	6.3	7.7	18.4	29.1	21.4	13.7	0.4	2.5
6	11	27.4	23.4	-	103.2	46.7	4.2	9.0	-	27.6	17.3	14.3	14.6	33.8	31.6	19.7	2.0	1.8
6. 1	19	28.2	25	21.7	61.9	47.3	4.2	8.6	21.4	17.2	9.3	15.0	10	15.6	25.4	23.9	3.5	6.7
2	31	33.4	1.9	26.3	69.3	50.2	9.8	5.8	27.1	12.9	5	13.6	4	9.6	26.2	29.9	0.7	9.7
3	12	11.3	4.0	13.6	66.8	57.7	4.4	4.6	28.6	12.5	3	7.9	3.4	5.4	22.8	31.4	1.9	4.2
4	5	9.4	7.2	9.9	36.7	50.1	2.4	3.8	28.6	7.2	6.4	5.9	8.6	2.4	22.4	23.7	2.5	2.8
5	2	4.3	11.9	9.6	40	34.7	4.4	4.4	27.5	5.0	1.3	6.8	0	1.7	22.8	21.5	3.1	2.4
6	11	3.7	12.4	9.1	37	24.4	6	3.5	33.2	8.5	3.5	5.8	6	2.7	20.4	19.7	2.0	2.7
7. 1	5	6.8	10.6	8.6	38.8	19.2	6.6	3.4	40.2	12.2	7.3	4.3	9.4	2.9	31.6	19.1	5.2	4.3
2	8	3.5	20.8	11.3	48.8	18.8	9	4.9	34.2	12.0	4.7	2.1	6.9	3.7	38.4	21.3	7.5	3.4
3	16	5.4	17.3	11.7	61.5	21.1	8.8	3.5	30.6	18.5	7.0	2.8	17.3	8.2	42.4	22.3	1.4	4.6
4	56	11.5	23.9	11.0	118	41.1	11.2	7.6	66.9	24.7	76.6	5.6	23.9	15.8	52.6	23.3	16.6	3.0
5	30	23.5	35	16.9	190	57.4	20.0	9.6	121.4	32.7	36.4	9.8	22.5	19.6	56	30.4	18.6	5.7
6	23	17.8	41.1	23.7	149	72.7	5.4	19.2	91.7	55.6	37.6	17.6	60.2	26.1	62	32.0	7.1	12.9
8. 1	58.3	18.1	20.5	22.7	64.4	51.0	5.6	20.9	53.6	43.3	30	25.3	41.1	23.3	39.2	29.4	3.6	13.4
2	13	12.6	21.9	18.9	54.6	44.2	5.2	17.0	47.3	34.6	21.4	22.7	32.7	29.0	52.4	31.4	3.2	8.1
3	13	8.7	27.5	16.4	42.7	38.1	9	15.1	46.4	35.2	20.7	19.9	20	28.5	35.8	22.9	3.8	3.9
4	23	10.2	13.3	14.0	53.6	34.0	5.2	10.1	48.3	45.5	40.8	20.4	86.9	45.4	27.2	18.0	6.7	3.6
5	41.5	13.3	14.7	19.8	37.2	35.1	5.8	20.9	39.4	53.7	33.3	19.9	96.1	76.7	27	15.4	15.7	6.0
6	17	20.6	18.8	19.4	37.1	51.6	5	24.9	41.2	92.0	16.0	32.1	95.1	120.4	23.1	14.4	13.1	8.0
9. 1	18	10.6	17.1	15.0	26.4	35.2	2.6	11.0	20	59.6	21.4	24.9	50.6	81.1	11.3	10.2	6.9	7.2
2	7	5.4	17.1	9.4	30.7	19.7	2.8	4.0	12.9	32.0	18.3	13.0	59.8	34.0	9.2	7.8	4.3	4.5
3	9.5	1.8	4.4	3.5	25.3	5.7	1.8	1.1	12.6	22.1	18.3	4.2	47	13.4	5.4	3.0	1.3	2.6
4	7.5	0.7	3.1	1.7	15	1.5	0.8	0.3	12.5	8.3	1.4	1.2	18.8	4.0	2.4	0.8	0.8	1.5
5	1.3	0.0	1.3	1.4	5	0.8	0	0.2	1.9	4.3	2	0.6	6.0	1.0	0	0.0	0	0.4
6	0.8	0.0	0.8	1.4	3.9	0.5	-	0.3	1.1	2.1	1.3	0.2	-	0.3	-	0.0	0.8	0.0
平年数	10		10		10		9		10		9		10		10		8	

注) 誘殺頭数を示した。増毛の平年値は交信攪乱剤未使用の2005～2012年の8年間に固定。

## IV 令和6年度に特に注意を要する病害虫 並びに令和5年度に新たに発生を認めた病害虫

### 1) 令和6年度に特に注意を要する病害虫

#### (1) トマトのトマトキバガ

本年、植物防疫法に規定された侵入警戒有害動植物の一種であるトマトキバガの飛来が全道各地で確認された。道内における本種の初確認は、令和5年6月に道南農業試験場(北斗市)のばれいしょほ場に設置した侵入調査用フェロモントラップにおいて捕獲された成虫である。その後、横浜植物防疫所および道総研農業試験場が設置したトラップにおいて、空知、石狩、後志、胆振、渡島、オホーツク、十勝、釧路地方で成虫が捕獲された。8月下旬には、渡島地方の施設栽培トマトにおいて葉や果実に穿孔侵入した食害痕が発生し、本種による被害が確認された。

本種の成虫は、体長5~7mm(前翅長約5mm、開張約10mm)、前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在し、後翅は一樣に淡黒褐色である。幼虫は、終齢で約8mm、体色は淡緑色~淡赤白色、頭部は淡褐色で、前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。繁殖力が高く、発生世代数は環境条件によって異なるが、年に10~12世代発生する地域もある。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。トマト、ピーマン、ばれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物であるほか、マメ科のいんげんまめも寄主植物として確認されている。本種による被害は、トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白~褐変した外観となる。潜葉痕は大ぶりで糞は端部に蓄積される。果実では、幼虫による食害で果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する。

本種の発生が疑われた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センター、農業試験場または病害虫防除所に連絡する。ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。冬季はハウス内の残さやイヌホオズキを含むナス科雑草などの寄主植物の除去を徹底する。トマトではトマトキバガに対する登録農薬が複数ある。薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

#### (2) 小豆のマメノメイガ

本年、全道各地の小豆ほ場において、ノメイガ類による莢や花の食害が多発し、幼虫の形態的特徴からマメノメイガ幼虫による被害が主体であることが確認された。本種の成虫は莢の基部や柄に産卵し、ふ化後の幼虫は花や莢内部に食入し子実を加害するほか、成長点や莖や葉柄にも潜入し、食入口から褐色の虫糞を多量に排出する。本種幼虫による被害は小豆の莢や莖を加害するアズキノメイガに類似するが、新芽、葉、つぼみや莢などを糸で綴って食害することが特徴的である。本種は飛来性であると考えられていることから、例年アズキノメイガの発生が少ない地域でも突発的に発生する恐れがある。また、飛来後も世代を繰り返す可能性があるため、被害拡大に注意が必要である。本年は8月から9月にかけて幼虫による被害が継続し、播種時期が遅いほ場で被害が大きくなる事例が認められた。

本種の成虫は、前翅の中央に明瞭な白色透明な長だ円紋があり、また幼虫の胸腹部背面に暗黒色紋がある点で、アズキノメイガの成幼虫と区別できる。

令和6年の小豆ほ場では、ほ場観察につとめ、本種については、北海道内での試験事例がないため防除時期及び有効薬剤の知見はないが、当面の対策として播種は適期に実施し、発生を認めた場合には、速やかにノメイガ類に登録のある農薬を用いて莖葉散布する。通常のアズキノメイガの防除時期に加えて開花始め及び9月以降の防除も有効と推測される。

#### (3) てんさいの褐斑病

てんさいの褐斑病は葉に直径数mm程度の斑点を生じ、多発すると葉全体が枯死し、糖量が減収する。本年は6月中旬以降の高温により初発時期が早まった。夏季、秋季を通して気温が高く、発生量が増加し、道内全域で被害が認められた。本病の一次伝染源は前年の罹病残渣から飛散する分生子と考えられており、本年の多発生により一次伝染源は多くなると推測されることから、令和6年の発生に注意する必要がある。耕種的な対策としては、連作を避け、可能な限り抵抗性の強い品種の導入が有効である。

本病による減収被害を回避するためには、遅くとも初発直後までに薬剤散布を開始する必要がある。本年、オホーツク地方では6月中旬に初発が確認されるなど、例年より初発が早かったことから、散布開始にあたっては、地域での発生や発生予察情報を参考にし、計画した散布時期以前に発病が確認された場合には直ちに薬剤散布を開始することが重要である。また、QoI剤、DMI剤、カスガマイシン剤などで耐性菌の発生が確認されているため、薬剤の選択にあたっては防除ガイドを参考にし、マンゼブ剤を基幹とした防除を実施する。なお、マンゼブ剤の散布間隔は14日であるが、高温多湿の気象条件下では残効期間が短くなり、病勢が急激に進展するため、抵抗性が“やや強”以下の品種では散布間隔を短くする。

## 2) 令和5年度に新たに発生を認めた病害虫

令和5年度に、北海道内において、次に示す病害虫の発生が新たに確認された。なお、病害虫名の後に記したかっこ内表記の凡例は次のとおりである。

- 新称：これまで正式な名称（病名、害虫の和名）のなかった新たな病害虫の名称提案。
- 国内新発生：これまで国内での発生事例がなかった病害虫
- 新発生：道内での発生事例がなかった病害、道内に分布が確認されていなかった害虫
- 新寄主：道内に分布することが既知である害虫の、新たな作物への加害記録
- 新症状：既知病原菌・病害における新たな症状
- 病原菌の同定：未同定だった病原菌の種名の確定
- 病原の追加：既知病害と病徴に違いのない新たな病原の追加
- 再同定による種訂正：過去に報告した病害虫の種名に疑義が生じたため再同定し、種を訂正

### (1) ほうれんそうのニセタマナヤガ（再同定による種訂正、新寄主）

ア) 平成19年度に新たに発生を認めた病害虫として報告した「ほうれんそうのシロイチモジヨトウ（新寄主）」について、発生を確認した個体が別種である可能性が生じたことから、保存されていた成虫標本の再同定を行った。成虫標本は外部形態及び開張計測より、ニセタマナヤガ *Peridroma saucia* (Hübner) と同定された。再同定結果に基づき従前の報告を以下のように訂正する。

イ) 平成19年3月、胆振地方のハウス栽培ほうれんそうに、鱗翅目幼虫が発生した。被害株は50株程度で、ハウス内の一角に集中し、株あたり最大で5～6頭の中令幼虫が寄生加害した。終令時の幼虫は体長40mm程度で、体色は褐色で腹部各節の背側面に黒色と黄色の細長い紋を一對もち、胸部後方から腹部前半にかけて正中線上に黄白色の小点をもつ。羽化成虫は開張約40mm、翅は褐色から淡い赤褐色で、腎状紋・環状紋は暗褐色の輪郭をもつ。加害種は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 植物防疫研究部門 吉松慎一博士により、ニセタマナヤガ *Peridroma saucia* (Hübner) と同定された。

(中央農試)

### (2) こまつなの黒斑病（新称・国内新発生）

令和3年8月に上川地方のハウス栽培のこまつなで茎葉が枯れる症状が発生し、葉柄には黒色の斑点、葉には褐斑が生じ、葉の斑点は円形に拡大する様子が確認された。病斑からは *Alternaria* 属菌に特徴的な分生子が多数検鏡された。分離菌をこまつなに接種したところ原病徴が再現された。分離菌は小型の分生子で、連鎖する特徴を有していた。また、塩基配列の系統解析を実施し *Alternaria brassicicola* (Schweinitz) Wiltshire と同定した。国内では本菌によるこまつなの病害は報告がないため、コマツナ黒斑病と病名を提案した。

(上川農試、中央農試)

### (3) セルリーの萎縮炭疽病（新発生）

令和4年8月に胆振地方において新葉に細かい褐色のえそ斑点を生じ、奇形や萎縮症状を伴う症状が発生した。症状が激しい株では、外葉や葉柄部にも斑点を生じた。罹病部からは *Colletotrichum* 属菌が高率で分離された。分離菌を用いたセルリー苗への接種試験の結果、原病徴が再現され、接種菌が再分離された。本菌のPDA平板培地上の培養菌叢は白色～灰白色、SNA培地上で鮭肉色の分生子粘塊を形成し、分生子は無色、無隔壁、紡錘形～楕円形で一端は丸く、一端は丸いか鋭角、大きさは11.4-20.5×3.5-6.1μmであった。付着器は褐色、楕円形～棍棒形または不整形、全縁で大きさは7.4-15.0×5.1-8.4μmであった。これら形態的特徴およびITS、*tub2*および*GAPDH*の3領域に基づく分子系統解析の結果から、病原菌を *C. nymphaeae* (Passerini) Aa と同定し、セルリー萎縮炭疽病と診断した。

(中央農試)

### (4) セルリーの萎黄病（新発生）

令和5年5月～6月、胆振地方において、本圃で葉が黄化～白化し、のちに株全体が矮化する症状が、苗床では株の萎凋、枯死の症状が発生した。症状の激しい株では罹病株の茎、葉柄および根部の維管束に褐変を生じた。罹病部からは *Fusarium* 属菌が高率に分離された。分離菌を用いたセルリー苗への接種試験の結果、原病徴が再現され接種菌が再分離された。病原菌の形態観察の結果、PDA培地上の菌叢は白色～淡紫色で綿毛状の気中菌糸を形成し、裏面は淡紫色であった。CLA培地上の小分生子は無色、楕円形～鎌形で0-1隔壁、大きさは8.9-18.1×2.2-4.3μm、大分生子は無色、鎌形で1-4（主に3）隔壁、大きさは22.6-49.1×3.2-5.1μmであった。さらに、*tef1*領域を用いた遺伝子解析の結果、本菌は *F. oxysporum* 種複合体内の複数種と99%以上の相同性があった。以上より、本病害を *F. oxysporum* Schlechtendal f. sp. *apii* W.C. Snyder & H.N. Hansen によるセルリー萎黄病と診断した。

(中央農試)

### (5) ねぎのシロイチモジヨトウ（新寄主）

令和5年9月下旬渡島地方の露地栽培ねぎ（品種「ホワイトソード」）において、淡緑色から黒緑色のヨトウムシ類幼虫による食害が確認された。葉が食い破られ中に幼虫が侵入・食害するケースも確認された。7月中旬定植の作型で被害が著しく、食害により枯死する株も確認された。羽化した成虫から、シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* (Hübner) と同定した。成虫は前翅長約12mm、開張約28mm、灰褐色をしている。環状紋および腎状紋は白色～黄褐色で、不鮮明なことが多い。幼虫の体色は変化に富み、中齢及び老齢幼虫の腹部側面に明瞭な白い線があることが特徴である。老齢幼虫の体長は30mm程度になる。本種は、道外では8月以降に発生が多くなること、広食性で、特にねぎ、ウリ科、マメ科、アブラナ科作物で被害が著しいことが報告されている。本種は休眠性を持たず、低温耐性が低いいため、道外からの飛来と考えられる。本種は過去には有機リン、カーバメート、ピレスロイド、ネライストキシンなど、近年はジアミドなど各種薬剤で感受性低下が報告されている。そのため、薬剤散布後は防除効果を確認し、効果が低ければ別系統の薬剤に切り替えるなどの対応をとる必要がある。

(道南農試、渡島農業改良普及センター本所)

#### (6) トマトのトマトキバガ (新発生)

令和5年8月下旬渡島地方の施設栽培トマト（品種「れおん」、夏秋どり作型）において、葉の内部が食害され薄皮状となるとともに、果実は表面が食害され、穿孔するなどの被害が確認された。羽化した成虫から、植物防疫法に規定された侵入警戒有害動植物の一種であるトマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick) と同定した。成虫は体長5～7mm、前翅長約5mm、開張約10mmの小型の蛾で、前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在し、後翅は淡黒褐色である。幼虫は終齢で体長約8mm、体色は淡緑色から淡赤白色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

被害の確認に先立ち、侵入調査用のフェロモントラップでは6月下旬に渡島地方や石狩地方で成虫の飛来が確認され、7月以降空知、後志、胆振、オホーツク、十勝、釧路地方など各地で確認されていた。

本種は、トマト、ばれいしょ、なすなどナス科作物やマメ科のいんげんまめを食害する。トマトの葉を食害されると、食害部分は表面を残して薄皮状となり、白～褐変した状態となる。果実では、幼虫が穿孔食入するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに腐敗し、果実品質が著しく低下する。発生が認められた場合は薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、土中に埋没させるまたは密閉して死滅させるなど適切に処分する。

(道南農試、中央農試、十勝農試、北見農試、病虫害防除所、横浜植物防疫所)

#### (7) ミニトマトの茎えそ病 (新発生)

令和5年6月、上川地方のハウス栽培のミニトマト（品種「キャロル10」）に、葉の輪紋症状および茎や葉柄のえそが認められた。また、当該ハウスではアザミウマ類が多数発生していた。エライザ法によるウイルス検出を行ったところ、キク茎えそウイルス (chrysanthemum stem necrosis virus (CSNV)) に陽性反応を示した。さらに、罹病葉から CSNV 特異的プライマーを用いて RT-PCR 法によるウイルス検出を行ったところ、特異的遺伝子の増幅が認められた。増幅した遺伝子は遺伝子配列の相同性解析を行った結果、既知の CSNV と 99%一致した。以上のことから、CSNV によるトマト茎えそ病と同定した。

本ウイルスは、国内でトマト・ミニトマトの他、ピーマン、トウガラシ、きく、トルコギキョウ、アスターで被害が確認されており、エノキグサ、チチグサモドキなど周辺雑草にも感染する。また、伝染方法はミカンキイロアザミウマによる虫媒伝染で、種子伝染、土壌伝染および管理作業による伝染はしない。

(花野技セ・上川農試・上川農業改良普及センター)

#### (8) かぼちゃのホモブシス根腐病 (新発生)

令和5年8月下旬以降、上川地方のかぼちゃ栽培ほ場において、晴天の日に茎葉の萎れが見られるようになり、茎葉の生育が衰退していった。数年前より同時期の萎れが観察されていたが、湿害と判断されていた。発生株の毛細根、側根を観察したところ、ホモブシス根腐病に特徴的な黒い墨様の偽子座が観察された。り病部から糸状菌を分離したところ PDA 培地上で灰色の菌叢を形成し、培地裏面が黒色を呈する糸状菌が分離された。分離菌をホモブシス根腐病菌の種特異的プライマーで PCR を行い、目的サイズの増幅断片が確認されたことからホモブシス根腐病菌 (*Diaporthe sclerotioides* (Kesteren) Udayanga, Crous & K.D. Hyde) と同定した。

(上川農試・上川農業改良普及センター)

#### (9) かんしょのタバココナジラミ・パイオタイプ Q (新発生)

令和5年2月中旬、道内の施設内で栽培されているかんしょ苗において、白い翅を持つ淡黄色の小型昆虫が発見された。中央農業試験場において形態を観察したところ、既存のオンシツコナジラミと比較して成虫は体長が約0.8～1mmとやや小型で、静止時に翅が重ならないため腹部が見えていた。幼虫は黄色の長楕円形で、4齢幼虫(蛹)はやや厚い小判型をしておりトゲ状分泌物はなく、タバココナジラミ *Bemisia tabaci* (Gennadius) と同定された。タバココナジラミのパイオタイプについて PCR-RFLP 法を用いて解析したところ、これまで道内で確認されてこなかったパイオタイプ Q であることが判明した。また、採取されたタバココナジラミについて、PCR 法によりトマト黄化葉巻ウイルスの保毒を確認したところ、陰性であった。

(中央農試)

#### (10) スターチスの萎凋細菌病 (新発生)

令和5年7月に胆振地方のハウス栽培のスターチスで、株の半身の低位葉が黄化し葉脈が赤変する症状が発生

した。発症株では根や地際の維管束の黒変腐敗が確認され、病勢が進展すると萎凋枯死した。枯死株の茎からは菌泥の流出が確認された。*Burkholderia caryophylli* の選択培地を用いて分離を行ったところ、特徴的な 1 mm 程度の青色、円形、平滑なコロニーを形成する細菌が分離された。分離菌をスターチスに接種したところ原病徴が再現された。分離菌は塩基配列の分子系統解析により *Burkholderia caryophylli* (Burkholder) Yabuuchi, Kosako, Oyaizu, Yano, Hotta, Hashimoto, Ezaki and Arakawa と同定された。

(中央農試、胆振農業改良普及センター東胆振支所)

#### (11) ダリアの根腐病 (新称・国内新発生)

令和 2 年 8 月に空知地方のダリアで葉枯れ症状や地際部と根の腐敗症状が確認され、生育不良株および枯死株が発生した。被害株からは隔壁が無く卵胞子を形成する菌が分離された。分離菌を接種したダリアに生育不良および腐敗症状が確認され、接種菌が再分離された。分離菌の胞子のうは乳頭状突起がある球形・亜球形で内部増殖性、大きさは 29-45x33-57 $\mu\text{m}$  だった。造卵器は卵形・亜球形で頂生、ときどき間生、表面平滑で大きさは 21-36x24-38  $\mu\text{m}$  であった。造精器は長く膨潤し表面にしわがあり異菌糸性まれに同菌糸性で、ときどき造精器柄が波を打った。卵胞子は非充満で大きさは 19-30 $\mu\text{m}$  であった。CMA 培地上の菌糸伸張は 5~35 $^{\circ}\text{C}$  で認められ、最適温度は 30 $^{\circ}\text{C}$  であった。これら特徴は *Phytophthium oedoehilum* (Drechsler) Abad, de Cock, Bala, Robideau, Lodhi et Levesque とほぼ一致した。また、rDNA-ITS 領域および *cox1* 遺伝子の塩基配列に基づく分子系統解析において、分離菌は *P. oedoehilum* と同一のクレードを形成した。*P. oedoehilum* によるダリアの病害は国内未報告であり、ダリア根腐病として提案した。本菌による病害として、道内ではヤーコン根腐病が報告されている。

(花野技セ・空知農業改良普及センター北空知支所・ホクレン)

#### (12) しゃくやくの輪紋病 (新発生)

令和 2 年 6 月に、空知地方の露地栽培のしゃくやく (品種「シーイングブルー」) において、株全体の葉に激しい輪紋症状が認められた。令和 5 年 6 月にも同管内のしゃくやく (品種「エルササス」) で同様の症状が認められた。その症状から、タバコ萎えウイルス (Tobacco rattle virus (TRV)) による輪紋病が疑われた。そこで、TRV 特異的プライマーを用いた RT-PCR 法によるウイルス検出を行ったところ、特異的遺伝子の増幅が認められた。得られた遺伝子増幅産物について遺伝子配列の相同性解析を行った結果、既知の TRV と 97% 一致した。以上のことから、TRV によるシャクヤク輪紋病と同定した。

本ウイルスは、50 科 400 種以上の植物に感染することが報告されており、国内で自然発生が確認されている植物としてはタバコ、スイセン、アスター、クロッカス、チューリップ、リンドウ、大豆、ほうれんそう、にら、ピーマンがある。伝染方法は、しゃくやくでは主に株分けによる伝染や線虫媒介による土壌伝染である。ナズナでは種子伝染の報告がある。汁液伝染はするが、通常管理作業による伝染はしにくいとされている。媒介線虫としては、ユミハリセンチュウ (*Trichodorus* 属と *Paratrichodorus* 属) の 11 種ほどが知られている。令和 5 年 8 月に発生ほ場の土壌から線虫の分離を試みたが、ユミハリセンチュウは確認出来なかった。

(花野技セ・空知農業改良普及センター北空知支所)

#### (13) ヘーベの斑点病 (新発生)

令和 4 年 6 月、石狩地方において、ヘーベ (品種:「カレドニア」) の葉に黒褐色の斑点を生じ、のちに病斑部中央部が退色する症状が発生した。罹病部からは同一の培養性状の糸状菌が高率に分離された。分離菌を用いて「カレドニア」と同じヘーベ属の品種「ベロニカ・グレース」に接種を行った結果、「カレドニア」と同様の原病徴が再現され、接種菌が再分離された。本菌の PDA 平板培地上の培養菌叢は灰色~暗灰色で、V8 培地上の分生子柄先端は褐色で膨潤し、分生子を単生した。分生子柄の長さは 54.7-239.4 $\mu\text{m}$ 、分生子は、淡褐色~褐色、円筒形~楕円形で先端は丸いか円錐形で乳頭状突起を有し、石垣状、1~2 個の縦隔壁と 1~7 個の横隔壁を有し、大きさは 35.4-81.2x15.4-21.3 $\mu\text{m}$  であった。これらの形態的特徴および rDNA-ITS 領域を用いた遺伝子解析の結果から、本菌を *Stemphylium* 属菌と同定し、本病害をヘーベ斑点病と診断した。

(中央農試・石狩農業改良普及センター)

#### (14) ぶどうのチャバネアオカメムシ (新寄主)、ブチヒゲカメムシ (新寄主)

令和 5 年 8 月中旬、中央農業試験場(長沼町)の醸造用ぶどうにおいて、肥大期の果実に大型のカメムシ類成虫が多飛来し、果実を吸汁する様子が認められた。被害果は口針の差し込まれた箇所黒点を生じ、周辺が変色・陥没した。その後は腐敗するか、腐敗を免れ収穫に至った果実でも生育の遅延に起因すると思われる小粒化や糖度低下が認められ、収量や醸造に影響する恐れもあると考えられた。園地で確認された虫種はチャバネアオカメムシ *Plautia stali* Scott 及びブチヒゲカメムシ *Dolycoris baccarum* (Linnaeus) であった。被害果では酸性フクシン染色により口針鞘が確認され、チャバネアオカメムシについては、接種試験で被害を再現した。また、空知及び後志地方の一般園においても、本年 8 月以降に同様の被害発生が確認されている。両種はいずれも広範に被害報告があるが、北海道においては、チャバネアオカメムシはリンゴ及びオウトウ、ブチヒゲカメムシは水稻、大豆、小豆・いんげんまめ及びハスカップで報告があるのみで、ブドウにおける被害報告は初めてである。いずれの種も北海道においては、年 1 化であると考えられ、ぶどう果実に対する被害は新成虫によるものと推測される。

(中央農試)

#### (15) 飼料用とうもろこしのシバツトガ (新発生)

令和 4 年 6 月、中央農業試験場(長沼町)の飼料用とうもろこしで、ネキリムシ様の被害をする鱗翅目幼虫が確

認められた。出芽間もないとうもろこしが地際部で切断され、株際には土粒を綴った長さ数 cm の不定形の土菌が 1 から数個あり、その内部には体長 1 ～ 2 cm の鱗翅目幼虫が認められた。ポットに播種したとうもろこし幼苗に幼虫を放飼したところ、土菌およびネキリムシ様被害が再現された。とうもろこし幼苗で飼育して得られた羽化成虫から、シバツトガ *Parapediasia teterrellus* (Zincken) と同定された。被害圃場は外縁にイネ科多年生雑草があり、播種前に雑草に除草剤を散布したためシバツトガ幼虫が圃場内に侵入したものと推測された。

本種幼虫は芝の害虫として知られイネ科を食草とし、芝草の破片や土粒を綴って「つと(苞)」を作り内部に潜む。幼虫の体色は淡灰褐色で、各体節の刺毛基部に横長の黒斑が目立つ。老熟幼虫は 2 cm 程度に達し、幼虫で越冬する。道外では年 3 回程度発生を繰り返すが、北海道での発生生態は不明である。成虫は体長 1 cm 程度で灰褐色を呈する。

(中央農試)

#### (16) ホソバオケラの立枯病 (新称・国内新発生)

薬用作物のホソバオケラ (*Atractylodes lancea*) について 2019 年頃から胆振地方で生育中の株が立ち枯れる症状が発生していた。発生株では初めは葉の黄化、しおれが認められ、病勢が進展すると株全体が黒くなり枯死した。根や塊茎には腐敗が認められた。腐敗部からは *Rhizoctonia* 様の菌糸を有する菌が分離され、分離菌を接種したところ原病徴が再現された。分離菌は菌糸幅 4.1-6.3  $\mu\text{m}$ 、1 細胞あたりの核数が 2 個の 2 核 *Rhizoctonia* の特徴を有していた。rDNA-ITS 領域の塩基配列は、2 核 *Rhizoctonia* AG-A の配列と 100% の同一性を示し、2 核 *Rhizoctonia* AG-A と同定した。国内では *Rhizoctonia* 属菌によるホソバオケラの病害は報告がないため、立枯病と病名を提案した。

(中央農試、夕張ツムラ(株))

## 新たに発生を認めた病害虫

以下の(1)から(16)は4. 新たに発生を認めた病害虫の番号に対応する。

(1)ほうれんそうのニセタマナヤガ



(2)こまつなの黒斑病



(3)セルリーの萎縮炭疽病



(4)セルリーの萎黄病



(5)ねぎのシロイチモジヨトウ



(6)トマトのトマトキバガ



(7)ミニトマトの茎えそ病



(8)かぼちゃのホモプシス根腐病



(9)かんしょのタバココナジラミ・パイオタイプQ

(10)スターチスの萎凋細菌病



(11)ダリアの根腐病

(12)しゃくやくの輪紋病



(13)へーべの斑点病

(14)ぶどうのチャバネアオカメムシ、ブチヒゲカメムシ



(15)とうもろこしのシバツトガ

(16)ホソバオケラの立枯病



### V 令和5年度主要病害虫発生程度別面積及び防除面積

作物名	病害虫名	発生面積		被害面積		発生程度別面積 (ha)					防除面積 (ha)		概評	
		面積(ha)	率(%)	面積(ha)	率(%)	無	少	中	多	甚	実面積	延面積	初発期	発生量
93,600 ha 水稻	葉いもち	386	0.4	40	0.0	93,214	346	32	4	4	93,139	228,475	やや早	並
	穂いもち	315	0.3	40	0.0	93,285	275	32	4	4	93,139	228,475	やや早	並
	紋枯病	31,429	33.6	13,448	14.4	62,171	17,981	9,662	2,420	1,366	13,461	16,452	やや早	多
	縞葉枯病	810	0.9	0	0.0	92,790	810	0	0	0	47,997	58,563	-	並
	ばか苗病	544	0.6	0	0.0	93,056	544	0	0	0	93,600	93,733	-	やや少
	苗立枯病	1,110	1.2	0	0.0	92,490	1,110	0	0	0	86,762	89,382	-	並
	種子伝染性細菌病	120	0.1	0	0.0	93,480	120	0	0	0	93,600	93,600	-	少
	ニカメイガ	452	0.5	0	0.0	93,148	452	0	0	0	41,580	65,701	並	並
	セジロウンカ	1,819	1.9	0	0.0	91,781	1,819	0	0	0	90,992	190,901	並	並
	ヒメトビウンカ	6,863	7.3	0	0.0	86,737	6,863	0	0	0	90,992	187,172	やや早	やや少
	イネドロオイムシ	1,569	1.7	0	0.0	92,031	1,569	0	0	0	91,228	100,010	並	少
	アカヒゲ ホソミドリ カスミカメ	23,556	25.2	339	0.4	70,044	23,217	339	0	0	93,584	216,396	早	並
	イネミギワバエ	160	0.2	13	0.0	93,440	147	13	0	0	29,559	29,559	並	少
フタオビコヤガ	1,370	1.5	0	0.0	92,230	1,370	0	0	0	79,214	97,067	並	少	
130,600 ha 秋まき小麦	赤さび病	49,442	37.9	12,256	9.4	81,158	37,186	10,365	1,556	335	130,581	328,511	やや早	多
	うどんこ病	7,285	5.6	224	0.2	123,315	7,061	224	0	0	130,517	339,147	やや早	並
	雪腐病類	27,874	21.3	2,268	1.7	102,726	25,606	1,844	336	88	126,114	128,126	-	少
	眼紋病	10,074	7.7	2,525	1.9	120,526	7,549	2,295	198	32	29,917	29,917	-	やや多
	赤かび病	13,125	10.0	112	0.1	117,475	13,013	112	0	0	130,600	448,098	-	やや少
17,738 ha 春まき小麦 (春まき)	赤かび病	2,454	13.8	57	0.3	15,284	2,397	57	0	0	17,738	62,212	-	少
	ムギキモグリバエ	2,672	15.1	112	0.6	15,066	2,560	112	0	0	6,688	11,406	並	多
862 ha 春まき小麦 (初冬まき)	赤かび病	136	15.8	0	0.0	726	136	0	0	0	862	3,181	-	やや少
	ムギキモグリバエ	72	8.4	7	0.8	790	65	7	0	0	283	283	並	多

作物名	病虫害名	発生面積		被害面積		発生病別面積 (ha)					防除面積 (ha)		概評	
		面積 (ha)	率 (%)	面積 (ha)	率 (%)	無	少	中	多	甚	実面積	延面積	初発期	発生量
大豆 43,200 ha	べと病	9,430	21.8	4	0.0	33,770	9,426	4	0	0	22,340	26,216	並	並
	わい化病	3,742	8.7	82	0.2	39,458	3,660	82	0	0	43,200	69,515	-	やや少
	マメシクイガ	6,456	14.9	98	0.2	36,744	6,358	98	0	0	43,184	90,965	やや早	やや少
	食葉性 鱗翅目幼虫	11,742	27.2	601	1.4	31,458	11,141	577	24	0	37,611	63,207	やや早	並
	タネバエ	180	0.4	0	0.0	43,020	180	0	0	0	43,200	43,200	-	並
小豆 19,100 ha	菌核病	717	3.8	0	0.0	18,383	717	0	0	0	18,969	58,326	やや早	少
	灰色かび病	3,525	18.5	0	0.0	15,575	3,525	0	0	0	19,081	58,086	並	やや少
	茎疫病	323	1.7	26	0.1	18,777	297	26	0	0	2,503	2,546	-	やや少
	落葉病	330	1.7	0	0.0	18,770	330	0	0	0	0	0	-	並
	食葉性 鱗翅目幼虫	3,258	17.1	216	1.1	15,842	3,042	215	1	0	18,605	31,783	やや早	やや多
菜豆 5,780 ha	菌核病	288	5.0	3	0.1	5,492	285	3	0	0	5,605	17,125	やや早	やや少
	灰色かび病	385	6.7	0	0.0	5,395	385	0	0	0	5,536	17,055	やや早	やや少
	黄化病	112	1.9	0	0.0	5,668	112	0	0	0	5,780	8,172	-	やや少
	タネバエ	19	0.3	0	0.0	5,761	19	0	0	0	5,780	0	-	並
ばれいしよ 48,500 ha	疫病	2,688	5.5	275	0.6	45,812	2,413	255	20	0	48,500	385,216	並	やや少
	塊茎腐敗	2,432	5.0	133	0.3	46,068	2,299	133	0	0	48,500	372,957	-	やや少
	軟腐病	14,913	30.7	2,322	4.8	33,587	12,591	1,998	324	0	48,287	182,488	-	多
	黒あし病	1,208	2.5	73	0.2	47,292	1,135	73	0	0	39,135	39,135	-	並
	そうか病	15,005	30.9	3,906	8.1	33,495	11,099	3,051	699	156	39,135	39,135	-	多
	粉状そうか病	1,933	4.0	24	0.0	46,567	1,909	24	0	0	3,132	3,132	-	やや少
	アブラムシ類	5,109	10.5	0	0.0	43,391	5,109	0	0	0	48,500	144,863	やや早	少
てんさい 55,400 ha	褐斑病	51,300	92.6	26,232	47.4	4,100	25,068	19,455	5,286	1,491	55,400	337,230	早	多
	根腐病 (黒根病を含む)	3,891	7.0	70	0.1	51,509	3,821	70	0	0	55,157	105,109	-	少
	そう根病	300	0.5	0	0.0	55,100	300	0	0	0	0	0	-	並
	黄化病 (西部萎黄病)	502	0.9	0	0.0	54,898	502	0	0	0	53,754	148,351	-	少
	ヨトウガ (第1回)	11,395	20.6	479	0.9	44,005	10,916	474	5	0	55,400	91,265	並	やや多
	ヨトウガ (第2回)	9,439	17.0	401	0.7	45,961	9,038	396	5	0	55,400	84,490	やや早	やや多
	テンサイ モグリハナバエ	168	0.3	0	0.0	55,232	168	0	0	0	46,432	60,059	並	並

作物名	病虫害名	発生面積		被害面積		発生病度別面積 (ha)					防除面積 (ha)		概評	
		面積 (ha)	率 (%)	面積 (ha)	率 (%)	無	少	中	多	甚	実面積	延面積	初発期	発生量
たまねぎ 14,600 ha	白斑葉枯病	2,952	20.2	29	0.2	11,648	2,923	29	0	0	14,600	102,491	やや遅	少
	軟腐病	8,064	55.2	746	5.1	6,536	7,318	669	19	58	14,600	119,271	-	やや多
	乾腐病	1,428	9.8	19	0.1	13,172	1,409	19	0	0	0	0	-	少
	タマネギバエ、 タネバエ	829	5.7	128	0.9	13,771	701	100	17	11	6,594	6,691	-	やや多
	ネギアザミウマ	14,070	96.4	2,027	13.9	530	12,043	1,876	151	0	14,600	106,104	やや早	やや多
	ネギハモグリ バエ	1,710	11.7	87	0.6	12,890	1,623	80	0	7	13,746	65,327	並	やや少
ねぎ 603 ha	さび病	160	26.5	5	0.8	443	155	5	0	0	579	2,054	-	やや多
	ネギアザミウマ	485	80.4	110	18.2	118	375	66	32	12	603	4,390	並	やや多
	ネギコガ	0	0.0	0	0.0	603	0	0	0	0	502	1,547	-	-
ながいも 1,870 ha	アブラムシ類	1	0.1	0	0.0	1,869	1	0	0	0	686	2,242	-	-
にんじん 4,310 ha	黒葉枯病	1,112	25.8	201	4.7	3,198	911	169	30	2	4,118	12,904	-	やや多
だいこん 2,780 ha	軟腐病	1,258	45.3	205	7.4	1,522	1,053	202	3	0	2,568	8,108	-	やや多
	キスジ トビハムシ	896	32.2	208	7.5	1,884	688	186	19	3	2,750	8,199	-	多
キャベツ 1,150 ha	コナガ	685	59.6	26	2.3	465	659	26	0	0	1,150	7,313	早	やや少
	ヨトウガ	239	20.8	0	0.0	911	239	0	0	0	1,150	5,923	並	少
ブロッコリー 3,060 ha	コナガ	2,210	72.2	549	17.9	850	1,661	494	55	0	3,060	15,847	早	やや多
	ヨトウガ	1,358	44.4	115	3.8	1,702	1,243	112	3	0	3,060	12,139	並	並
りんご 518 ha	モニリア病	0	0.0	0	0.0	518	0	0	0	0	518	1,073	-	少
	黒星病	38	7.3	4	0.8	480	34	3	1	0	518	5,051	やや早	少
	斑点落葉病	53	10.2	3	0.6	465	50	3	0	0	518	2,530	並	やや少
	腐らん病	518	100.0	92	17.8	0	426	82	10	0	518	1,321	-	多
	ハマキムシ類	23	4.4	0	0.0	495	23	0	0	0	518	2,297	並	少
	モモンクイガ	77	14.9	1	0.2	441	76	1	0	0	518	2,312	やや早	並
	ハダニ類	56	10.8	3	0.6	462	53	3	0	0	518	1,613	やや早	やや少
	キンモンホソガ	69	13.3	0	0.0	449	69	0	0	0	518	1,689	並	やや少

## VI 侵入調査事業

近年の気候変動、人やモノの移動の増加を背景として、有害動植物の侵入・まん延リスクが増加しているなか、重要病害虫が万が一国内の未発生地域に侵入した場合、農業生産に重大な損害を与え、農産物の輸出を阻害するおそれがある。こうしたことから、重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施するため、令和4年5月の植物防疫法改正により、全国で斉一的な調査を実施する侵入調査事業が同法に位置づけられ、本道においても令和5年度から調査を開始した。

分類	調査対象有害動植物	作物の種類	調査地点数	確認数
昆虫類	コドリシガ	りんご	3	0
昆虫類	トマトキバガ	ばれいしょ、トマト	4	320
線虫類	Meloidogyne enterolobii	トマト	8	0
ウイルス	Columnea latent viroid (CLVd)			0
ウイルス	Pepper chat fruit viroid (PCFVd)			0
ウイルス	トマト退緑萎縮ウイルス (TCDVd)			0
ウイルス	Tomato apical stunt viroid (TASVd)			0
ウイルス	Pepino mosaic virus (PepMV)			0
ウイルス	Tomato brown rugose fruit virus (ToBRFV)			0
ウイルス	Tomato mottle mosaic virus (ToMMV)			0
ウイルス	Tomato leaf curl New Delhi virus (ToLCNDV)			0
線虫類	カンキツネモグリセンチュウ			ばれいしょ
線虫類	バナナネモグリセンチュウ	0		
線虫類	コロンビアネコブセンチュウ	0		
菌類	Thecaphora solani	0		
ウイルス	ジャガイモやせいもウイルス (PSTVd)	0		
昆虫類	コロラドハムシ	0		
線虫類	ジャガイモシストセンチュウ	0		
線虫類	ジャガイモシロシストセンチュウ	0		
菌類	ジャガイモがんしゅ病菌	0		
細菌	火傷病菌	りんご	1	
—	イネミイラ穂病菌その他の日本に産しない各種のイネの検疫有害動植物	いね	6	0
線虫類	テンサイシストセンチュウ	てんさい	16	0
昆虫類	ヘシアンバエ	むぎ	58	0
菌類	Ramularia collo-cygni			0
細菌	スイカ果実汚斑細菌病菌	すいか	6	0
細菌	インゲンマメ萎ちょう細菌病菌	だいず	26	0
ウイルス	ウメ輪紋ウイルス	おうとう、ブルーン	3	0

## VII その他調査

病害虫発生予察事業の円滑な実施に向け次の調査を実施した。

調査名	協力機関	対象作物	対象病害虫名	調査依頼先（普及センター）
発生予察事業に係るりんご定点調査	道総研中央農試	りんご	モニリア病、黒星病、斑点落葉病、ハマキムシ類、ハンダニ類、キンモンホソガ	後志農業改良普及センター北後志支所
りんご等のフェロモントラップ調査	道総研中央農試	りんご等	ハマキムシ類、モモンクイガ、キンモンホソガ、コマスカシバ、スモモヒメシンクイ	空知農業改良普及センター 石狩農業改良普及センター石狩北部支所 後志農業改良普及センター北後志支所 胆振農業改良普及センター 上川農業改良普及センター 渡島農業改良普及センター 留萌農業改良普及センター南留萌支所

## F 諸報告、情報連絡、協議会等

### I 予察情報の発表状況

#### 1 予報の発表状況

発表回数及び時期

第 1 号 (予察情報第 1 号)	長期予報	3 月 24 日 (令和 5 年)
第 2 号 ( " 第 2 号)	5 月予報	4 月 27 日
第 3 号 ( " 第 5 号)	6 月予報	5 月 26 日
第 4 号 ( " 第 8 号)	7 月予報	6 月 26 日
第 5 号 ( " 第 13 号)	8 月予報	7 月 28 日
第 6 号 ( " 第 17 号)	9 月予報	8 月 25 日

対象病虫害 指定および指定外のうち、各時期の主要病虫害

#### 2 注意報の発表状況

発表時期及び内容

第 1 号 (予察情報第 3 号)	5 月 15 日	「あぶらな科野菜のコナガが多飛来！ほ場観察に努め防除開始時期に注意しよう！」
第 2 号 (予察情報第 7 号)	6 月 26 日	「ばれいしょの疫病が早発する恐れ！天候の変化に注意し適切な防除を実施しよう！」
第 3 号 (予察情報第 10 号)	7 月 13 日	「葉いもちが早期に発生する可能性大！！水田観察を励行し、防除適期を逃さないようにしましよう！」
第 4 号 (予察情報第 12 号)	7 月 21 日	「てんさいの褐斑病が多発の恐れ！薬剤の選択と散布間隔に注意しましょう！」
第 5 号 (予察情報第 14 号)	8 月 9 日	「水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメが本田で多発傾向 高温経過で加害が継続する恐れ！発生モニタリングを励行し、適切に追加防除を実施しよう」
第 6 号 (予察情報第 16 号)	8 月 25 日	「全道の小豆にマメノメイガが発生 今後も莢被害の拡大に注意！」

#### 3 警 報 発表なし

#### 4 特殊報

発表時期及び内容

第 1 号 (予察情報第 9 号)	7 月 7 日	「トマトキバガの確認について」
第 2 号 (予察情報第 19 号)	9 月 29 日	「施設栽培トマトにおけるトマトキバガ幼虫被害を確認」

#### 5 月報の発表状況

発表回数及び発表時期

第 1 号 (予察情報第 4 号)	4 月月報	5 月 19 日
第 2 号 ( " 第 6 号)	5 月月報	6 月 21 日
第 3 号 ( " 第 11 号)	6 月月報	7 月 19 日
第 4 号 ( " 第 15 号)	7 月月報	8 月 17 日
第 5 号 ( " 第 18 号)	8 月月報	9 月 15 日
第 6 号 ( " 第 20 号)	9 月月報	10 月 13 日

#### 6 主要病虫害の発生概況

主要病虫害の発生概況 (予察情報第 21 号) 10 月 30 日

#### 7 地区報 該当なし

## 8 発表方法

予察情報は、ホームページ (<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>) にて公表し、一層の周知を図るため、次の送付先にメールにて通知を行った。

なお、ホームページには、「病害虫発生予察情報」のほか、「病害虫速報」、「巡回調査結果報告」、「BLASTAMによる葉いもち感染好適日」、「FLABSによるばれいしょ疫病初発予測」、「新発生病害虫」、「本年度特に注意を要する病害虫」、「イネドロオイムシ北の虫見番」、「北海道病害虫防除所について」及び「発生予察用語の基礎知識」を掲載した。

(送付先)

国 関係：農林水産省消費・安全局植物防疫課、北海道農政事務所、北海道農業研究センター、横浜植物防疫所札幌支所、北海道開発局、東北農政局、JPP-NET 等

道 関係：道農政部関係各課、各総合振興局・振興局、各農業改良普及センター、道総研各農業試験場

市町村等：各市町村、各農業協同組合

関係団体：ホクレン、JA 北海道中央会、北海道農業共済組合、北海道農産協会、北海道農産物集荷協同組合、北海道植物防疫協会、日本植物調整剤研究協会北海道支部、農薬工業会北海道支部、北海道農薬卸協同組合 等

その他：東北各県病害虫防除所 等

## 9 利用状況

本情報に基づいて、各地域において病害虫の発生時期・発生量の観察が実施され、防除の判断に寄与している。

## II 病害虫防除指導通知

「北海道ジャガイモシストセンチュウ類防除対策基本方針に基づく土壌検診の実施並びに土壌検診及び植物検診の結果報告について（通知）」

(令和5年10月4日北病防第104号)

## III 各種会議、研修等（道総研対応分含む）

### 1 発生予察事業実施計画及び成績検討会議等

以下の会議を開催または出席した。

事業実施計画検討会議：書面開催

事業成績検討会議：令和5年12月8日 札幌市（第二水産ビル会議室）

農業試験会議病虫部会

新規課題検討会：令和5年7月5～6日 札幌市（プレスト1・7）

成績会議：令和6年1月22～23日 Web開催

設計会議：平成6年3月7～8日 Web開催

農作物病害虫・雑草防除ガイドに関する打合せ

：令和5年11月10日 札幌市（かでの2・7）

病害虫防除所長会議：令和5年9月29日 Web開催

北海道・東北地区植物防疫協議会

：令和5年12月4～5日 仙台市（東京エレクトロンホール宮城）

### 2 北海道農業気象連絡協議会

第1回：令和5年3月28日 web開催

第2回：令和5年4月28日 web開催

第3回：令和5年5月30日 web開催

第4回：令和5年6月27日 web開催

第5回：令和5年7月31日 web開催

第6回：令和5年8月29日 web開催

第7回：令和5年9月28日 web開催

第8回：令和5年11月22日 web開催

- 3 中央研修会及び出席者
  - 令和5年度病害虫防除所職員等中央研修（侵入調査事業関係）
  - 令和5年12月19～22日（横浜植物防疫所）
  - 中央農業試験場病虫部病害虫グループ 研究職員 佐藤 翠音
- 4 道内研修会・技術指導等
  - 美濃健一. 「あたらしいリンゴ黒星病の防除対策について」（余市町）（2023. 8. 29）
  - 野津あゆみ. 「疑似紋枯症状の特徴及び発生動向について」（沼田町）（2023. 12. 1）
  - 西脇由恵. 「本年の病害虫発生状況および近年道内で新たに確認された気になる害虫」（札幌市）（2023. 12. 14）
  - 西脇由恵. 「みどりの食料システム戦略に対応した防除技術」（札幌市）（2024. 2. 14）
  - 野津あゆみ. 「近年道内で発生した新たな侵入病害虫」（札幌市）（2024. 2. 14）
  - 野津あゆみ. 「令和5年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫」（札幌市）（2024. 3. 5）

## IV その他情報及び業績報告

- 1 令和5年普及奨励、普及推進事項、指導参考事項、研究参考事項並びに行政参考事項
    - (1) 令和5年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫（指導参考事項）
  - 2 研究論文、試験成績
  - 3 口頭発表
    - (1) 下間悠士,佐藤三佳子. 醸造用ぶどう苗木のポット育苗期に発生したキンケクチブトゾウムシによる被害. 2023年度北海道応用動物・昆虫研究発表会（2024. 1. 30）
    - (2) 下間悠士,松原 慧,古川勝弘,丸山麻理弥,佐々木太陽. 物体検出AIと自動撮影カメラを組み合わせたコナガフェロモントラップの遠隔計数技術. 第77回北日本病害虫研究発表会（2024.2.21-22）
  - 4 専門雑誌記事
    - (1) 小澤 徹. 2022年に特に注意を要する病害虫. ニューカントリー. 4月号, p. 20-22（2022）
    - (2) 小澤 徹. 湛水処理によるなまぐさ黒穂病菌の密度低減効果. 農家の友. 6月号, p. 48-50（2022）
    - (3) 小松勉. 2023作物展望 病害虫. ニューカントリー. 1月号, p. 60-62（2023）
    - (4) 小澤 徹. 令和4年度に北海道で新たに発生を認めた病害虫. 農家の友. 3月号, p. 4-7（2023）
    - (5) 岩館康哉, 西村穂花, 森万菜実, 三澤知央. 岩手県の畑ワサビに発生した *Rhizoctonia solani* による苗立枯れ症状と同種による既知病害との異同. 植物防疫 76 巻 10 号 p. 2-5
- (1) 病虫部予察診断グループ. 令和4年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫. 北農 90（2）, p. 63-75（2023）
  - (2) 西脇由恵. みどりの食料システム戦略実現に向けて活用が期待される成果（病害虫対策）. グリーンテクノ情報 70（1）, p10-16（2023）
  - (3) 下間悠士. 北海道におけるコナガのジアミド系薬剤感受性低下に対応した防除対策. 植物防疫 77（10）, p19-25（2023）
  - (4) 下間悠士. コナガの薬剤感受性低下とキャベツの被害を同時に防ぐ. 農家の友 11月号, p41-43（2023）
  - (5) 西脇由恵. 2024作物展望 病害虫. ニューカントリー1月号, p. 60-62（2024）
  - (6) 野津あゆみ. 令和5年度に北海道で新たに発生を認めた病害虫. 農家の友3月号, p. 4-7（2024）
  - (7) 下間悠士. コナガの薬剤感受性低下とキャベツの被害を同時に防ぐ. ニューカントリー3月号, p. 16-18（2024）

5 北海道農薬指導士認定研修

区 分	特別研修（新規認定）	一般研修（更新認定）
日 時	令和6年2月9日	令和6年3月5日
場 所	北海道第二水産ビル	北海道第二水産ビル
受 講 者	151名	343名
認 定 数	137名	343名
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農薬取締法</li> <li>・農薬一般</li> <li>・農薬の安全性評価</li> <li>・散布（施用）技術</li> <li>・毒物及び劇物取締法</li> <li>・病害概論</li> <li>・害虫概論</li> <li>・雑草概論と防除及び植物の生育調整</li> <li>・認定試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどりの食料システム戦略について</li> <li>・農薬の安全・適正使用について</li> </ul>

6 農薬販売届出件数（病虫害防除所受理分）

（令和5年度分）

区 分	新 規	変 更	廃 止
件 数	7	89	6

7 マイナー作物等農薬登録試験実施概要  
（除草剤）

実施年度	作物名	雑草名	農薬名	農薬種類名	使用量	使用回数
R5 （新規）	せんきゅう	畑地一年生雑草	ゲザガード50	プロメトリン水和剤	100～200g / 水量100L	1回
R5 （継続）	そば	一年生広葉雑草	ロックス	リニュロン水和剤	100g/10a	1回

# G BLASTAMによる葉いもちの広域発生期の判定結果

- : 好適条件
- : 準好適条件
- ? : アメダスデータ欠測のため判定できず

振興局		空知							石狩					後志				桧山			渡島										
地点		沼田	深川	吉野	滝川	芦別	月形	美唄	岩見沢	長沼	浜益	厚田	石狩	新篠津	江別	余市	共和	倶知安	蘭越	黒松内	せたな	今金	うずら	江差	八雲	森	北斗	函館	木古内		
6月	15-16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	16-17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-		
	18-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	19-20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	23-24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	●	-	-	-	-	-	-	
	24-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	26-27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	-	
28-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
29-30	●	-	-	-	-	-	-	○	●	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
7月	30-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-		
	1-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	2-3	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	3-4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	4-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	6-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-		
	7-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8-9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	●	●	
	10-11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	
	11-12	●	○	●	●	-	○	●	-	-	-	●	-	-	-	●	●	●	●	●	●	-	-	-	-	?	-	-	-	●	
	12-13	●	-	●	-	-	○	-	-	-	-	●	-	-	-	●	○	●	●	●	●	-	-	-	-	?	-	-	-	-	
	13-14	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	●	-	-	?	-	-	-	-	
	14-15	-	●	○	○	-	-	●	●	●	-	●	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	15-16	-	-	-	●	-	-	●	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	●	○	-	●	●	●	●	●	●	●	
	16-17	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	
	17-18	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	●	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	
	18-19	-	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	
	19-20	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	
21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
23-24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-		
24-25	-	-	●	-	-	●	-	-	?	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-		
26-27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-		
28-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
29-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
30-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
8月	31-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	?	-	-	-	-		
	1-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-		
	2-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	3-4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	4-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	
	6-7	○	-	○	-	○	●	-	-	○	-	●	○	○	-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	
	7-8	-	-	-	-	-	●	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8-9	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- : 好適条件
- : 準好適条件
- ? : アメダスデータ欠測のため判定できず

振興局		胆振				日高			留萌				上川										オホーツク										
地点		伊達	厚真	穂別	鶴川	門別	新和	三石	遠別	初山別	羽幌	達布	留萌	幌糠	美深	名寄	下川	士別	朝日	和寒	比布	旭川	幌加内	江丹別	東川	美瑛	上富良野	富良野	上川	北見	美幌		
6月	15-16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	16-17	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	18-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	19-20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	23-24	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	24-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	26-27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	28-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
29-30	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	●	●	●		
7月	30-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	1-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	
	3-4	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
	4-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	-	●	-	●	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8-9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10-11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	11-12	-	○	●	○	●	●	-	●	-	●	-	●	-	●	-	●	●	-	○	-	○	●	-	●	●	○	●	●	●	●	●	●
	12-13	-	-	●	-	●	-	-	●	-	●	-	●	-	●	-	●	●	-	●	-	○	●	-	●	●	○	●	●	●	●	-	-
	13-14	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	●	○	○	●	-	●	●	●	●	-	-	-	○	●	-	○	-	-	-	-
	14-15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
	15-16	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	●	●	●	-	-	-	-	●	●	●	●	-	●	●	●	-	○	●	●	●
	16-17	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	○	-
	17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	○	-	-
	19-20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
23-24	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
24-25	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	-	●	●	●	-	-	-	●	●	●	-	●	●	○	-	-	●	-	-	
25-26	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	
26-27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	
28-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
29-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
30-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
8月	31-1	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	1-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3-4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	○	-	-	-	-	-	-	
	5-6	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	●	
	6-7	○	●	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	○	-	●	-	
	7-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
	8-9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	●	●	●	●	●	●	-	●	-	-	-	-	-	●	●	
	9-10	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-

## H 北海道農業試験会議において報告された以外の道内における新発生病害虫の記録

北海道で新たに発生が確認された病害虫については、主に道総研農業試験場から北海道農業試験会議（成績会議）において、「北海道において新たに発生が認められた病害虫」として報告しており、この記録を「北海道病害虫防除提要」の編纂作業の基礎資料としている。しかし、農業試験会議の成績書に記載されなくとも、学会などの公的な場で道内における新発生病害虫の確認が報告された場合、それを記録する必要がある。また、道内での発生記録が研究機関のほかなど限定的であった場合、後日一般ほ場での発生が確認されても、既に発生記録があることから「新発生」とならないものの、防除提要に記載できるよう記録しておく必要がある。

このため、農業試験会議の構成機関以外からの新発生病害虫の報告、限定的な記録はあるが一般ほ場での発生が確認された病害虫について、農作物有害動物発生予察事業年報において記載する。

また、病害虫の学名が変更された場合や、病原が追加された場合などについても同様に記載する。

### 1) 大豆のフォモプシス腐敗病（道内新発生・病原の追加）

令和2年に、収穫前の長雨により大豆子実の腐敗が多発し、歩留まりが大きく低下する事例があった。腐敗した子実から *Diaporthe* 属菌2種が分離され、ダイズフォモプシス腐敗病の病原菌である *D. longicolla* と、国内未報告の *D. caulivora* と同定された。菌株は噴霧接種で原病徴が再現され、子実から接種菌株が再分離された。2種による病徴は識別困難であることと、ダイズフォモプシス腐敗病は既報の *D. longicolla* 以外の *Diaporthe* 属菌が関与しているとの報告もあることから、*D. caulivora* を本病の病原菌として追加することが提案された。

（ホクサン（株））

### 2) かすみそうの根腐病（新称）

令和4年、北海道で栽培されたかすみそうで草勢が弱く生育不良の株が認められた。罹病した根部から *Fusarium* 属菌が高頻度で分離され、*Fusarium oxysporum* と同定された。分離菌株を土壌に灌注接種したところ、生育不良が確認され、根部は維管束が褐変・腐敗して側根の崩壊が認められた。かすみそうの根腐症状の報告は初めてであり、*F. oxysporum* によるカスミノウ根腐病とされた。

（秋田県立大学）

### 3) かぼちゃのフザリウム果実腐敗病（病原の追加）

令和元年に道内試験圃場で収穫されたかぼちゃで、貯蔵中に果実腐敗症状が確認された。病斑部から分離した4種類の *Fusarium* 属菌それぞれについて形態学的解析、培養性状、分子系統解析を行った結果、*F. sporotrichioides*、*F. cerealis*、*F. ipomoeae* および *F. citri* と同定した。いずれの菌株ともかぼちゃ果実への有傷接種で病原性を示し病原として追加された。

（農研機構北海道農研、農研機構西日本農研）

### 5) 大麦の赤色粒（新称）

国産大麦で散見される赤色～ピンク色に染まった種子について、平成28年～29年にかけて、北海道を含む主な生産地由来の種子で調査が行われた。その結果、本症状を呈する種子から高頻度に *Erwinia persicina* が分離同定され、分離菌を乳熟期の大麦種子に有傷接種すると原病徴が再現され、接種菌が再分離された。本症状はオオムギ赤色粒とされた。

（農研機構西日本農研）

---

令和 5 年度（2023年度）農作物有害動植物発生予察事業年報

令和 7 年（2025年）3 月

発 行 北海道病虫害防除所

〒069-1395

北海道夕張郡長沼町東 6 線北 1 5 号

（北海道立総合研究機構農業研究本部庁舎内）

Tel. 0123-89-2080

Fax. 0123-89-2082

URL <http://www.agri.hro.or.jp/boujosho>

---